

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン チバケイアイガクエン 学校法人 千葉敬愛学園								
フリガナ大学の名称	ケイアイダイガク 敬愛大学 (Keiai University)								
大学本部の位置	千葉県千葉市稲毛区穴川1丁目5番21号								
大学の目的	敬愛大学は建学の精神「敬天愛人」に基づき、教育基本法及び学校教育法に則り広く知識を授け、深く専門の学芸を教授・研究し、知的・道徳的及び応用的能力を展開する大学教育を施すことで文化の進展に寄与する有為の社会人を養成することを目的とする。								
新設学部等の目的	教育学部は、幅広い教養と豊かな人間性及び子供の教育に関する知識と技能の修得を基盤として、それを活用することができる実践能力に加えて、教育事象を科学的・実証的に考察し、その成果を子供の健全な育成に活かすことのできる人材を養成することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	教育学部 (Faculty of Education)	年	人	年次人	人	学士〔教育学〕 (Bachelor of Education)	年月 第 年次	千葉県千葉市 稲毛区穴川 1丁目5番21号	
	こども教育学科 (Department of Child Education)	4	72	2年次 1	293		令和3年4月 第1年次		
	計		72	3年次 1	293		令和4年4月 第2年次 令和5年4月 第3年次		
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<p><u>国際学部</u></p> <p><u>こども教育学科(廃止)</u> (△72)</p> <p><u>(2年次編入学定員)</u> (△ 1)</p> <p><u>(3年次編入学定員)</u> (△ 1)</p> <p>※令和3年4月学生募集停止 (2年次編入学定員は令和4年4月学生募集停止) (3年次編入学定員は令和5年4月学生募集停止)</p> <p>千葉敬愛短期大学</p> <p>現代子ども学科 [定員減] 200名 → 150名 (△50) (令和3年4月)</p>								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	教育学部こども教育学科	講義	演習	実験・実習	計				
		87科目	14科目	10科目	111科目	124単位			

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
新 設 分	教育学部 こども教育学科		人	人	人	人	人	人	人
	計		6 (6)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	43 (43)
既 設 分	国際学部 国際学科		16 (16)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	54 (54)
	経済学部 経済学科		9 (9)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	63 (63)
	経済学部 経営学科		8 (8)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	62 (62)
	計		33 (33)	8 (8)	7 (7)	0 (0)	48 (48)	0 (0)	- (-)
合 計			39 (39)	13 (13)	8 (8)	0 (0)	60 (60)	0 (0)	- (-)
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		42 人 (42)		10 (10)		52人 (52)		
	技 術 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図 書 館 専 門 職 員		3 (3)		0 (0)		3 (3)		
	そ の 他 の 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	計			45 (45)		10 (10)		55 (55)	
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		校舎敷地 ・ 稲毛キャンパス (25,987.00㎡) 敬愛学園高等学校 (必要面積8,400 ㎡)と共用(収容定 員1371人) ・ 佐倉キャンパス (21,933.00㎡) 千葉敬愛短期大学 (必要面積4,000 ㎡)と共用 運動用地 稲毛(7,965.00㎡) 敬愛学園高等学校 と共用 佐倉(29,704.56 ㎡)千葉敬愛短期 大学と共用 萩台(22,594.00 ㎡)千葉敬愛短期 大学、敬愛学園高 等学校と共用 千葉県校地面積基 準 運動場の面積 8,400㎡以上、校 地等の基準は無 い。	
	校 舎 敷 地	0 ㎡	47,920.00 ㎡	0 ㎡		47,920.00 ㎡			
	運 動 場 用 地	0 ㎡	60,263.56 ㎡	0 ㎡		60,263.56 ㎡			
	小 計	0 ㎡	108,183.56 ㎡	0 ㎡		108,183.56 ㎡			
	そ の 他	2,990.44 ㎡	0 ㎡	0 ㎡		2,990.44 ㎡			
	合 計	2,990.44 ㎡	108,183.56 ㎡	0 ㎡		111,174.00 ㎡			
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計				
	18,531.08 ㎡ (18,531.08 ㎡)	0 ㎡ ( 0 ㎡)	0 ㎡ ( 0 ㎡)		18,531.08 ㎡ (18,531.08 ㎡)				

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体					
	23室	12室	4室	6室 (補助職員 0人)	1室 (補助職員 0人)						
専任教員研究室		新設学部等の名称		室数		大学全体					
		教育学部  こども教育学科		12 室							
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体			
	教育学部	150,000 [36,550] (147,321 [36,380])	480 [266] (480 [266])	19,700 [19,620] (19,673 [19,612])	8,400 (8,450)	1,815 (1,815)	0 (0)				
	計	150,000 [36,550] (147,321 [36,380])	480 [266] (480 [266])	19,700 [19,620] (19,673 [19,612])	8,400 (8,450)	1,815 (1,815)	0 (0)				
図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体			
		1,520m <sup>2</sup>		218		151,000					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体			
		1569.25m <sup>2</sup>		トレーニングルーム		野球場					
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体 図書費には電子ジャーナル・データベース整備費用(運用コスト含む)を含む		
		教員1人当り研究費等		350千円	350千円	350千円	350千円	—千円		—千円	
		共同研究費等		14,100千円	14,100千円	14,100千円	14,010千円	—千円		—千円	
		図書購入費	17,100千円	17,100千円	16,800千円	16,500千円	16,500千円	—千円		—千円	
	設備購入費	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円			
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	届出学部			
		1,300千円	1,050千円	1,050千円	1,050千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入他								
既設大学等の状況	大学の名称		敬愛大学							経済学科・経営学科は、2年次学科選択制としているため案分比率で算出。  「平成31年度編入学定員減(△10人)」  「平成31年度編入学定員減(△10人)」  「平成31年度入学定員増(8人)」 「平成31年度編入学定員減(△21人)」  「平成31年度入学定員増(2人)」 「平成31年度編入学定員増(1人)」	
	学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地
	経済学部		年	人	年次人	人		倍			千葉県千葉市稲毛区穴川1丁目5番21号
	経済学科		4	225	2年次 2 3年次 2	914		1.19			
	経営学科		4	115	2年次 1 3年次 1	467	学士 (経済学)	1.19	昭和41年度		
	経営学科		4	110	2年次 1 3年次 1	447	学士 (経営学)	1.19	平成25年度		
	国際学部		4	170	2年次 2 3年次 2	674		1.19			
国際学科		4	98	2年次 1 3年次 1	386	学士 (国際学)	1.26	平成19年度			
こども教育学科		4	72	2年次 1 3年次 1	288	学士 (こども教育学)	1.09	平成23年度			

	<p>名称 : 総合地域研究所</p> <p>目的 : 経済学・経営学・国際学・教育学・環境等の分野における学術研究、調査を通じて世界の諸地域、また大学の存立する地域の平和と豊なる社会の形成に寄与することを目的とする。</p> <p>所在地 : 千葉県千葉市稲毛区穴川1丁目5番21号</p> <p>設置年月日 : 平成21年11月(平成元年4月発足の経済文化研究所と平成9年4月発足の環境情報研究所を統合した)</p> <p>規模等 : 1室 25.99㎡</p>									
既設大学の状況	大学の名称	千葉敬愛短期大学								
	学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所在地	
	千葉敬愛短期大学	年	人	年次 人	人	短期大学士 (教育学)	倍	昭和25 年度	千葉県佐倉市 山王1丁目9番	
附属施設の概要	<p>名称 : 総合子ども学研究所</p> <p>目的 : 「子ども」を様々な視点から、学問的・実践的見地に基づいて研究し、本学の教育及び地域の初等教育・幼児教育・保育の充実発展に寄与することを目的とする。</p> <p>所在地 : 千葉県佐倉市山王1丁目9番地</p> <p>設置年月日 : 平成21年10月1日</p> <p>規模等 : 1室 39.23㎡</p>									

## 別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(教育学部 こども教育学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	敬天愛人講座	1前		2		○					1			兼10	オムニバス
	口頭表現	1前	2			○								兼2	
	文章表現	1後	2			○								兼2	
	哲学	1・2前		2		○								兼1	
	文学	1・2前		2		○								兼1	
	国際関係入門	1・2後	2			○								兼1	
	法学	1・2前後		2		○								兼1	
	憲法	1前		2		○								兼1	
	歴史学	1・2前後		2		○								兼1	
	心理学	1・2後		2		○				1					
	基礎数学	1・2後		2		○					1				
	基礎統計	1・2前		2		○								兼1	
	健康運動科学	1後		2		○								兼1	
	ボランティア活動	1・2前		2		○								兼1	
	情報概論	1・2前		2		○								兼1	
	情報処理Ⅰ(情報基礎)	1前	1											兼1	
	情報処理Ⅱ(プレゼンテーション演習)	1後	1						○					兼1	
	海外スクーリングⅠ	1・2・3・4集中		2		※			○					兼1	
	海外スクーリングⅡ	1・2・3・4集中		2		※			○					兼1	
	外国語科目	College English Ⅰ	1前	2			○								
College English Ⅱ		1後	2			○								兼6	
College English Ⅲ		2前		2		○								兼2	
College English Ⅳ		2後		2		○								兼2	
Writing Ⅰ		1・2・3・4前		1		○								兼4	
Writing Ⅱ		1・2・3・4後		1		○								兼4	
Listening Ⅰ		1・2・3・4前		1		○								兼3	
Listening Ⅱ		1・2・3・4後		1		○								兼3	
Speaking Ⅰ		1・2・3・4前		1		○								兼3	
Speaking Ⅱ		1・2・3・4後		1		○								兼3	
Debate Ⅰ		1・2・3・4前		1		○								兼1	
Debate Ⅱ		1・2・3・4後		1		○								兼1	
Mother Goose		1前・2前		1		○				1					
海外語学研修Ⅰ		1・2・3・4集中		2		※			○					兼1	
海外語学研修Ⅱ		1・2・3・4集中		2		※			○					兼1	
キャリア科目	キャリアプランニング	1前		2		○								兼1	
	キャリアデザイン	2後		2		○								兼1	
	キャリアディベロップメント	2後		2		○								兼1	
	小計(37科目)	—	12	51		—			—	2	1	—	—	兼31	
専門教育科目	教育原論	1前	2			○			1						
	発達心理学	1前	2			○				1					
	教育行政	2前		2		○								兼1	
	教育課程論(小学校)	1後	2			○			1						
	教職概論	2後	2			○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	教育方法・技術論 (小学校)	2前		2		○				1						
	国語 (書写を含)	2前		2		○			1							
	社会	2前		2		○			1							
	算数	2前		2		○					1					
	理科	1後		2		○				1						
	生活	2後		2		○				1						
	音楽	1後		2		○			1							
	図画工作	1前		2		○										兼1
	家庭	1前		2		○										兼1
	体育	1前		2		○										兼1
	小学校英語 I	1後	2			○			1	1						
	小学校英語 II	2前		2		○			1	1						
	1年基礎演習 I	1前	1				○		6	5	1					
	1年基礎演習 II	1後	1				○		6	5	1					
	2年応用演習 I	2前	1				○		6	5	1					
	2年応用演習 II	2後	1				○		6	5	1					
専門 基幹 科目	こども学 I	2後	2			○			1	2						
	こども学 II	3前	2			○			1	2						
	教育心理学	2後	2			○				1						
	教育法規	2後		2		○										兼1
	生徒・進路指導論 (小学校)	3前		2		○										兼1
	特別支援教育概論 (小学校)	3前		2		○										兼1
	教育相談 (小学校)	4前		2		○				1						
	初等国語科指導法	2後		2		○			1							
	初等社会科指導法	2後		2		○			1							
	算数科指導法	2後		2		○					1					
	初等理科指導法	2前		2		○				1						
	生活科指導法	3前		2		○				1						
	初等音楽科指導法	2前		2		○			1							
	図画工作科指導法	1後		2		○										兼1
	初等家庭科指導法	1後		2		○										兼1
	初等体育科指導法	1後		2		○										兼1
	小学校英語指導法 I	2後		2		○			1	1						
	小学校英語指導法 II	3前		2		○			1	1						
	道徳教育指導法 (小学校)	3前		2		○										兼1
	総合的な学習の時間の指導法 (小学校)	4前		2		○			1							
	特別活動指導法 (小学校)	3前		2		○										兼1
専門 展開 科目	文学教材研究	2・3・4前		2		○			1							
	数と形の不思議	2・3・4前		2		○					1					
	プログラミング教育	2・3・4前		2		○				1						
	理科の観察実験	2・3・4前		1				○								兼1
	科学教育論	2・3・4後		2		○				1						
	音楽と表現	2・3・4後		1				○	1							
	造形と表現	2・3・4前		1				○								兼1
	教育社会学	2・3・4後		2		○										兼1
	メディアリテラシー教育	2・3・4後		2		○				1						
	学校の安全教育	2・3・4前		2		○			1							
	学級担任と読書	2・3・4前		2		○			1							
	社会教育概論	2・3・4後		2		○										兼1
	多文化教育論	2・3・4後		2		○										兼1
	世界のこども教育	2・3・4後		2		○			1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	教育哲学	2・3・4前		2		○									兼1
	こども教育演習Ⅰ	3前		1			○								兼1
	こども教育演習Ⅱ	3後		1			○								兼1
	こども教育演習Ⅲ	4前		1			○								兼1
	教育実習指導	3前		1			○		1						
	教育実習	3後集中		4				○	1						
	教職実践演習(小学校)	4後		2				○	3	1					
	日本語学	2・3前		2		○									兼1
	異文化コミュニケーション	2・3前		2		○									兼1
	比較文化論	2・3後		2		○									兼1
	日本文化論	2・3・4後		2		○			1						
	児童文学論	2・3・4後		2		○			1						
	英米児童文学	2・3・4後		2		○				1					
専門研究	3年次専門研究Ⅰ	3前	2				○		6	5	1				
	3年次専門研究Ⅱ	3後	2				○		6	5	1				
	4年次専門研究Ⅰ	4前	2				○		6	5	1				
	4年次専門研究Ⅱ	4後	2				○		6	5	1				
	卒業研究	4後	2				○		6	5	1				
小計(74科目)		—	28	111			—		6	5	1	—	—		兼15
合計(111科目)			40	162					6	5	1				兼43
学位又は称号		学士(教育学)	学位又は学科の分野		教育学・保育学関係										
卒業要件及び履修方法		授業期間等													
必修科目は40単位、(教養教育科目12単位、専門教育科目28単位)、その他の科目は、教養教育科目から8単位以上、専門教育科目から68単位以上、合計124単位以上修得する。 (履修科目の登録の上限：42単位(年間))									1学年の学期区分		2期				
									1学期の授業期間		15週				
									1時限の授業時間		90分				

授 業 科 目 の 概 要				
(教育学部こども教育学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養 教育 科目	教養 科目	<p>この授業は、本学の建学の精神である「敬天愛人」について学生に理解を深めてもらい、敬愛大生としてのアイデンティティを育てることを目的とした科目である。</p> <p>授業形態は、11名の講師によるオムニバス形式で行う。授業内容は、本学創立者である長戸路政司先生と西郷南洲(隆盛)の思想との出会いや思想の内容、千葉敬愛学園の歴史および大学教員の専門分野と建学の精神との関わりについて学ぶ。青年期である大学生に学ぶことの意義、生きる意味や人生の価値、社会貢献の重要性などを考える機会を与え、学ぶモチベーションを高め、学生自身の人生を豊かにするきっかけ作りとなることを目指している。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(29 八木 直人/2回) オリエンテーション、総括  (52 角田 勲/3回) 敬愛学園の成り立ちと建学の理念Ⅰ、敬愛学園の成り立ちと建学の理念Ⅱ、敬天愛人教育の目指すもの  (51 北原 文成/2回) 人間の品性と知性を支えるもの、「敬天愛人」の人生観  (28 矢澤 秀昭/1回) 解字「敬・天・愛・人」  (24 中山 幸夫/1回) 個性の尊重  (23 飯野 由美子/1回) 「ベーシックインカム」を考える  (16 織井 啓介/1回) 「敬天愛人」で世界を観る  (15 寛正 豊和/1回) 敬天愛人―「人権問題」を考える  (12 大塚 慎太郎/1回) 数学における「敬天愛人」とは何か  (26 矢口 和宏/1回) 自己の「敬天愛人」観を醸成するための試み  (25 森島 隆晴/1回) 建学の精神から学生生活の意義を考える</p>	オムニバス方式	
		敬天愛人講座		
		口頭表現	<p>この授業は、講義とグループワークを組み合わせた授業形態で、多様な観点から物事を考え、根拠となる資料を適切に用いて自分自身の考えを論ずる力を身につけることを目標とする。</p> <p>授業では3つの単元に取り組む。①本の紹介文、スピーチ。②敬語、お世話になった方への手紙。③賛否に分かれるテーマに関する新聞記事を、グループで討議しながら、賛成・反対それぞれの側の根拠3つ(問題点、影響および効果、グローバルまたは普遍的な観点)を整理し、発表(模擬ディベート)する。テーマに関連して、班員一人一人(四択)のアンケート調査をし、結果を考察する。さらに、これらの調査を踏まえ、自分自身が問いをたて、「自分の意見」レポートを書く。</p>	
		文章表現	<p>この授業は、講義とグループワークを組み合わせた授業形態で、多様な観点から物事を考え、根拠となる資料を適切に用いて自分自身の考えを論ずる力を身につけることを目標とする。</p> <p>授業では3つの単元に取り組む。①本の紹介文、スピーチ。②敬語劇(グループで脚本作成、上演)。③「○○が出来る前と後」という課題をグループでテーマを決めて調査し、Aテーマ説明、B○○が出来る前、C○○が出来た後、をまとめる。調査結果をもとに班員各自が問いを立てて探求し、資料を適切に用いて、原因の解明、気付きや提案など自分の意見を主張するレポートを書く。最後にグループプレゼン(A、B、C、各自のレポートの紹介)をする。</p>	
	哲学	<p>この授業は、哲学の諸問題に触れながら、哲学的話題の学習と、社会人としての一般的素養として望まれる論理的思考の習得を目指す。</p> <p>学期ごとに自由、言語、人生の意味、善悪など、学生の興味に添えるトピックを定め、講義形式に関連する哲学の話題を紹介する。また、ベン図、論理的関係、論証形式、などの解説も2回行い、二回の中間試験で確認する。アクティブラーニングとして、コメント用紙や発言などで学生からの意見を請う機会を2〜3回設け、授業内容にフィードバックを行う。</p>		

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部こども教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	文学	この授業は講義形式で行い、毎回「書き込みシート」（穴埋めと、考えたことを記述）を配布し、次の週にフィードバックする。明治～現代までの日本文学作品を味わい、時代背景と合わせて考え、多様な表現技法、文学理論を学び、より深く作品を味わう力を身につけることを目的とする。 例として、夏目漱石、森鷗外、新しい女たち、宮沢賢治、芥川龍之介、川端康成、小林多喜二、木下順二、安房直子、村上春樹、江國香織、川上弘美、伊坂幸太郎、太田光、又吉直樹などの作品を読む。それぞれの作品で「自由」がどのように描かれているかを考え、時代の変化を感じ取る。また、自分の考えを書き、他の人の考えに触れることで、作品を深く、多様な観点から読み味わう力を身につける。	
	国際関係入門	この授業の目的は、現代世界の国家間関係を理解するために必要な(1)「国民国家」の成立と構成諸要素 (2)国民国家システムと国際社会の拡大過程についての基礎知識を学ぶことにある。あわせて、国際紛争を主体的に探求し、問題の背景・概要・解決への展望を考察する力を身につける。 授業内容としては、担当者が「近代国民国家体系」が西欧に誕生し、世界の諸地域に拡大・複雑化していった過程をわかりやすく解説する一方で、国民国家システムのメリットとデメリット、グローバル化する現代の国際関係について学生自身が関心を持つ諸地域を見だし、具体的な国際紛争を取りあげてグループ研究を進め発表する形式で行い、互いに学び合う力の獲得を目指している。	
	法学	この授業では、社会生活に必然する法を理解するために、必要な基本原理・原則・基礎理論などの用語の学習を通して法律学への導入とし、社会生活における法的思考方法、法律的なものの考え方を具体的事例、判例などによって理解することを目的とする。 また、これは国際社会の中で言語習慣や考え方の相違する人たちが共存するために必要不可欠であると言えるため、理解し日々の生活に生かせるようになることを到達目標とする。 授業の構成としては、法の概念をとらえ、法則や構造、目的や分類を学んだ後に、法の適用と解釈の必要性について学ぶ。最終的にレポート試験を実施し、理解度をみる。	
	憲法	この授業では、中等教育で各人が学んできた憲法について更に把握理解するため、「法学・憲法」を併せて履修しながら展開していく。 到達目標としては、まず憲法の保障する原理や思想を近代憲法発展の歴史を通して捉え、問題点について諸外国との比較や判例・学説を素材として、平易に具体的に理解できるよう促す。そして、憲法の原理や考え方を正しく理解し説明できることを目指す。 授業は講義形式で行い、まず憲法の概念を歴史を通して学び、次に日本国憲法の成立や改正、国民主権主義と基本的人権、平和主義や地方自治について順々に学習する。最終的にはレポート課題を課し、学生の習熟度を測る。	
	歴史学	日本は明治の開国期と大戦敗北後の2回、近代化（欧米化）を受け入れ物質的に豊かになったが、精神的にはどうであろうか。この授業では、この原因を明治（1868年）以降から現代に至る長いスパンの中で探り、精神的な「自立」の処方箋を考えることで良識ある国際人としての教養を幅広く見につけ、今日のグローバル化に伴い「他者との共生」という視点から問題の発見・分析・解決に向けた実践力を身につけることを目的とする。 授業は講義形式で行い、事前に配布するプリントないしワークシートを、次回添削し返却する。またシートの疑問に答える形でQuick Reviewを授業の初めに行う。	
	心理学	この授業では、日常生活で経験する事象について、その発生機序を心理学的な視点から説明し、我々の社会行動を客観的に分析し、理解する力を養うことを目的とする。また、授業は人間の行動の発生機序を説明するための、心理学的知見や最新の研究成果を学ぶための講義を主体として構成され、以下の内容を取り上げる。 (1) パーソナリティ心理学や認知心理学の知見を知り、我々の思考や感情が生まれるプロセスを理解する。 (2) 社会心理学の知見を知り、対人関係や意思決定に影響する要因を理解する。 (3) 臨床心理学の知見から、不安やストレスへの対処方を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部こども教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	基礎数学	<p>これまで中学校・高等学校で学んできた「数学」は本来の数学の一側面ではない。この授業では、これまで学んできた数学を振り返りながら「本来の数学はどのようなものなのか」という数学に対する理解を深めることを目標とする。</p> <p>特に、自ら数学的活動を行うことで、数学的な考え方や数学の探究に取り組む態度を身に付けることを中心とする。受講者がこれまで使用してきた算数・数学の教科書をはじめ、教科書では取り上げられていない数学の問題等を具体的に取り上げ、問題解決を中心として授業を進める。具体的には、授業の最初に本時の内容に関する課題に取り組み、個人での解決および全体での議論を通して授業内容を深める。</p>	
	基礎統計	<p>今日、情報通信技術の発達により、世の中はデータで溢れている。そこでこの講義では、データのまとめ方（記述統計）について説明し、統計検定3級・4級程度の理解を目指す。</p> <p>講義内容は、おおよそ次の4つに区分される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 統計とは（母集団と標本、調査方法）</li> <li>2. 調査集団の特性を見る（代表値、平均値、分散、標準偏差）</li> <li>3. 自ら統計指数を計算する（ローレンツ曲線、ジニ係数）</li> <li>4. 相関係数</li> </ol> <p>講義はスライドを用いて行い、更に知識を定着させるために、授業終了後に確認問題の提出を求める。課題は翌週に返却するので、復習や確認試験に活用することができる。</p>	
	健康運動科学	<p>この授業の目標は、運動・スポーツを通じて健康の維持・増進を図り、生涯スポーツとしてのスポーツ習慣を形成することが社会生活を営むうえでなぜ重要になるのかを理解することである。また、指導者になるうえで必要な知識を習得することである。</p> <p>健康と運動との関連性、運動実施時におけるウォーミングアップやクーリングダウンの注意点、コンディションの調整方法、スポーツ実施時における身体の動きの仕組みとそのコントロール方法、体力とパフォーマンスとの関連性、その他様々な問題点について科学的視点からアプローチする。また、実際に運動・スポーツを指導する場面で必要になる安全管理、環境設定、指導者の行動や言葉掛けに関する具体的方法、各種スポーツの特徴やその指導時における注意ポイントについて学ぶ。でき得る限り具体例を交えて学生の理解を促すように授業を構成する。</p>	
	ボランティア活動	<p>この授業では、ボランティア活動の基礎知識を講義により習得する。その中で、ボランティア活動や社会貢献についての基礎的知識・原理原則並びに地域ボランティア活動の種類・活動方法を学び、一人ひとりの学生が、自己にあった地域ボランティア活動をみつけだし、社会人・企業人としての心構えを学ぶ事を目的とする。</p> <p>授業内容としては、ボランティアの「原理・原則」「活動の理念」「性格」「起源・歴史」「法制度・助成団体」「関係機関」などボランティア活動を行う上での知識を学ぶ。また、学内ネットワークを使用し、課題やレポートを随時行い、学生の知識の習得度を確認しながら授業を進める。</p>	
	情報概論	<p>本講義の目的は、高度情報社会に必要な情報リテラシーを身につけることである。具体的には、コンピュータの定義や種類、コンピュータを構成するハードウェアとソフトウェア、コンピュータ同士をつなぐネットワークシステム、コンピュータネットワークシステムを相互につなぐインターネットのしくみ、そこで情報（数値情報、文字情報、画像情報、音声情報等）がどのように扱われ処理されるのかについての理解を深める。また、近年大きな問題となっている情報セキュリティや情報倫理について学ぶ。さらに、急速に進むICTの現況を理解するために、そのときどきのトピック（現在は、ビッグデータ、IoT、AI等）についての知識を深める。</p> <p>講義ではほぼ毎回スライドも使用しながら説明する。また、授業中に知識を定着させるため、毎回4～5問の質問（小テスト）をし、解答させた後に解説を行う。この解答は授業終了後に提出させる。さらに、授業期間中に2～3回程度課題を出して、翌週提出させる。</p> <p>本講義を通じて情報に関する知識を身につけるだけでなく、現代社会では情報をどのように活用し、これに向かい合えばよいのかについても考える態度を養う。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(教育学部こども教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	情報処理Ⅰ (情報基礎)	<p>情報社会では、コンピュータについて正しく理解し、上手に利用できる能力（コンピュータリテラシー）が必要である。そこで本実習講義では、コンピュータリテラシーを身につけるために、最も基本的な使い方としてWord2015を用いた文書作成の方法を学ぶ。</p> <p>授業内容としては、MOS検定を意識した演習問題や実用的な資料を多く取り入れる。さらに、2020年度から小学校の授業において必修となるSCRATCHプログラミングの基礎的な知識を身につけるためのブロック線図作成や、円周率計算におけるアルゴリズムの理解と基礎的命の理解のための基礎実習授業を行う。</p>	
	情報処理Ⅱ (プレゼンテーション 演習)	<p>情報化社会では、コンピュータについて正しく理解し、上手に利用できる能力（コンピュータリテラシー）が必要である。本実習講義では、情報処理Ⅰで学んだものの発展的内容としてのコンピュータリテラシーを身につけることを目標とする。</p> <p>授業内容として、前半では情報処理Ⅰで学んだSCRATCHに対する小学校での使用状況を踏まえ、応用的なプログラムを作成する。また、文献を利用し、SCRATCHを深く学ぶために、例題を多く作成し、理解を深める。また、パソコン使用で最も基本的な使い方として、Excel2015を用いてのグラフや式の計算の方法を学ぶ。MOS検定を意識した演習問題や実用的な資料も取り入れるとともに、POWER POINTを用いて、WORD文書、EXCELデータ、SCRATCHプログラムを含むプレゼンテーション演習資料作成を行う。</p>	
	海外スクーリングⅠ	<p>この授業では、基本的に毎年二つのコース（主に欧米+アジア）のスクーリングを実施する。研修に参加することで、幅広い国際教養を体得し、国際交流の重要性を実体験することが到達目標となり、10名以上の学生が参加することから、学年を越えた学生同士の交流と協働の場となる。</p> <p>授業では、各授業で学んだことを実際に自分の目で見て確かめ、体験することで知識を深め、身につけることができる。また、英語はもとより中国語や韓国語などの第2外国語を実際に使う得がたい機会ともなり、短期および長期の留学に出る動機付けとなることが期待される。</p>	
	海外スクーリングⅡ	<p>この授業では、基本的に毎年二つのコース（主に欧米+アジア）のスクーリングを実施する。研修に参加することで、幅広い国際教養を体得し、国際交流の重要性を実体験することが到達目標となり、10名以上の学生が参加することから、学年を越えた学生同士の交流と協働の場となる。</p> <p>授業では、各授業で学んだことを実際に自分の目で見て確かめ、体験することで知識を深め、身につけることができる。また、英語はもとより中国語や韓国語などの第2外国語を実際に使う得がたい機会ともなり、短期および長期の留学に出る動機付けとなることが期待される。</p>	
外国 語 科 目	College EnglishⅠ	<p>この授業では、日常生活に関連した身近な話題について、英語の各技能を統合的に結び付けた言語活動を行う。具体的には、聞いたり読んだりして得た情報を活用してスピーチやプレゼンテーションなどを行うとともに、発表内容について学生同士で質疑応答をしようことによって対話を発展させていく。</p> <p>これらの言語活動を通して、実際の場面において活用できる英語による総合的なコミュニケーション能力を向上させるとともに、「ヨーロッパ言語共通参照枠」（CEFR）の「聞くこと」「読むこと」「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」「書くこと」の全領域において、A2上位レベルの英語力を身に付けることを到達目標とする。</p>	
	College EnglishⅡ	<p>この授業では、日常生活や社会生活に関連した話題について、英語の各技能を統合的に結び付けた多様な言語活動を行う。具体的には、聞いたり読んだりして得た情報を活用してスピーチ、プレゼンテーション、ディスカッションなどを行うとともに、学生同士で質疑応答をしようことによって対話や議論を発展させていく。</p> <p>これらの言語活動を通して、実際の場面において活用できる英語による総合的なコミュニケーション能力をさらに向上させるとともに、「ヨーロッパ言語共通参照枠」（CEFR）の「聞くこと」「読むこと」「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」「書くこと」の全領域において、B1下位レベル以上の英語力を身に付けることを到達目標とする。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(教育学部こども教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	College English III	<p>日常生活や社会生活に関連した話題や課題を題材として、英語の各技能を統合的に結び付けたインタラクティブな言語活動を中心に行う。また、扱う話題や課題について、幅広い視点から情報や考えを得て批判的思考力を身に付けるとともに、英語を用いて意見や主張を伝え合うことができるようにする。</p> <p>これらのことを通して、実際の場面において活用できる英語による総合的なコミュニケーション能力を向上させるとともに、「ヨーロッパ言語共通参照枠」(CEFR)の「聞くこと」「読むこと」「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」「書くこと」の全領域において、B1上位レベルの英語力を身に付けることを到達目標とする。</p>	
	College English IV	<p>日常生活や社会生活に関連した話題や課題を題材として、英語の各技能を統合的に結び付けた多様な言語活動を行う。また、扱う話題や課題についてリサーチをし、幅広い視点から多様な情報や考えを得て批判的思考力を高めるとともに、英語を用いて意見や主張を伝え合ったり、課題の解決策を合意形成したりすることができるようにする。</p> <p>これらのことを通して、実際の場面において活用できる英語による総合的なコミュニケーション能力を向上させるとともに、「ヨーロッパ言語共通参照枠」(CEFR)の「聞くこと」「読むこと」「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」「書くこと」の全領域において、B2下位レベル以上の英語力を身に付けることを到達目標とする。</p>	
	Writing I	<p>この授業では、高校までの英語教育で身につけた基本的な読解力及び文法力を用いながら、英語の文章を構成するパラグラフの型を学び、「良いパラグラフ」について考え、150文字程度の英文パラグラフが書けるようになることを目標とする。</p> <p>授業は講義形式で行い、受講者はまずtopic sentenceとは何かを学び、続くsupporting sentencesの役割を理解する。次に、各回の授業では「分類」「例証」「比較(類似・対照)」「作り方」「時系列」「定義」を作文の軸にした論理的なパラグラフ構成を学び、クラス内で作文し提出する。教員による評価の後、自ら修正を加え、クラス内で発表及び意見交換を行う。</p>	
	Writing II	<p>この授業では、Writing Iで身につけた「良いパラグラフの書き方」を基本に、「導入パラグラフ」及び「縮めのパラグラフ」を加えた5つのパラグラフからなるエッセイが書けるようになることを目標とする。</p> <p>受講者はWriting Iで学習した「良いパラグラフ」について復習した後、つなぎ言葉の役割を学び、これを効果的に用いれば複雑な内容が簡潔に表現できる仕組みを理解する。次に「導入パラグラフ」「縮めのパラグラフ」の役割について学び、パラグラフからエッセイへと発展させる方法を身につける。授業内で実際に作文し、これを提出する。教員による評価の後、自ら修正を加え、クラス内で発表及び意見交換を行う。</p>	
	Listening I	<p>この授業では、英語ネイティブ圏以外の英語スピーカーが話す英語にも慣れてもらい、グローバルな英語に親しんでもらう。また、聞き取った内容を脳内でイメージ化し、多様なトピックに対応するために必要な語彙を増やすとともに、英語を日本語に訳さずに理解できることを目標とする。</p> <p>授業内容としては、毎回授業のはじめにウォームアップを行い、その後に様々なトピックのディクテーションを行う。講義内でその内容を振り返った後、同じディクテーションを個々で復習し、何が原因で聴けていなかったのかの自己分析を行う。その後、グループで確認し合う時間を設けることとする。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(教育学部こども教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Listening II	<p>この授業では、Listening I にひき続いて、英語ネイティブ圏だけではなく、非ネイティブ圏の英語にも慣れてもらい、グローバルな英語に親んでもらう。また、聞き取った内容を脳内でイメージ化し、英語を日本語に訳さないことに慣れてもらう。さらにゆっくりとした英語だけではなく、スピードアップした英語にも対応できることを目標とする。</p> <p>授業内容としては、映画、ニュース、プレゼンテーションなど、様々な場面での英語を聞いて内容把握する、高度な英語の運用力を身につけるための課題を課す。断片的に聞き取れたことをどのように組み立てるか、内容予測の精度をより高めるため、社会に出て必要になりそうなボキャブラリーも併せて増やしていくことも狙いである。</p>	
	Speaking I	<p>本科目は、学生の英語によるスピーキング能力を向上させるための科目である。アクティブ・ラーニングを重視し、学生は多様な話題について話し合うとともに、流暢さ、批判的思考力、ディスカッション及びプレゼンテーションの技術を向上することを目的とする。</p> <p>授業では頻繁にペア・ワークやグループ・ワークを取り入れるとともに、様々なフォーマル及びインフォーマルなスピーキング活動を行う。これらの言語活動を通じて、学生はコミュニケーション能力を向上させ、より自信を持って英語を話すようになると同時に、グローバル人材としての資質を身に付けることが可能となる。</p>	
	Speaking II	<p>本科目は「Speaking I」から継続して、学生のスピーキング能力をさらに向上・発展させるための科目である。多くの話題がコースに組み込まれ、学生に対して流暢さだけでなく、批判的思考力と問題解決能力を併せて向上させることを目的とする。</p> <p>授業ではペア・ワークとグループ・ワークの両方を取り入れ、アクティブ・ラーニングを非常に重視した形態を取る。本科目では、様々なフォーマル及びインフォーマルなスピーキング活動を取り入れるとともに、リサーチする方法やより高度なプレゼンテーションの技術も扱う。これらの活動を通じて、学生は言語能力をさらに向上させ、より自信を持ってグローバル化した英語話者になることが可能となる。</p>	
	Debate I	<p>本授業の目標は、学生が異文化や環境問題などの基礎的なさまざまな話題について、英語で自分の意見を理由とともに明確に伝えることのできる基礎力を習得することである。達成すべき英語レベルとしては、CEFR B2程度、より身近な基準としては、英検2級から準1級程度のスピーキング力を想定する。</p> <p>学生はまず、例示などの理由と結論の関係や、ブレインストーミングなど論証のための基礎知識とスキルを身に付ける。次に、ファーストフードや環境などの身近なテーマを中心に、学生同士のグループワークの中で議論に参加しなければならない。授業形態は、基本知識の解説と、少人数でのグループ・ディベート及びプレゼン発表である。</p>	
	Debate II	<p>本授業の目標は、高齢社会や共生社会でのさまざまな話題について、学生が英語で自ら問いを立て、自分の意見を説得的な理由とともに明確に伝え、他者に応答できる能力を身につけることである。達成すべき英語レベルとしては、CEFR B2からC1程度、より身近な基準としては準1級程度以上のスピーキング力を想定する。</p> <p>学生はまず、科学的証拠の引用など他者の証言を参照・対比して意見を述べることや、他者の質問にポジティブな仕方に応答するための基本的なスキルを身につける。次に、現代社会における共生社会や国際社会で教養として必要になる幅広いトピックについてのグループ討論に積極的に参加しなければならない。</p>	
	Mother Goose	<p>本授業では、古くからイギリスやアメリカの伝承童謡として知られているマザー・グースの歌について、英語に関する基礎的な知識や文化的な背景を踏まえながら理解を深める。歌に関する基本的な知識を得るとともに、英語の詩、語彙やリズムに親しむことを通して、特に英語の自然な音やリスニングの力を身につけることを目指す。また、マザー・グースは文学作品や映画の中でよく引用されるため、その魅力についても合わせて探る。</p> <p>テキストを活用し、必要に応じて資料を配布する。体験型の学習となることを重視するため、CD、DVD等の音声や映像資料も使用し理解を深める。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(教育学部こども教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	海外語学研修 I	<p>本科目は、学習言語が実際に使われている環境に身を置くことにより、座学だけでは得られない実践力（コミュニケーション能力を含む）及び異文化を理解する力を身につけることを目標とする。</p> <p>現地提携のプログラムに従って受講するが、出発前には事前指導を受け、帰国後は学習成果報告を行わなければならない。研修国はカナダ、アメリカ、オーストラリア、イギリス、フィリピン、中国、台湾、韓国、ロシアの8地域で、それぞれの国の公用語（英語、中国語、韓国語、ロシア語）を中心に学ぶ。</p> <p>フィリピンのみスカイプ英会話での学習が必要となる。</p>	
	海外語学研修 II	<p>本科目は「海外語学研修I」の履修者のみ受講可能であり、学習言語が実際に使われている環境に身を置くことにより、座学だけでは得られない実践力（コミュニケーション能力など）及び異文化を理解する力を身につけることを目標とする。</p> <p>現地提携のプログラムに従って受講するが、出発前には事前指導を受け、帰国後は学習成果報告を行わなければならない。研修国はカナダ、アメリカ、オーストラリア、イギリス、フィリピン、中国、台湾、韓国、ロシアの8地域で、それぞれの国の公用語（英語、中国語、韓国語、ロシア語）を中心に学ぶ。</p> <p>フィリピンのみスカイプ英会話での学習が必要となる。</p>	
	キャリアプランニング	<p>本講座では、入学時より充実した学生生活を過ごすことがなぜ重要なのか、大学生活と卒業後の社会生活がどのように結びついているのかを学ぶ。最終的には、卒業後に目標とする人物像（ロールモデル）を作成し、主体的な学生生活を過ごす手立てを考えることを目的とする。</p> <p>授業は20名前後のゼミ方式で、グループワークを中心に授業を進める。共通テーマに沿ってそれぞれのグループで情報を収集し、多方面からディスカッションに取り組む。この取り組みを通じて学生の視野を広げ、理解を深め、情報活用力を磨き、まずは卒業までの4年間のプラン、ひいては社会に出た後のキャリアを検討させる。</p>	
	キャリアデザイン	<p>キャリアを主体的に検討するための材料を増やすと同時に、より広い視野でデザインできる情報活用スキルを獲得する事を目指す。</p> <p>授業は講義・演習形式で行い、情報量を増やす上では、幅広く個別の多様な事例に触れ、一般論で理解したつもりになっている自分に気づいてもらう。また、実際のビジネスシーンを取り上げ、立場や時間軸など複数の視点から読解してみせ、既に知っている事例も異なる視点から観ると、新たな可能性が見えてくる事に気づいてもらう。</p> <p>更に、個人の能力だけでなく、多様な人々と協働し、新たな価値を生み出す事が求められる中で、自己実現をどう図ればよいか考える。</p>	
	キャリアディベロップメント	<p>シミュレーション教材を活用して仮説を検証、修正するPDCAサイクルに取り組む。同じ教材、テーマに複数回取り組み、情報活用、合意形成、意思決定など今の社会で必要とされているスキルの修得を目指す。</p> <p>授業は講義・演習形式で行い、更に社会情勢の変化の激しい状況を実感できる情報の提供、自らのキャリアを柔軟に開発するための考え方を提供することにより、先入観や過去の自分に縛られた将来像から脱却し、貪欲に可能性を追求する姿勢を育む。自身のキャリアについて論理的に述べ、共感を得る表現力・コミュニケーション能力を育む事で、自己実現を図る支援とする。</p> <p>また、リフレクションを重視し、気づきを可視化、共有させ、キャリアを検討する材料にできるようにする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部こども教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育原論	<p>「学校とは何のためにあるのか?」「教育とは?」誰もが学校教育を受け、それなりの答えをもっているが、その答えの多くは受けてきた教育経験から形成されたものである。しかも、人によって経験が異なるので、同記事象に対して見方や考え方が異なる。そこで、本授業では、教育の基本概念、教育に関する歴史、教育に関する思想を通して多様な見方・考え方に触れ、視野を広げたいうえで、子どもを総合的な理解し、教育する力の基盤となる教育観や学校観を再構成することをねらいとする。</p> <p>本授業は2部構成となっており、まず、教育を縦軸(教育史)と横軸(比較教育)から見ていく。次に、構成主義と客観主義という2つのパラダイムから学力観・教育観・学校観等を考えていく。</p>	
	発達心理学	<p>子供の発達の基礎に関する心理学的理論を習得し、子供が成長する過程を科学的に理解することを目的とする。また、発達心理学のエビデンスに基づいて児童生徒の指導及び支援する方法を考察できる力を身につけることを目指す。</p> <p>この授業は発達心理学の基礎理論と最新の研究成果について学ぶ講義を主体とするが、子供の発達過程に関する理解を深めるために、授業内容に関連した演習(討論やグループワーク)を適宜取り入れながら進める。この授業で取り扱う内容は以下の通りである。</p> <p>(1) 発達の概念について (2) 子供の言語発達・認知発達・社会性の発達に関する基礎理論 (3) 発達上の課題(特に発達障がい)の理解</p>	
	教育行政	<p>この授業は、教職をめざす学生が、教育制度・教育施策等に関する基本的な知識やその構造等について理解するとともに、教育行政が抱える課題について考えることを目的とする。また、学校・家庭・地域の連携や学校安全への対応について、具体的事例をもとに基礎的な知識を身に付ける。</p> <p>毎回、レジュメや関係資料等を配付し、それらを活用しながら講義形式で授業を進める。また、受講生が新聞やインターネット等から今日的な教育問題に関する記事を選び、記事の概要、関連して調べたこと、感想・意見等を記載する「アピールレポート」(A4サイズ1枚)の作成に取り組み、発表会を実施する。</p>	
	教育課程論(小学校)	<p>本授業は、学校教育における教育課程の意義および編成に関する基本的な知識や考え方を獲得させるだけでなく、教科・領域・学年をまたいだカリキュラムの編成や地域や児童の実情に合わせた特色あるカリキュラムの編成のための基本的な考え方及び技能を、年間指導計画の作成を通して実践的に学び、子どもを総合的に理解し、教育する力を身に付け、授業づくりにおけるデザイン力(実践力)を形成することをねらいとする。</p> <p>そのために、「教育課程編成の意義、役割、基本原理について説明できる」「学習指導要領改訂の変遷を概観し、戦後の社会的背景と教育の歩みについて理解する」「教育課程編成上の諸課題について理解し、年間指導計画を作成することができる」「カリキュラム・マネジメントの意義と方法について理解する」を到達目標とする。</p>	
	教職概論	<p>この授業では、公教育の目的を教育基本法や教育関連法を解説しながら、その意義や教員の役割、責務、教育関係諸問題について講義する。</p> <p>また、学校運営や学校が抱える課題についてどのように対処していくかについても講義する。</p> <p>特に教員を目指す学生が対象となるため、実際の仕事やそれに関わる根拠法令についても学ぶ。さらに、学校に対する社会的な期待や批判、保護者の感覚についても、教員として仕事をしていく上で必要な心構えとして学ぶことにより、現場で生きる力を身につけることを目的とする。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(教育学部こども教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育方法・技術論 (小学校)	<p>この授業は、教育の方法及び技術に関することについて、歴史的・社会的背景、理念、具体的な実践例、学校の情報化とICT活用、教材研究の方法、現代的な課題への対応など、様々な観点から考えていく。本授業をとおして、小学校教諭として必要な授業・教材づくりの基礎を養うことをねらいとする。</p> <p>毎回、多様な観点から教育の方法及び技術に関する話題を取り上げ、それらについて受講者らで批判的に検討をしたり、実際に何かを調査したりすることを通して、授業・教材づくりのあり方について認識を深めてもらう。講義形式を基本とするが、毎回グループワークやディスカッションを行う。</p>	
	国語（書写を含）	<p>この授業では、総論として言語学への入門的な学びに触れたのち、音声、語彙等の各論に進む。国語は小学校で学ぶあらゆる科目の基礎である。このため、子どもたちの国語力を十分に伸ばすことのできる教員を目指し、①教科指導に必要な国語の専門知識（国語学的な知識、我が国の言語文化に関する知識、言語活動の実践事例と評価方法等）、②教員にふさわしい国語運用能力（漢字・語彙力、口頭での表現力等）の二つを身につけることを到達目標とする。</p> <p>授業形態としては、講義形式を基本としつつ、思考力・判断力・表現力を伸ばすため、適宜グループ討議など行う。こうした活動のフィードバックには、ルーブリック等の評価方法を活用する。</p>	
	社会	<p>この授業は、小学校の教員として、社会科指導をするために必要な知識や技能を習得し、それを実践するために必要な手立てについて理解を深めることを目的とする。小学校社会科は「公民としての基礎的な資質や能力」を育成する教科であり、社会科の教科目標を達成するためには、各学年の目標や内容を着実に理解する必要がある。</p> <p>小学校社会科の学習内容を3学年、4学年、5学年、6学年に分けて、学校で使用される教科書や地図帳をもとに、教材についての理解を図る。その際、アクティブラーニングにより主体的・対話的で深い学習になるように、グループ研究や発表と質疑応答、実際の教材作りなどの活動を取り入れる。</p>	
	算数	<p>算数教育においては、教育者自身が算数・数学を学び続けることが必要である。本授業は、算数教育を実践していくために必要な知識や技能、能力、態度を身に付けることを目標とする。特に、算数・数学の内容とその教育目標の理解、算数とその教育の考え方、算数・数学の探究に取り組む態度を身に付けることを中心とする。</p> <p>毎時間の講義では、算数・数学の教科書や教材、学習指導要領とその解説資料、大規模調査の問題、教員採用試験の問題等を具体的に取り上げ、問題解決を中心として授業を進める。具体的には、授業の最初に本時の内容に関する課題に取り組み、個人での解決および全体での議論を通して授業内容を深める。</p>	
	理科	<p>この授業では、科学史や基礎実験をもとにして、物理学、化学、生物学、地学の4分野にまたがる自然科学の基礎的・基本的な知識や概念について身に付けるとともに、環境や生命、医学や災害などの4分野にまたがり日常生活に関連する多くの身近な話題や、最新の科学技術などについて学ぶ。さらに、科学的な根拠に基づいて賢明な意思判断ができるようになるために、データを解釈し発表するなどの活動を通して、論理的思考力を高めることを目的とする。</p> <p>また、講義だけでなく簡易な装置を使って実際に自然の事物・現象を確かめる実験をしたり、ものづくりをしたりすることで、理科の不思議さ、追究する楽しさ、体験する面白さなど、実感を伴った理解を促すとともに知的好奇心を高める。</p>	
	生活	<p>生活科は児童の興味・関心に揺さぶりをかけ、「もっと学びたい」という願いに応えられる教科である。この授業では、「活動あって学びなし」の学習にしないために、生活科の目標に沿った、育てたい児童像を明確にもち、生活科で育てる資質・能力について、新学習指導要領のもと、体験や具現化していく活動を積極的に取り入れ、グループワークという学習形態で深めていく。そして、「何を学ぶか」・「どのように学ぶか」「何が身に付いたか」や、見方・考え方、評価についても議論し、目標の達成にせまる。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(教育学部こども教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	音楽	<p>この授業は、「音楽はどこから生まれてきたのか?」という問いを投げかけることから始める。人間にとって音楽とは何かということ自身の音楽経験と結びつけて考え、ずっと以前から音楽が存在していたことを知り、人間がそれをどう捉え、発展させてきたかを西洋音楽の基礎的な理論や音楽の歴史を通して学ぶ。そして、生涯音楽と関わり続けることが心豊かな生活に結びつくこと、音楽は単なる娯楽だけではないことに気づくことを目標とする。</p> <p>授業内容としては、実際に日本の楽器(箏・三弦)に触れたり、学んだことを生かしてグループで表現を工夫し、聴き合ったりする活動を行っている。それらにより、音楽表現の多様さや音楽のよさを感じることが出来る。</p>	
	図画工作	<p>この授業は、小学校図画工作科を指導する上で、造形的な創造活動の基礎となる表現および鑑賞の技能と理論の修得を目標とし、実技終了後には学生相互の意見交換等を行う。</p> <p>授業計画の概要としては、まず教科の内容及び絵画、工作、立体の製作と鑑賞を行い、色彩理論や表現技法、機構工作・土粘土を使つての製作と鑑賞を行う。続いて、西洋美術作品及び日本美術作品の鑑賞、抽象をもとにした絵画作品の製作と鑑賞、版画、金属材・木、工材でのオブジェ製作と鑑賞と、多種多様な素材に触れ、最終的には材料をもとにした造形遊びを行うこととする。</p>	
	家庭	<p>この授業は、小学校学習指導要領に基づいた「家庭」で扱う内容について、他教科との関連や児童の実態を視野に入れて理解を深める。学習指導要領に示されている目標や内容の理解と家族・衣・食・住・消費生活や環境教育の各領域について学び、指導者としての基本的な知識理解や技能の習得を目指す。</p> <p>授業内容として、指導者としての基礎力を身につけるために、学習指導要領やテキストを基に講義や実習、製作活動等を行う。講義を中心とするが、アクティブラーニングの視点を取り入れたディスカッション、ワークショップ、実習等の授業を含む。</p>	
	体育	<p>この授業は、運動・スポーツの諸理論を理解し、児童期の身体にあった環境をつくる知識・技能の習得を目標とする。また、ゲームやニュースポーツという考え方を理解し、発達段階の特性にあった運動・スポーツのアレンジの仕方や関わり方を身につける。それにより、運動・スポーツを通じた学習活動における豊かなコミュニケーション能力の習得につなげていく。</p> <p>授業の流れは、まず、初等教育における体育科の目標をふまえ、児童期の子どもの遊び・活動を分析する視点を身につける。次に「やってみる」-「ひろげる」-「ふかめる」実践を通して、「個々の遊びから集団の活動」、「伝承遊びからニュースポーツ」といった枠組みに沿って授業を展開していく。</p>	
	小学校英語 I	<p>この授業は、小学校外国語活動・外国語科に関する基本的な知識や理論、指導・評価方法を学ぶと共に、授業実践に必要な英語運用能力を身に付けることを目標とする。</p> <p>英語に関する背景的な知識(音声・語彙・文構造・文法・正書法などの英語に関する基本的な知識、第二言語習得、児童文学(英語絵本、子ども向けの歌・詩、マザー・グース)、異文化理解等を学び、英語の授業実践に向けての準備、必要な知識と英語力を身に付ける。授業・アクティビティの実演を通して、児童の立場も体験する。更に、講義とグループ・ワークによるプレゼンテーション等、対話的・体験型の学習を進める。</p>	
	小学校英語 II	<p>この授業は、小学校英語 I の内容を踏まえて、小学校外国語活動・外国語科に関する基本的な知識や理論、指導・評価方法の理解を深め、授業実践に必要な英語運用能力を身に付けることを目標とする。</p> <p>英語に関する背景的な知識(音声・語彙・文構造・文法・正書法などの英語に関する基本的な知識、第二言語習得、児童文学(英語絵本、子ども向けの歌・詩、マザー・グース)、異文化理解等を学び、英語の授業実践に向けての準備、必要な知識と英語力を身に付ける。授業・アクティビティの実演を通して、児童の立場も体験する。更に講義とグループ・ワークによるプレゼンテーション等、対話的・体験型の学習を進める。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(教育学部こども教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	1年基礎演習Ⅰ	<p>本授業の目的は、変化に対応する能力の基盤となる問題解決能力やコミュニケーション能力を高めていくとともに、4年間の見通しをもって大学生活を送ること、及び、教職への自覚をもつことを目的とする。そのために、少人数グループによる課題解決学習を通して、対話的かつ実践的に学んでいく。</p> <p>1年次基礎演習Ⅰでは、Project Based Learningの手法を援用した課題解決活動を行う。社会的な問題のなかから自分たちで課題を設定し、解決のための計画を立てて実行し、成果発表を行う。</p> <p>また、教育ボランティアに積極的に取り組み、その成果をクラス内で共有していく。</p>	
	1年基礎演習Ⅱ	<p>本授業の目的は、変化に対応する能力の基盤となる問題解決能力やコミュニケーション能力を高めていくとともに、4年間の見通しをもって大学生活を送ること、及び、教職への自覚をもつことを目的とする。そのために、少人数グループによる課題解決活動を通して、対話的かつ実践的に学んでいく。</p> <p>1年次基礎演習Ⅱでは、表現活動を行う。道徳科の導入教材(問題提起のための教材)としての劇を自分たちで創作し、表現し、成果をコンテストという形で発表する。</p> <p>また、Ⅰに引き続き教育ボランティアに積極的に取り組み、その成果をクラス内で共有していく。</p>	
	2年応用演習Ⅰ	<p>本授業の目的は、変化への対応力の基盤となる問題解決能力やコミュニケーション能力を高めていくとともに、4年間の見通しをもって大学生活を送ること、及び、教職への自覚を高めていくことを目的とする。そのために、少人数グループによる課題解決学習を通して、対話的かつ実践的に学んでいく。</p> <p>2年次応用研究Ⅰでは、Project Based Learningの手法を援用した課題解決学習を行う。教育に関わる問題のなかから自分たちで課題を設定し、解決のための計画を立てて実行し、成果発表を行う。その際、下学年との交流の場を設け、リーダーシップについても学んでいく。</p> <p>また、教育ボランティアに積極的に取り組み、その成果をクラス内で共有していく。</p>	
	2年応用演習Ⅱ	<p>本授業の目的は、変化への対応力の基盤となる問題解決能力やコミュニケーション能力を高めていくとともに、4年間の見通しをもって大学生活を送ること、及び、教職への自覚を高めていくことを目的とする。そのために、少人数グループによる課題解決活動を通して、対話的かつ実践的に学んでいく。</p> <p>2年次応用研究Ⅱでは表現活動を行う。「優しさ」「友情」といった大きなテーマの創作劇をつくり、表現し、成果をコンテストという形で発表する。これらの活動を通して、役割分担の重要性についても学んでいく。</p> <p>また、引き続き教育ボランティアに積極的に取り組み、その成果をクラス内で共有していく。</p>	
	こども学Ⅰ	<p>こども学Ⅰの授業では、これまで学んできた様々な科学的・学術的見地(理論)などを「こども」の視点から幅広く学際的に捉え直し、総合的に理解することを目的とする。</p> <p>講義による問題提起から、一人一人の課題意識を大切にしながら、学生の主体的・対話的な深い学びを通して、子供についての理解を深める。子供たちを取り巻く社会の変化や子供の成長に関する考察など多様な視点からのアプローチに配慮するとともに、最新の研究成果、実践活動なども合わせて紹介し、学生の視野を広げることを目指す。</p>	
	こども学Ⅱ	<p>こども学Ⅱの授業では、こども学Ⅰでの学修をもとに「こども」についての理解を教育の視点から、より実践的に広げ深めることを目的とする。</p> <p>各教科・領域の授業で学んだそれぞれのものの見方や考え方を統合的に捉えること、学校や地域、子供たちの実態を「ちば！教職たまごプロジェクト」や「教育ボランティア」などの経験をもとに考えること、最新の教育機器や設備に実際に触れること、などを通して、教育についての理解を深める。</p> <p>子供について学ぶことは、人間の存在そのものを考えることであることに気づき、社会や文化が築かれていく過程には、一人一人の人間が深く関わっていることを意識できるようにする。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(教育学部こども教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育心理学	<p>教育心理学（小学校）では、教育者に必要な心理学的理論を習得し、エビデンスに基づいた指導法を考察する力を身につけることを目指す。</p> <p>この授業は心理学の基礎理論を学ぶための講義と、講義内容の理解を深める演習で構成され、以下の内容を取り上げる。</p> <p>(1) 発達の基礎理論を学び、児童の発達段階について理解する。</p> <p>(2) 「学習」「動機づけ」「認知」に関する理論と研究成果を学び、児童の行動や知識が形成されるプロセスを理解する。</p> <p>(3) 「パーソナリティ」「知能」に関する基礎理論と測定法を学び、人格形成および学力について理解する。</p> <p>(4) 「発達障がい」に関する理論を学び、児童の成長と発達を促す支援についての理解を深める。</p>	
	教育法規	<p>教職をめざす学生にとって、学校教育を理解するには教育法規に関する基礎知識は欠かせない。そのため授業では、教育施策の実現と関連する教育法規を理解するとともに、日々の教育活動の具体的事例に対して法的根拠に基づいた対応ができる実践力を身に付けていくことを目的とする。また、学校教育の経営的事項についての基礎的知識を身に付ける。</p> <p>授業内容としては、毎回、レジュメ・ワークシート及び関係資料等を配付する。配付資料や「教育小六法」を活用しながら講義形式で授業を進める。授業や「課題レポート」の作成を通して、教育法規の観点から実践的な判断力や行動力を養う。一部、「課題レポート」の発表会や討議形式も取り入れる。</p>	
	生徒・進路指導論 (小学校)	<p>この授業では、学校生活の充実、自己実現に必要な自己指導能力や生きる力の育成、社会的職業的自立に必要な資質・能力を育むこと等を目指す。そのため、指導者として必要なそれらの知識や指導方法を身に付け、児童と関わる場で活かせるようにすることを目的とする。</p> <p>授業内容としては、「生徒指導提要」及び、「小学校キャリア教育の手引き(改訂版)」を用いた講義のほか、グループやクラス全体で討議する、予習してきた課題を採点し、次時にフィードバックし双方向型の主体的・能動的な活動を行う、ソーシャルスキルトレーニングなどを行うこととする。適宜、学習指導要領や各教科解説、関係法令を活用する。</p>	
	特別支援教育概論 (小学校)	<p>この授業では、実際の学校生活において、「できにくい状況」におかれがちな児童に対して、共感的な学習支援をするための基礎・基本を身につける。発達障害をはじめとする、障害についての理解を深め、実際の授業場面における、特別支援教育の指導の基本を学び、将来、教員として必要となる指導の知識を習得することを目的とする。また、学校における児童・生徒の発達の観点から特別支援教育の対象となる児童・生徒についての具体的な指導法を学び、子供を支援するための基本を身につける。</p> <p>授業内容としては、映像教材を使い、発達障害をはじめとする、障害についての理解を深める。また、それにかかわるレポートの作成を求めることとする。</p>	
	教育相談 (小学校)	<p>教育相談では、児童の問題行動の背景にある要因についての理解を深め、子供の多様なニーズに応じた援助のあり方を考察する能力を身につけることを目指す。</p> <p>この授業は児童の問題行動を理解するための臨床心理学的視点、教育相談に必要なカウンセリング理論を学ぶ講義と、教育相談の対象となる具体的な事例（例えば、いじめ・不登校など）を検討する演習によって構成される。演習では、事例検討に必要な教育学的、心理学的、社会学的理論に関する情報提供のためのプレゼンテーションを受講者が分担して実施し、児童の援助について教員の視点・立場を意識した討論を通して子どものニーズに応じた援助とは何かを理解する。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(教育学部こども教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	初等国語科指導法	<p>この授業では、国語科教育の現状と課題をふまえて、これからの時代に求められる学力を養うための学習のあり方を学習指導要領の内容に即して理解することをねらう。</p> <p>授業中は要点をノートに整理し、キーワードが説明できるようにする。学習指導要領に示された内容と、学習材（授業では主に教科書教材）、学習者の実態、学習指導案の4者のつながりを踏まえて、実際の授業における教師の役割や教育方法等について理解を深めさせる。また、アクティブラーニングとして、ペアワークやグループでのディスカッション、模擬授業などを行う。具体的には学習材の選定や指導案作成などを行い、フィードバックも行う。</p>	
	初等社会科指導法	<p>この授業では、小学校の教員として社会科指導をするために必要な知識や技能を習得し、それを実践するための指導力の向上を目的とする。小学校社会科の目標「公民としての基礎的な資質や能力の育成」を達成するためには、各学年の目標や内容を着実に理解し、学習指導案を作成できる資質を身に付ける必要がある。</p> <p>授業内容としては、小学校社会科の学習内容を3学年、4学年、5学年、6学年に分け、選択した単元について学習指導案を作成し模擬授業を実施する。参加者はその授業について10項目の視点から4段階評価を行い、それを元に教員が分析・代案を示し、アクティブラーニングにより社会科指導の実践力を高める。</p>	
	算数科指導法	<p>算数の授業を行うためには、算数の内容に加えて、学習の目標や方法を考える必要がある。そこで本授業では、授業を計画し、実践し、評価・改善していくために必要な知識や考え方を身に付けることを目標とする。特に、学習指導の意味と方法の理解、児童の活動の評価、学習指導案の作成、研究協議を行うことを中心とする。</p> <p>毎時間の講義では、実際に行われた授業やその学習指導案の分析、学習指導案の作成、模擬授業とその協議を中心に授業を進める。具体的には、授業の最初に本時の内容に関する課題に取り組み、個人での解決および全体での議論を通して授業内容を深める。</p>	
	初等理科指導法	<p>この授業では、平成29年3月に公示された学習指導要領に基づき、大きく変化する社会の変化と改訂の背景を理解するとともに、児童の主体的・対話的で深い学びを身に付けさせるための、学習活動を考える。そのために、小学校理科学習の教材・素材研究を通して、児童が科学的な見方・考え方を働かせ意欲的に問題解決に取り組むことのできる授業案や指導法を検討するとともに、理科で育てたい資質・能力について理解する。</p> <p>さらに、日常生活と関連させながら科学の基本的な見方や概念について踏まえたうえで、教科書に記載されている観察・実験を実際に行い、実験器具の操作法や安全に配慮して行う技能を身に付け、総合的な理科指導力を高める。</p>	
	生活科指導法	<p>生活科は、子供たちの日常生活の中から「問い」を発見させ、指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実を構想していくことが重要である。この授業では、実際に小学校1・2年生の子供たちと同様の問題解決的な学習や体験をしたり、模擬授業を行ったりする。その中で、「主体的学び」、「対話的学び」、「深い学び」の視点で授業改善を行い、生活科で育てる資質・能力とは何かを構築させることを目的とする。</p> <p>さらに、「子供たちが考える場面」と「教師が教える場面」の両方を経験させることで、指導者の役割の重要性についても考え、最終的に年間指導計画を作成する。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(教育学部こども教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	初等音楽科指導法	<p>この授業では、音楽に対する基礎的な理解を前提に、小学校音楽科教育の意義を理解し、基本的な音楽科授業の組み立てができることを目指す。</p> <p>授業内容としては、学習指導要領の小学校音楽科の目標と内容、指導計画、評価などを知り、授業の具体的な事例を取り上げながら進める。また、音楽科の特性を理解するとともに授業づくりの実践を通して、発達段階や教材研究の大切さを理解し、効果的な視聴覚機器や教材使用に配慮できるよう助言を行う。</p> <p>主体的な学修のために、毎回の授業を振り返ってその内容や課題をまとめ、グループで協働して授業づくりを行えるようにする。また、学生の理解度を確認するためにレポート課題を課すこととする。</p>	
	図画工作科指導法	<p>この授業では、講義・演習を通して図画工作科の目標と内容及び評価の考え方等について学ぶことを目的とする。</p> <p>授業形態としては、グループワークで模擬授業、授業分析・考察を行い、具体的な授業場面を想定して授業設計する力、指導方法を身に付ける。内容としては、教科目標と内容、児童の発達と表現について学び、造形活動（表現・鑑賞）と評価方法を知る。その後に授業計画案作成・指導案作成・教材研究を通して組み立て方を学んでから、模擬授業の実施と振り返りにより分析・考察を行った後に、グループワークとして「図工でつきたい力」について話し合い、全体の共有を図る。</p>	
	初等家庭科指導法	<p>この授業では、小学校「家庭」の指導をするにあたり、家庭科の内容を理解したうえで、基本的な指導法の理解を図り、実践的な力を培う。</p> <p>目標としては、授業内容や、学習の指導計画の立案や学習指導案の作成を目指す。児童の実態をふまえ、授業内容や具体的な授業場面に対応できるように、かつ、児童が意欲的に授業に取り組めるように、様々な学習・指導法を学び、学習指導案が作成できるような資質・技能を習得する。</p> <p>授業形態は講義形式の他、アクティブラーニングの視点を取り入れたディスカッション、ワークショップ、プレゼンテーション（模擬授業）を適宜取り入れて実施する。</p>	
	初等体育科指導法	<p>この授業では、体育科の目標、領域内容等を理解し、子ども一人ひとりの健康と生涯にわたって運動・スポーツとの関わりをもつことのできる資質を養うことを念頭においた学習指導ができる知識・技能の習得を目指す。それを通して、子供を総合的に理解し、教育する力を身につける。</p> <p>授業の流れとして、まず小学校体育科のカリキュラム編成と学習指導について、その理論と方法を理解する。次に、レクリエーション・スポーツを活用した体育の授業構成について運動・スポーツ指導の実践を通して学習する。その知識をもとに授業計画を作成し、授業実践をおこない受講者による相互評価を通し体育におけるPDCA過程の学習とする。</p>	
	小学校英語指導法 I	<p>この授業では、小学校外国語活動・外国語科に関する基本的な知識や理論、指導・評価方法を学ぶと共に、授業実践に必要な英語運用能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>内容としては、英語に関する背景的な知識（音声・語彙・文構造・文法・正書法などの英語に関する基本的な知識、第二言語習得、児童文学（英語絵本、子ども向けの歌・詩、マザー・グース）、異文化理解等を学び、英語の授業実践に向けての準備、必要な知識と英語力を身に付ける。授業・アクティビティの実演を通して、児童の立場も体験する。</p> <p>形態として、講義とグループ・ワークによるプレゼンテーション等、対話的・体験型の学習を進める。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(教育学部こども教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	小学校英語指導法Ⅱ	<p>この授業では、小学校英語Ⅰの内容を踏まえて、小学校外国語活動・外国語科に関する基本的な知識や理論、指導・評価方法の理解を深め、授業実践に必要な英語運用能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>内容としては、英語に関する背景的な知識（音声・語彙・文構造・文法・正書法などの英語に関する基本的な知識、第二言語習得、児童文学（英語絵本、子供向けの歌・詩、マザー・グース）、異文化理解等を学び、英語の授業実践に向けての準備、必要な知識と英語力を身に付ける。授業・アクティビティの実演を通して、児童の立場も体験する。</p> <p>形態として、講義とグループ・ワークによるプレゼンテーション等、対話的・体験型の学習を進める。</p>	
	道徳教育指導法 (小学校)	<p>道徳教育指導法（小学校）では、全教育活動で行われる道徳教育の目標や内容、その要の役割を果たす道徳科の授業の在り方を学ぶことを目的とする。</p> <p>道徳科で活用する教材の分析を個人で綿密に行い、それを基に小グループで指導案を作成し、学生が模擬授業を行う。同時に授業記録の取り方を、実践を通して学ぶ。担当教員も学生向けに模擬授業を行い、考え、議論する道徳授業の在り方を深く学んでいく。講義で学んだことや考えたことを毎回学生が記述し、理解を深めたいことや疑問に思ったことなどを次の講義の冒頭で解説、双方向の講義となるようにすることにより、道徳教育の推進と道徳科の授業の具体的な展開ができるよう目指していく。</p>	
	総合的な学習の時間の 指導法（小学校）	<p>本授業では、総合的な学習の時間の意義、探究的な課題解決活動を通して育む資質・能力、各学校において目標・内容を定めることの意味などの基本的な知識について理解するとともに、総合的な学習の時間の指導計画作成を通して、各教科との関連性や、主体的で対話的な深い学びを引き出すにはどうしたらよいか、評価の在り方（evaluationとassessment）等について、実践的に学んでいくことを目的とする。</p> <p>まず、これまでの総合的な学習経験を振り返り、疑問点や課題を洗い出した上で、総合的な学習の時間の意義や原理等の基礎理論について学び、その答えを各自が明らかにする。さらに、年間指導計画作成やルーブリックの作成等のワークを通して、総合的な学習の時間の基本的な考え方や基礎的な能力を身につける。</p>	
	特別活動指導法 (小学校)	<p>この授業では、学習指導要領に基づき、特別活動の目標・内容を理解し、学級活動（特に学級会）、クラブ活動、学校行事等について具体的に実践的な指導法を身に付けることを目的とする。</p> <p>授業内容としては、学習指導要領解説「特別活動編」に従い、特別活動の目標と意義、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事、全体計画、指導計画、評価方法という順番で展開していく。</p> <p>講義形式を基本とするが、個人演習・グループ討議、模擬授業等を取り入れる。授業はパワーポイント及び配布資料を用いて行うこととする。</p>	
	文学教材研究	<p>この授業では、小学校の教科書に収録されることの多い、安房直子や宮沢賢治の童話を題材に、教材研究の一環として文学を読み解くコツを習得していく。自分の力で作品の魅力を見つけ出し、言葉で表現できるようになることが到達目標である。「我が国の言語文化に関する事項」の指導に備え、古典文学に親しむ態度も涵養する。</p> <p>授業内容として、まずは作者の略歴を知ることから始め、教科書掲載作品を読み解いたのち、応用編として同じ作家の別の作品を取り上げ、考察していく。</p> <p>講義形式を基本としつつ、グループワークや口頭発表（個別、グループ）も実施していく。タスクシートに個別にフィードバックを行うほか、ルーブリック等も活用する。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(教育学部こども教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	数と形の不思議	算数科で扱う「数」および「形」には、様々な数学的な性質や身の回りの現象が潜んでいる。本授業は、算数・数学における数と形に関する性質を探究することや日常生活や社会における問題の解決に数や形に関する性質を活用することを通して、算数・数学について考えるために必要な見方や考え方を、身に付けられるようにすることを目標とする。 数や形に関する問題を解決し、解決を発表・議論する中で、どのような知識・技能や見方・考え方が潜んでいるか、また必要なかを把握してもらおう。具体的には、授業の最初に本時の内容に関する課題に取り組み、個人での解決および全体での議論を通して授業内容を深める。	
	プログラミング教育	この授業では、平成29年3月に公示された学習指導要領に基づき、社会の変化と改訂の背景を理解するとともに、児童にプログラミングを体験させ、コンピュータに意図した処理を行うのに必要な論理的思考力を身に付けさせるための、学習活動を考えることを目的とする。 そのために、小学校で行うプログラミング教育の意義や効果について理解するとともに、さまざまな教育用プログラミング教材を体験しながら実際にプログラムを作成し、授業で実践するためには教育者としてどのような力が求められるのかを追究する。さらに、情報機器を活用して情報活用能力について踏まえたうえで、発達の段階に即したプログラミング的思考を育む授業や指導法を検討する。	
	理科の観察実験	この授業では、基本的な理科実験（物理分野）において、各自でさまざまな現象を理解するために、できるだけ簡単な装置を作成したり、市販の装置を用い、基本事項を習得するための実験を行う。それにより、科学的な見方、文献の調べ方ができるように授業を展開するとともに、小学校教材において、理科実験を通し科学的な基礎知識を身につけることを目的とする。 特に小学校教員採用試験を志す学生に対し、採用試験対策となる事柄も含め少人数グループでの実験授業を行なう。前半、後半を通し歴史的背景も取り入れる。実験の結果を検討し、性質、働き、規則性などの考察をする。	
	科学教育論	この授業では、物理学、化学、生物学、地学の4分野における研究と理科教育に必要な科学的資質を身に付けるために、基本的・基礎的な文献検索と実験結果から、理科教育の前提となる科学的な現象を読み解く力、学習指導要領に基づく理科を教える目的と目標、さらに理科で教える内容と教材を学ぶことを目的とする。 さらに、理科教員として理解しておかなければならない学習指導、評価、観察・実験の方法、実験室整備などの知識を習得し、日常生活と科学の関連性について探究するとともに、4分野を超えた環境教育、エネルギー教育、宇宙教育などの今日的な課題や最新の科学技術についても学び、科学的な視点で物事をとらえて教育活動に生かすことができるようにする。	
	音楽と表現	この授業では、ソプラノリコーダーの奏法やピアノの実践的な伴奏法を身に付け、器楽を中心とした音楽をつくりあげる過程を体得し、児童の指導に役立てることを目的とする。 リコーダーでは導入指導を児童の立場で受け、よい音を出すタンギングや息遣い、運指などを知る。ピアノ伴奏法では伴奏譜を使用せず、「音楽」で学んだコードネームを活用し、メロディーからコードを付ける簡易な伴奏法を修得する。個人やペア、グループなど様々な形態で課題を明確にししながら、思いや意図を生かした曲想にふさわしい表現を工夫したり聴き合ったりすることを通して、よさを認め合いながら音楽をつくりあげる楽しさや多様さを体感する。	
	造形と表現	この授業では、発想、構想、表現活動、鑑賞のプロセスをふまえて、作品を制作する。制作を通して必要な技術や技能を習得し、活用する力を培うことを目的とする。 内容としては、造形作品の概説と今日のアートシーンを紹介した後に、紙・粘土・液体粘土・金属・木材・土粘土での立体表現を課題として課し、適当な時間をあてて制作活動を行わせる。各自が表現した作品について意見交換や鑑賞の機会を持ち、学生相互でフィードバックし合うことを大切にし、表現の多様さを共有することとする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部こども教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育社会学	この授業では、教育のさまざまな側面に関して社会学的な見方をし、教育の社会的側面を理解し、教育問題の原因とそれを解決する方法に関して理解する。そこから、教育の社会的側面を広範囲に深く理解し、教育実践に役立てられることを目的とする。 授業は講義形式で行い、内容としては、人間の成長には生得的なもの（遺伝）と社会的なもの（環境、教育）の両方がはたらいており、その関係の実態を理論と実際から理解していく。教育は、家庭、地域社会、仲間集団、学校、職場などの社会集団、・組織・制度のなかで行われる。その仕組みと機能、および文化を理解する。特に教育の中心は、学校教育のなかで行われ、その仕組みの理解が重要である。さらに、高等教育や生涯学習との接続、多文化教育の視点を導入し、教育実践力を高める。	
	メディアリテラシー教育	本授業では、メディアリテラシー（メディアに関する読解力や発信力）がいかなるものであるかを学習した上で、児童生徒のメディアリテラシーを高めるための教育を実践する力量と、教師自らの授業・教材づくりにメディアリテラシーを活かす力量を高めることをねらいとする。 授業内容としては、メディアリテラシーに関する古典的な言説や欧米での事例を学ぶことから始め、日本国内での実践例や、ソーシャルメディアなどの新たなメディアとの付き合い方なども取り上げる。 主に知識を習得させるための講義に加え、メディアリテラシー教育のあり方を受講者が考え提案するワークを行っていく。	
	学校の安全教育	この授業では、小学校の安全管理や安全教育の在り方を理解することを目的とする。小学校では、児童に自他の生命を尊重し、健康で安全な生活を生涯に渡って営むことのできる態度や能力を育成する教育が求められている。児童が学校や地域で生活をする上で、必要な安全に関わる基礎的な事項を着実に理解し、それを指導できる資質を身に付ける必要がある。 授業内容としては、小学校における学校安全に係る学習内容を学校生活、登下校、地域での生活などの場に応じて事例を元に学習を進める。また、稲毛駅から敬愛大学までの通学路を実地踏査して「地域安全マップ」を作成するなど、安全についてアクティブラーニングで理解を深める。	
	学級担任と読書	この授業では、将来小学校の学級担任を続けていく上で必要な読書活動を知り、いくつかのジャンルから厳選した図書資料を読むことを通して、教師として生きることとは学び続けることなのだということを具体的に理解することを目的とする。 アクティブラーニングとして図書の紹介（ビブリオバトルやブックトークなど）に取り組むために、シラバスを参考に選書させる。自分の選んだ推薦図書を、相手が読みたくなるように表現を工夫して紹介させる。なお、毎時間講義の終わりに次の授業で使う資料を配布し、難語句を調べるなどして家で必ず読み込んでくることを課題とする。発表やグループでの話し合いなどの後は、口頭で学生相互にフィードバックし合うようにする。	
	社会教育概論	本授業では、生涯学習社会における教育や学習について考えるという立場から、社会教育について認識をもち、社会教育の理解を深めていく。学校教育や家庭教育、地域社会との関係に注目しつつ、自分の学習歴との関係を考えていくことで、生涯学習社会における学習のあり方を把握し、構想していく力量を高めることを目標とする。 授業形態は、講義を中心としつつも、ディスカッション、小課題、リアクションペーパーの記述などにも適宜取り組む。前回のリアクションペーパーの内容紹介や、ディスカッションのふりかえりを行うことでフィードバックを行う。	
	多文化教育論	本講義の目標は、学生が異質な他者との共生やその多様性の理解を目的とする教育についての基本的概念と考え方を理解したうえで、自分が教師になったとき、子どもに多文化の意義をいかにして教えるのがよいのかを自分で考えることができるようになることである。 授業は講義形式で行い、内容としては、日本のニューカマーの子どもたちの教育場面での語学や食文化など、現在生じている日本の教育問題を扱うほか、宗教、民族、母語、ジェンダー、セクシュアリティなどでマイノリティに属す子どもの教育についてのアメリカのハワイの教育実践、カナダやニュージーランドなどでの多文化教育の実践を扱う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(教育学部こども教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	世界のこども教育	この授業では、その国の歴史や文化、教育政策の状況等の背景を視野に入れながら世界各国の教育について概観し、日本の教育との相違点や共通点を見出し、日本の教育の改善点を考えていくことを通して、特に、多様な価値観を認める力を高めていくことをねらいとしている。 取り上げる国（教育方法）は、主にフランス（フレネ教育）、オランダ（イェナプラン、ドルトンプラン）、フィンランドの教育、イタリア（モンテッソーリ教育）、シンガポール（ICT教育）などで、Project Based Learningの手法を取り入れた課題解決学習に取り組む。	
	教育哲学	本講義は、学生が教育の本質や諸理念についての基本的な考え方を理解し、その利点や問題点についてみずから考えることができるようになることを目的とする。 講義の中心の内容は、西洋と日本における教育の歴史と思想である。扱われる具体的な主題は、教育とは何だろうか、養育や教育は本当に必要なのだろうか、家庭や学校における教育や学びにはどのような形態があるのだろうか、子供はどのような存在者として認識されてきたのか、近代教育制度とはどのようなものなのか、日本の教育思想とはどのようなものなのか、教えることと学習することや学ぶこととの関係は何だろうか、などである。	
	こども教育演習Ⅰ	この授業では、教員としての実践的な指導力を養成するために、学校教育における教師としての資質や能力について考察すると共に、我が国及び都道府県における教育実践の現状を踏まえ、教職生活で求められる資質・能力を養成し、優れた教師の育成を図ることを目的とする。 授業内容としては、よい教師に求められる基礎的な知識や心構えを身につけるため、教材研究と学習指導、生徒指導、教育課程、学習指導要領の歩み、現代の教育課題、教育実習等をテーマに展開する。毎講義ごと、資料を配布し授業を進め、授業テーマ毎に全体討論やグループでの討議を行う。発表や振り返りの場面を設定し主体的な学びを推進する。	
	こども教育演習Ⅱ	この授業では、教員としての実践的な指導力を養成するために、学校教育における教師としての資質や能力について考察すると共に、我が国及び都道府県における教育実践の現状を踏まえ、教職生活で求められる資質・能力を養成し、優れた教師の育成を図ることを目的とする。 授業内容としては、教職生活のあらましを知り、社会が求める教師像に近づくための実践的指導力を身につける。学習指導、生徒指導、教育法規、教育公務員としての教員、現代の教育課題等をテーマに展開する。毎講義毎、資料を配布し授業を進め、授業テーマ毎にグループでの討議を行い、結果を発表する。振り返りの場面を設定し主体的な学びを推進する。	
	こども教育演習Ⅲ	この授業では、教員としての実践的な指導力を養成するために、学校教育における教師としての資質や能力を磨くと共に、我が国及び都道府県における教育実践の現状と課題を考察し、教員としての見識を広げることを目的とする。 授業計画として、教育実習関連、千葉県・千葉市の学校教育、我が国の学校教育、良い授業の創造、特別支援教育、信頼される学級経営、現代的な教育課題、教員採用選考の現状等をテーマに展開する。毎講義ごと、資料を配布し授業を進め、各自の発表をもとにグループでの討議を行い、結果を発表する。発表後の全体討論や振り返りの場面を設定し主体的な学びを推進する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(教育学部こども教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育実習指導	<p>この授業では、教育実習の事前指導として、教育実習生に求められる心構えや授業の運営力、子供への対応力などを取り上げる。教育実習では授業を行うだけでなく、休み時間には子供と遊び、放課後には担任の先生の仕事の手伝いをし、教材研究をして指導案を書いた上で授業を行う。その際、子供と指導教員から謙虚に学ぶという心構えと具体的な行動・判断の仕方を学んでいくことを目的とする。</p> <p>講義だけでなく、資料に基づいてグループで話し合ったり、意見交換をしたり、授業用教科書をもとに模擬授業に取り組む。その際、発問、指示、机間指導、指名計画、発言への評価など、授業運営のイロハが確実に実践できるように、細かくフィードバックしていく。</p>	
	教育実習	<p>教育実習は、大学で履修した教育に関する科目、教職に関する科目、専門に関する科目等、すべての集大成として行うものである。小学校での4週間の実習を通して、初等教育全般への理解を深め、教師としての資質を確かめることを目的とする。</p> <p>小学校教諭の業務として指導案の作成と提案、教育実習記録簿の執筆、児童との関係づくりなどを行い指導教員から毎日指導を受けたり、4週間の実習のまとめとして精練授業を行い実習校の多くの先生方から指導を受けたりする。それ以外に大学で年度の初めに行う「教職ガイダンス」や、後期末の「教育実習報告会」には必ず参加する。さらにゼミ担当教員から事前・事後の指導を受け、卒業研究につなげるようにする。</p>	
	教職実践演習 (小学校)	<p>この授業では、教員になる上で、受講生一人一人にとって必要と思われる課題を以下の4つの観点から把握し、不足している知識や技能等を補完することを目的とする。①教師としての使命・責任・教育愛（子供を総合的に理解し、教育する力）、②社会人としての社会性・対人関係能力（豊かなコミュニケーション能力）、③授業の根幹をなす児童理解・学級経営（子供を総合的に理解し、教育する力）、④教科内容の理解と指導力（実践的活動を通して地域に貢献する力）。</p> <p>毎時間、授業のはじめに課題把握の説明を全体に行った後、担当教員制の小グループによるアクティブ・ラーニング（学生主体の発表、役割演技、模擬授業等）を行い、授業の終末でフィードバックしていく。</p>	
	日本語学	<p>この授業では、日本語のコミュニケーションに特徴的に見られる表現をテーマに、自分の言語を相対的に理解する過程で「言葉と社会」の関わりを深く理解し、今後、世界のさまざまな言語、多様な文化を見つめていくための土台を培うことを目的とする。</p> <p>授業は講義および演習を行い、「授受表現（あげる・もらう・くれる）」「敬意表現」「方言」を取り上げ、客観的に観察・考察する。「国語」と「日本語学」の違いや、日本語教育の考え方にも常に触れながら進める。全員の発言を中心に、「知っていること」を活かし、段階的に理解していく。単元毎の復習課題で、各自の理解に応じたフォローを行い、学習を確実にする。</p>	
	異文化コミュニケーション	<p>本講義の目標は、学生が異なる文化を理解するための基本的概念と考え方を理解し、ジェンダー、障害、人種、国籍、宗教、性格などの多様な観点から異文化にある他者を理解するとはどのようなことなのかについて自分で考えることができるようになることである。</p> <p>講義内容としては、共生社会、文化、多文化主義の一般的定義、言語と非言語コミュニケーション、価値観の違い、ステレオタイプや偏見の特徴、それらの善悪の理由、偏見を中和する方法、異なる他者との関係の中での自己変容などを扱う。授業形態は、前半に教員による講義の解説と、毎回、テーマを絞ったグループ・ディスカッションである。</p>	
	比較文化論	<p>この授業では、異文化を理解し国際的な教養を幅広く身につけることを目的とし、さらに文献の批判的読み方、自分の意見をまとめ発信する方法と立ち位置を変えつつ複眼的に物を見る＝「文化を比較する」作業を体得してもらうことを到達目標とする。</p> <p>授業内容としては、講義を中心とし、日米戦争中の米国の日本文化研究をもとに編まれ、後の日本人論の源流となる『菊と刀』の英文テキストを輪読する。著者ルース・ベネディクトは著名な文化人類学者だが日本を訪れたことはなく、日本に関する文献と日系二世の知見を通じて日本文化の解明に取り組んだ。著者の「日本人観」と我々のセルフ・イメージの乖離、それにも拘わらず何故多くの日本人に受け入れられたかなど、本書の現代的意義について討論する。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(教育学部こども教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本文化論	この授業では、身近な生活の中に息づく伝統文化を自ら見出せるようになることを到達目標とする。また、「我が国の言語文化に関する事項」の指導に備え、古典文学に親しむ態度も涵養する。 授業内容としては、「花札」に描かれた図柄を切り口として、日本文化の諸相を探究していく（文学、演劇、絵画、工芸、宗教など）。まず古典世界のコードを学び、次にそのコードを用いて読み解くことのできる具体例を考察していく。講義形式を中心としつつ、Moodleを活用して、学生が相互に発信する場を確保していく。古典芸能の視聴（解説付）等、映像資料を多用する。	
	児童文学論	この授業では、子どもに本を手渡す大人として、児童文学の価値を見定める力を身につけることを到達目標とする。受講生には、児童文学作品を実際に手に取り、積極的に読み進めていくことを求める。 授業内容としては、児童文学とは何か、歴史・ジャンル・テーマなどについて基本的な知識を得るとともに、具体的な作品の分析を通じて、読み深めるための方法を学ぶ。講義形式を基本としつつ、毎回、一人当たり5分程度、学生の個人発表を取り入れていく（受講生多数の場合はポスター発表の形式で実施予定）。フィードバックは発表直後に口頭で行っていく。	
	英米児童文学	本授業では、イギリス児童文学に関する背景知識を学びながら、代表的な作品を英語で読み、さまざまなジャンルの作品に触れながら、イギリス児童文学の魅力を探る。原作を通してイギリス児童文学の楽しみ方、読み方を身に付け、理解することが目標である。 授業は演習形式で進め、主に次の作品を取り上げる：ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』、A. A. ミルン『クマのプーさん』、ビアトリクス・ポター『ピーターラビットのおはなし』。 グループ発表とディスカッションを通して作品の理解を深め、多面から考え、各自でテーマと問いを見つけ、レポートを作成する。	
	3年次専門研究 I	この授業では、具体的な内容や方法は担当教員の専門分野により異なるが、基本的には、少人数でのディスカッション、グループワーク、文献精読、調査発表などをおとして、各分野について専門的に学んでいくための素地を養うことを目的とする。 本授業は、教育学、教育方法学、心理学、教科教育学などを専門とする専任教員それぞれの専門分野にもとづき計画・実施される少人数対象のゼミナール形式の授業である。学生は、自らの希望する教員および専門分野を選択し、受講する。原則として、3年次前期から4年次後期まで同一の分野を継続して学んでいくことになる。	
	3年次専門研究 II	この授業では、具体的な内容や方法は担当教員の専門分野により異なるが、基本的には「3年次専門研究 I」の内容を引き継ぎつつ、少人数でのディスカッション、グループワーク、文献精読、調査発表などを通して各分野について専門的に学ぶための力量を確かなものとするを旨とする。 本授業は、教育学、教育方法学、心理学、教科教育学などを専門とする専任教員それぞれの専門分野にもとづき計画・実施される少人数対象のゼミナール形式の授業である。学生は、自らの希望する教員および専門分野を選択し、受講する。原則として、3年次前期から4年次後期まで同一の分野を継続して学んでいくことになる。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(教育学部こども教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	4年次専門研究Ⅰ	<p>この授業では、具体的な内容や方法は担当教員の専門分野により異なるが、基本的には、「3年次専門研究Ⅰ・Ⅱ」の内容を引き継ぎつつ、研究や調査等の成果発表へ向けて、学生自らが設定した課題にもとづき、文献収集、論文草稿執筆、進捗状況についての報告、それらに関連した研究指導等を行うことを目的とする。</p> <p>本授業は、教育学、教育方法学、心理学、教科教育学などを専門とする専任教員それぞれの専門分野にもとづき計画・実施される少人数対象のゼミナール形式の授業である。学生は、自らの希望する教員および専門分野を選択し、受講する。原則として、3年次前期から4年次後期まで同一の分野を継続して学んでいくことになる。</p>	
	4年次専門研究Ⅱ	<p>この授業では、具体的な内容や方法は担当教員の専門分野により異なるが、基本的には、「3年次専門研究Ⅰ・Ⅱ」および「4年次専門研究Ⅰ」の内容を引き継ぎつつ、研究や調査等の成果発表へ向けて、学生それぞれが設定した課題に応じて研究指導等を行うことを目的とする。</p> <p>本授業は、教育学、教育方法学、心理学、教科教育学などを専門とする専任教員それぞれの専門分野にもとづき計画・実施される少人数対象のゼミナール形式の授業である。学生は、自らの希望する教員および専門分野を選択し、受講する。原則として、3年次前期から4年次後期まで同一の分野を継続して学んでいくことになる。</p>	
	卒業研究	<p>この授業では、担当教員の指導の下で研究テーマを設定し、研究を遂行する過程を通して基礎的な文献研究、資料の収集、観察、分析などの研究方法を修得する。また、研究成果をまとめ上げるとともに研究発表会での発表を通して文章や口頭での表現力を身に付けることを目標とする。</p> <p>研究テーマは「教育学」に関わるものとし、研究テーマに沿って研究計画の作成、論文執筆や作品制作などの卒業研究を遂行する。担当教員の指導の下、先行研究・資料の検索と整理、研究計画の検討と修正を行いながら日々の研究を進める。中間発表会では発表と討論を行い、各自の課題を確認し、研究の完成と最終発表会での発表を目指す。</p>	

## 学校法人千葉敬愛学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由		
<b>敬愛大学</b>				<b>敬愛大学</b>						
経済学部				経済学部						
	(2年次) (3年次)				(2年次) (3年次)					
経済学科	115	1	1	465	経済学科	115	1	1	465	
経営学科	110	1	1	445	経営学科	110	1	1	445	
計	225	2	2	910	計	225	2	2	910	
国際学部				国際学部						
	(2年次) (3年次)				(2年次) (3年次)					
国際学科	98	1	1	397	国際学科	98	1	1	397	
こども教育学科	72	1	1	293	<u>こども教育学科</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	令和3年4月 学生募集停止
計	170	2	2	690	計	<u>98</u>	<u>1</u>	<u>1</u>	<u>397</u>	
千葉敬愛短期大学				千葉敬愛短期大学						
現代子ども学科	200	-	-	400	現代子ども学科	<u>150</u>	-	-	<u>350</u>	学部の設置 (届出)
計	200	-	-	400	計	<u>150</u>	-	-	<u>350</u>	定員変更(△50) (令和2年9月 届出予定)

# (1) 都道府県内における位置関係の図面



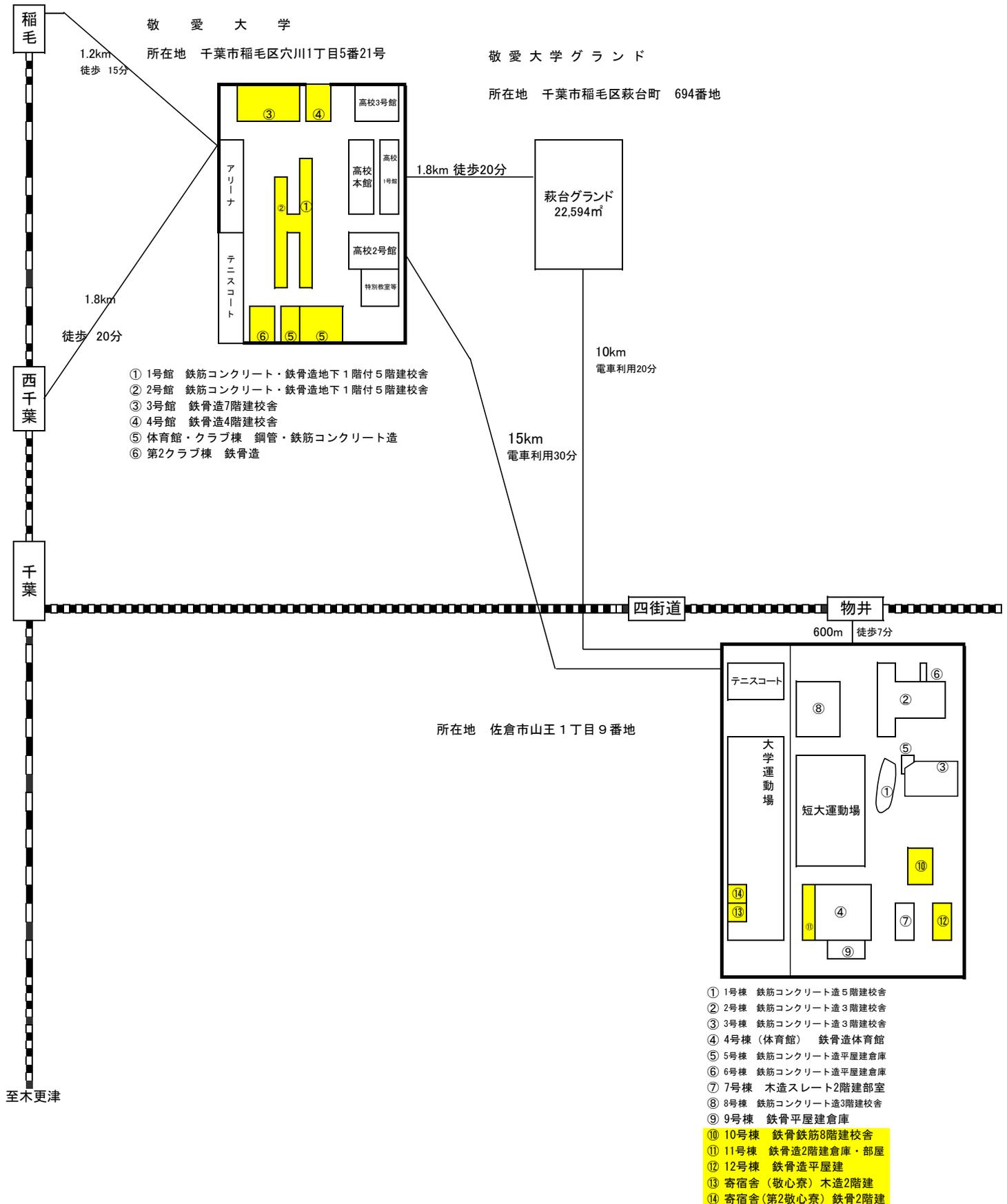
## 稲毛区内における位置関係の図面



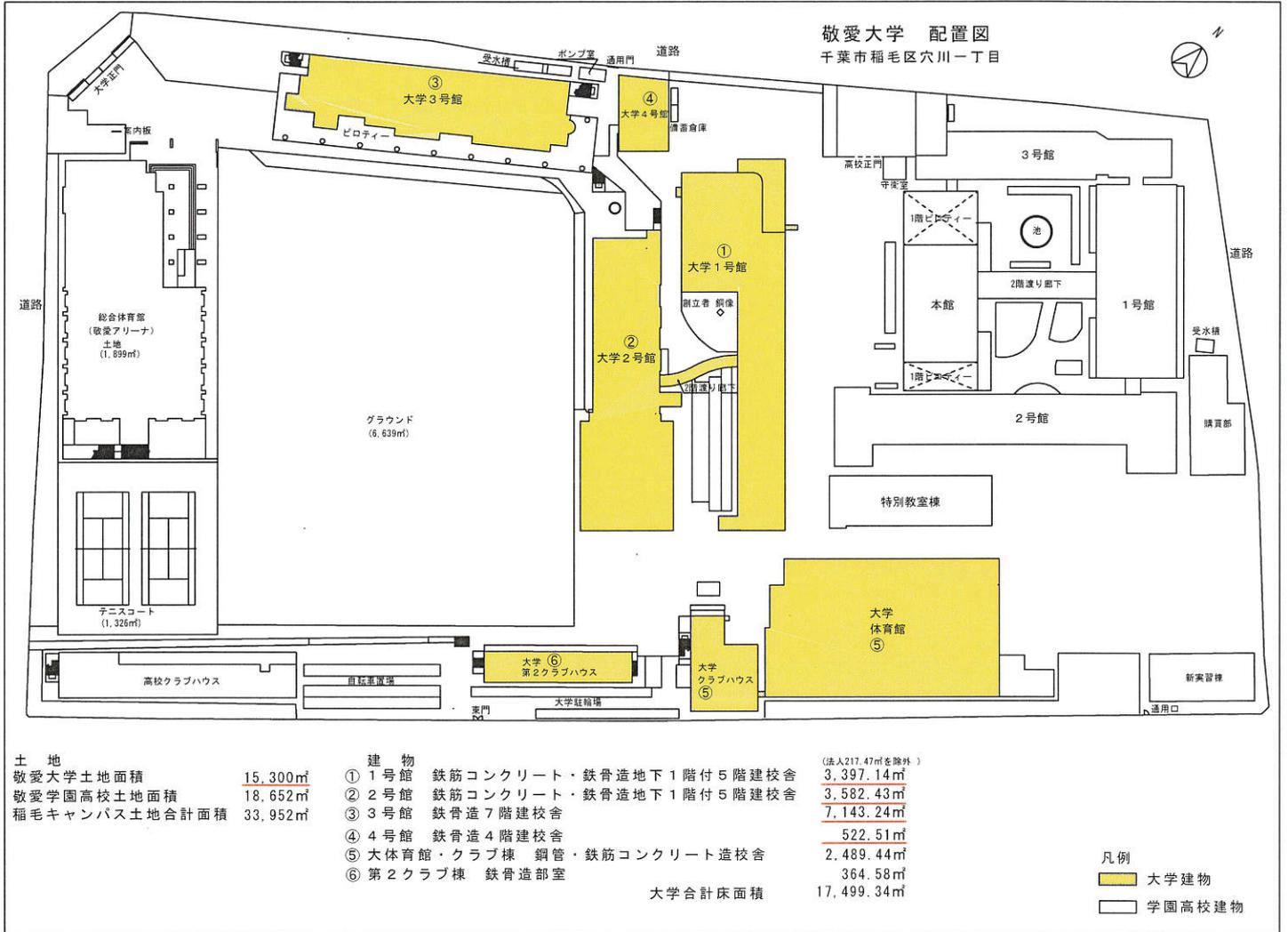
## 大学の位置



## (2) 最寄り駅からの距離、交通機関及び所用時間がわかる図面



### (3) 校舎、運動場等の配置図 (その1)



### (3) 校舎、運動場等の配置図 (その2)



(3) 校舎、運動場等の配置図 (その3)



# 敬愛大学学則

令和3年4月1日 改正(予定)

# 敬愛大学学則

## 第1章 総則

(目的)

**第1条** 敬愛大学(以下「本学」という。)は建学の精神「敬天愛人」に基づき、教育基本法及び学校教育法に則り広く知識を授け、深く専門の学芸を教授・研究し、知的・道徳的及び応用的能力を展開する大学教育を施し、もって文化の進展に寄与する有為の社会人を養成することを目的とする。

(自己点検・評価等)

**第2条** 本学は教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 自己点検・評価の実施体制及び方法については別に定める。

## 第2章 学部学科・学生定員及び修業年限等

(学部学科)

**第3条** 本学に次の学部学科を置く。

- (1) 経済学部 経済学科 経営学科
- (2) 国際学部 国際学科
- (3) 教育学部 こども教育学科

(育成する人材)

**第3条の2** 学部学科ごとの人材育成に関する目的は、次のとおりとする。

- (1) 経済学部経済学科は、経済学に関する幅広い知識を修得し、実社会で応用できる表現力、コミュニケーション能力、情報収集能力及び経済学的思考力をもって、広く社会に貢献できる人材を育成する。
- (2) 経済学部経営学科は、経営学に関する幅広い知識を修得し、実践的なマネジメント能力及びグローバルな視野を身につけ、広く社会に貢献できる人材を育成する。
- (3) 国際学部国際学科は、国際社会を多角的に理解し、変化する現代を生き抜く力を身につけ、高いコミュニケーション能力を培い、グローバル化する地域社会に貢献できる人材を育成する。
- (4) 教育学部こども教育学科は、幅広く深い教養と豊かな人間性及び子供の教育に関する知識と技能の修得を基盤として、それを活用することができる実践能力に加えて、教育事象を科学的・実証的に考察し、その成果を子供の健全な育成に活かすことのできる人材を育成する。

(学生定員)

**第4条** 本学の学部学科の定員は次のとおりとする。

(1) 経済学部	経済学科	入学定員	115名
		編入学定員 (2年次)	1名
		(3年次)	1名
	経営学科	入学定員	110名
		編入学定員 (2年次)	1名
		(3年次)	1名
		収容定員	910名
(2) 国際学部	国際学科	入学定員	98名
		編入学定員 (2年次)	1名
		(3年次)	1名
			収容定員
(3) 教育学部	こども教育学科	入学定員	72名
		編入学定員 (2年次)	1名
		編入学定員 (3年次)	1名
		収容定員	293名

(修業年限及び在学年限)

**第5条** 本学の修業年限は4年とする。

- 2 8年を超えて在学することはできない。又、編入学、再入学及び転入学の場合は、第13条に定められた在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えることはできない。
- 3 大学の学生以外の者(科目等履修生として大学入学資格を有する者)が、本学において一定の単位を修得した後に、本学に入学する場合で、当該単位の修得により本学の教育課程の一部を履修したと認められるときは、その単位数に応じて、相当期間を本学の修業年限の2分の1を超えない範囲で修業年限に通算することができる。

(長期履修制度)

**第5条の2** 前条第1項の規定にかかわらず、職業を有している等の事情により、修業年限を超えて計画的に教育課程を履修し学位の取得を希望する者(以下「長期履修学生」という。)が、本制度の申請を申し出たとき、学長は、審査のうえ長期履修学生として履修を認めることができる。

ただし、前条第2項に定める在学年限を超えることはできない。

- 2 長期履修制度に関する必要な事項は別に定める。

### 第3章 学年・学期及び休業日

(学年及び学期)

**第6条** 学年は4月1日に始まり翌年の3月31日に終わる。

2 学年を分けて次の2期とする。

前期 4月1日より9月25日まで

後期 9月26日より翌年3月31日まで

3 学長が教育上必要と認める場合は、前項の期日を変更することができる。

(休業日)

**第7条** 学年中の休業日は次のとおりとする。

(1) 土曜日及び日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日

(3) 本学創立記念日 5月4日

(4) 敬愛の日 6月3日

(5) 春季休業 3月24日より3月31日まで

(6) 夏季休業 8月1日より9月25日まで

(7) 冬季休業 12月21日より翌年1月10日まで

2 学長が教育上必要と認める場合は、休業日を変更し、若しくは臨時に休業し、又は休業日に授業を行うことができる。

### 第4章 入学・退学・休学・復学及び除籍

(入学の時期)

**第8条** 入学の時期は学年又は後期の始めとする。

(入学資格)

**第9条** 第1学年に入学できる者は、次の各号の一に該当する者でなければならない。

(1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者

(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校を修了した者を含む）

(3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

(4) 文部科学大臣の指定した者

(5) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定試験に合格した者を含む。）

(6) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(7) その他本学において、相当年齢に達し高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

- (8) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であること。その他文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る。）で文部科学大臣が別に定める日以降に修了した者

（入学の出願及び検定料）

**第10条** 入学志願者は所定の入学願書を提出しなければならない。

- 2 提出の時期、提出する書類、方法については別に定める。
- 3 入学検定料については第32条第1項の定めるところによる。

（入学者の選考）

**第11条** 前条の入学志願者に対しては選考試験を行う。

（入学の手續及び入学許可）

**第12条** 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに本学所定の書類を提出するとともに、第32条第1項に定める入学金を納入しなければならない。

- 2 学長は前項の入学手續を完了した者に入学を許可する。

（編入学・再入学・転入学）

**第13条** 本学に編入学、再入学又は転入学を志願する者があるときは、選考のうえ、相当年次に学長が入学を許可することができる。

- 2 前項の規定により編入学できる者は、次の各号の一に該当する者とし、入学許可人数については学則第4条の規定に定めるところによる。

- (1) 他の大学を卒業又は退学した者
- (2) 短期大学、高等専門学校、国立工業教員養成所又は国立養護教諭養成所を卒業した者
- (3) 専修学校の専門課程で文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（ただし、学校教育法第90条に規定する大学入学資格を有する者に限る）

- 3 第1項の規定により再入学又は転入学できる者は、本学を中途退学した者又は、他の大学に在学中の者で転入学により当該大学を退学する者とする。

- 4 第1項の規定により入学を許可された者についての履修方法は、教授会の議を経て学長が決定する。

（転部及び転科）

**第14条** 本学学生で他の学部転部又は他の学科に転科を志願する者は、当該学部教授会の議を経て学長の許可を得なければならない。

- 2 転部及び転科の規程は別に定める。

（退学）

**第15条** 退学しようとする者は、保証人連署のうえ学長に願い出て、その許可を得なければならない。

(休学)

**第16条** 病気及びその他の事由により引き続き3ヶ月以上修学することができないときはその事由を具し、保証人連署のうえ学長に願い出て、その許可を得なければならない。

- 2 休学の期間は、その学年の終わり、又は学期の終わりまでとし、特別の事情のある場合は、引き続き1年に限り休学を許可することができる。
- 3 休学の期間は、通算して4年を超えることができない。
- 4 休学の期間は、在学年数に算入しない。

(転学)

**第17条** 他の大学へ転学を希望する者は、学長の許可を得なければならない。

(海外留学)

**第18条** 外国の大学又は短期大学に留学を希望する者は、学長の許可を得て留学することができる。

- 2 前項の許可を得て留学した期間は、1年に限り第30条第1項に定める期間に算入する。

(復学)

**第19条** 休学期間中にその事由が消滅したときは、保証人連署のうえ学長に願い出て、その許可を得なければならない。

- 2 復学の時期は、学年の始め又は学期の始めとする。

(除籍)

**第20条** 次の各号の一に該当する者は、教授会の議を経て、学長が除籍する。

- (1) 第5条第2項に定める在学年限を超えた者
- (2) 第16条第3項に定める休学の期間を超えてなお修学できない者
- (3) 授業料その他の学費の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- (4) 死亡又は長期間にわたり行方不明の者

## 第5章 教育課程・履修方法・授業科目・単位及び期間等

(教育課程・履修方法)

**第21条** 本学の授業科目は学科目制とし、教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開講し、体系的な教育課程を編成する。

- 2 経済学部経済学科の教育課程は、学部共通科目(基礎科目、言語科目A、言語科目B、教養科目、情報科目、キャリア科目)、経済学科専門科目(基本科目A、基本科目B、公共経済コース科目、金融経済コース科目、現代経済コース科目、展開科目、演習科目)、自由選択科目(エアポート NARITA 地域産業学科目、AI・データサイエンス科目、インターンシップ科目)、教職及び教科に関する科目を置く。

- 3 経済学部経営学科の教育課程は、学部共通科目(基礎科目、言語科目 A、言語科目 B、教養科目、情報科目、キャリア科目)、経営学科専門科目(基本科目 A、基本科目 B、インターンシップ科目、企業経営コース科目、商業・会計コース科目、スポーツビジネスコース科目、地域産業コース科目、展開科目、演習科目)、自由選択科目(エアポート NARITA 地域産業学科目、AI・データサイエンス科目)、教職及び教科に関する科目を置く。
- 4 国際学部国際学科の教育課程は、基礎科目(教養科目、演習)、外国語科目(英語、英語以外の外国語、日本語)、情報基礎科目、専門科目(共通、英米語専攻、地域デザイン専攻、国際ビジネス専攻、観光マネジメント専攻、専門研究)、キャリア科目、自由選択科目(実習科目、その他、エアポート NARITA 地域産業学科目)、教職及び教科に関する科目を置く。
- 5 教育学部こども教育学科の教育課程は、教養教育科目(教養科目、外国語科目、キャリア科目)、専門教育科目(専門基礎科目、専門基幹科目、専門展開科目、専門研究)を置く。

(授業科目・単位数及び卒業に必要な単位数)

**第21条の2** 本学の授業科目、卒業に必要な単位数は、別表1～4のとおりとする。

(単位の計算方法)

**第22条** 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の各号の基準により計算するものとする。

- (1) 講義については15時間の授業をもって1単位とする。
  - (2) 演習については30時間の授業をもって1単位とする。
  - (3) 実験、実習、実技等についての学修はすべて実験室・実習室等で行われるものとし、30時間から45時間までの範囲で大学が定める授業をもって1単位とする。
  - (4) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の併用により行う場合については、前3号の組合せに応じ、別に定める時間の授業をもって1単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず卒業論文、卒業研究及び校外学修等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して適切な単位を授与することができる。

(授業期間)

**第23条** 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め35週にわたることを原則とする。

- 2 各授業科目の授業は10週又は15週にわたる期間を単位として行う。ただし教育上特別の必要があると認められる場合は、これらの期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

(履修登録及び履修制限)

**第24条** 授業科目の履修方法については、前期開講科目は前期の指定された期日までに履修登録をして許可を得なければならない。また、後期開講科目も同様に後期の指定された期日までに履修登録をして許可を得なければならない。

- 2 履修登録の取扱いについては別に定める。
- 3 各学部の年次別の履修登録上限単位数は、次のとおりとする。

(1) 経済学部

- 1年次 42単位
- 2年次 42単位
- 3年次 42単位
- 4年次 46単位

ただし、第21条第2項及び同条第3項に規定する教職及び教科に関する科目の履修単位は上記の単位数に含めない。

(2) 国際学部

- 1年次 42単位
- 2年次 42単位
- 3年次 42単位
- 4年次 46単位

ただし、第21条第4項に規定する教職及び教科に関する科目の履修単位は上記の単位数に含めない。

(3) 教育学部

- 1年次 42単位
- 2年次 42単位
- 3年次 42単位
- 4年次 42単位

- 4 他学部等の授業科目を履修する場合は、学長の許可を得て履修し、単位を修得したときは、相当する科目群の科目として、学長が単位を認定することができる。

## 第6章 単位の認定等

(試験の評定)

**第25条** 試験の評定は100点を満点とし、60点以上を合格とする。

- 2 試験は、筆記試験、論文レポート、試問、その他の方法により行う。

(単位の授与)

**第26条** 授業科目を履修した者に対しては、試験に合格した場合に単位を与える。

(単位の互換)

**第27条** 教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学及び学部間の協議に基づき、当該大学又は短期大学及び学部間の授業科目の履修を認めることができる。

- 2 前項の規定により学生が修得した単位は、60単位を超えない範囲で第30条第1項に定める単位として認定することができる。

3 前2項の規定は、第18条に定める留学の場合に準用する。

(既修得単位の認定)

**第28条** 大学・短期大学又は専修学校の専門課程を卒業し又は中途退学した後、  
本学第1年次に入学した者の既修得単位については、教育上有益と認めるときは、  
第30条第1項に定める単位として認定することができる。

2 前項により認定することができる単位は、前条第1項により認定する単位と併せて60単位を超えないものとする。

(大学以外の教育施設等における学修)

**第29条** 教育上有益と認めるときは、短期大学又は高等専門学校の専攻科における  
学修その他文部科学大臣が定める学修を本学における授業科目の履修とみなし  
第30条第1項に定める単位として認定することができる。

2 前項により認定できる単位は、第27条第1項及び第28条第1項により認定する単位と併せて60単位を超えないものとする。

## 第7章 卒業等

(卒業の要件及び学士の学位)

**第30条** 本学に4年以上在学し、第21条の2に定める授業科目及び単位数を修得した者については教授会の議を経て学長が卒業を認定する。

2 前項による卒業認定は学年末、又は前期末にこれを行うことができる。

3 卒業を認定された者には学士の学位を授与する。

4 学位の授与に関する規定は別に定める。

(免許状の種類)

**第31条** 本学において次の教育職員免許状を取得することができる。

(1) 経済学部 経済学科

中学校教諭一種免許状(社会)

高等学校教諭一種免許状(地理歴史)

高等学校教諭一種免許状(公民)

(2) 経済学部 経営学科

高等学校教諭一種免許状(商業)

(3) 国際学部 国際学科

中学校教諭一種免許状(英語)

中学校教諭一種免許状(社会)

高等学校教諭一種免許状(英語)

高等学校教諭一種免許状(地理歴史)

高等学校教諭一種免許状(公民)

(4) 教育学部 こども教育学科

小学校教諭一種免許状

2 教育職員の免許状取得の要件については別に定める。

## 第8章 入学検定料・入学金及び授業料等

(学費等)

**第32条** 本学の入学検定料、学費及び教職課程履修費の金額は別表5～7のとおりとする。

2 入学検定料、学費及び教職課程履修費等に関する必要な事項は、別に定める。

## 第9章 教職員組織

(教職員)

**第33条** 本学に学長、副学長、教授、准教授、講師、助教並びに事務職員その他の教職員を置くことができる。

(学長・副学長の職務)

**第34条** 学長は校務をつかさどり所属教職員を統督する。

2 副学長は学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

## 第10章 大学運営会議・教授会及び各種委員会

(大学運営会議)

**第35条** 本学の重要事項を審議するために大学運営会議を置く。

2 大学運営会議に関する必要な事項は別に定める。

(教授会)

**第36条** 本学各学部の教育研究に関する重要事項を審議するためにそれぞれに教授会を置く。

2 教授会は、学長が次に掲げる事項について、決定を行うに当たり意見を述べることができる。

(1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項

(2) 学位の授与に関する事項

(3) 前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

3 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

4 教授会の組織には、准教授、講師及びその他の教職員を加えることができる。

5 教授会に関する必要な事項は別に定める。

(合同教授会)

**第37条** 学長が必要と認めたとき又は各学部長から特に要請があったときは、学長は合同教授会を招集することができる。

2 合同教授会は、学長が特に必要と認めた大学の重要事項を審議する。

(各種委員会)

**第38条** 学長が必要と認めるとき、各種委員会等を組織し、それぞれの専門分野について審議研究し、その運営を図ることができる。

2 各種委員会に関する事項は別に定める。

## 第11章 科目等履修生及び外国人留学生等

(科目等履修生)

**第39条** 本学において特定の授業科目を履修しようとする者については、教育研究に支障のない範囲内において教授会の議を経て科目等履修生として、学長が入学を許可することができる。

2 科目等履修生が履修した授業科目を試験に合格したときは、第25条及び第26条の規定を準用して当該科目の単位を付与することができる。

3 科目等履修生に関する事項は別に定める。

(特別聴講生)

**第40条** 他の大学、短期大学との協議に基づき、当該大学又は短期大学の学生を特別聴講生として、学長が入学を許可することができる。

2 特別聴講生に関する事項は別に定める。

(聴講生)

**第41条** 本学において特定の授業科目を聴講することを志願する者があるときは、各学部の教育に支障のない場合に限り、選考のうえ、学長が聴講を許可することができる。

2 聴講生に関する事項は別に定める。

(外国人留学生)

**第42条** 外国籍を有し第9条第3号に該当する者が、本学に入学を希望した場合は、選考のうえ、学長が入学を許可することができる。

2 外国人留学生については、第45条(育英・奨学)に関する規定を除き、正規の学生についての規定を準用する。

3 外国人留学生に関する事項は別に定める。

(委託生)

**第43条** 公共機関その他から委託生としての入学の申し出のある時は本学の教育、研究に支障のない限り、選考のうえ、学長が入学を許可することができる。

2 委託生に関する事項は別に定める。

(公開講座)

**第44条** 学術文化の普及のため、本学において公開講座及び課外講座を開講することができる。

2 公開講座及び課外講座に関する事項は別に定める。

## 第12章 育英及び奨学に関する事項

(育英・奨学)

第45条 本学に育英及び奨学に関する制度を置く。

2 育英及び奨学に関する事項は別に定める。

## 第13章 賞罰

(褒賞)

第46条 品行方正、学術優秀又は善行のあった学生に対しては、賞状又は商品を授与し褒賞することができる。

2 褒賞に関する事項は別に定める。

(懲戒)

第47条 本学の規定に違反し、又は学生の本分に反する行為があった学生に対しては懲戒する。懲戒は、戒告、停学及び退学とする。

2 退学処分は次の各号の一に該当する者に対して行う。

- 一 性行不良で改善の見込みがないと認められた者
- 二 成績不良で学業継続の見込みがないと認められた者
- 三 正当な理由なくして出席不良の者
- 四 大学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した者

3 懲戒に関する事項は別に定める。

## 第14章 附属施設・寄宿舍・厚生施設

(附属施設)

第48条 本学にメディアセンター及び総合地域研究所を置く。

2 各附属施設に関する事項は別に定める。

(寄宿舍)

第49条 本学に寄宿舍を置く。

2 寄宿舍に関する事項は別に定める。

(厚生施設)

第50条 本学に厚生施設を置く。

2 厚生施設に関する事項は別に定める。

## 第15章 改正

(改正)

第51条 本学則の改正は、各学部教授会及び大学運営会議の意見を聴いた後、理事会の承認を得て、学長がこれを行う。

附 則

この学則は、昭和41年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、昭和55年4月1日から施行する。
- 2 昭和54年度以前に入学した学生については、なお従前の例による。ただし、第24条、第26条については、この限りにあらず。

附 則

- 1 この学則は、昭和56年4月1日から施行する。
- 2 昭和55年度以前に入学した学生については、なお従前の例による。ただし、入学検定料は、昭和56年度入学志願者から、授業料は昭和55年度入学者から適用する。

附 則

- 1 この学則は、昭和57年4月1日から施行する。
- 2 昭和54年度以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、昭和58年4月1日から施行する。
- 2 昭和54年度以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

この学則は、昭和60年4月1日から施行する。ただし、第28条の改正は昭和55年度入学者から適用する。

附 則

- 1 この学則は、昭和61年4月1日から施行する。
- 2 昭和60年度以前に入学した学生については、なお従前の例による。ただし、第28条の改正については、昭和55年度以降の入学者に適用する。

附 則

- 1 この学則は、昭和62年4月1日から施行する。ただし、入学検定料については昭和62年度入学者から適用する。
- 2 第27条の規定にかかわらず、当分の間総定員は次のとおりとする。

昭和62年度	総定員	500名
昭和63年度	総定員	600名
昭和64年度	総定員	700名

附 則

この学則は、昭和63年4月1日から施行する。ただし、第28条の改正は昭和56年度以降の入学者から適用する。

#### 附 則

この学則は、平成元年4月1日から施行する。ただし、第28条の改正は昭和58年度以降の入学者から適用する。

#### 附 則

- 1 この学則は、平成2年4月1日から施行する。ただし、第28条の改正は昭和60年度以降の入学者から適用する。
- 2 第21条第3項および第26条第1項の改正は、平成2年度以降の入学者から適用し、平成元年度以前に入学した者は、なお従前の例による。
- 3 平成元年度以前に入学して教育職員免許状を取得しようとする者については、なお従前の例による。
- 4 第28条の規定にかかわらず平成2年度から平成10年度までの間入学定員は次のとおりとする。

経済学部経済学科 260名

#### 附 則

- 1 この学則は、平成3年4月1日から施行する。ただし、第28条の改正は昭和60年度以降の入学者から適用する。
- 2 第21条第3項及び第26条第1項の改正は、平成3年度入学者から適用し、平成2年度以前に入学した者はなお従前の例による。
- 3 第27条第1項第2号及び第3号の改正は、平成2年度入学者から適用し、平成元年度以前に入学した者はなお従前の例による。
- 4 第28条第1項の改正は、昭和60年度以降の入学者から適用する。ただし入学検定料については、平成3年度入学志願者から適用する。
- 5 第29条の規定にかかわらず平成3年度から平成11年度までの間、入学定員は次のとおりとする。

年 度	平成3年度～平成10年度	平成11年度
経済学部経済学科	320名	260名

#### 附 則

- 1 この学則は、平成4年4月1日から施行する。
- 2 第26条第3項の改正は、平成3年度卒業生から適用する。
- 3 第28条第1項の改正は、昭和62年度以降の入学者から適用する。

#### 附 則

- 1 この学則は、平成5年4月1日から施行する。
- 2 第28条第1項の改正は、昭和63年度以降の入学者から適用する。

#### 附 則

- 1 この学則は、平成6年4月1日から施行する。
- 2 第29条第1項の改正は、昭和63年度以降の入学者から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成7年4月1日から施行する。
- 2 第29条第1項の改正は、平成元年度入学者から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成8年4月1日から施行する。
- 2 第29条第1項の改正は、平成2年度入学者から適用する。ただし、検定料については、平成8年度入学志願者から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成9年4月1日から施行する。
- 2 第30条第1項の改正は、平成2年度入学者から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成10年4月1日から施行する。
- 2 第30条第1項の改正は、平成3年度入学者から適用する。
- 3 第31条第の規定にかかわらず、平成3年度から平成11年度までの間、入学定員は次のとおりとする。

年 度	平成3年度～平成10年度	平成11年度
経済学部経済学科	320名	260名

附 則

- 1 この学則は、平成11年4月1日から施行する。
- 2 第30条第1項の改正は、平成4年度入学者から適用する。ただし、平成10年度以前の入学者の施設費については、180,000円とする。
- 3 第31条第の規定にかかわらず、平成3年度から平成11年度までの間、入学定員は次のとおりとする。

年 度	平成3年度～平成10年度	平成11年度
経済学部経済学科	320名	260名

附 則

- 1 この学則は、平成12年4月1日から施行する。
- 2 第30条第1項の改正は、平成5年度入学者から適用する。ただし、平成10年度以前の入学者の施設費については、190,000円とする。
- 3 第31条第の規定にかかわらず、平成12年度から平成16年度までの間、入学定員は次のとおりとする。

年 度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
経済学部経済学科	308名	296名	284名	272名	260名

附 則

この学則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 第30条第1項に定める別表の改正は、平成17年度入学者から適用する(220,000円)。ただし、平成16年度以前の入学者の施設費については、210,000円とする。

附 則

この学則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 国際学部国際協力量科は、改正後の学則第3条第1項第2号の規定にかかわらず、平成19年3月31日に当該学科に在学する学生が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 2 第33条第1項第6号に規定する施行前における助教授としての在職は、施行後の准教授としての在職とみなす。

附 則

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 前項の規定にかかわらず、第7条第5号の改正は平成17年度入学生から適用する。
- 3 附則第1項の規定にかかわらず、第30条第1項に定める別表の改正は、平成18年度入学者から適用する(240,000円)。ただし、平成17年度以前の入学者の施設費については、220,000円とする。

附 則

この学則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 国際学部国際学科の地域こども教育専攻をこども学科に改める。なお、国際学科の国際学専攻及び地域こども教育専攻は、改正後の学則第3条第1項第2号の規定にかかわらず、当該専攻に在籍する学生がいなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

- 1 この学則は、平成23年7月1日から施行する。
- 2 第11条、第14条、第17条並びに第18条第2項の改正は、平成20年度入学者より適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 第31条の改正は、平成24年度入学者から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成24年12月11日から施行する。
- 2 第12条の改正は、平成23年度入学者から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 経済学部経済学科の現代マネジメント専攻を経営学科に改める。なお、経済学科の経済専攻及び現代マネジメント専攻は、改正後の学則第3条第1項第1号の規定にかかわらず、在籍する学生がいなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 第29条第1項の規定は、平成25年度入学者から適用し、平成24年度以前の入学者は(「高等学校教諭一種免許状(情報)」)なお従前のおりとする。
- 4 第30条第1項に定める別表の施設費の分割納入については、平成25年度入学者から適用し、平成24年度までの入学者についてはなお従前のおりとする。
- 5 第31条の規定にかかわらず平成25年度から平成28年度までの間、収容定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
経済学部	経済学科	920名	773名	624名	475名
	経営学科	110名	223名	339名	455名
国際学部	国際学科	580名	474名	419名	386名
	こども学科	190名	262名	284名	284名
	合 計	1,800名	1,732名	1,666名	1,600名

附 則

- 1 この学則は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 第29条第2項の規定は、平成26年度入学者から適用し、平成25年度以前の入学者はなお従前のおりとする。

附 則

この学則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成27年10月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 第32条第1項に定める別表の入学金、授業料等の改正は、平成28年度入学者(編入学者、転入学者を含む)から適用し、平成27年度以前の入学者はなお従前のおりとする。

附 則

この学則は、平成28年12月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 第5条の2の規定は、平成29年度入学者から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 第32条第1項に定める別表の入学検定料の改正は、平成31年度入学志願者から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 第4条の規定にかかわらず平成31年度から平成34年度までの間、収容定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
経済学部	経済学科	471名	467名	465名	465名
	経営学科	451名	447名	445名	445名
国際学部	国際学科	386名	386名	389名	397名
	こども教育学科	286名	288名	291名	293名
	合 計	1,594名	1,588名	1,590名	1,600名

- 3 第31条第1項第1号の規定は、平成31年度入学者から適用し、平成30年度以前の入学者の経済学部経済学科における高等学校教諭一種免許状(商業)の取得については、なお従前のおりとする。
- 4 第32条第1項に定める別表の入学検定料の改正は、平成32年度入学志願者から適用する。
- 5 第42条第2項の規定は、平成31年度入学者から適用する。

附 則

- 1 この学則は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 第32条第1項に定める別表の入学試験項目の改正は、令和3年度入学志願者から適用する。
- 3 第32条第1項に定める別表の学費(授業料、施設費)の改正は、令和3年度入学者(編入学者、転入学者を含む)から適用し、令和2年度以前の入学者はなお従前のおりとする。

## 附 則

- 1 この学則は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 この学則による改正前の学則に定める国際学部こども教育学科は、改正後の学則第3条の規定にかかわらず、令和3年3月31日に当該学科に在籍する学生がいなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 第4条の規定にかかわらず令和3年度から令和6年度までの間、収容定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
経済学部	経済学科	465名	465名	465名	465名
	経営学科	445名	445名	445名	445名
国際学部	国際学科	389名	397名	397名	397名
	こども教育学科	219名	148名	74名	
教育学部	教育学科	72名	145名	219名	293名
	合 計	1,590名	1,600名	1,600名	1,600名

- 4 第31条第1項第4号の規定は、令和3年度入学者から適用し、令和2年度以前の入学者の国際学部こども教育学科における小学校教諭一種免許状の取得については、なお従前のおりとする。
- 5 第32条第1項に定める別表の入学検定料の改正は、令和3年度入学志願者から適用する。
- 6 第32条第1項に定める別表の学費(入学金、授業料、施設費)及び教職課程履修費の改正は、令和3年度入学者(編入学者、転入学者を含む)から適用し、令和2年度以前の入学者については、なお従前のおりとする。

別表 1 (第21条の2関係) 経済学部 経済学科 教育課程表

区分	授業科目名	単位	開講年次	履修方法	経済学科	備考
学部共通科目	基礎科目 必修科目	文章表現	2 1	必修科目	18	全科目必修
		口頭表現	2 1			
		基礎数学	2 1			
		入門経済学	2 1			
		入門経営学	2 1			
		キャリアプランニング	2 1			
		健康科学	2 1			
		情報基礎 I	1 1			
		情報基礎 II	1 1			
		基礎演習 I	1 1			
		基礎演習 II	1 1			
言語科目	言語科目 A 必修科目	英語 I	1 1	必修科目	4	全科目必修
		英語 II	1 1			
		英語 III	1 2			
		英語 IV	1 2			
	言語科目 B 選択必修科目	フランス語 I	1 1	4単位以上選択	4	同一言語を選択必修
		フランス語 II	1 1			
		フランス語 III	1 2			
		フランス語 IV	1 2			
		ドイツ語 I	1 1			
		ドイツ語 II	1 1			
		ドイツ語 III	1 2			
		ドイツ語 IV	1 2			
		中国語 I	1 1			
		中国語 II	1 1			
中国語 III	1 2					
中国語 IV	1 2					
日本語 I	1 1	留学生は日本語を必修				
日本語 II	1 1					
日本語 III	1 2					
日本語 IV	1 2					
時事英語 III	1 2					
時事英語 IV	1 2					
ビジネス英語 III	1 2					
ビジネス英語 IV	1 2					
教養科目	選択科目	敬天愛人講座	2 1 2 3 4	12単位以上選択	12	
		敬愛プログラム	2 1 2 3 4			
		スポーツ教育 I	1 1 2 3 4			
		スポーツ教育 II	1 1 2 3 4			
		哲学	2 1 2 3 4			
		心理学	2 1 2 3 4			
		社会心理学	2 1 2 3 4			
		歴史学	2 1 2 3 4			
		法学	2 1 2 3 4			
		憲法	2 1 2 3 4			
		政治学	2 1 2 3 4			
		社会学	2 1 2 3 4			
		数学 I	2 1 2 3 4			
		数学 II	2 1 2 3 4			
		統計学 I	2 1 2 3 4			
		統計学 II	2 1 2 3 4			
		環境科学	2 1 2 3 4			
		地域ボランティア活動	2 1 2 3 4			

別表 1 (第21条の2関係) 経済学部 経済学科 教育課程表

区分	授業科目名	単位	開講年次	履修方法	経済学科	備考		
情報科目	情報概論	2	1	4単位以上選択	4			
	アルゴリズム論	2	2 3 4					
	ビジネスデータ解析	2	2 3 4					
	プレゼンテーション論	2	2 3 4					
	情報ビジネス論	2	2 3 4					
	情報セキュリティ論	2	2 3 4					
	データサイエンス総論	2	1 2 3 4					
	AI概論	2	2 3 4					
	プログラミング	2	2 3 4					
	キャリア科目	実践会話 I	2	2	4単位以上選択		4	
		実践会話 II	2	2				
		キャリアデザイン	2	2				
		キャリアディベロップメント	2	2				
		キャリア基礎開発 I	2	3				
キャリア基礎開発 II		2	3					
キャリア基礎開発 III		2	3					
経済学科専門科目	基本科目 A	必修科目	経済理論 I	2	1 2	経済理論は4単位必修 フィールドワーク入門2単位必修	10	日本経済史又は西洋経済史 何れか4単位選択必修
			経済理論 II	2	1 2			
			日本経済史 I	2	1 2			
			日本経済史 II	2	1 2			
			西洋経済史 I	2	1 2			
			西洋経済史 II	2	1 2			
			フィールドワーク入門	2	2			
基本科目 B	選択必修科目	ミクロ経済学 I	2	2 3 4	22単位以上選択	22		
		ミクロ経済学 II	2	2 3 4				
		マクロ経済学 I	2	2 3 4				
		マクロ経済学 II	2	2 3 4				
		経済政策 I	2	2 3 4				
		経済政策 II	2	2 3 4				
		資本主義経済論 I	2	2 3 4				
		資本主義経済論 II	2	2 3 4				
		社会政策 I	2	2 3 4				
		社会政策 II	2	2 3 4				
		財政学 I	2	2 3 4				
		財政学 II	2	2 3 4				
		金融論 I	2	2 3 4				
		金融論 II	2	2 3 4				
		国際経済論 I	2	2 3 4				
		国際経済論 II	2	2 3 4				
		簿記・会計概論 I	2	2 3 4				
		簿記・会計概論 II	2	2 3 4				
		会計学 I	2	2 3 4				
		会計学 II	2	2 3 4				
		企業法	2	2 3 4				
		会社法	2	2 3 4				
		統計学総論 I	2	2 3 4				
		統計学総論 II	2	2 3 4				
		知的財産権論	2	2 3 4				
		情報マネジメント	2	2 3 4				

別表 1 (第21条の2関係) 経済学部 経済学科 教育課程表

区分		授業科目名	単位	開講年次	履修方法	経済学科	備考					
公共経済コース科目	選択必修科目	公共経済学	2	2 3 4	16単位以上選択	16	公共経済コース選択者					
		公共選択論	2	2 3 4								
		地方財政論Ⅰ	2	2 3 4								
		地方財政論Ⅱ	2	2 3 4								
		地方自治論Ⅰ	2	2 3 4								
		地方自治論Ⅱ	2	2 3 4								
		財政赤字の経済学	2	2 3 4								
		社会保障論Ⅰ	2	2 3 4								
		社会保障論Ⅱ	2	2 3 4								
		社会福祉論	2	2 3 4								
		福祉経済論	2	2 3 4								
		経済学史Ⅰ	2	2 3 4								
		経済学史Ⅱ	2	2 3 4								
		行政法Ⅰ	2	2 3 4								
		行政法Ⅱ	2	2 3 4								
	民法Ⅰ	2	2 3 4									
	民法Ⅱ	2	2 3 4									
		進路支援科目	進路支援講座Ⅰ(コース共通)	2	1		(12)	自由選択科目群の単位に加算				
			進路支援講座Ⅱ(コース共通)	2	1							
	進路支援講座Ⅲ(公務員)		2	2								
	進路支援講座Ⅳ(公務員)		2	2								
	進路支援講座Ⅴ(公務員)		2	3								
	進路支援講座Ⅵ(公務員)		2	3								
経済学科専門科目	金融経済コース科目	証券経済論Ⅰ	2	2 3 4	16単位以上選択	16	金融経済コース選択者					
		証券経済論Ⅱ	2	2 3 4								
		銀行論Ⅰ	2	2 3 4								
		銀行論Ⅱ	2	2 3 4								
		国際金融論Ⅰ	2	2 3 4								
		国際金融論Ⅱ	2	2 3 4								
		企業金融論Ⅰ	2	2 3 4								
		企業金融論Ⅱ	2	2 3 4								
		保険論	2	2 3 4								
		金融事情Ⅰ	2	2 3 4								
		金融事情Ⅱ	2	2 3 4								
		有価証券法	2	2 3 4								
			進路支援科目	進路支援講座Ⅰ(コース共通)				2	1		(12)	自由選択科目群の単位に加算
				進路支援講座Ⅱ(コース共通)				2	1			
		進路支援講座Ⅲ(IT)		2	2							
		進路支援講座Ⅳ(IT)		2	2							
		進路支援講座Ⅴ(日経新聞を読む)		2	2 3							
		進路支援講座Ⅵ(日経新聞を読む)		2	2 3							
現代経済コース科目	選択必修科目	日本経済論Ⅰ	2	2 3 4	16単位以上選択	16	現代経済コース選択者					
		日本経済論Ⅱ	2	2 3 4								
		日本経済地理	2	2 3 4								
		世界経済地理	2	2 3 4								
		アメリカ経済論Ⅰ	2	2 3 4								
		アメリカ経済論Ⅱ	2	2 3 4								
		ヨーロッパ経済論Ⅰ	2	2 3 4								
		ヨーロッパ経済論Ⅱ	2	2 3 4								
		中東経済論	2	2 3 4								
		アジア経済論	2	2 3 4								
		国際貿易論	2	2 3 4								
		労働経済論Ⅰ	2	2 3 4								
		労働経済論Ⅱ	2	2 3 4								

別表 1 (第21条の2関係) 経済学部 経済学科 教育課程表

区分	授業科目名	単位	開講年次	履修方法	経済学科	備考
展 開 科 目	労働法	2	2 3 4	10単位以上選択	10	経済学科の基本科目A・B、 各コース科目の必要単位数を 超えた場合の単位数を含む
	経済統計 I	2	2 3 4			
	経済統計 II	2	2 3 4			
	進路支援講座 I(コース共通)	2	1			
	進路支援講座 II(コース共通)	2	1			
	進路支援講座 III(経済)	2	2			
	進路支援講座 IV(経済)	2	2			
	進路支援講座 V(経済)	2	2 3			
	進路支援講座 VI(経済)	2	2 3			
	社会思想史 I	2	2 3 4			
	社会思想史 II	2	2 3 4			
	金融経済の基礎知識	2	2 3 4			
	経済学方法論 I	2	2 3 4			
	経済学方法論 II	2	2 3 4			
	計量経済学 I	2	2 3 4			
	計量経済学 II	2	2 3 4			
	環境経済学 I	2	2 3 4			
	環境経済学 II	2	2 3 4			
	環境問題 I	2	2 3 4			
環境問題 II	2	2 3 4				
医療と健康の経済学	2	2 3 4				
食料経済論	2	2 3 4				
農業政策	2	2 3 4				
経済数学 I	2	2 3 4				
経済数学 II	2	2 3 4				
外国書講読 I	2	2 3 4				
外国書講読 II	2	2 3 4				
経営学 I	2	2 3 4				
経営学 II	2	2 3 4				
地方自治論演習	2	2 3 4				
TOEIC® 向上講座 I	2	2 3 4				
TOEIC® 向上講座 II	2	2 3 4				
国際地域論 I	2	2 3 4				
国際地域論 II	2	2 3 4				
日本・中東関係	2	2 3 4				
地域産業論	2	2 3 4				
経営立地論	2	2 3 4				
交通論	2	2 3 4				
演 習 科 目	必修科目			必修科目	8	全科目必修
	専門導入演習 I	1	2			
	専門導入演習 II	1	2			
	専門演習 I	1	3			
	専門演習 II	1	3			
	卒業演習 I	1	4			
	卒業演習 II	1	4			
卒業論文	2	4				
自 由 選 択 科 目	選択科目			12単位以上選択	12	教養科目、情報科目、キャリア科目、基本 科目A・B、各コース科目、展開科目の中 から自由に履修できる。経済学科のカリ キュラムに掲載されていない経営学科科 目や国際学部国際学科の科目を修得し た場合も当欄で単位を認定する。教職課 履修者は教職及び教科に関する科目 からの履修も可。

別表 1 (第21条の2関係) 経済学部 経済学科 教育課程表

区分	授業科目名	単位	開講年次	履修方法	経済学科	備考	
自由 選択 科目	エアポートNARITA地域産業学科目						
	スカイブ英会話 I	1	1 2 3 4				
	スカイブ英会話 II	1	1 2 3 4				
	世界を知る	2	1 2 3 4				
	空港ビジネス	2	1 2 3 4				
	流通経営論	2	2 3 4				
	マーケティング論	2	2 3 4				
	Marketing Management	2	2 3 4				
	ホスピタリティ	2	1 2 3 4				
	エアライン論	2	2 3 4				
	航空物流論	2	3 4				
	地域企業経営論	2	2 3 4				
	中小企業論 I	2	2 3 4				
	中小企業論 II	2	2 3 4				
	ベンチャービジネス論	2	2 3 4				
	観光事業論 I	2	2 3 4				
	観光事業論 II	2	2 3 4				
	海外スクーリング	2	1 2 3 4				
	入門ツーリズム I	2	1 2 3 4				
	入門ツーリズム II	2	1 2 3 4				
	旅行ビジネス論	2	2 3 4				
	地域観光論	2	2 3 4				
	ホテル・ビジネス論	2	2 3 4				
	千葉県の産業と行政	2	2 3 4				
	A S I ・ D E T A I L E 目 録	マーケティング・リサーチ I	2	2 3 4			
		マーケティング・リサーチ II	2	2 3 4			
		観光マーケティング調査	2	2 3 4			
社会調査法 I		2	2 3 4				
社会調査法 II		2	2 3 4				
社会調査実習 I		2	3 4				
社会調査実習 II		2	3 4				
イン ター ン シ ッ プ 目 録	インターンシップ I	2	3				
	インターンシップ II	2	3				

別表 1 (第21条の2関係) 経済学部 経済学科 教育課程表

区分	授業科目名	単位	開講年次	履修方法	経済学科	備考
教職及び教科に関する科目	選択科目					
	※日本史概論Ⅰ	2	1 2 3 4			教職課程履修者のみ履修可
	※日本史概論Ⅱ	2	1 2 3 4			
	※世界史概論Ⅰ	2	1 2 3 4			教職課程履修者は※印の科目を修得することで、教養科目の単位に充当することができる。
	※世界史概論Ⅱ	2	1 2 3 4			
	※地理学概論Ⅰ	2	1 2 3 4			
	※地理学概論Ⅱ	2	1 2 3 4			
	※地誌学Ⅰ	2	1 2 3 4			
	※地誌学Ⅱ	2	1 2 3 4			
	※哲学概論Ⅰ	2	1 2 3 4			
	※哲学概論Ⅱ	2	1 2 3 4			
	※比較政治学	2	1 2 3 4			
	※社会学概論	2	1 2 3 4			
	※自然地理学Ⅰ	2	1 2 3 4			
	※自然地理学Ⅱ	2	1 2 3 4			
	※環境地理学Ⅰ	2	1 2 3 4			
	※環境地理学Ⅱ	2	1 2 3 4			
	◎教育原論	2	1 2			教職課程履修者は◎印の科目を修得することで、自由選択科目の単位に充当することができる。
	◎教育課程論	2	1 2			
	◎発達心理学	2	1 2			
	◎教育心理学	2	1 2			
	◎特別支援教育概論	2	2 3			
	◎教職概論	2	1 2			
	◎教育行政	2	2 3			
	◎教育法規	2	2 3			
	◎教育方法・技術論	2	2 3			
	◎社会科・地歴科指導法Ⅰ	2	2 3			
	◎社会科・地歴科指導法Ⅱ	2	2 3			
	◎地理歴史科指導法	2	2 3			
	◎社会科・公民科指導法Ⅰ	2	2 3			
	◎社会科・公民科指導法Ⅱ	2	2 3			
	◎公民科指導法	2	2 3			
	◎道徳教育指導法	2	2 3			
	◎総合的な学習の時間の指導法	2	2 3			
	◎特別活動指導法	2	2 3			
	◎生徒・進路指導論	2	2 3			
◎教育相談	2	2 3				
◎教職実践演習(中・高)	2	4				
◎教職時事演習	2	3 4				
◎教育実習指導	1	3 4				
◎中学校教育実習	4	4				
◎高等学校教育実習	2	4				
◎教育福祉論	2	2 3				
卒業要件単位数					124	

別表 2 (第21条の2関係) 経済学部 経営学科 教育課程表

区分	授業科目名	単位	開講年次	履修方法	経営学科	備考					
学部共通科目	基礎科目 必修科目	文章表現	2	1	必修科目	18	全科目必修				
		口頭表現	2	1							
		基礎数学	2	1							
		入門経済学	2	1							
		入門経営学	2	1							
		キャリアプランニング	2	1							
		健康科学	2	1							
		情報基礎 I	1	1							
		情報基礎 II	1	1							
		基礎演習 I	1	1							
		基礎演習 II	1	1							
言語科目	言語科目 A 必修科目	英語 I	1	1	必修科目	4	全科目必修				
		英語 II	1	1							
		英語 III	1	2							
		英語 IV	1	2							
言語科目	言語科目 B 選択必修科目	フランス語 I	1	1	4単位以上選択	4	同一言語を選択必修				
		フランス語 II	1	1							
		フランス語 III	1	2							
		フランス語 IV	1	2							
		ドイツ語 I	1	1							
		ドイツ語 II	1	1							
		ドイツ語 III	1	2							
		ドイツ語 IV	1	2							
		中国語 I	1	1							
		中国語 II	1	1							
		中国語 III	1	2							
		中国語 IV	1	2							
		日本語 I	1	1							
		日本語 II	1	1							
		日本語 III	1	2							
		日本語 IV	1	2							
		時事英語 III	1	2							
		時事英語 IV	1	2							
		ビジネス英語 III	1	2							
		ビジネス英語 IV	1	2							
教養科目	選択科目	敬天愛人講座	2	1	2	3	4	12単位以上選択	12		
		敬愛プログラム	2	1	2	3	4				
		スポーツ教育 I	1	1	2	3	4				
		スポーツ教育 II	1	1	2	3	4				
		哲学	2	1	2	3	4				
		心理学	2	1	2	3	4				
		社会心理学	2	1	2	3	4				
		歴史学	2	1	2	3	4				
		法学	2	1	2	3	4				
		憲法	2	1	2	3	4				
		政治学	2	1	2	3	4				
		社会学	2	1	2	3	4				
		数学 I	2	1	2	3	4				
		数学 II	2	1	2	3	4				
		統計学 I	2	1	2	3	4				
		統計学 II	2	1	2	3	4				
		環境科学	2	1	2	3	4				
		地域ボランティア活動	2	1	2	3	4				

別表 2 (第21条の2関係) 経済学部 経営学科 教育課程表

区分		授業科目名	単位	開講年次	履修方法	経営学科	備考	
情報科目	選択科目	情報概論	2	1	4単位以上選択	4		
		アルゴリズム論	2	2 3 4				
		データサイエンス総論	2	1 2 3 4				
		プレゼンテーション論	2	2 3 4				
		情報セキュリティ論	2	2 3 4				
		AI概論	2	2 3 4				
		プログラミング	2	2 3 4				
	キャリア科目	選択科目	実践会話Ⅰ	2	2	4単位以上選択	4	
			実践会話Ⅱ	2	2			
			キャリアデザイン	2	2			
			キャリアディベロップメント	2	2			
			キャリア基礎開発Ⅰ	2	3			
			キャリア基礎開発Ⅱ	2	3			
			キャリア基礎開発Ⅲ	2	3			
経営学科専門科目	基本科目A	必修科目	経営学Ⅰ	2	1 2	必修科目	10	全科目必修
			経営学Ⅱ	2	1 2			
			簿記・会計概論Ⅰ	2	1 2			
			簿記・会計概論Ⅱ	2	1 2			
			実地調査入門	2	2			
	基本科目B	選択科目	経営戦略論Ⅰ	2	2 3	24単位以上選択	24	
			経営戦略論Ⅱ	2	2 3			
			経営組織論Ⅰ	2	2 3			
			経営組織論Ⅱ	3	2 3			
			経営財務論Ⅰ	2	2 3			
			経営財務論Ⅱ	2	2 3			
			マーケティング論	2	2 3			
			Marketing Management	2	2 3			
			経営分析Ⅰ	2	2 3			
経営分析Ⅱ			2	2 3				
人的資源管理Ⅰ			2	2 3				
人的資源管理Ⅱ			2	2 3				
産業論			2	2 3				
マーケティングリサーチⅠ			2	2 3				
マーケティングリサーチⅡ			2	2 3				
流通論			2	2 3				
原価計算論Ⅰ			2	2 3				
原価計算論Ⅱ			2	2 3				
経営史Ⅰ			2	2 3				
経営史Ⅱ	2	2 3						
ベンチャービジネス論	2	2 3						
ビジネスデータ解析	2	2 3						
情報ビジネス論	2	2 3						
観光マーケティング調査	2	2 3						
インターン科目	選択科目	インターンシップⅠ	2	3				
		インターンシップⅡ	2	3				
企業経営コース科目	選択科目	地域企業経営論	2	2 3 4	14単位以上選択	14		
		経営立地論	2	2 3 4				
		中小企業論Ⅰ	2	2 3 4				
		中小企業論Ⅱ	2	2 3 4				
		企業と産業組織	2	2 3 4				
		ビジネスエコノミクス	2	2 3 4				
		多国籍企業論	2	2 3 4				
		情報マネジメント	2	2 3 4				
		知的財産権論	2	2 3 4				

別表 2 (第21条の2関係) 経済学部 経営学科 教育課程表

区分		授業科目名	単位	開講年次	履修方法	経営学科	備考	
		経営シミュレーション	2	2 3 4				
		企業法	2	2 3 4				
		会社法	2	2 3 4				
		企業経営と心理学	2	2 3 4				
		日本経済地理	2	2 3 4				
		世界経済地理	2	2 3 4				
		アジアビジネス論	2	2 3 4				
		中国ビジネス論	2	2 3 4				
		世界の流通産業	2	2 3 4				
		国際貿易論	2	2 3 4				
		地域産業論	2	2 3 4				
		ホテル・ビジネス論	2	2 3 4				
		商業・会計 コース科目	選択科目	地域企業経営論				2
会計学Ⅰ	2			2 3 4				
会計学Ⅱ	2			2 3 4				
簿記原理Ⅰ	2			2 3 4				
簿記原理Ⅱ	2			2 3 4				
流通情報論	2			2 3 4				
流通経営論	2			2 3 4				
経営立地論	2			2 3 4				
地域産業論	2			2 3 4				
サービス産業論	2			2 3 4				
管理会計論	2			2 3 4				
消費者行動論	2			2 3 4				
観光事業論Ⅰ	2			2 3 4				
観光事業論Ⅱ	2			2 3 4				
税務会計論Ⅰ	2			2 3 4				
税務会計論Ⅱ	2			2 3 4				
地域企業会計論	2			2 3 4				
民法Ⅰ	2			2 3 4				
民法Ⅱ	2			2 3 4				
スポーツ ビジネス コース科目	選択科目	スポーツビジネス論	2	2 3 4	14単位以上選択	14		
		スポーツ産業論	2	2 3 4				
		スポーツマーケティング論	2	2 3 4				
		スポーツ文化論	2	2 3 4				
		生涯スポーツ実習Ⅰ	2	2 3 4				
		生涯スポーツ実習Ⅱ	2	2 3 4				
		スポーツ科学概論	2	2 3 4				
		中小企業論Ⅰ	2	2 3 4				
		中小企業論Ⅱ	2	2 3 4				
		サービス産業論	2	2 3 4				
		企業経営と心理学	2	2 3 4				
		消費者行動論	2	2 3 4				
		企業法	2	2 3 4				
		会社法	2	2 3 4				
		観光事業論Ⅰ	2	2 3 4				
		観光事業論Ⅱ	2	2 3 4				
		民法Ⅰ	2	2 3 4				
		民法Ⅱ	2	2 3 4				

別表 2 (第21条の2関係) 経済学部 経営学科 教育課程表

区分	授業科目名	単位	開講年次	履修方法	経営学科	備考
地域産業コース科目	選択科目				14単位以上選択	14
	入門ツーリズムⅠ	2	1 2 3 4			
	入門ツーリズムⅡ	2	1 2 3 4			
	千葉学	2	1 2 3 4			
	千葉県の産業と行政	2	2 3 4			
	旅行ビジネス論	2	2 3 4			
	中小企業論Ⅰ	2	2 3 4			
	中小企業論Ⅱ	2	2 3 4			
	地域観光論	2	2 3 4			
	観光事業論Ⅰ	2	2 3 4			
	観光事業論Ⅱ	2	2 3 4			
	地域企業経営論	2	2 3 4			
	医療と健康の経済学	2	2 3 4			
	流通経営論	2	2 3 4			
	国際貿易論	2	2 3 4			
	多国籍企業論	2	2 3 4			
	経営立地論	2	2 3 4			
	地域産業論	2	2 3 4			
	管理会計論	2	2 3 4			
	地域企業会計論	2	2 3 4			
	航空物流論	2	3 4			
交通論	2	2 3 4				
地域事業創造論	2	2 3 4				
ホテル・ビジネス論	2	2 3 4				
展開科目	選択科目				10単位以上選択	10
	有価証券法	2	2 3 4			
	統計学総論Ⅰ	2	2 3 4			
	統計学総論Ⅱ	2	2 3 4			
	企業金融論Ⅰ	2	2 3 4			
	企業金融論Ⅱ	2	2 3 4			
	労働法	2	2 3 4			
	国際法Ⅰ	2	2 3 4			
	国際法Ⅱ	2	2 3 4			
	経済政策Ⅰ	2	2 3 4			
	経済政策Ⅱ	2	2 3 4			
	ミクロ経済学Ⅰ	2	2 3 4			
	ミクロ経済学Ⅱ	2	2 3 4			
	マクロ経済学Ⅰ	2	2 3 4			
	マクロ経済学Ⅱ	2	2 3 4			
	経済統計Ⅰ	2	2 3 4			
	経済統計Ⅱ	2	2 3 4			
	日本経済論Ⅰ	2	2 3 4			
	日本経済論Ⅱ	2	2 3 4			
	金融論Ⅰ	2	2 3 4			
	金融論Ⅱ	2	2 3 4			
	銀行論Ⅰ	2	2 3 4			
	銀行論Ⅱ	2	2 3 4			
外国書講読Ⅰ	2	2 3 4				
外国書講読Ⅱ	2	2 3 4				
TOEIC®向上講座Ⅰ	2	2 3 4				
TOEIC®向上講座Ⅱ	2	2 3 4				
演習科目	必修科目				必修科目	8
	専門導入演習Ⅰ	1	2			
	専門導入演習Ⅱ	1	2			
	専門演習Ⅰ	1	3			
	専門演習Ⅱ	1	3			
	卒業演習Ⅰ	1	4			
	卒業演習Ⅱ	1	4			
卒業論文・卒業研究	2	4				

別表 2 (第21条の2関係) 経済学部 経営学科 教育課程表

区分		授業科目名	単位	開講年次	履修方法	経営学科	備考			
自由 選択科目	選択科目				12単位以上選択	12	教養科目、情報科目、キャリア科目、基本科目B、各コース科目、展開科目の中から自由に履修できる。経営学科のカリキュラムに掲載されていない経済学科や国際学部国際学科の科目を修得した場合も当欄で単位を認定する。教職課程履修者は教職に関する科目からの履修も可。			
	産業エ アポ ート N A R I T A 地 域	スカイプ英会話Ⅰ	1	1 2 3 4						
	スカイプ英会話Ⅱ	1	1 2 3 4							
	世界を知る	2	1 2 3 4							
	空港ビジネス	2	1 2 3 4							
	ホスピタリティ	2	1 2 3 4							
	エアライン論	2	2 3 4							
	地方財政論Ⅰ	2	2 3 4							
	地方財政論Ⅱ	2	2 3 4							
	海外スクーリング	2	1 2 3 4							
	スタ サイ エン	社会調査法Ⅰ	2	2 3 4						
		社会調査法Ⅱ	2	2 3 4						
		社会調査実習Ⅰ	2	3 4						
		社会調査実習Ⅱ	2	3 4						
教職 及 び 教 科 に 関 す る 科 目	選 択 科 目	◎教育原論	2	1 2						教職課程履修者のみ履修可  教職課程履修者は◎印の科目を修得することで、自由選択科目の単位に充当することができる。
		◎教育課程論	2	1 2						
		◎発達心理学	2	1 2						
		◎教育心理学	2	1 2						
		◎特別支援教育概論	2	2 3						
		◎教職概論	2	1 2						
		◎教育行政	2	2 3						
		◎教育法規	2	2 3						
		◎教育方法・技術論	2	2 3						
		◎商業科指導法Ⅰ	2	2 3						
		◎商業科指導法Ⅱ	2	2 3						
		◎総合的な学習の時間の指導法	2	2 3						
		◎特別活動指導法	2	2 3						
		◎生徒・進路指導論	2	2 3						
		◎教育相談	2	2 3						
		◎教職実践演習(中・高)	2	4						
		◎キャリア教育・職業指導Ⅰ	2	2 3 4						
		◎キャリア教育・職業指導Ⅱ	2	2 3 4						
		◎教職時事演習	2	3 4						
◎教育実習指導	1	3 4								
◎高等学校教育実習	2	4								
			卒業要件単位数		124					

別表 3 (第21条の2関係) 国際学部 国際学科 教育課程表

区分		授業科目名	単位	開講年次				履修方法	履修単位
基礎科目	教養科目	口頭表現	2	1	2	3	4	必修科目	18単位以上選択 (内6単位必修)
		文章表現	2	1	2	3	4	必修科目	
		基礎数学	2	1	2	3	4		
		敬天愛人講座	2	1	2	3	4		
		敬愛プログラム	2	1	2	3	4		
		健康運動科学	2	1	2	3	4		
		哲学	2	1	2	3	4		
		心理学	2	1	2	3	4		
		歴史学	2	1	2	3	4		
		文学	2	1	2	3	4		
		日本語学	2	1	2	3	4		
		言語学	2	1	2	3	4		
		法学	2	1	2	3	4		
		憲法	2	1	2	3	4		
		政治学	2	1	2	3	4		
		社会学	2	1	2	3	4		
		統計学Ⅰ	2	1	2	3	4		
		統計学Ⅱ	2	1	2	3	4		
		環境科学	2	1	2	3	4		
		アグリフードリテラシー	2	1	2	3	4		
	地域ボランティア活動	2	1	2	3	4			
演習	1年基礎演習Ⅰ	1	1	2	3	4	必修科目		
	1年基礎演習Ⅱ	1	1	2	3	4	必修科目		
外国語科目	英語	College EnglishⅠ	2	1	2	3	4	必修科目	英米語専攻選択者 16単位以上選択 (留学生は18単位以上選択) 他専攻は8単位以上選択 (留学生は10単位以上選択)
		College EnglishⅡ	2	1	2	3	4	必修科目	
		SpeakingⅠ	1	1	2	3	4	必修科目	
		SpeakingⅡ	1	1	2	3	4	必修科目	
		WritingⅠ	1	1	2	3	4	英米語専攻必修科目	
		WritingⅡ	1	1	2	3	4	英米語専攻必修科目	
		ListeningⅠ	1	1	2	3	4	英米語専攻必修科目	
		ListeningⅡ	1	1	2	3	4	英米語専攻必修科目	
		College EnglishⅢ	2		2	3	4	英米語専攻必修科目	
		College EnglishⅣ	2		2	3	4	英米語専攻必修科目	
		DebateⅠ	1	1	2	3	4		
		DebateⅡ	1	1	2	3	4		
		Basic GrammarⅠ	1	1	2	3	4		
		Basic GrammarⅡ	1	1	2	3	4		
		ビジネス英語	1		2	3	4		
		Mother Goose	1	1	2	3	4		
		外国語科目	英語以外の外国語	中国語Ⅰ	1	1	2	3	
中国語Ⅱ	1			1	2	3	4		
日中翻訳	1				2	3	4		
フランス語Ⅰ	1			1	2	3	4		
フランス語Ⅱ	1			1	2	3	4		
ドイツ語Ⅰ	1			1	2	3	4		
ドイツ語Ⅱ	1			1	2	3	4		
外国語特殊Ⅰ	1			1	2	3	4		
外国語特殊Ⅱ	1		1	2	3	4			
日本語	総合日本語Ⅰ		2	1	2	3	4	留学生必修科目	
	総合日本語Ⅱ	2	1	2	3	4	留学生必修科目		
情報基礎科目	情報処理Ⅰ(情報基礎)	1	1	2	3	4		2単位以上	
	情報処理Ⅱ(プレゼンテーション演習)	1	1	2	3	4			
	情報処理Ⅲ(EXCEL上級)	1	1	2	3	4			

別表 3 (第21条の2関係) 国際学部 国際学科 教育課程表

区分		授業科目名	単位	開講年次				履修方法	履修単位
専門科目	共通	国際関係入門	2	1	2	3	4	必修科目	6単位以上
		世界を知る	2	1	2	3	4		
		World History	2	1	2	3	4		
		World Today	2	1	2	3	4		
専門科目 (英米語専攻)	導入	英語コミュニケーション	2	1	2	3	4	英米語専攻必修科目	英米語専攻選択者 54単位以上 (但し14単位は他専攻の専門科目でも可)
		英語学	2	1	2	3	4	英米語専攻必修科目	
		英米文化・文学	2	1	2	3	4	英米語専攻必修科目	
		英語コミュニケーション	2	2	3	4	英米語専攻必修科目		
	基本	英語学	Advanced Reading I	2	2	3	4	英米語専攻必修科目	
			Advanced Listening I	2	2	3	4	英米語専攻必修科目	
			English for Global Issues I	2	2	3	4	英米語専攻必修科目	
			観光英語 I	2	2	3	4	英米語専攻必修科目	
		英米文化・文学	マルチメディア (Multimedia)	2	2	3	4		
			TOEIC®向上講座 II	2	2	3	4		
			英文法	2	2	3	4		
			英語史	2	2	3	4		
			英語の音声	2	2	3	4		
			アメリカ文学史	2	2	3	4		
	発展	英語コミュニケーション	イギリス文学史	2	2	3	4		
			異文化コミュニケーション	2	2	3	4		
			英米文学特講 I (イギリス小説)	2	2	3	4		
			英米文学特講 II (アメリカ小説)	2	2	3	4		
			Advanced Reading II	2	2	3	4	英米語専攻必修科目	
			Advanced Listening II	2	2	3	4	英米語専攻必修科目	
			観光英語 II	2	2	3	4	英米語専攻必修科目	
			English for Global Issues II	2	2	3	4	英米語専攻必修科目	
			English Presentation I	2	3	4	4	英米語専攻必修科目	
			English Presentation II	2	3	4	4	英米語専攻必修科目	
	英語学	Advanced Reading III	2	3	4	4	英米語専攻必修科目		
		Advanced Reading IV	2	3	4	4	英米語専攻必修科目		
		Academic Writing I	2	3	4	4	英米語専攻必修科目		
		Academic Writing II	2	3	4	4	英米語専攻必修科目		
	英米文化・文学	ビジネス英語上級	2	3	4	4			
		英語音声学 I	2	2	3	4			
	専門科目 (地域デザイン専攻)	導入	英語音声学 II	2	2	3	4		地域デザイン専攻選択者 62単位以上 (但し22単位は他専攻の専門科目でも可)
			英米文化特講	2	3	4	4		
			現代世界	2	1	2	3	4	
		現代世界	アメリカの文化と社会	2	1	2	3	4	
イギリスの文化と社会			2	1	2	3	4		
アジアの文化と社会			2	1	2	3	4		
世界のの中の日本			2	1	2	3	4		
Japan Today			2	1	2	3	4		
地域デザイン概論			2	1	2	3	4		
世界の食と農			2	2	3	4			
比較文化論			2	2	3	4			
The United Nations in the World			2	2	3	4			
国際法			2	2	3	4			
刑法			2	2	3	4			
ヒトの国際移動	2	2	3	4					
フィールド調査	2	3	4	4					
グローバル社会	2	2	3	4					
グローバル政治	2	2	3	4					



別表 3 (第21条の2関係) 国際学部 国際学科 教育課程表

区分		授業科目名	単位	開講年次			履修方法	履修単位					
基本	情報	アルゴリズム論	2	2	3	4							
		マーケティングリサーチ I	2	2	3	4							
		マーケティングリサーチ II	2	2	3	4							
		社会調査法 I	2	2	3	4							
		社会調査法 II	2	2	3	4							
		AI概論	2	2	3	4							
		プログラミング	2	2	3	4							
	空港・観光	エアライン論	2	2	3	4							
		観光事業論 I	2	2	3	4							
		観光事業論 II	2	2	3	4							
		旅行ビジネス論	2	2	3	4							
		地域観光論	2	2	3	4							
		ホテル・ビジネス論	2	2	3	4							
	発展	経済	国際金融論	2		3			4				
			国際貿易論	2		3			4				
		経営	国際会計	2		3			4				
			企業ファイナンス	2		3			4				
			情報ビジネス論	2		3			4				
		情報	社会調査実習 I	2		3			4				
			社会調査実習 II	2		3			4				
		空港・観光	航空物流論	2		3			4				
		専門科目(観光マネジメント専攻)	導入	経営	入門経営学	2			1	2	3	4	観光マネジメント専攻選択者 62単位以上 (但し22単位は他専攻の専門科目でも可)
					経営学	2			1	2	3	4	
	情報概論				2	1			2	3	4		
	観光		入門ツーリズム I	2	1	2			3	4			
			入門ツーリズム II	2	1	2			3	4			
			空港ビジネス	2	1	2			3	4			
ホスピタリティ			2	1	2	3	4						
異文化理解	アメリカの文化と社会		2	1	2	3	4						
	イギリスの文化と社会		2	1	2	3	4						
	アジアの文化と社会		2	1	2	3	4						
基本	経営		国際経営	2		2	3	4					
			簿記会計基礎 I	2		2	3	4					
			簿記会計基礎 II	2		2	3	4					
			千葉県の産業と行政	2		2	3	4					
			マーケティング	2		2	3	4					
			サービス産業論	2		2	3	4					
			流通経営論	2		2	3	4					
	観光		観光事業論 I	2		2	3	4					
			観光事業論 II	2		2	3	4					
			交通論	2		2	3	4					
			旅行ビジネス論	2		2	3	4					
			ホテル・ビジネス論	2		2	3	4					
			エアライン論	2		2	3	4					
			地域観光論	2		2	3	4					
観光英語 I	2			2	3	4							
観光英語 II	2			2	3	4							
観光政策論	2			2	3	4							
観光統計	2		2	3	4								
観光マーケティング調査	2		2	3	4								

別表 3 (第21条の2関係) 国際学部 国際学科 教育課程表

区分		授業科目名	単位	開講年次			履修方法	履修単位	
	異文化理解	日本文化論	2	2	3	4			
		比較文化論	2	2	3	4			
		日本の近現代史	2	2	3	4			
		グローバル社会	2	2	3	4			
		グローバル政治	2	2	3	4			
		中国	2	2	3	4			
		東南アジア	2	2	3	4			
		ヨーロッパ(EU)	2	2	3	4			
		朝鮮	2	2	3	4			
		アフリカ	2	2	3	4			
		中東・イスラム圏	2	2	3	4			
	発展	経営	情報ビジネス論	2		3			4
		観光	世界遺産研究	2		3			4
			千葉の観光研究	2		3			4
	異文化理解	観光マーケティング	2		3	4			
		多文化共生	2		3	4			
専門科目	専門研究	2年次専門研究Ⅰ	2	2	3	4	必修科目	12単位以上	
		2年次専門研究Ⅱ	2	2	3	4	必修科目		
		3年次専門研究Ⅰ	2		3	4	必修科目		
		3年次専門研究Ⅱ	2		3	4	必修科目		
		4年次専門研究Ⅰ	2		4		必修科目		
		4年次専門研究Ⅱ	2		4		必修科目		
		卒業論文	2		4				
キャリア科目	キャリアプランニング	2	1	2	3	4	4単位以上選択 (但しインターシップⅠ・Ⅱ以外の キャリア科目4単位以上を選択)		
	キャリアデザイン	2		2	3	4			
	キャリアディベロップメント	2		2	3	4			
	キャリア基礎開発Ⅰ	2			3	4			
	キャリア基礎開発Ⅱ	2			3	4			
	キャリア基礎開発Ⅲ	2			3	4			
	インターンシップⅠ	2			3	4			
	インターンシップⅡ	2			3	4			
成田で職をゲットプログラム	2				4				
自由選択科目	実習科目	海外語学研修Ⅰ	2	1	2	3	4	12単位以上選択  (留学生は10単位以上選択)	
		海外語学研修Ⅱ	2	1	2	3	4		
		海外スクーリングⅠ	2	1	2	3	4		
		海外スクーリングⅡ	2	1	2	3	4		
		国内スクーリングⅠ	1	1	2	3	4		
		国内スクーリングⅡ	1	1	2	3	4		
		スカイブ英会話Ⅰ	1	1	2	3	4		
		スカイブ英会話Ⅱ	1	1	2	3	4		
	その他	進路支援講座Ⅰ	2	1	2	3	4		
		進路支援講座Ⅱ	2	1	2	3	4		
		進路支援講座(公務員)Ⅲ	2		2	3	4		
		進路支援講座(ITパスポート)Ⅲ	2		2	3	4		
		進路支援講座(公務員)Ⅳ	2		2	3	4		
		進路支援講座(ITパスポート)Ⅳ	2		2	3	4		
		進路支援講座(公務員)Ⅴ	2			3	4		
		進路支援講座(日経新聞を読む)Ⅴ	2		2	3	4		
		進路支援講座(公務員)Ⅵ	2			3	4		
		進路支援講座(日経新聞を読む)Ⅵ	2		2	3	4		
		他大学・他学部・他学科・単位互換科目							
		エアポートNARITA 地域産業学科目	地方財政論Ⅰ	2		2	3		4
地方財政論Ⅱ	2			2	3	4			
地域産業論	2			2	3	4			
中小企業論Ⅰ	2			2	3	4			
中小企業論Ⅱ	2			2	3	4			
経営立地論	2			2	3	4			

別表 3 (第21条の2関係) 国際学部 国際学科 教育課程表

区分	授業科目名	単位	開講年次				履修方法	履修単位
教職及び教科に関する科目	* 政治学概論Ⅰ	2	1	2	3	4	* 修得した単位を教養科目の単位に充当することができます。	
	* 政治学概論Ⅱ	2	1	2	3	4		
	* 日本史概論Ⅰ	2	1	2	3	4		
	* 日本史概論Ⅱ	2	1	2	3	4		
	* 世界史概論Ⅰ	2	1	2	3	4		
	* 世界史概論Ⅱ	2	1	2	3	4		
	* 地理学概論Ⅰ	2	1	2	3	4		
	* 地理学概論Ⅱ	2	1	2	3	4		
	* 哲学概論Ⅰ	2	1	2	3	4		
	* 哲学概論Ⅱ	2	1	2	3	4		
	* 地誌学Ⅰ	2		2	3	4		
	* 地誌学Ⅱ	2		2	3	4		
	* 自然地理学	2		2	3	4		
	* 人文地理学	2		2	3	4		
	* 社会学概論	2	1	2	3	4		
	* 経済学概論Ⅰ	2	1	2	3	4		
	* 経済学概論Ⅱ	2	1	2	3	4		
	教育福祉論	2		2	3	4		
	教育原論	2	1	2	3	4		
	教育課程論	2	1	2	3	4		
	教育心理学	2	1	2	3	4		
	発達心理学	2	1	2	3	4		
	特別支援教育概論	2		2	3	4		
	教職概論	2	1	2	3	4		
	教育行政	2		2	3	4		
	教育法規	2		2	3	4		
	社会科・地歴科指導法Ⅰ	2		2	3	4		
	社会科・地歴科指導法Ⅱ	2		2	3	4		
	社会科・公民科指導法Ⅰ	2		2	3	4		
	社会科・公民科指導法Ⅱ	2		2	3	4		
	地理歴史科指導法	2		2	3	4		
	公民科指導法	2		2	3	4		
	英語科指導法Ⅰ	2		2	3	4		
	英語科指導法Ⅱ	2		2	3	4		
英語科指導法Ⅲ	2		2	3	4			
英語科指導法Ⅳ	2		2	3	4			
道徳教育指導法	2		2	3	4			
総合的な学習の時間の指導法	2		2	3	4			
特別活動指導法	2		2	3	4			
教育方法・技術論	2		2	3	4			
生徒・進路指導論	2		2	3	4			
教育相談	2		2	3	4			
教育実習指導	1			3	4			
中学校教育実習	4				4			
高等学校教育実習	2				4			
教職実践演習(中・高)	2				4			
			卒業要件単位数				124	

別表 4 (第21条の2関係) 教育学部 こども教育学科 教育課程表

区分	授業科目名	単位	開講年次	履修方法	こども教育学科	備考
教養教育科目	教養科目	敬天愛人講座	2 1	必修科目 必修科目 必修科目 必修科目 必修科目 必修科目 必修科目 必修科目 必修科目 必修科目 必修科目 必修科目 必修科目 必修科目 必修科目 必修科目 必修科目	12単位必修	必修科目以外の科目を8単位以上選択
		口頭表現	2 1			
		文章表現	2 1			
		哲学	2 1 2			
		文学	2 1 2			
		国際関係入門	2 1 2			
		法学	2 1 2			
		憲法	2 1			
		歴史学	2 1 2			
		心理学	2 1 2			
		基礎数学	2 1 2			
		基礎統計	2 1 2			
		健康運動科学	2 1			
		ボランティア活動	2 1 2			
		情報概論	2 1 2			
		情報処理 I (情報基礎)	1 1			
		情報処理 II (プレゼンテーション演習)	1 1			
	海外スクーリング I	2 1 2 3 4				
	海外スクーリング II	2 1 2 3 4				
	外国語科目	College English I	2 1	必修科目		
		College English II	2 1	必修科目		
		College English III	2 2			
		College English IV	2 2			
		Writing I	1 1 2 3 4			
		Writing II	1 1 2 3 4			
		Listening I	1 1 2 3 4			
		Listening II	1 1 2 3 4			
		Speaking I	1 1 2 3 4			
		Speaking II	1 1 2 3 4			
		Debate I	1 1 2 3 4			
		Debate II	1 1 2 3 4			
		Mother Goose	1 1 2			
		海外語学研修 I	2 1 2 3 4			
海外語学研修 II		2 1 2 3 4				
キャリア科目		キャリアプランニング	2 1			
	キャリアデザイン	2 2				
	キャリアディベロップメント	2 2				
専門教育科目	専門基礎科目	教育原論	2 1	必修科目	28単位必修	必修科目以外の科目を68単位以上選択
		発達心理学	2 1	必修科目		
		教育行政	2 2			
		教育課程論(小学校)	2 1	必修科目		
		教職概論	2 2	必修科目		
		教育方法・技術論(小学校)	2 2			
		国語(書写を含)	2 2			
		社会	2 2			
		算数	2 2			
		理科	2 1			
		生活	2 2			
		音楽	2 1			
		図画工作	2 1			
		家庭	2 1			
		体育	2 1			
		小学校英語 I	2 1	必修科目		
		小学校英語 II	2 2			
		1年基礎演習 I	1 1	必修科目		
		1年基礎演習 II	1 1	必修科目		
		2年応用演習 I	1 2	必修科目		
		2年応用演習 II	1 2	必修科目		

別表 4 (第21条の2関係) 教育学部 こども教育学科 教育課程表

区分	授業科目名	単位	開講年次	履修方法	こども教育学科	備考
専門教育科目	専門基幹科目	こども学Ⅰ	2	2	必修科目 必修科目 必修科目	
		こども学Ⅱ	2	3		
		教育心理学	2	2		
		教育法規	2	2		
		生徒・進路指導論(小学校)	2	3		
		特別支援教育概論(小学校)	2	3		
		教育相談(小学校)	2	4		
		初等国語科指導法	2	2		
		初等社会科指導法	2	2		
		算数科指導法	2	2		
		初等理科指導法	2	2		
		生活科指導法	2	3		
		初等音楽科指導法	2	2		
		図画工作科指導法	2	1		
		初等家庭科指導法	2	1		
		初等体育科指導法	2	1		
		小学校英語指導法Ⅰ	2	2		
		小学校英語指導法Ⅱ	2	3		
		道徳教育指導法(小学校)	2	3		
	総合的な学習の時間の指導法(小学校)	2	4			
	特別活動指導法(小学校)	2	3			
	専門展開科目	文学教材研究	2	2 3 4		
		数と形の不思議	2	2 3 4		
		プログラミング教育	2	2 3 4		
		理科の観察実験	1	2 3 4		
		科学教育論	2	2 3 4		
		音楽と表現	1	2 3 4		
		造形と表現	1	2 3 4		
		教育社会学	2	2 3 4		
		メディアリテラシー教育	2	2 3 4		
		学校の安全教育	2	2 3 4		
		学級担任と読書	2	2 3 4		
		社会教育概論	2	2 3 4		
		多文化教育論	2	2 3 4		
		世界のこども教育	2	2 3 4		
		教育哲学	2	2 3 4		
		こども教育演習Ⅰ	1	3		
		こども教育演習Ⅱ	1	3		
		こども教育演習Ⅲ	1	4		
教育実習指導		1	3			
教育実習		4	3			
教職実践演習(小学校)	2	4				
日本語学	2	2 3				
異文化コミュニケーション	2	2 3				
比較文化論	2	2 3				
日本文化論	2	2 3 4				
児童文学論	2	2 3 4				
英米児童文学	2	2 3 4				
専門研究	3年次専門研究Ⅰ	2	3	必修科目		
	3年次専門研究Ⅱ	2	3	必修科目		
	4年次専門研究Ⅰ	2	4	必修科目		
	4年次専門研究Ⅱ	2	4	必修科目		
	卒業研究	2	4			
			卒業要件単位数	124		

別表 5 (第32条関係) 入学検定料

項目	学部			摘 要
	経済学部	国際学部	教育学部	
大学入学共通テスト利用選抜	10,000 円	10,000 円	10,000 円	単願
	18,000 円	18,000 円	18,000 円	併願
	25,000 円	25,000 円	25,000 円	全学併願 (3 併願)
学校推薦型選抜	16,000 円	16,000 円	16,000 円	指定校推薦
	32,000 円	32,000 円	32,000 円	公募推薦
総合型選抜	32,000 円	32,000 円	32,000 円	
一般選抜	32,000 円	32,000 円	32,000 円	2 教科方式 単願
	50,000 円	50,000 円	50,000 円	2 教科方式 併願
	70,000 円	70,000 円	70,000 円	2 教科方式 全学併願 (3 併願)
	30,000 円	30,000 円	30,000 円	英語外部試験利用方式 単願
	48,000 円	48,000 円	48,000 円	英語外部試験利用方式 併願
	68,000 円	68,000 円	68,000 円	英語外部試験利用方式 全学併願 (3 併願)
外国人留学生選抜	16,000 円	16,000 円	16,000 円	指定校推薦
	32,000 円	32,000 円	32,000 円	
帰国生・社会人選抜	32,000 円	32,000 円	32,000 円	
編入学選抜	32,000 円	32,000 円	32,000 円	
特待生選抜	10,000 円	10,000 円	10,000 円	大学入学共通テスト利用選抜者のみ

別表 6 (第32条関係) 学費

学部 項目	経済学部	国際学部	教育学部	摘 要
入学金	250,000円	250,000円	250,000円	入学時のみ
授業料	780,000円	780,000円	800,000円	年額（前期・後期に分けて分割納入することができる）
施設費	250,000円	250,000円	250,000円	年額（前期・後期に分けて分割納入することができる）
備 考	編入学者、転入学者、再入学者及び科目等履修生の学費については、別に定める。			

別表 7 (第32条関係) 教職課程履修費

学部 項目	経済学部	国際学部	教育学部	摘 要
教職課程履修費	60,000円	60,000円	—	中学校教諭一種免許状（英語）、 中学校教諭一種免許状（社会）の取得希望者
	50,000円	50,000円	—	高等学校教諭一種免許状（地理歴史）、高等学校教諭一種免許状（公民）、高等学校教諭一種免許状（英語）、高等学校教諭一種免許状（商業）の取得希望者
備 考	<p>1. 経済学部で取得可能な教育職員免許状 中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（地理歴史）、高等学校教諭一種免許状（公民）、高等学校教諭一種免許状（商業）</p> <p>2. 国際学部で取得可能な教育職員免許状 中学校教諭一種免許状（英語）、中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（英語）、高等学校教諭一種免許状（地理歴史）、高等学校教諭一種免許状（公民）</p> <p>3. 教育学部で取得可能な教育職員免許状 小学校教諭一種免許状</p>			

# 敬愛大学 教授会規程

令和3年4月1日 改正(予定)

## 敬愛大学教授会規程

(目的)

**第1条** 敬愛大学学則第36条の規定に基づき、経済学部、国際学部及び教育学部(以下「学部」という。)の教育研究に関する重要事項を審議するために、それぞれの学部に教授会を置く。

(構成)

**第2条** 教授会は、学部長及び教授をもって構成する。ただし、敬愛大学学則第36条第4項の規定により、准教授、講師及びその他の教職員を加えることができる。

2 教員の任用に関する教員資格審査事項については、前項の准教授、講師及びその他の教職員を除いた構成員(以下「教員資格審査委員会」という。)により審査するものとする。

(教授会の審議事項)

**第3条** 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べることができる。

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
  - (2) 学位の授与に関する事項
  - (3) 前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項
- 2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長(以下この項において「学長等」という。)がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(議長)

**第4条** 学部長は、教授会を招集してその議長となる。

2 議長に事故あるときは、議長のあらかじめ指定した構成員がその職務を代理する。

(招集・成立)

**第5条** 学部長は、毎月一回定時にこれを招集する。ただし、必要がある場合は臨時に招集することができる。

2 教授会の招集については、あらかじめ構成員に会議事項、日時及び場所を通知しなければならない。ただし、学部長からの求めがあった場合は予告した附議事項以外の事項についても審議することができる。

3 教授会は、構成員の3分の2以上の出席により成立し、議事は出席構成員の過半数の同意によって決し、学長の求めに応じ意見を述べるものとする。ただし、当該議事についてあらかじめ文書をもって権限を委任した者については出席したものとして取り扱う。

(議事録)

**第6条** 教授会の議事については、議事録を作成し議長の指名する構成員がこれに署名するものとする。

(幹事・書記)

**第7条** 教授会に幹事及び書記を置く。

2 幹事は、修学支援室長をもってこれに充て、書記は、修学支援室主幹をもってこれに充てる。

3 幹事は、議長の命を受けて教授会の庶務をつかさどり、かつ議事録を保管し、書記は幹事の命を受けて庶務に従事する。

(改廃)

**第8条** この規程の改廃は、教授会及び大学運営会議の意見を聴いて学長が行う。

附 則

- 1 この規程は、平成 27 年4月1日から施行する。
- 2 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が行う。
- 3 敬愛大学経済学部教授会規程は廃止し、敬愛大学教授会規程とする。
- 4 敬愛大学国際学部教授会規程は廃止し、敬愛大学教授会規程とする。

附 則

この規程は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

## 敬愛大学教育学部こども教育学科の設置の趣旨等を記載した書類

【目次】	ページ
1 設置の趣旨及び必要性	
(1) 大学の沿革と教育の目的	p. 1
(2) 社会環境の変化等への対応	p. 1
(3) 教育学部を設置する必要性	p. 2
(4) 教育研究の目的、人材の養成及び研究対象とする学問分野	p. 3
2 学部・学科等の特色	p. 4
3 学部・学科等の名称及び学位の名称	p. 5
4 教育課程の編成の考え方及び特色	
(1) 教育課程の編成方針	p. 6
(2) 学位授与の方針を踏まえた教育課程編成・実施方針	p. 6
(3) 教育課程の編成の考え方	p. 8
(4) 各科目群の設定理由	p. 8
5 教員組織の編成の考え方	
(1) 教員組織の編成の考え方	p. 9
(2) 教員組織の年齢構成	p. 9
6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	
(1) 教育方法	p. 10

(2) 履修指導方法	p. 11
(3) 卒業要件	p. 11
7 施設、設備等の整備計画	
(1) 校地、運動場の整備計画	p. 11
(2) 校舎等施設の整備計画	p. 12
(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画	p. 12
8 入学者選抜の概要	
(1) 基本方針	p. 13
(2) 受入方針	p. 13
(3) 判定方法	p. 14
(4) 選抜方法	p. 14
9 取得可能な資格	
(1) 取得可能な資格	p. 15
(2) 資格取得の条件	p. 15
10 実習の具体的計画	
(1) 実習先の確保の状況	p. 15
(2) 実習先との協議内容	p. 15
(3) 実習水準の確保の方策	p. 15
(4) 実習先との連携体制	p. 16
(5) 実習前の準備状況(感染予防対策・保険等の加入状況)	p. 16

(6) 事前・事後における指導計画	p. 16
(7) 教員及び教職センター指導教員の配置並びに巡回指導計画	p. 17
(8) 成績評価体制及び単位認定方法	p. 17
11 企業実習(インターンシップを含む)や海外語学研修等の 学外実習を実施する場合の具体的計画	p. 17
12 編入学定員を設定する場合の具体的計画	
(1) 既修得単位の認定方法	p. 18
(2) 履修指導方法	p. 18
(3) 教育上の配慮等	p. 18
13 管理運営	p. 19
14 自己点検・評価	p. 20
15 情報の公表	p. 22
16 教育内容等の改善を図るための組織的な取組	p. 24
17 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	p. 25

## 1 設置の趣旨及び必要性

### (1) 大学の沿革と教育の目的

本学は1966年(昭和41年)に千葉敬愛経済大学として創設され、経済学部経済学科のみの単科大学として出発し、1987年(昭和62年)に大学名称を敬愛大学と改め、1997年(平成9年)には国際学部国際協力量科を設置した。その後、2007年(平成19年)に国際学部国際学科に地域こども教育専攻を設置し、2011年(平成23年)には国際学部こども学科を設置、2013年(平成25年)には経済学部経営学科を設置し、現在では、2学部4学科を擁し、建学の精神「敬天愛人」のもと、様々な変化の待ち受ける社会で、生きがいを持って力強く生きて行くための基盤の形成を目指して、地域の伴走者としての歩みを続けている。

既設の経済学部の経済学科は、経済学に関する幅広い知識を修得し、実社会で応用できる能力及び国際協調の精神をもって、広く社会に貢献する人材の養成を目的としており、経営学科は、経営学に関する幅広い知識を修得し、実践的なマネジメント能力及びグローバルな視野を身に付け、広く社会に必要とされる人材の養成を目的としている。

また、既設の国際学部の国際学科は、幅広い教養とグローバルな視野をもち、世界の平和を希求する国際人であると同時に、地域社会に貢献する人材の養成を目的としており、こども教育学科は、幅広い教養を基礎にし、子供への深い理解と慈愛に満ちた人材の養成を目的としている。

### (2) 社会環境の変化等への対応

今後、本学が地域社会の多様な期待や要請に適切に応え、自律性に基づく多様化や個性化を推進していくためには、自らの責任において、地域社会や受験生のニーズに対応した教育組織の構築や教育内容の充実、教育方法の改善など、学部教育における組織改編や教育改革に格段の努力を注ぐことが重要である。

一方、18歳人口の減少や高学歴志向の高まりなど、高等教育を取り巻く環境が大きく変化しており、その方向性も多様化していることから、時代の変化と社会の要請に柔軟に対応しつつ、学部教育の多様な発展に向けた特色ある教育研究に取り組むことによる独自性を発展的に実現する必要性が生じている。

また、学術研究の高度化に伴い学部教育が対象とする専門領域も広範に及んできていることから、進学希望者の興味と関心や学習意欲に柔軟に応えていくために、学生の選択の幅や流動性を高める工夫も重要となっており、学術研究の進展や進学希望者の動向を

勘案した教育組織の充実と整備が求められている。

このような高等教育を取り巻く社会環境の変化や進学希望者の動向などを踏まえ、本学における学部教育のさらなる充実を目指す。そこで、既設の国際学部こども教育学科において展開してきた教育内容を基盤として、その教育課程及び教員組織並びに施設設備等を基礎としつつ、教育学分野における教育・研究の充実に向けて、2021年4月より教育学部こども教育学科を設置することとした。

### (3) 教育学部を設置する必要性

2017年(平成29年)3月に学習指導要領が改訂され、これまでの教育の方針転換が図られ、「教師が何を教えるか」から「子供が何を学ぶか」に重点が移された。この背景には、IoT、ロボット、人工知能、ビッグデータ等の先進技術を活用して新たな価値を創出し、地域、年齢、性別、言語等による格差がなく、多様なニーズ、潜在的なニーズにきめ細かに対応したモノやサービスを提供することのできる新たな時代「Society5.0」が到来しようとしていることがある。そのような社会においては、「文章や情報を正確に読み解き対話する力」「科学的に思考・吟味し活用する力」「価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力」が共通して求められる力とされ、これまでの一斉一律の授業から個人の進捗や能力・関心に応じた多様な学びの場へ、同一学年集団での学びから学習到達度や学習課題等に応じた異年齢・異学年集団での協働学習の拡大へ、教室での学習から多様な学習プログラムへと、学校での学びの在り方の変革が求められている。このような大きな変化の中で、教師自身に変化に対応できる力が備わっていなければならない。教師の自律性と専門的見識を基礎とし、自らの実践を振り返り、熟考し、指導に反映させていく「反省的实践家」としての人材が求められている。

また、子供たちの学ぶ意欲の低下や規範意識・自律心の低下、社会性の不足、いじめや不登校等の深刻な状況など、学校教育が抱える課題が一層複雑化・多様化するとともに、発達障害をもつ子供や日本語以外を母語とする子供への適切な支援といった新たな課題も生じてきている。このような学校教育や地域教育の現場において、一人一人の子供に寄り添いながら心身の望ましい発達を支援し、促進させることができる確かな力量と総合的な人間力を兼ね備えた人材が求められている。

さらに、学校教育だけでなく社会教育においても子育て支援や子供の居場所等、多様な教育的ニーズが求められており、家庭や地域等と連携しながら、児童の健全な育成を図ることのできる高い資質と能力を備えた人材が求められている。

このような学校教育や地域教育の現場における子供の諸問題の困難性に積極的に対応するとともに、学部教育における教育内容の一層の充実と整備に向けて、既設の国際学部の子ども教育学科において展開してきた教育学分野に関する教育内容及び教育実績を基盤として、新たに教育学部こども教育学科を設置することとした。

#### (4) 教育研究の目的、人材の養成及び研究対象とする学問分野

##### ① 教育学部

国際学部こども教育学科では、多様な価値観を認め国際的な視野に立って子供の教育に真剣に取り組む人材の養成を目指し、国際学・教育学分野に関する教育研究を通して建学の精神である「敬天愛人」の実践に努めてきた。また、教職を目指す学生が主体的に学んでいけるように配慮して、教育課程の改編や教育内容の充実など教育研究環境の整備と充実に力を入れてきた。こうして本学科は地域の高等教育機関として社会に貢献できる人材を送り出すという一定の役割を果たしてきた。

今回はこの国際学部こども教育学科の教育研究実績を踏まえ、それを発展させる形で教育学部を設置し、教育学分野に関する教育研究をさらに充実させる。

教育学部では、人間の成長と発達に関する専門分野に基礎を置き、様々な社会や環境において主体的に生きる人間、そしてその人間が果たす役割、行動や思考、人間と人間の関わりあいやコミュニケーションを重点に、教育を通して人間を理解し、人間の成長、発達、形成に寄り添って学び、教育のあるべき姿を探ることを目的とする。また、人間がよりよく生きていくために不可欠な教育の本質や理想を追求し、教育に関する幅広い知識とともに、各自の関心に応じた専門性を身に付け、学校教育や地域教育の推進に向けて、それらを総合的に実践できる人材の養成を目指す。

##### ② こども教育学科

こども教育学科では、幅広い教養と教育に関する深い専門的知見を兼ね備えたうえで、よりよい社会の形成に寄与しようとする意欲をもつ人材の養成を目指す。また、人間の成長と発達に関する学問分野に基礎を置き、様々な社会や環境において主体的に生きる人間と、その人間が果たす役割、行動や思考、人間と人間の関わり合いやコミュニケーションを研究する。そこで、教育学部こども教育学科における学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を以下のように定める。

#### 1) 子供を総合的に理解し、教育の専門性を身に付ける。

子供の成長や発達等について専門的な知識を学び、子供の教育について理解を深

め、実践する力を身に付ける。さらに教職を目指す学生として日々研鑽と修養に努め、学び続ける生き方を身につける。

2) 国際社会を理解し、多様な価値観を認める。

子供を取り巻く環境および国際社会への理解を深め、多様な文化や価値観が存在することを認めながら、SDGsの実践者として他者とも共生する力を身に付ける。

3) 豊かなコミュニケーション能力を身に付ける。

グローバル化した情報化社会に対応するコミュニケーション能力を培い、ICT活用に習熟し、子供に英語の指導をする力を身に付ける。また、日本語の支援を必要とする子供に対しては、専門的な知識に基づいて指導する力を身に付ける。

4) 実践的活動を通して地域に貢献する力を身に付ける。

「ちば！教職たまごプロジェクト(千葉県教育委員会・千葉市教育委員会主催)」や「千葉市教育ボランティア(千葉市教育委員会主催)」等に参加し、実践的活動の中で、問題解決をしながら人々と交流し、学んだ知識や技能を生かして積極的に地域に貢献する力を身に付ける。

## 2 学部・学科等の特色

こども教育学科では、教育に関する基礎的・基本的な知識と技能を教育実践の場面に適用することができる応用能力をもって、学校教育や地域教育を主体的に行うことのできる創造的な能力と実践的な態度を有した人材を養成することにより、地域社会への貢献を目指すことを目的としている。また、幅広く深い教養と豊かな人間性及び子供の教育に関する知識と技能の習得を基盤として、それを活用することができる実践能力に加えて、教育事象を科学的・実証的に考究し、その成果を子供の健全な育成に活かすことのできる人材を養成することとしている。

こども教育学科の卒業後の進路としては、小学校をはじめとする学校教育機関、学童クラブ、児童館、放課後児童クラブなどの児童厚生施設や児童養護施設、学習塾や予備校などの教育支援事業、さらには、教育産業・学習支援業などの幅広い分野において、学校教育や地域教育の一翼を担う職業人として活躍することが期待される。このことから、こども教育学科が担う機能と特色としては、中央教育審議会答申による「我が国の高等教育の将来像」が提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえて、教育学分野における教育・研究を通して、「幅広い職業人養成」の機能を重点的に担うことである。

### 3 学部・学科等の名称及び学位の名称

#### (1) 教育学部

教育学部では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「教育学分野」として、教育学分野の学問体系の理解の基に、教育の本質と社会的な意義や役割を理解させるとともに、教育の諸活動を主体的に行い、学校教育や地域教育の推進に寄与する能力と態度を育てることを目的としている。また、教育学分野に関する教育研究を通して、教育の基礎的・基本的な理論と技能の体系的な理解とともに、理論と実践の関係について理解し、学校教育や地域教育の推進に向けて、それらを総合的に実践することのできる応用能力を有した幅広い職業人を養成することとしている。

このような、教育学部が組織として教育研究対象とする中心的な学問分野と教育学部における教育上の目的や養成する人材などについて、社会や受験生に最も分かり易い名称として学部名称を「教育学部」とすることとし、英訳名称については、国際的な通用性を踏まえたうえで、「Faculty of Education」とすることとした。

#### (2) こども教育学科

こども教育学科では、教育に関する基礎的・基本的な知識と技能を教育実践の場面に適用することができる応用能力をもって、学校教育や地域教育を主体的に行うことのできる創造的な能力と実践的な態度を有した人材を養成することにより、地域社会への貢献を目指すことを目的としている。また、「幅広く深い教養と豊かな人間性及びこどもの教育に関する知識と技能の習得を基盤として、それを現場で活用することができる実践能力に加えて、教育現象を科学的・実証的に考究し、その成果を学校教育や地域教育の推進に活かすことのできる人材を養成する」こととしている。

このような、こども教育学科における教育上の目的や養成する人材などについて、社会や受験生に最も分かり易い名称として学科名称を「こども教育学科」、学位を「学士（教育学）」とすることとし、英訳名称については、国際的な通用性を踏まえたうえで、学科の英訳名称を「Department of Child Education」、学位の英訳名称を「Bachelor of Education」とすることとした。

学部の名称	教育学部	「Faculty of Education」
学科の名称	こども教育学科	「Department of Child Education」
学位の名称	学士（教育学）	「Bachelor of Education」

#### 4 教育課程の編成の考え方及び特色

##### (1) 教育課程の編成方針

教育学部こども教育学科は、高等教育の大衆化の進行と生涯学習への移行を踏まえつつ、学部段階の専門教育では特定分野における完成教育ではなく、生涯学び続ける基礎を培いより普遍的な教育を目指す。教養教育と専門分野の基礎・基本を重視した教育を行うとともに、各自の興味に応じた科目(外国語科目や専門発展科目等)を学ぶことを通して、生涯学び続ける基礎的な力を養うこととする。

具体的には、教育学部こども教育学科専門教育は、基礎・基本を重視しつつ、関連分野を学ぶことを通して、学生が主体的に課題を探索し解決するための基礎となる能力を育成する。それにより卒業後社会人として就業し、成長していく過程において、実務等を通じて、新たな知識や能力を体得していくための資質や能力を身に付けることができる。

##### (2) 学位授与の方針を踏まえた教育課程編成・実施の方針

教育学部こども教育学科では、学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針との一体性と整合性に留意しつつ、卒業までに学生が身に付けるべき資質や能力を修得するための教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)を次のとおり定めることとする。

###### ① 学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針

「敬天愛人」の精神の下、ディプロマ・ポリシーで示した資質能力を備えた社会人の養成を目指し、以下の方針でカリキュラムを編成する。

###### 1) 子供を総合的に理解し、教育の専門性を身に付ける。

教育学・心理学関連科目の「教育原論」「教育課程論」「教職概論」「教育心理学」「発達心理学」を必修科目とし、1年次・2年次に配置する。そのほか教育学・心理学関連科目として「教育行政」「教育方法・技術論」「教育法規」「教育社会学」「教育哲学」「教育相談」を段階・発展的に配置し、これらの体系的な履修を通して子供を総合的に理解できるようにする。

子供の教育の根幹を支える各教科等指導力育成を目的として、1年次前期から2年次前期に概説科目を、1年次後期から4年次にかけて各教科等指導法科目を配置する。

また、教育学の基礎や現代の学校教育が抱える諸問題などについて、幅広く探求的に学ぶ本学科の特色となる「こども学Ⅰ・Ⅱ」を必修科目とし、様々な視点から子供や教育に関わる内容を学生が主体的に学ぶ科目として設定する。

2) 国際社会を理解し、多様な価値観を認める。

1年次に教養科目「国際関係入門」を必修科目として配置する。「哲学」「文学」「歴史学」「基礎統計」「情報概論」などの教養科目や2年次以降に学部独自の「多文化教育論」「メディアリテラシー教育」「世界のこども教育」などを配し、広い視野で物事をとらえる能力を身に付ける。さらに、国際学部との共通科目「異文化コミュニケーション」「比較文化論」などの展開科目を履修することで多様な価値観を認めることを促す。

3) 豊かなコミュニケーション能力を身に付ける。

アカデミックな表現活動の基礎を培う「口頭表現」「文章表現」、英語運用能力を磨く「College English I・II」を1年次の教養必修科目とし、併せてICT活用に必要なスキルを身に付ける「情報処理I・II」を配置し必修とする。さらに、仲間との協働を重視した「1年基礎演習I・II」「2年応用演習I・II」を専門基礎科目の必修科目とする。必修以外の英語科目を多数配置し、学生のニーズに応える。

4) 実践的活動を通して地域に貢献する力を身に付ける。

学んだことを実践する、実践することで学ぶという両面から、1年次より「ボランティア活動」「海外スクーリングI・II」「海外語学研修I・II」を配置し、学生の視野を広げ実践的な活動を促す。また「こども教育演習I・II・III」などを通して、実際の学校の実情を知り、教育実践の集大成として「教育実習」を3年次後期から4年次に段階的に配置する。さらに、「3年次専門研究I・II」「4年次専門研究I・II」を必修とし、学生一人一人の学びを実践的に深め、進路選択や地域貢献について確かな信念をもてるようにする。

なお、教育学部こども教育学科における学位授与の方針は、教育課程の各科目群に配置している授業科目を体系的に履修することにより達成するものであるが、学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針と授業科目については、カリキュラムマップに示すとおりである。

(資料 1) ⇒ カリキュラムマップ

② 学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針

- 1) 学説や物事などの意味や内容の理解を目的とする授業科目では、主として講義形式による授業形態を採ることとし、知識や技能を実践に応用する能力の習得を目的とする授業科目では、演習形式及び実践形式による授業形態を基本とする。

2) 学生の能動的な学修への参加を促すために、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等をはじめとする多様な教授方法を取り入れ、学生の能動的学修を図る。

3) 教育課程を構成する授業科目の目標、内容、教育方法、評価方法を記した授業計画を示すとともに、教育課程編成の方針を具体化し、可視化して共有する。

(資料 2) ⇒ シラバスの作成について

4) 単位制度の実質化を図る観点から、特定の学期に偏った履修登録を避け、学生が自らの学修目標に合った適切な授業科目の履修が可能となるように、養成する具体的な人材像に対応した典型的な履修モデルを提示するなど適切な履修を促す。

(資料 3) ⇒ 履修モデル

5) 卒業時に達成される成果の質を確保する観点から、予め学生に対して各授業科目における学修目標やその目標を達成するための授業の方法、計画等を明示したうえで、成績評価基準や卒業認定基準を示し、これに基づく厳格な評価を行う。

### (3) 教育課程の編成の考え方

教育学部こども教育学科では、教育研究の目的及び養成する人材の目的を達成するために、教育課程を「教養教育科目(教養科目)(外国語科目)(キャリア科目)」と「専門教育科目(専門基礎科目)(専門基幹科目)(専門展開科目)(専門研究)」の科目群から構成することとし、教育課程全体の体系性・順次性を確保し、かつ教養教育と専門教育の有機的連携を図る。

また、「教養教育科目(教養科目)(外国語科目)(キャリア科目)」では、中央教育審議会答申などで指摘されている重要性や意義を踏まえるとともに、養成しようとする知識や能力を明確にし、その教育目標に対応する科目を編成する。「専門教育科目(専門基礎科目)(専門基幹科目)(専門展開科目)(専門研究)」では、基礎・基本を重視し、専門の骨格を正確に把握させるとともに、科目間の関係や履修の順序、単位数等に配慮し、系統性と順次性のある教育課程の編成としている。

### (4) 各科目群の設定理由

大学の教育の基礎的な科目としての「教養教育科目」に「教養科目」、「外国語科目」「キャリア科目」を設定し、視野を広げることと一般的な教養を身に付けることを重視し、広範な科目を設定している。

「専門教育科目」は、専門的教育内容の基礎的理解から、教育についての見識や知識

を広げ、深めることを意図し、「専門基礎科目」、「専門基幹科目」、「専門展開科目」、「専門研究」に分け、教育学や心理学の基礎及び教科の内容に関する科目、指導法、実習科目と周辺科目を発展的に設定している。

「専門基礎科目」は心理学や教育学の基礎及び教科の内容に関する科目を、「専門基幹科目」にはそれら教科の指導法や専門科目を、「専門展開科目」では児童期の心や体、発達や家庭・地域等、現在の教育の視点として欠かすことのできない広い視野から、担当教員の専門性を生かした、学生が主体的に学ぶことのできる科目を設定した。

「専門研究」は学生の希望を第一に教員の専門性が発揮できる研究内容を想定している。自ら学び課題を発見し解決する能力や理論と実践を結び付け教育に対する見識や技能を高めることを目指して、体系的、発展的に学修できるようにしている。

## 5 教員組織の編成の考え方及び特色

### (1) 教員組織の編成の考え方

教育学部こども教育学科は、既設の国際学部こども教育学科を基礎として設置することから、既存の教員組織を最大限に活用し、学部教育における教育成果をより一層発揮することが可能となる教員組織の編成を行う。これは、養成する人材や学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針を踏まえたうえで、これらの目的を達成することが可能となる教員組織の編成である。

具体的には、教育学部こども教育学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「教育学分野」としていることから、教員組織の編成においては、「教育学」・「心理学」を専門とする専任教員を中心とした教員組織としている。さらに、教育課程における必修科目や主要科目を中心として、専門分野における教育上、研究上又は実務上の優れた知識と能力及び実績を有する教授6人、准教授5人及び講師1人を配置する計画としている。

### (2) 教員組織の年齢構成

教育学部こども教育学科の専任教員の年齢構成については、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に資する構成とするために、完成年度の3月31日における教員の年齢構成は70代3人、60代4人、50代1人、40代4人の構成となっており、実務経験を有する教員や教育学・心理学に関する専門的知識を有し豊富な経験を活かせる教員配置としており、教育研究水準の維持向上や教育研究の活性化に資する教員組織を編成している。

なお、教育学部こども教育学科の教員組織の編成においては、完成年度までに定年に達する者1人を配置する計画であるが、定年に達した者の任用については、本学を設置する学校法人千葉敬愛学園が定める「千葉敬愛学園の定年規程（第3条を適用）」において別途規定されているため、専任教員の配置計画における支障はない。

（資料 4）⇒ 千葉敬愛学園定年規程及び理事長からの承認書

## 6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

### （1）教育方法

#### ① 授業の方法

知識の獲得と理解を目的とする教育内容については、講義形式を中心とした授業形態を採る。技術や技能の習得を目的とする教育内容については、演習形式及び実習形式による授業形態を採る。

#### ② 学生数の設定

授業の内容に応じた学生数の設定については、授業科目ごとの授業形態に則した教育目的を効果的かつ確実に達成するために、講義形式は80名以下、演習形式は15名以下、実習形式及び実践形式は40名以下とする。

#### ③ 配当年次

配当年次は、教養教育から専門教育へと体系的な学習が可能となるように設定した。特に、専門教育においては、専門分野の教育内容ごとに、知識、技能、応用、実践等の授業の内容と、科目間の関係や履修の順序に留意した。単位制度の4年間における制度設計の観点から踏まえて、特定の学年や学期に偏った履修登録がなされないように配慮した配当としている。

#### ④ 履修科目の登録上限

単位制度の実質化の観点から踏まえたうえで、学生の主体的な学習を促し、教室における授業と教室外の学習を併せて充実した授業を展開し、学習効果を高めるために、1学年あたりの卒業要件科目の標準的な履修登録単位数の上限を42単位とする。

#### ⑤ 厳格なる成績評価

卒業時における成果の質を確保する観点から、予め学生に対して各授業における学習目標やその目標を達成するための授業の方法、計画等を明示したうえで、成績評価基準や卒業認定基準を提示し、これに基づき厳格な評価を行う。また、客観的な評価基準を適用することから、厳格な成績評価の方法として、GPA制度を導入する。

## (2) 履修指導方法

履修指導方法は、授業を受ける学生に対して、教員が相談に応じる専用の時間を設けてきめ細やかな教育指導を行う体制を整える。また、学期ごとに学年別の履修ガイダンスを実施したうえで、学生の適性や能力に応じて履修科目の選択に関する助言を行う専門的な職員を配置し、個別の履修相談に応じるなど、学生の履修指導体制を整備する。

さらに、学部教育段階では基礎的な専門知識や技能を確実に修得させることに重点を置くことが重要であることを踏まえたうえで、単位制度の実質化を図る観点から、特定の学期に偏った履修登録を避け、学生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるように、養成する具体的な人材像に対応した典型的な履修モデルを提示する。(資料 3) ⇒ 履修モデル

## (3) 卒業要件

卒業要件は、学部に4年以上在学し、体系的な授業科目の履修によって124単位以上を修得することとする。

「教養教育科目」が必修12単位を含む20単位以上、「専門教育科目」が必修28単位を含む96単位以上修得することとする。さらに、学生の興味・志向に応じて「教養教育科目」及び「専門教育科目」群から、8単位以上を選択できるようにしている。卒業要件必修単位数を超えて履修する場合は、自由選択科目として履修を許可し学生のニーズに応えられるようにしている。

## 7 施設、設備等の整備計画

### (1) 校地、運動場の整備計画

教育学部こども教育学科の設置を計画している稲毛キャンパスは、交通の利便性が高く、高等教育機関が集中している文教地区（千葉市稲毛区）に位置し、総校地等面積111,174 m<sup>2</sup>(共用)を有しており、その内訳は、校舎敷地面積が約47,920 m<sup>2</sup>(共用)、運動場面積が約60,263 m<sup>2</sup>(共用)となっており、運動用設備としては、稲毛キャンパス外に、野球場、テニスコート等を備えているとともに、敷地内の空地を利用して、学生が休息するための十分な場所を確保することで、大学教育に相応しいキャンパス環境を整えている。

## (2) 校舎等施設の整備計画

教育学部こども教育学科を設置する稲毛キャンパスは、現在、4棟の校舎等施設を有しており、その総面積は約14,645㎡で、学部教育に必要となる主要な教室等の内訳としては、講義室23室、演習室12室、実験・実習室4室、情報処理室6室の他、語学教室1室、教員研究室61室、講師室、図書館、学長室、学部長室、会議室、英語教育開発センター室、教職センター室、事務室、保健室、学生自習室、学生食堂などを整備している。

教育学部こども教育学科は、既設の国際学部のこども教育学科を基礎として設置することから、既存の校舎等施設を有効的に利用することとしており、教育学部こども教育学科の専任教員の研究室については、教員組織として計画している専任教員数12名（教授6名、准教授5名、講師1名）に対して、1室当たり約18㎡の教員研究室12室を設けている。

また、設備の整備計画については、現在、既設の学部で使用している教具824点、校具944点、備品47点を有効的に転用することとしている。

## (3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

### ① 図書等の資料の整備計画

本学の図書館では、令和2年3月末現在、147,321冊の図書を所蔵しており、その内訳としては、一般教育図書56,262冊（うち外国書12,250冊）、専門図書91,059冊（うち外国書24,130冊）を所蔵しているほか、学術雑誌480種（うち外国雑誌266誌）、電子ジャーナル19,673種、映像資料やCD-ROM等の視聴覚資料8,450点を有していることから、これらを有効的に利用することとしている。

### ② 図書館の整備状況

本学の図書館は、大学全体の収容定員1,594人の約10%以上の218席の閲覧座席数を確保しているとともに、開架式書庫及び閉架式書庫、サービスカウンター、レファレンスカウンター、グループ学習室、視聴覚コーナーなどを整備している。

図書館の機能としては、情報探食用パソコン32台、蔵書検食用パソコン2台、コピー機1台を設置しており、蔵書管理については、図書館システムを導入することにより、パソコンでデータベース化された書誌情報の検索を可能にするとともに、情報探食用パソコンを学内LANに接続することにより、インターネット利用を可能としている。

また、日本図書館協会や私立大学図書館協議会、千葉県大学図書館協議会への加盟をはじめ、国立情報学研究所の目録所在情報サービスに加盟するとともに、各種研修会等での情報交換や文献複写、相互貸借等のサービスにおいて、他大学図書館との連携を図ることとしている。

## 8 入学者選抜の概要

### (1) 基本方針

教育学部こども教育学科における入学者選抜は、入学志願者が大学教育を受けるに相応しい能力や適性等を有することを多面的に判定し、公正かつ妥当な方法で実施する。また、学部・学科の教育理念や教育内容等に応じた入学者受入方針を明確にし、これに基づき、入学後の教育との関連を十分に踏まえたうえで、入試方法の多様化、評価尺度の多元化に努めることとする。

### (2) 受入方針

教育学部こども教育学科では、建学の精神「敬天愛人」の下で、「幅広く深い教養と豊かな人間性及び子供の教育に関する知識と技能の修得を基盤として、それを活用することができる実践能力に加えて、教育事象を科学的・実証的に考察し、その成果を子供の健全な育成に活かすことのできる人材を育成する。」こととしており、この人材育成の目的を達成するための教育課程を編成している。

教育学部こども教育学科において育成する人材と教育課程との関連性を踏まえて、入学者選抜における基本的な受入方針は、「教育学分野に対する強い興味と関心をもち、学部教育に対する高い学習意欲を有している者であることを基本としつつ、学部教育を受けるに相応しい基礎学力と適正能力を有している者を受け入れる」こととする。そこで、教育学部こども教育学科の具体的な受入方針は、以下のとおりとする。

- ① 深い愛情をもって子供の教育に関わる意欲を持っている。
- ② 社会の変化や多様性について主体的に考えることができる。
- ③ 他者との対話を通して自ら考え、学ぶことができる。
- ④ 自らの可能性と成長を信じ、努力できる。
- ⑤ 基礎的な生活習慣が身に付いている。
- ⑥ 高等学校で行われる各教科についてバランスよく学習し、その内容を習得している。
- ⑦ 他者と協働して学び、活動するためのコミュニケーション能力を有している。

### (3) 判定方法

教育学部こども教育学科の入学者の受入方針に対する入学者選抜における判定方法については、「深い愛情を持って子供の教育に関わる意欲」や「自らの可能性と成長を信じ、努力できる」「他者との対話を通して自ら考え、学ぶことができる」「他者と協働して学び、活動するためのコミュニケーション能力を有している」ことについては、調査書をはじめとする書類審査や面接審査により判定する。

また、「高等学校で行われている各教科についてバランスよく学習し、その内容を習得している」ことについては、調査書をはじめとする書類審査や学力検査により判定し、「社会の変化や多様性について主体的に考えることができる」ことについては、面接審査、小論文審査により判定する。

### (4) 選抜方法

#### ① 実施方法及び定員割合

入学者選抜の実施方法は、教育学部こども教育学科における入学者選抜の受入方針を踏まえたうえで、学校推薦型選抜、総合型選抜、一般選抜（大学入学共通テスト利用含む）により実施する。学校推薦型選抜試験においては、指定校推薦及び公募推薦、系列校推薦を実施する。

なお、学校推薦型選抜、総合型選抜、一般選抜（大学入学共通テスト利用含む）の募集定員の割合については、学校推薦型選抜試験の募集定員を20名、総合型選抜の募集定員を10名、一般選抜試験（大学入学共通テスト利用含む）の募集定員を42名とする。

#### ② 学校推薦型選抜

学校推薦型選抜試験における指定校推薦、系列校推薦は、出身高等学校長の推薦に基づいて、学力検査を免除し、調査書や学修計画書を主な資料として判定する。公募推薦については、さらに小論文試験を組み合わせることで判定する。また、学部において求める学生像と入学志願者に求める能力や適性等に基づき、調査書及び面接（学修計画書についてのプレゼンテーションを含む）を課すことによって、入学志願者の能力、適性、意欲、関心等を多面的かつ総合的に評価する。

#### ③ 総合型選抜

総合型選抜は、詳細な書類審査と時間を掛けた丁寧な面接、小論文試験を組み合わせることで、学ぶ意欲・主体性・コミュニケーション能力・目的意識等を総合的に評

価する。入学手続きをとった者に対しては、入学までに取り組む課題を課すなど、入学後の学習のための準備を予め用意することとする。

#### ④ 一般選抜（大学入学共通テスト利用含む）

一般選抜（大学入学共通テスト利用含む）は、学力検査として国語を必須とし、英語又は数学から1科目を課す方式で、入学志願者の学習能力を客観的に判定することが可能になるように出題方針を立てる。また、調査書から高等学校における学習の状況、入学者の受入方針に基づく主体的学習意欲や関心、適性等を適切に判断することとしている。

### 9 取得可能な資格

#### (1) 取得可能な資格

小学校教諭一種免許状

#### (2) 資格取得の条件

教育学部こども教育学科の教育課程を履修することで資格取得が可能であるが、資格取得を卒業要件とはしていない。

### 10 実習の具体的計画

#### (1) 実習先の確保の状況

教育実習先の確保については、実習生にとって交通が便利な地域の実習先を中心として確保することにより、学生や教員の負担軽減を図ることとしている。また、教育学部こども教育学科の入学定員72人に対して、千葉市教育委員会をはじめ県内8地区の教育委員会より、本学学生の教育実習受け入れの承諾を得ていることから、実習先の確保としては十分な状況にある。

（資料 5）⇒ 各教育委員会からの受入承諾書

#### (2) 実習先との協議内容

本学と教育実習先との間で、実習受入及び個人情報保護について、事前に協議することとしている。

また、事故防止については、教育実習先における事故防止策及び事故発生時の対処方法を作成し、事故発生時には迅速に対応できる体制をとっている。

#### (3) 実習水準の確保の方策

実習水準を確保するため、実習生の受入先に対しては、実習開始前に指導方針や指導内容等を記した教育実習の手引きを作成し、配布することにより、実習教育に対する理

解を得ることとしている。

実習生に対しては、教育実習の受講基準を設けるとともに事前学習において、実習目的、到達目標、成績評価の基準や方法などについて、十分に理解させうえて実習に臨ませることにより、実習水準の確保を図ることとしている。

また、実習指導は、専任の教育実習指導教員があたることとし、教育実習先の実習指導者との役割分担のもとに連携を図りながら実習指導を行うことにより、実習水準の確保に努めることとしている。

#### (4) 実習先との連携体制

実習開始前に、本学と教育実習先とで、教育実習の目的や到達の目標、教育実習の方法と内容、成績の評価などについて打合せを行い、教育実習先での指導体制を整えるとともに、実習期間中においても、各教育実習先を教育実習担当教員が訪問し、教育実習状況の確認や打合せを行うこととしている。

さらに、教育実習の開始前と終了後における定期的な情報交換や意見交換を行うとともに、各教育実習施設との間で日常的な連絡・調整による緊密な連携体制をとることにより、円滑な意思の疎通を図ることができるよう努めることとする。

#### (5) 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

感染予防対策としては、感染症四種(麻疹、風疹、ムンプス、水痘)抗体価検査を実施し、大学で定める基準値に満たない場合は、予防接種を推奨している。また、実習生に対して教育実習開始前に健康診断を課すこととし、診断結果に応じた必要な措置を施すとともに、実習中又は実習先への往復途上での万が一の事故に備え、学生教育研究災害傷害保険及び実習賠償責任保険に加入する。実習生は、事前に「教育実習生基本情報台帳」を作成し、実習先に提出する。本台帳には、健康上の配慮事項、保険への加入状況および通勤経路等を記載している。

#### (6) 事前・事後における指導計画

事前・事後における指導計画は、事前・事後指導に関する授業科目を配置しており、事前指導では、実習目的や到達目標、実習中の留意事項などについて十分に理解させることとし、事後指導では、実習報告会の実施や実習報告書の作成などを通じて、実習内容の整理をさせることとする。

##### ① 事前指導として、主に以下の指導を行う。

- 1) 教育実習の意義と目的を理解させる。

- 2) 教育実習先の概要を理解させる。
  - 3) 各自の実習課題を明確にさせる。
  - 4) 教育実習の概要について理解させる。
  - 5) 実習日誌の記載について理解させる。
  - 6) 学習指導案の作成について理解させる。
  - 7) 服装や言葉づかい、礼儀などを理解させる。
  - 8) 個人情報保護などの留意事項を理解させる。
- ② 事後指導として、主に以下の指導を行う。
- 1) 実習課題への取り組みの報告と討論を実施する。
  - 2) 教育実習時に起きたトラブルや注意された事項を報告する。
  - 3) 今後の課題を考えさせる。
  - 4) 教育実習での体験と学びを文章にまとめさせる。
  - 5) 教育実習先への礼状を作成する。

(7) 教員及び教職センター指導教員の配置並びに巡回指導計画

教育実習指導における教員の配置については、当該教育実習科目を担当する専任教員及び特任教員 12 人、教職センター指導教員 5 名(小・中・高で教員(校長)の経験を有する者)を配置することで、教員 1 人あたり平均して 4~5 人程度の実習生を指導することとしており、細やかな巡回指導が可能となるよう配慮している。

また、教育実習中の巡回指導については、実習生の実習状況や実習記録を確認したうえで、実習生に対する指導を行うとともに、教育実習先の実習指導者との面談による実習目標の到達状況や課題事項などの確認を行い、必要に応じて改善計画等の策定を行うこととする。

(8) 成績評価体制及び単位認定方法

教育実習における成績評価については、教育実習評価基準に基づいて、教育実習科目担当教員が行うこととし、教育実習先における実習指導者の評価及び出欠等の状況、実習記録、レポート、自己評価表、面接などにより、教育実習目標の到達度合に照らしながら、総合的に判断したうえで、単位の認定を行うこととする。

1 1 企業実習(インターンシップを含む)や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の  
具体的計画

海外語学研修については、長期休業期間に既設学部の国際学部で実施している研修に

参加することを想定している。海外5か国の大学等との協定に基づき2週間から5週間の研修を実施している。本研修は、現地大学等のプログラムに従って実施するが、担当教員による事前研修・事後研修と現地での研修の成果より、担当教員によって成績の評価を行っている。

(資料 6) ⇒ 語学研修プログラム履修案内

## 1.2 編入学定員を設定する場合の具体的計画

本学では、進学希望者の興味・関心や学習意欲に柔軟に応えるとともに、学生の選択の幅や流動性を高めることから、2年次編入学定員と3年次編入学定員を各々1名ずつ設定することとした。

### (1) 既修得単位の認定方法

既修得単位の認定方法については、大学設置基準などの趣旨を踏まえたうえで、一般教養的な科目に要する履修負担の軽減と、編入学後、修業年限内での専門科目を中心とした円滑な履修が可能となるよう、既修得単位の内容を十分に配慮しながら、個別的に単位の認定を行うこととする。

なお、教育上有益と認めるときは、教育学部のこども教育学科における単位修得として認定することができる単位数は60単位までとし、専門科目における必修科目及び選択必修科目については、原則、履修させることとする。

(資料 7) ⇒ 既修単位の読替表

### (2) 履修指導方法

履修指導方法は、編入学生に対して教員が相談に応じる専用の時間を設けることにより、きめ細やかな教育指導を行う体制を整えるとともに、学期ごとに履修ガイダンスを実施したうえで、履修科目の選択に関する助言を行う専門的な職員を配置し、個別の履修相談に応じるなど、編入学生の履修指導体制を整備する。

また、教育学部のこども教育学科の専門分野における教育成果が十分に得られるとともに、編入学生の既修得単位の内容や理解力に応じて、編入学生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるよう、養成する具体的な人材像に対応した典型的な履修モデルを提示する。

(資料 8) ⇒ 編入学者への履修指導表

### (3) 教育上の配慮等

編入学生の受入れに際しては、短期大学等におけるこれまでの教育内容を前提とし

て、編入学後、教育学部のこども教育学科の専門教育に円滑に対応することが可能であるかについて判定するため、編入学試験を実施するとともに、既修得単位の内容と成績を考慮しながら、可否の判定を行うこととする。

また、編入学生には、2年間又は3年間の学習期間で、1年次からの入学生と同等の知識や能力を身に付けさせることから、学習上の配慮として、編入学生の理解度を踏まえた補修講義や特別講義などを必要に応じて実施するとともに、編入学生に対する助言を行う職員の配置(教職センター指導教員)による指導体制を整えることとする。

### 1.3 管理運営

#### (1) 教授会

教授会は、学部長及び教授をもって構成する。ただし、本学学則第36条の規定により、准教授、講師及びその他の教職員により構成し、学部における教育及び研究に関する重要事項を審議するとともに、その円滑な遂行を図ることを目的としており、原則として、毎月1回定例で開催するほか、必要に応じて適宜開催している。

教授会は、次に掲げる事項について審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べることができるとしている。

- ① 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
- ② 学位の授与に関する事項
- ③ 前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

#### (2) 大学運営会議

大学運営会議は、大学の重要事項を審議するために設置しており、次の事項について学長の諮問に基づき、意見を述べるができるとしている。

- ① 学則その他重要な規則の制定、改廃に関する事項
- ② 学部、学科及びその他重要な組織の設置、廃止に関する事項
- ③ 教員人事の基本方針に関する事項
- ④ 収容定員に関する事項
- ⑤ 学部、その他機関との連絡調整に関する事項
- ⑥ 本学の教育研究体制の整備に関する事項
- ⑦ その他、本学の運営に関する事項

構成員は、学長、副学長、学部長、事務局長、教務部長、学生部長、メディアセンタ

一長、アドミッションセンター長、キャリアセンター長、地域連携センター長とし、原則として、毎月1回定例で開催している。

(資料 9) ⇒ 敬愛大学運営会議規程

### (3) 教授会以外の委員会

教授会の審議事項に必要な事項の検討や起案などのために、教学マネジメント協議会、学科会、FD・SD委員会、教務部委員会、学生部委員会、教職課程委員会、アドミッションセンター会議、キャリア運営委員会、メディアセンター運営委員会、英語教育開発センター委員会、教職センター会議、自己点検・評価委員会、総合地域研究所運営委員会の各種委員会を設置している。

各委員会の構成員は、専任教員及び事務職員により構成することとし、各委員会規程に基づき、原則として、毎月1回定例で開催している。

## 1.4 自己点検・評価

### (1) 実施方法

本学では、大学教育における教育の理念や目標に照らして、教育活動及び研究活動の状況を点検、評価することで、現状を正確に把握、認識するとともに、その達成状況を評価し、評価結果に基づく改善の推進を図ることを目的として、自己点検・評価を実施している。

自己点検・評価の実施方法については、自己点検・評価を自らの教育研究活動の改善のサイクルの中に明確に位置付け、自己点検・評価を行う責任体制を明確にしたうえで、自己点検・評価項目ごとに、自己点検・評価委員会による自己点検・評価を行うこととしている。特に、教育活動と研究活動を中心として、大学の組織的な教育評価及び個々の教員の教育活動に対する評価の両面から実施するとともに、教育研究活動の水準向上の目標を定め、その達成状況を評価し、評価の結果を改革に結び付けるシステムとして実施している。

### (2) 実施体制

本学では、自己点検・評価は、全教職員により全学的に取り組むことを基本としており、全体的な自己点検・評価については、自己点検・評価委員会規程に基づき自己点検・評価委員会を設置し、構成員は、学長を最高責任者として、副学長、学部長、教務部長、学生部長、研究所長、メディアセンター長、アドミッションセンター長、キャリアセンター長、地域連携センター長、大学事務局長、各事務室長、事務局担当

職員とし、委員長の統括のもとに、全部署・全委員会が連携協力して、組織的な自己点検・評価を実施している。

教育学部では、自主性と自律性のもとに、継続性と改革性、客観性の観点から、自己点検・評価を実施することができる評価体制の整備を目指す。また、課題認識のもとに、中期的な目標設定と具体的な計画策定を行い、その達成状況の評価及び評価結果の活用が可能となるシステムの構築を目指すことから、自己点検・評価に必要と考えられる情報を自己点検・評価の項目を踏まえて、活用し易い形でシステム化することとしている。

### (3) 公表及び評価項目

自己点検・評価の結果については、積極的に社会に公表し、社会の評価を受けることを通して、教育内容や方法の継続的な見直しや改善を図ることにより、自らの教育研究水準の一層の向上に努めていくとともに、これらの効果を一層確かなものとするために、自己点検・評価の結果について外部検証を行うこととしている。基本的には大学全体を組織体として点検・評価する機関別自己点検・評価の前段階として実施することにより、効率的でより充実した点検・評価を行うこととする。

また、本学では、学部の目的に即した教育研究活動の状況を点検・評価することが重要であることから、教育学部における自己点検・評価の項目については、大学としての自己点検・評価の基本方針を踏まえたうえで、以下の視点を重視した設定としている。

- ① 学部の目的・教育目標
- ② 教育課程
- ③ 学部組織
- ④ 教育内容・方法
- ⑤ 教育研究活動
- ⑥ 学生支援
- ⑦ 学部運営
- ⑧ 地域・社会活動
- ⑨ 情報発信
- ⑩ 自己点検・評価

## 1.5 情報の公表

### (1) 実施方法

大学における人材の養成に関する目的、その他の教育研究上の目的について、学則及び規則等の適切な形式により定め、これを広く社会に公表するとともに、教育研究活動等の状況など大学に関する情報全般について、インターネット上のホームページや大学案内などの刊行物への掲載、その他広く一般に周知を図ることができる方法により積極的に提供する。

特に、教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報を積極的に公表することとし、その際、大学の教育力の向上の観点から、学生がどのような教育課程に基づき、何を学ぶことができるのかという観点が明確になるよう留意する。

教育情報の公表については、そのための適切な体制を整えており、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法により行うこととしている。

ホームページのアドレスは、

「<http://www.u-keiai.ac.jp/outline-disclosure/informaton/>」

検索方法は、「トップ>大学概要>大学概要・情報公開>情報公開」により検索することができる。

### (2) 実施項目

次の教育研究活動等の状況についての情報を公表する。

- ① 大学の教育研究上の目的に関すること。
- ② 教育研究上の基本組織に関すること。
- ③ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
- ④ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること。
- ⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること。
- ⑥ 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること。
- ⑦ 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること。
- ⑧ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること。
- ⑨ その他の関連する情報

- 1) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報
- 2) 学則等
- 3) 設置届出書
- 4) 設置計画履行状況等報告書
- 5) 自己点検・評価報告書
- 6) 認証評価の結果

### (3) 公表内容

教育研究活動等の状況についての情報を公表するに際しては、以下の点に留意したうえで行うこととしている。

- ① 大学の教育研究上の目的に関する情報については、学部又は学科ごとに、それぞれ定めた目的を公表する。
- ② 教育研究上の基本組織に関する情報については、学部又は学科の名称を明らかにする。
- ③ 教員組織に関する情報については、組織内の役割分担や年齢構成等を明らかにし、効果的な教育を行うため組織的な連携を図っていることを明らかにする。
- ④ 教員の数については、学校基本調査における大学の回答に準じて公表することとし、法令上必要な専任教員数を確保していることや男女別、職別の人数等の詳細をできるだけ明らかにする。
- ⑤ 各教員の業績については、研究業績等にとどまらず、各教員の多様な業績を積極的に明らかにすることにより、教育上の能力に関する事項や職務上の実績に関する事項など、当該教員の専門性と提供できる教育内容に関することを確認できるという点に留意したうえで公表する。
- ⑥ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する情報については、学校基本調査における大学の回答に準じて公表する。
- ⑦ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関する情報については、教育課程の体系性を明らかにする観点に留意するとともに、年間の授業計画については、シラバスや年間授業計画の概要を活用する。
- ⑧ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関する情報については、必修科目、選択科目の別の必要単位修得数を明らかにし、取得可能

な学位に関する情報を明らかにする。

- ⑨ 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関する情報については、学生生活の中心であるキャンパスの概要のほか、運動施設の概要、課外活動の状況及びそのために用いる施設、休息を行う環境その他の学習環境、主な交通手段等の状況をできるだけ明らかにする。
- ⑩ 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関する情報については、寄宿舍や学生寮等の宿舎に関する費用、教材購入費、施設利用料等の費用に関することをできるだけ明らかにする。
- ⑪ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関する情報については、留学生支援や障害者支援など大学が取り組む様々な学生支援の状況をできるだけ明らかにする。

#### 1.6 教育内容等の改善を図るための組織的な取組

##### (1) 教育内容等の改善のための組織的な研修等 (FD)

授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な取組みについては、「FD委員会規程」を制定し、当該委員会規程に基づく教育学部の専任教員及び事務職員で構成される「FD委員会」を設置し、授業方法の開発と改善を図るための計画の立案と実施の推進を図ることとしている。

授業の内容及び方法の改善を図るための実施内容については、以下に掲げる項目による取組みを実施する。

- ① シラバスの記載項目や記載内容、記載方法などに関する研究会を開催し規則を整備するとともに、個別教員に対する記載指導を実施する。
- ② 教員と学生の相互による授業アンケート調査を実施するとともに、評価結果に基づき、各教員が授業の内容や方法の改善に役立てるための学生モニター会議を実施する。
- ③ 授業科目の位置付けや到達目標、他の授業科目の内容や範囲などの接続関係について教員の相互理解を図るための研修会を実施する。
- ④ 他の教員の授業を参観して、自らの授業の内容及び方法の改善に役立てるための教員相互の授業参観を実施する。

##### (2) 管理運営に必要な教職員への研修等 (SD)

管理運営に必要な教職員への研修等の取組みについては、学校法人全体を対象とす

る「千葉敬愛学園 SD 委員会規程」を制定し、事務職員のみならず、教員を含めて、大学等の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図ることを目的とした、知識・技能の習得及び能力・資質の向上のための活動（SD活動）を実施する。

SD活動の実施については、事務職員に対する研修等は、法人本部人事担当部署が中心となり、教員に対する研修等はFD委員会が中心となって行うこととし、以下に掲げる項目により実施する。

(資料 10) ⇒ 千葉敬愛学園 SD 委員会規程、敬愛大学 SD・FD 委員会規程

- ① 大学等の管理運営及び教育研究支援に必要な知識及び技能を身に付け、能力及び資質の向上を図るための研修に関すること
- ② 建学の精神（3つのポリシーを含む）に照らした大学等の取組の自己点検・評価と内部質保証及び大学等の改革に資する研修に関すること
- ③ 職員として求められているリーダーシップ能力、マネジメント能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、危機管理能力、政策提案・実現能力、問題解決能力及び事務処理能力等の向上を図るための研修に関すること
- ④ 学生の人間形成を図るために行われる正課外の諸活動における様々な指導、援助等の研修に関すること
- ⑤ 職員のスキルアップに役立つ資格取得に関すること
- ⑥ 大学組織における業務の見直しや事務処理の改善等に関すること
- ⑦ その他SD活動として必要と認める事項

なお、研修会等については、外部団体が主催して行う「学外研修会等」と大学が独自に企画して開催する「学内研修会等」に大別し、さらに、これら学内外の研修会等を次のとおり区分して実施することとしている。

学園 SD、大学 FD・SD 規程の上記の内容とは異なり、次のとおりとなっている。

- 1) 階層別：新任職員、中堅職員、指導的職員など、経験や役職（職階）に応じて必要な知識を得るための研修会等
- 2) 目的別：特定の知識や技能を修得するための研修会等
- 3) 業務別：業務ごとの質的向上や改善等に役立つための研修会等
- 4) 個別：職員個々が自主的に自己啓発やスキルアップ等を図るための研修会等

## 1.7 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

### (1) 教育課程内における取組み

「教養教育科目（教養科目）（外国語科目）（キャリア科目）」「専門教育科目（専門基礎科目）（専門基幹科目）（専門展開科目）（専門研究）」では、現代社会に関する幅広い知識及び自己表現や情報活用に関する能力とともに、経済社会の一員としての望ましい心構えや生涯学習力を身に付けることとしており、「教養教育科目（教養科目）（外国語科目）（キャリア科目）」の各科目群全体を通して、社会的・職業的自立を図るために必要な基礎的な知識や技能と態度を習得することとしている。特に、「教養教育科目（キャリア科目）」では、卒業後も自律・自立して学習する態度を養うとともに、学生が将来への目的意識を明確に持てるよう、職業観を涵養し、自己の個性を理解した上で主体的に進路を選択できる能力や態度を育成するための科目として、「キャリアプランニング」、「キャリアデザイン」、「キャリアディベロップメント」、の3科目を配置している。

## （2）教育課程外の取組み

社会的・職業的自立を図るための教育課程外の取組みとしては、キャリア支援年間計画に基づき、職業興味検査、資格と仕事のセミナーなどの実施による職業観の涵養を図るとともに、各種資格取得講座、教員採用試験対策講座、キャリア支援講座、就職試験対策講座などによる職業・就職に関する知識・技能の習得を図ることとしている。

また、個別カウンセリング、Uターンガイダンス、教育関連の仕事に関するガイダンスなどの進路相談及び就職指導に加えて、教育関連施設や教育関連企業等による採用説明会などを行うこととしている。

なお、教育課程外の取組みにおける組織体制については、キャリアセンター運営委員会とキャリアセンター事務担当職員によるものとする。

（資料 11）⇒ キャリアセンター規程

## （3）適切な体制の整備について

キャリアセンターにキャリアセンター運営委員会を設置している。

委員会は、センター長、各学科の専任教員各1名以上の計5名以上による委員および事務職員千名で構成し、毎月1回開催するものとしている。なお、委員会は、学生のキャリア形成支援及び就職支援に関する業務は次のとおりとなっている。

- ① 学生のキャリア教育の支援に関する事項
- ② 学生の就職活動の支援に関する事項
- ③ 学生のキャリア形成のため各種講座の実施に関する事項
- ④ 就職・求人情報の収集および就職先業等の開拓に関する事項

- ⑤ その他、委員会が必要と認めた事項
- ⑥ キャリア形成に係る情報の収集および管理に関する事項
- ⑦ その他、在学生・卒業生のキャリア形成および就職支援に関する事項

## 敬愛大学教育学部こども教育学科の設置の趣旨等を記載した書類

【資料目次】	ページ
【資料1】 カリキュラムマップ	p. 7
【資料2】 シラバスの作成について	p. 8
【資料3】 履修モデル	p. 8、11
【資料4】 千葉敬愛学園定年規程及び理事長からの承認書	p. 10
(有期雇用を証する承認書等)	
【資料5】 各教育委員会からの受入承諾書	p. 15
【資料6】 語学研修プログラム履修案内	p. 18
【資料7】 既修単位の読替表	p. 18
(2年次編入対応・3年次編入対応)	
【資料8】 編入学者への履修指導表	p. 18
(2年次編入対応・3年次編入対応)	
【資料9】 敬愛大学運営会議規程	p. 20
【資料10】 千葉敬愛学園 SD 委員会規程及び敬愛大学 FD・SD 委員会規程	p. 25
【資料11】 敬愛大学キャリアセンター規程	p. 26

【資料 1】 カリキュラムマップ

教育学部こども教育学科

科目区分	授業科目名	単位数	開講年次	◎ 必ず履修すべき科目 ○ 履修を推奨する科目 ☆ 能力向上に役立つ科目				履修方法
				DP1	DP2	DP3	DP4	
こども教育学 科DP	DP1：子供を総合的に理解し、教育の専門性を身に付ける。 DP2：国際社会を理解し、多様な価値観を認める。 DP3：豊かなコミュニケーション能力を身に付ける。 DP4：実践的活動を通して地域に貢献する力を身に付ける。							
	敬天愛人講座	2	1		○			12単位以上必修 必修科目 必修科目以外の科目を8単位以上選択
	口頭表現	2	1			◎		
	文章表現	2	1			◎		
	哲学	2	1 2	○				
	文学	2	1 2	○				
	国際関係入門	2	1 2			◎		
	法学	2	1 2	○				
	憲法	2	1	○				
	歴史学	2	1 2	○				
	心理学	2	1 2	○				
	基礎数学	2	1 2	○				
	基礎統計	2	1 2	○				
	健康運動科学	2	1			○		
	ボランティア活動	2	1 2			○	○	
	情報概論	2	1 2			○		
	情報処理Ⅰ(情報基礎)	1	1			◎		
	情報処理Ⅱ(プレゼンテーション演習)	1	1			◎		
	海外スクーリングⅠ	2	1 2 3 4		○	○	○	
	海外スクーリングⅡ	2	1 2 3 4		○	○	○	
外国語科目	College EnglishⅠ	2	1			◎		
	College EnglishⅡ	2	1			◎		
	College EnglishⅢ	2	2		○			
	College EnglishⅣ	2	2		○			
	WritingⅠ	1	1 2 3 4		○			
	WritingⅡ	1	1 2 3 4		○			
	ListeningⅠ	1	1 2 3 4		○			
	ListeningⅡ	1	1 2 3 4		○			
	SpeakingⅠ	1	1 2 3 4		○			
	SpeakingⅡ	1	1 2 3 4		○			
	DebateⅠ	1	1 2 3 4		○			
	DebateⅡ	1	1 2 3 4		○			
	Mother Goose	1	1 2		○			
	海外語学研修Ⅰ	2	1 2 3 4		○	○	○	
	海外語学研修Ⅱ	2	1 2 3 4		○	○	○	
キャリア科目	キャリアプランニング	2	1			○	○	
	キャリアデザイン	2	2			○	○	
	キャリアディベロップメント	2	2			○	○	

科目区分		授業科目名	単位数	開講年次	◎ 必ず履修すべき科目 ○ 履修を推奨する科目 ☆ 能力向上に役立つ科目				履修方法	
					DP1	DP2	DP3	DP4		
こども教育学	専門教育科目	教育原論	2	1	◎				必修科目	28単位以上必修 必修科目以外の科目を68単位以上選択
		発達心理学	2	1	◎				必修科目	
		教育行政	2	2	○					
		教育課程論(小学校)	2	1	◎				必修科目	
		教職概論	2	2	◎				必修科目	
		教育方法・技術論(小学校)	2	2	○					
		国語(書写を含む)	2	2	○					
		社会	2	2	○					
		算数	2	2	○					
		理科	2	1	○					
		生活	2	2	○					
		音楽	2	1	○					
		図画工作	2	1	○					
		家庭	2	1	○					
		体育	2	1	○					
		小学校英語 I	2	1	◎			○	必修科目	
		小学校英語 II	2	2	○			○		
		1年基礎演習 I	1	1	○	○	◎	○	必修科目	
		1年基礎演習 II	1	1	○	○	◎	○	必修科目	
		2年応用演習 I	1	2	○	○	◎	○	必修科目	
2年応用演習 II	1	2	○	○	◎	○	必修科目			
こども教育学	専門教育科目	こども学 I	2	2	◎	○	○	○	必修科目	28単位以上必修 必修科目以外の科目を68単位以上選択
		こども学 II	2	3	◎	○	○	○	必修科目	
		教育心理学	2	2	◎				必修科目	
		教育法規	2	2	○					
		生徒・進路指導論(小学校)	2	3	○					
		特別支援教育概論(小学校)	2	3	○					
		教育相談(小学校)	2	4	○					
		初等国語科指導法	2	2	○					
		初等社会科指導法	2	2	○					
		算数科指導法	2	2	○					
		初等理科指導法	2	2	○					
		生活科指導法	2	3	○					
		初等音楽科指導法	2	2	○					
		図画工作科指導法	2	1	○					
		初等家庭科指導法	2	1	○					
		初等体育科指導法	2	1	○					
		小学校英語指導法 I	2	2	○					
		小学校英語指導法 II	2	3	○					
		道徳教育指導法(小学校)	2	3	○					
		総合的な学習の時間の指導法(小学校)	2	4	○					
特別活動指導法(小学校)	2	3	○							

科目区分	授業科目名	単位数	開講年次	◎ 必ず履修すべき科目 ○ 履修を推奨する科目 ☆ 能力向上に役立つ科目				履修方法
				DP1	DP2	DP3	DP4	
				こども教育学	DP1: 子供を総合的に理解し、教育の専門性を身に付ける。 DP2: 国際社会を理解し、多様な価値観を認める。 DP3: 豊かなコミュニケーション能力を身に付ける。 DP4: 実践的活動を通して地域に貢献する力を身に付ける。			
専門展開科目	文学教材研究	2	2 3 4	○				
	数と形の不思議	2	2 3 4	○				
	プログラミング教育	2	2 3 4	○				
	理科の観察実験	1	2 3 4	○				
	科学教育論	2	2 3 4	○				
	音楽と表現	1	2 3 4	○				
	造形と表現	1	2 3 4	○				
	教育社会学	2	2 3 4	○				
	メディアリテラシー教育	2	2 3 4	○	○			
	学校の安全教育	2	2 3 4	○				
	学級担任と読書	2	2 3 4	○				
	社会教育概論	2	2 3 4	○	○			
	多文化教育論	2	2 3 4	○	○			
	世界のこども教育	2	2 3 4	○	○			
	教育哲学	2	2 3 4	○	○			
	こども教育演習Ⅰ	1	3	○			○	
	こども教育演習Ⅱ	1	3	○			○	
	こども教育演習Ⅲ	1	4	○			○	
	教育実習指導	1	3	○			○	
	教育実習	4	3	○		○	○	
	教職実践演習(小学校)	2	4	○		○	○	
	日本語学	2	2 3			○		
	異文化コミュニケーション	2	2 3			○		
	比較文化論	2	2 3			○		
	日本文化論	2	2 3 4			○		
	児童文学論	2	2 3 4			○		
	英米児童文学	2	2 3 4			○		
専門研究	3年次専門研究Ⅰ	2	3	◎	○	○	○	必修科目
	3年次専門研究Ⅱ	2	3	◎	○	○	○	必修科目
	4年次専門研究Ⅰ	2	4	◎	○	○	○	必修科目
	4年次専門研究Ⅱ	2	4	◎	○	○	○	必修科目
	卒業研究	2	4	○	○	○	○	
			卒業要件単位数				124	

## 【資料 2】 シラバスの作成について

教 員 各 位

### 〇〇年度授業計画書（シラバス）の作成について

〇〇年度の授業計画書（シラバス）を下記要領に従って KCN（Keiai Campus Navigator）にて入稿をお願いいたします。ご多忙のところを大変恐縮ですが、何卒ご理解とご協力をお願い申し上げます。

記

#### ★重要★

### 授業計画書（シラバス）の作成手順について

●事前に、KCN より、シラバス作成に必要なファイルをダウンロードしてください。

- ① PC で KCN にログインし、「お知らせ」欄の「シラバス関連資料配布」をクリック。
- ②表示されたウィンドウの下部「添付ファイルダウンロード」より、下記のファイルをダウンロードします。

- ・ 〇〇年度 Web シラバスマニュアル.pdf
- ・ 〇〇年度 シラバスガイドライン.pdf
- ・ 〇〇年度 シラバスチェックポイント.pdf
- ・ 〇〇年度 授業実施回数一覧.pdf
- ・【別紙】 実務経験のある教員による授業科目について
- ・【参考】 〇〇年度 ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー
- ・【参考】 〇〇年度 カリキュラムマップ

これらのファイルは、シラバス作成に必須となりますので、必ずダウンロードしてご確認ください。

入稿期間： 〇〇年〇〇月〇〇日 9：00～

〇〇年〇〇月〇〇日 23：59

## I. 授業計画書（シラバス）の初校について

授業計画書はホームページ上のみの公開とし、冊子化は行っていません。

**初校は出ません。** Web 上で入稿→内容確認→校了となりますので、ご注意ください。

ホームページ上に授業計画書（シラバス）を公開致しますので、予めご通知おきます。

## II. 授業計画書（シラバス）の作成要領

ご担当科目（講義・実技・語学・演習・実習等）の全てについて作成してください。

## III. 授業計画書（シラバス）の作成基準

### 1. **【重要】** 授業のねらい・到達目標・実務経験と授業の関連性・DP, CP に於ける位置づけ

授業のねらいと到達目標についてご記入ください。可能な限りディプロマ・ポリシー（DP）、カリキュラム・ポリシー（CP）における位置づけも併せて付記ください。

また、「担当教員の実務経験と授業の関連性」の記載をお願いします。  
(該当科目のみ)

### 【担当教員等の実務経験について】

・別紙「実務経験のある教員による授業科目について」をご参照ください。

2. 授業の進め方・履修条件など 授業のねらいと到達目標を達成するために、ご担当の授業をどのように運営、展開されるかをご記入ください。その際、試験やレポートなどの課題へのフィードバックを行うとともに、その方法も記載してください。

履修者数の制限を認められていない科目で、履修者を制限する記載はしないでください。

### 3. アクティブ・ラーニングの手法

授業において実践している、アクティブ・ラーニングの手法があれば手法名を記載してください。

(ex: ロール・プレイング、ディベート、ディスカッション、プレゼン、双方向型授業、振り返り、PBL など)

AL 手法名	手法概要
ロール・プレイング Role Playing	現実にかかる場面を想定して、学生が各自に指示された役割を演じる。技術・技能の修得や態度・指定の涵養、現実的なケースにおける多面的な見方や他者の立場の理解などを促進するうえで効果的である。
ディベート Debate	あるテーマについて、個人が賛成側と反対側の各々の立場を表明し、立論・反論といった論戦を通じ第三者を説得する討議を通じての学習法である。論理的思考力や発表力の養成に効果的である。
ディスカッション	ペアもしくは小グループ（3人～6人程度が一般的）をつくり、指示された課題につい

Discussion	て、学生同士の意見交換を行う。各々の持つ知識や経験などが共有され、課題への理解が深まる。
プレゼンテーション Presentation	指示された課題について、グループもしくは個人で調査・研究を行い、その成果を発表する。発表形式はパワーポイントなどの情報機器を活用したものや、ポスターセッションなど多様である。発表者は学生や教員との質疑応答も行う。
双方向型演習 Interactive Seminar	指示された課題について学生が答案やレポートなどを作成し、それを教員が添削・採点してフィードバックしたものを、再度学生が確認し理解を深める。教員とコミュニケーションをとることにより、授業への参加意欲を高めるねらいもある。学生は自らの理解度を確認し、新たな気づきや課題を見出すことが期待される。
振り返りシート Reflection Sheet	授業の途中や終了時に、気づきや疑問等について記載し、知識の定着や理解の促進を図る。シートの内容を教員が授業構成に参考にしたり、次講に学生の疑問点についてフィードバックしたりすることもできる。
PBL Project-Based Learning Problem-Based Learning	企業や、地域、教員、もしくは学生自身が設定した課題や目標に対して、学生がチームを作り協力して取り組むことを通じて、知識習得・体験学習を行う教育手法。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Project-based learning (プロジェクト型学習・課題解決型学習)：一定の目標を達成するためにチームで取り組む過程を通じて知識習得・応用・体験学習を行う。</li> <li>・ Problem-based learning (課題解決型学習)：具体的事例(シナリオ)に対して、その解決に必要な知識を小グループで自立的に学習していく。</li> </ul>

#### 4. 成績評価の方法と割合

到達目標に対応した成績評価の方法と割合を具体的に記載してください。その際、出席を点数化する内容の記載はしないでください。  
(必須)

#### 5. 評価基準

学生に対して授業の目標、成績評価の基準を明確化することにより、学生が学ぶ方向を正しく設定する、また、学生への成績評価の信頼性を高め、教育の質を保證する為、評価基準の記載をお願いします。これは、「授業の成績」と「授業のねらい・到達目標」や成績評価方法との関係を示す目的もありますので、具体的かつ簡潔に記載をお願いします。(必須)

#### (記載例)

評価	判定基準
秀 (S)	授業のねらいを越えて、自ら探求し理解を深めるレベルに達している。
優 (A)	授業のねらいがほぼ達成できている。
良 (B)	授業のねらいと到達目標の間のレベルに達している。
可 (C)	到達目標を達している。
不可	到達目標を達成できていない。

#### 6. 授業の予習・復習

授業前にどのような予習をすべきか、授業後にどのような復習をすべきか、必要とされる時間数も含めて記載してください。  
(「必要なし」の記載は絶対にしないでください。)(必須)

#### 7. 講義スケジュール

全日程についてご記入いただき、「授業項目」および「授業内容」については空欄を作らないようにしてください。  
第1回の授業項目には「ガイダンス」「オリエンテーション」と記載

しないでください。(1回目から授業を行ってください。)  
複数回にわたって同様の授業内容を記載しないようにご注意ください。  
各回のキーワードを付すなど、各回で異なる内容を扱うことが分かるようにご記入ください。なお、授業は最終週

8. 教科書、ISBN

使用の有無を必ずご記入いただき、使用される場合は、教科書名とISBNをご記入下さい。その際には、学生が購入する教科書のみを記載してください。「初回の授業で説明する」「授業時に指示する」等の表現は避けて下さい。(ここに記載する書籍を教科書販売として発注します。)また、授業で利用しない教科書等の記載はしないでください。(必須)

9. 参考文献

50文字以内でご記入下さい。任意ではありますが、可能な限り記載にご協力をお願いします。(任意)

10. 教職に関する情報

本学で教職課程に係わっている担当者は必ず記載をお願いします。

- ※・教科に関する専門的事項
- ・各教科の指導法 (情報機器および教材の活用を含む)
  - ・教育の基礎的理解に関する科目
  - ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法および生徒指導、教育相談等に関する科目
  - ・教育実践に関する科目
- 該当しない先生は記載不要です。

《記入例1》

教職に関する情報			
免許状取得のための科目区分 (必修/選択)	必修科目	担当形態	単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 家庭)		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・住居学 ・住居学 (製図を含む)		

《記入例2》

教職に関する情報			
免許状取得のための科目区分 (必修/選択)	選択科目	担当形態	単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容にかかわる科目		

以上

区分	1年次(40単位)				2年次(40単位)				3年次(29単位)				4年次(15単位)				計	
	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位		
教養教育科目	教養科目	●口頭表現	2	●文章表現	2			●国際関係入門	2									
		憲法	2	健康運動科学	2													
		●情報処理 I (情報基礎)	1	●情報処理 II (プレゼンテーション演習)	1													
	外国語科目	●College English I	2	●College English II	2	Listening I	1	Listening II	1	Speaking I	1	Speaking II	1	Debate I	1	Debate II	1	
	キャリア科目																	
	小計		7		7		1		3		1		1		1		1	22
専門教育科目	専門基礎科目	●1年基礎演習 I	1	●1年基礎演習 II	1	●2年応用演習 I	1	●2年応用演習 II	1									
		●発達心理学	2	●小学校英語 I	2	小学校英語 II	2	●教職概論	2									
		●教育原論	2	●教育課程論(小学校)	2	国語(書写を含)	2	生活	2									
		図画工作	2	理科	2	社会	2											
		家庭	2	音楽	2	算数	2											
		体育	2															
	専門基幹科目			図画工作科指導法	2	教育行政	2	●こども学 I	2	●こども学 II	2			教育相談(小学校)	2			
			初等体育科指導法	2	教育方法・技術論(小学校)	2	●教育心理学	2	小学校英語指導法 II	2			総合的な学習の時間の指導法(小学校)	2				
			初等家庭科指導法	2	初等理科指導法	2	教育法規	2	生徒・進路指導論(小学校)	2								
					初等音楽科指導法	2	小学校英語指導法 I	2	特別支援教育概論(小学校)	2								
							初等国語科指導法	2	道徳教育指導法(小学校)	2								
							初等社会科指導法	2	特別活動指導法(小学校)	2								
	専門展開科目									こども教育演習 I	1	こども教育演習 II	1	こども教育演習 III	1	教職実践演習(小学校)	2	
									教育実習指導	1	教育社会学	2						
	専門研究																	
										●3年次専門研究 I	2	●3年次専門研究 II	2	●4年次専門研究 I	2	●4年次専門研究 II	2	
	小計		11		15		17		19		18		9		7		6	102
計			18		22		18		22		19		10		8		7	124

区分	1年次(36単位)				2年次(36単位)				3年次(32単位)				4年次(20単位)				計	
	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位		
教養教育科目	教養科目	●口頭表現	2	●文章表現	2	哲学	2	●国際関係入門	2									
		敬天愛人講座	2	心理学	2	基礎統計	2	基礎数学	2									
		●情報処理Ⅰ(情報基礎)	1	●情報処理Ⅱ(プレゼンテーション演習)	1													
	外国語科目	●College English I	2	●College English II	2													
	キャリア科目	キャリアプランニング	2					キャリアデザイン	2									
	キャリアディベロップメント						キャリアディベロップメント	2										
	小計		9		7		4		8		0		0		0		0	28
専門教育科目	専門基礎科目	●1年基礎演習Ⅰ	1	●1年基礎演習Ⅱ	1	●2年応用演習Ⅰ	1	●2年応用演習Ⅱ	1									
		●発達心理学	2	●小学校英語Ⅰ	2	小学校英語Ⅱ	2	●教職概論	2									
		●教育原論	2	●教育課程論(小学校)	2	国語(書写を含)	2	生活	2									
		図画工作	2	理科	2	社会	2											
		家庭	2	音楽	2	算数	2											
	体育	2																
	専門基幹科目					教育行政	2	●こども学Ⅰ	2	●こども学Ⅱ	2		教育相談(小学校)	2				
						教育方法・技術論(小学校)	2	●教育心理学	2	生徒・進路指導論(小学校)	2							
								教育法規	2	特別支援教育概論(小学校)	2							
	専門展開科目									文学教材研究	2	科学教育論	2	教育哲学	2	日本文化論	2	
										数と形の不思議	2	音楽と表現	1	学校の安全教育	2	児童文学論	2	
										プログラミング教育	2	教育社会学	2	学級担任と読書	2	英米児童文学	2	
										理科の観察実験	1	メディアリテラシー教育	2					
										異文化コミュニケーション	2	社会教育概論	2					
											多文化教育論	2						
											世界のこども教育	2						
	専門研究									●3年次専門研究Ⅰ	2	●3年次専門研究Ⅱ	2	●4年次専門研究Ⅰ	2	●4年次専門研究Ⅱ	2	
																卒業研究	2	
	小計		11		9		13		11		17		15		10		10	96
計			20		16		17		19		17		15		10		10	124

【資料 4】

# 学校法人千葉敬愛学園 規程集

[トップページに戻る](#)[最上位](#) > [第4編 人事](#)

## 定年規程

最終改正 昭和63年12月6日

(目的)

第1条 この規程は、[学校法人千葉敬愛学園就業規則（以下「規則」という。）](#)第2条に規定する専任の職員につき[規則第8条第3号](#)に規定する定年に関する事項を定めることを目的とする。

(定年)

第2条 職員は、次に掲げる年齢に達した年度を終了したとき定年退職する。

- (1) 大学・短大教員 70歳
- (2) 高等学校教員・幼稚園教員 65歳
- (3) 事務職員・警備員・用務員 65歳

(適用除外)

第3条 理事長が特に指定した職にある職員については、定年に関する規定を適用しない。

2 前項に指定した職とは、理事会が決定した者をいう。

附 則

- 1 この規程は、昭和62年4月1日よりこれを実施する。
- 2 第2条第1号については、必要な場合経過措置を設けることができる。

附 則

- 1 この規程は、昭和63年12月6日から施行し、昭和64年4月1日から適用する。
- 2 定年規程の一部改正に伴う経過措置

(1) 昭和62年4月1日現在在職する大学教員について

- ① 70歳以上の者については、75歳を定年とする。
- ② 60歳以上の者については、73歳を定年とする。
- ③ 59歳以下の者については、71歳を定年とする。

(2) 前号②、③に掲げる大学教員については、②、③の定年後2年を限度として非常勤講師として在職することができる。

令和 2年 2月 18日

千葉敬愛学園  
理事長 三幣 利夫 様

敬愛大学  
学長 三幣 利夫



教育学部設置届出に伴う定年後の教員の有期雇用について

令和 3年 4月 教育学部設置に向けて文部科学省に届出を行いますが、設置の許可が承認された場合は、下記の者を完成年度まで有期雇用願いたく申請いたします。

記

1. 対象教員

国際学部

こども教育学科 教授 向山 行雄

1950年7月13日生まれ

(現在 69歳6か月)

令和3年4月1日(2021.4.1)設置時年齢

(70歳8か月)

令和7年3月31日(2025.3.31)完成年度末年齢

(74歳8か月)

2. 申請事由

継続的な教育水準の維持向上に資するため。

以上

この写しは原本と相違ないことを証明する  
令和 2年 4月 / 日  
学校法人千葉敬愛学園  
理事長 三幣 利夫

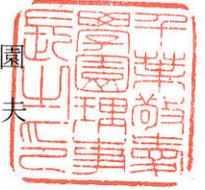


令和2年2月20日

敬愛大学

学長 三幣 利夫 様

学校法人千葉敬愛学園  
理事長 三幣 利夫



定年退職予定者の定年後の継続雇用について

令和2年2月18日付けで申請のあった下記の者に対する定年後の雇用について、教育学部の完成年度まで雇用を継続することを承認する。

記

1. 対象者

国際学部こども教育学科 教授 向山 行雄

2. 定年後の雇用継続期間

令和3年4月1日から令和7年3月31日まで

以上

## 【資料 5】

### 教育実習受入教育委員会一覧

委員会名	住 所	受入対象学校数	備 考
千葉市教育委員会	千葉市中央区問屋町1-35	市内小学校 110校	教育実習受入れ人数や受入れ校等については、毎年双方で協議の上決定
四街道市教育委員会	千葉県四街道市鹿渡2001-10	市内小学校 12校	教育実習受入れの可否及び詳細については、学校と大学双方で協議の上、学校長が承諾することで決定
習志野市教育委員会	千葉県習志野市鷺沼2-1-1	市内小学校 16校	教育実習の詳細については、双方で協議の上、決定
船橋市教育委員会	千葉県船橋市湊町2-10-25	市内小学校 54校	教育実習の詳細については、双方で協議の上、決定
佐倉市教育委員会	千葉県佐倉市海隣寺町97	市内小学校 23校	教育実習の詳細については、双方で協議の上、決定
南房総市教育委員会	千葉県南房総市岩糸2489	市内小学校 6校	教育実習の詳細については、双方で協議の上、決定
鴨川市教育委員会	千葉県鴨川市天津1104	市内小学校 7校	教育実習の詳細については、双方で協議の上、決定
館山市教育委員会	千葉県館山市北条1145-1	市内小学校 10校	教育実習の詳細については、双方で協議の上、決定

【資料 6】 語学研修プログラム履修案内

敬愛大学 語学研修プログラム一覧

研修機関	カルガリー大学付属英語学校(English Language Program, University of Calgary) (カナダ)	クィーンズランド大学付属英語学校(Institute of Continuing & TESOL Education, the University of Queensland) (オーストラリア)	ポートランド州立大学 (アメリカ合衆国)	ノースウェスタン大学 (フィリピン)	中国文化大学 (台湾)
プログラム期間・時期	約5週間・2月初旬～3月中旬	約5週間・2月中旬～3月下旬	約3週間・8月中旬～9月初旬	約2週間・夏：8月下旬～9月上旬、春：3月上旬～3月中旬	約2週間・8月上旬～8月中旬
費用 (プログラム+宿泊)	約28万円	約32万円	約32万円	約16万円	約8万円
総費用 (実績)	約63万円	約68万円	約58万円	約32万円	約14万円
滞在方法	ホームステイ	ホームステイ	ホームステイ	大学寮	大学寮
連携体制	研修先の敬愛大学担当者と敬愛大学の担当教員および事務担当者との間で申し込みの段階から終了・帰国・修了証送付まで密に連絡を取り合っている。	研修先の敬愛大学担当者と敬愛大学の担当教員および事務担当者との間で申し込みの段階から終了・帰国・修了証送付まで密に連絡を取り合っている。	研修先の敬愛大学担当者と敬愛大学の担当教員および事務担当者との間で申し込みの段階から終了・帰国・修了証送付まで密に連絡を取り合っている。	現地に精通しているエージェント(株ASJ)を介して、研修先のコーディネーターと連携している。	交換留学(原則各校から2名)とダブルディグリー制度を実施している。申し込み、審査、受入れ、帰国まで密に連絡を取り合っている。
事前研修	教員が行う事前指導は3回。英語の資料を用いながら次の3点に関して意識付けを行う。①ホームステイ家族とのコミュニケーションの取り方について②カルガリーの地理、文化について③プレイスメントテスト対策、特に英作文。教材は研修先の大学案内、現地情報誌、英検2級、準一級ライティング問題。事務側が行う事前指導は、「渡航前安全セミナー」であり、海外で安全に生活するための知識・対策を指導した上で、海外旅行保険の必要性と加入方法の説明、危機管理サービスへの登録・活用方法の説明を行っている。	教員が行う事前指導は3回。英語の資料を用いながら次の3点に関して意識付けを行う。①ホームステイ家族とのコミュニケーションの取り方について②クィーンズランド大学およびプログラムについて③簡単な自己紹介文の書き方指導および場面を設定した会話の練習。教材は研修先の大学案内、増井由紀美著『もっと話せる英会話』『オールラウンド英会話』(旺文社)、国際事情に関する新聞記事などを使用。事務側が行う事前指導は、「渡航前安全セミナー」であり、海外で安全に生活するための知識・対策を指導した上で、海外旅行保険の必要性と加入方法の説明、危機管理サービスへの登録・活用方法の説明を行っている。	教員による事前指導は3回。英語の資料を用いながら次の3点に関して意識付けを行う。①ホームステイ家族とのコミュニケーションの取り方について②アメリカ文化について③簡単な自己紹介文の書き方指導および場面を設定した会話の練習。教材は『もっと話せる英会話』『オールラウンド英会話』(旺文社)、国際事情に関する新聞記事などを使用。事務側は「渡航前安全セミナー」を実施する。海外で安全に生活するための知識・対策を指導した上で、海外旅行保険の必要性と勧誘方法の説明、危機管理サービスへの登録・活用方法の説明が主な内容である。	教員による事前指導は2回行っており、その内容は「フィリピンの歴史・文化について」や「現地生活で役立つ英会話講座」である。その他にも、「渡航前安全セミナー」や「現地での教育実習指導(準備)」を行っている。	教員による事前事業は3階～4回行っている。台湾の歴史、現状(政治・経済・社会など)、中国や日本との関係についてが中心となっている。また、留学先の中国文化大学についての情報や寮生活については、経験者の学生から話を聞く時間を設けている。事務側が行う事前指導は、「渡航前安全セミナー」であり、海外で安全に生活するための知識・対策を指導した上で、海外旅行保険の必要性と加入方法の説明、危機管理サービスへの登録・活用方法の説明を行っている。
成績評価	成績評価は、研修先からの成績が主になる。文法、Reading&Writing、Speaking&Listeningの3教科がA+からFまでの成績で評価される。合格はDまで。(それぞれ、授業内テスト、提出課題、授業態度、最終試験の項目で評価している。)これを基本に事前授業評価、研修先でのコース難易度も加味する。要件を満たした全参加学生に「2単位」付与。	成績評価は、研修先からの成績が主になる。合格は4つのレベル(Pass, Credit, Distinction, High Distinction)及びクラスでの参加度、やる気度、態度、時間厳守、課題の評価点(5段階)があるが、これを基本に事前授業評価も加味する。要件を満たした全参加学生に「2単位」付与。	成績評価は、研修先からの成績が主になる。研修先による合格成績評価A, B, Cを基本に、コース難易度及び事前準備評価も加味する。要件を満たした全参加学生に「2単位」付与。	成績評価体制は、修学支援室と連携して担当教員が成績評価をしている。単位認定方法は、事前指導での状況、現地での取組み状況、報告書の内容等を総合的に判断し、担当教員が単位認定案を作成し、学部教務委員会にて「海外語学研修(2単位)」認定の可否を決定している。	成績評価は、留学先からの成績を基に修学支援室と担当教員が連携して評価している。事前授業、現地からの報告書など総合的に判断して、担当教員が単位認定案を作成し、学部教務委員会で検討し、決定している。
大学説明	カナダで3番目に大きな都市、カルガリー市中心部に位置する、常に大学ランキングのTOP10に入る名門です。世界各国の留学生が英語研修プログラムで学び、レベル別による質の高い授業と、経験豊かでフレンドリーなスタッフが情報提供しサポートしてくれます。	1909年に設立されたクィーンズランド州最古の大学です。オーストラリアを代表する大学連合“Group of Eight”の1校です。色々な国から来ている学生と一緒に英語を学びます。国内で指導スキルを高く評価された先生方が揃っており、学生の英語コミュニケーション能力向上を支援します。サークル数も多く、アクティビティが充実しています。	オレゴン州では唯一主要都市部に位置し、州内最大数の学生が在籍する州立大学です。留学生受入れも非常に多い多国籍学生に満ちています。研修内容にアクティビティが含まれているのが大きな特徴で、American Pop-Culture, Hospitality, Volunteerismの中から自ら選択して学びます。	NWUはフィリピンの京都とも言われる治安の良いラワグ市(首都マニラから飛行機で1時間)にあり、広大なキャンパスに幼稚園から大学院までを擁する総合大学です。初めて海外語学研修に参加する学生向けの「少人数の英語能力強化コース」と教職を目指す学生向けの「英語での教育実習体験コース」があります。どちらも大学院生のチューターと英文科の学生がフレンドリーに支援してくれますので、自然に英語を話せるようになる環境にあります。年2回実施している本学1番人気のプログラムです。	台北市郊外に位置する総合大学で、キャンパス内に衣・住・食の全てが完備されており、非常に環境が整っています。中国語を学ぶ留学生が多いにも関わらず、少人数指導が行われています。大学寮では多国籍の学生と共に過ごし、日常的に異文化交流ができます。本学の交換留学協定校にもなっており、双方の授業料免除にて半年～1年間の留学が可能です。
特徴	★計120時間の英語クラス(発音・ディスカッション・ボキャブラリー等)が組まれています。 ★学校内では「English Only」・母国語での会話が禁止されています。	★話す&聞くに重点を置きつつ、4技能をバランスよく学びます。 ★クラスはレベル別で、授業の後もクラスメートと一緒に課外活動が楽しめます。	★語学学習(午前) + アクティビティ(午後)という研修内容で、実際に街に出て英語や異文化を学びます。	★英語教員他、現地大学生がチューターとして生活もサポートします。 ★渡航前にはスカイプ英会話(10回)を受講できます。	★日本語学科の学生(台湾人)が学習や生活をサポートしてくれるため、中国語初級レベルの実力でも参加可能です。

【資料 7】-1 既修単位の読替表

2年次編入 教育学部こども教育学科 読替表

区分	授業科目名	単位	開講年次	履修方法	こども教育学科	読替可否	読替条件または可否理由	読替単位
教養教育科目	敬天愛人講座	2	1	必修科目	12単位必修 ※必修科目以外の科目を8単位以上選択	不可	本学独自の建学の精神等を学ぶ授業のため	
	口頭表現	2	1			可	初年次教育(主に口頭表現に関する授業)	
	文章表現	2	1			可	初年次教育(主に文章表現に関する授業)	
	哲学	2	1 2			可	哲学に関する授業	
	文学	2	1 2			可	文学に関する授業	
	国際関係入門	2	1 2			可	国際社会(日本と海外との関係等)に関する授業	
	法学	2	1 2			可	法学に関する授業	
	憲法	2	1			可	憲法(日本国憲法)に関する授業	
	歴史学	2	1 2			可	歴史に関する授業	
	心理学	2	1 2			可	心理に関する授業	
	基礎数学	2	1 2			可	初年次教育(主に数学に関する授業)	
	基礎統計	2	1 2			可	統計に関する授業	
	健康運動科学	2	1			可	体育に関する授業	
	ボランティア活動	2	1 2			可	地域・教育問わずボランティアに関する授業	
	情報概論	2	1 2	可	情報に関する授業			
	情報処理Ⅰ(情報基礎)	1	1	必修科目	可	情報機器の操作(主に情報基礎に関する授業)		
	情報処理Ⅱ(プレゼンテーション演習)	1	1	必修科目	可	情報機器の操作(主にプレゼンテーションに関する授業)		
	海外スクーリングⅠ	2	1 2 3 4	可	海外でのスクーリングに関する授業(東南アジア)			
	海外スクーリングⅡ	2	1 2 3 4	可	海外でのスクーリングに関する授業(東南アジア以外)			
	外国語科目	College English I	2	1	必修科目	可	外国語コミュニケーションに関する授業Ⅰ(4技能基礎)	
		College English II	2	1	必修科目	可	外国語コミュニケーションに関する授業Ⅱ(4技能基礎)	
		College English III	2	2	不可	履修学年でないため		
		College English IV	2	2	不可	履修学年でないため		
		Writing I	1	1 2 3 4	可	外国語コミュニケーションに関する授業Ⅰ(書くこと基礎)		
		Writing II	1	1 2 3 4	可	外国語コミュニケーションに関する授業Ⅱ(書くこと応用)		
		Listening I	1	1 2 3 4	可	外国語コミュニケーションに関する授業Ⅰ(聞くこと基礎)		
Listening II		1	1 2 3 4	可	外国語コミュニケーションに関する授業Ⅱ(聞くこと基礎)			
Speaking I		1	1 2 3 4	可	外国語コミュニケーションに関する授業Ⅰ(話すこと基礎)			
Speaking II		1	1 2 3 4	可	外国語コミュニケーションに関する授業Ⅱ(話すこと応用)			
Debate I		1	1 2 3 4	可	外国語コミュニケーションに関する授業Ⅰ(聞く話す基礎)			
Debate II		1	1 2 3 4	可	外国語コミュニケーションに関する授業Ⅱ(聞く話す応用)			
Mother Goose		1	1 2	可	小学校英語に関する授業(主:Mother Goose)			

2年次編入 教育学部こども教育学科 読替表

区分	授業科目名	単位	開講年次	履修方法	こども教育学科	読替可否	読替条件または可否理由	読替単位
	海外語学研修Ⅰ	2	1 2 3 4			可	海外での語学に関する研修(東南アジア)	
	海外語学研修Ⅱ	2	1 2 3 4			可	海外での語学に関する研修(東南アジア以外)	
	キャリアプランニング	2	1			可	キャリア教育に関する初歩的な授業	
	キャリアデザイン	2	2			不可	履修学年でないため	
	キャリアディベロップメント	2	2			不可	履修学年でないため	
専門教育科目	専門基礎科目							
	教育原論	2	1	必修科目	60単位必修 ※必修科目以外 の科目を36単位 以上選択	可	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する授業	
	発達心理学	2	1	必修科目		可	幼児・児童及び生徒の心身の発達(発達心理)及び学習の課程に関する授業	
	教育行政	2	2			不可	履修学年でないため	
	教育課程論(小学校)	2	1	必修科目		可	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む。)に関する授業	
	教職概論	2	1	必修科目		可	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)に関する授業	
	教育方法・技術論(小学校)	2	2	必修科目		可	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)に関する授業	
	国語(書写を含む。)	2	2			可	国語(書写を含む。)に関する授業	
	社会	2	2			可	社会に関する授業	
	算数	2	2			可	算数に関する授業	
	理科	2	1			可	理科に関する授業	
	生活	2	2			不可	履修学年でないため	
	音楽	2	1			可	音楽に関する授業	
	図画工作	2	1			可	図画工作に関する授業	
	家庭	2	1			可	家庭に関する授業	
	体育	2	1			可	体育に関する授業	
	小学校英語Ⅰ	2	1	必修科目		可	外国語(小学校英語)に関する基礎的な授業	
	小学校英語Ⅱ	2	2			不可	履修学年でないため	
	1年基礎演習Ⅰ	1	1	必修科目		可	主にグループワークを中心とした基礎演習	
	1年基礎演習Ⅱ	1	1	必修科目		可	主にディスカッションを中心とした基礎演習	
2年応用演習Ⅰ	1	2	必修科目	不可		履修学年でないため		
2年応用演習Ⅱ	1	2	必修科目	不可	履修学年でないため			
専門教育科目	専門基礎科目							
	こども学Ⅰ	2	2	必修科目		不可	本学独自の授業のため	
	こども学Ⅱ	2	3	必修科目		不可	履修学年でないため	
	教育心理学	2	2	必修科目		不可	履修学年でないため	
	教育法規	2	2			不可	履修学年でないため	
	生徒・進路指導論(小学校)	2	3	必修科目		不可	履修学年でないため	
特別支援教育概論(小学校)	2	3	必修科目		不可	履修学年でないため		

2年次編入 教育学部こども教育学科 読替表

区分	授業科目名	単位	開講年次	履修方法	こども教育学科	読替可否	読替条件または可否理由	読替単位	
	<b>教育相談(小学校)</b>	2	3	必修科目		不可	履修学年でないため		
	<b>初等国語科指導法</b>	2	2			不可	履修学年でないため		
	<b>初等社会科指導法</b>	2	2			不可	履修学年でないため		
	<b>算数科指導法</b>	2	2			不可	履修学年でないため		
	<b>初等理科指導法</b>	2	2			不可	履修学年でないため		
	<b>生活科指導法</b>	2	3			不可	履修学年でないため		
	<b>初等音楽科指導法</b>	2	2			不可	履修学年でないため		
	<b>図画工作科指導法</b>	2	1			可	国図画工作の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)に関する授業		
	<b>初等家庭科指導法</b>	2	1			可	家庭の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)に関する授業		
	<b>初等体育科指導法</b>	2	1			可	体育の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)に関する授業		
	<b>小学校英語指導法Ⅰ</b>	2	2			不可	履修学年でないため		
	小学校英語指導法Ⅱ	2	3			不可	履修学年でないため		
	<b>道徳教育指導法(小学校)</b>	2	3			不可	履修学年でないため		
	<b>総合的な学習の時間の指導法(小学校)</b>	2	2			不可	履修学年でないため		
	<b>特別活動指導法(小学校)</b>	2	3			不可	履修学年でないため		
	専門展開科目	文学教材研究	2	2 3 4	必修科目		不可	履修学年でないため	
		数と形の不思議	2	2 3 4			不可	履修学年でないため	
		プログラミング教育	2	2 3 4			不可	履修学年でないため	
		理科の観察実験	1	2 3 4			不可	履修学年でないため	
		科学教育論	2	2 3 4			不可	履修学年でないため	
		音楽と表現	1	2 3 4			不可	履修学年でないため	
		造形と表現	1	2 3 4			不可	履修学年でないため	
		<b>教育社会学</b>	2	2 3 4			不可	履修学年でないため	
		メディアリテラシー教育	2	2 3 4			不可	履修学年でないため	
		学校の安全教育	2	2 3 4			不可	履修学年でないため	
		学級担任と読書	2	2 3 4			不可	履修学年でないため	
		社会教育概論	2	2 3 4			不可	履修学年でないため	
		多文化教育論	2	2 3 4			不可	履修学年でないため	
		世界のこども教育	2	2 3 4			不可	履修学年でないため	
教育哲学	2	2 3 4	不可	履修学年でないため					
こども教育演習Ⅰ	1	3	不可	履修学年でないため					
こども教育演習Ⅱ	1	3	不可	履修学年でないため					
こども教育演習Ⅲ	1	4	不可	履修学年でないため					

2年次編入 教育学部こども教育学科 読替表

区分	授業科目名	単位	開講年次	履修方法	こども教育学科	読替可否	読替条件または可否理由	読替単位
	<b>教育実習指導</b>	1	3			不可	履修学年でないため	
	<b>教育実習</b>	4	3			不可	履修学年でないため	
	<b>教職実践演習(小学校)</b>	2	4			不可	履修学年でないため	
	日本語学	2	2 3			不可	履修学年でないため	
	異文化コミュニケーション	2	2 3			不可	履修学年でないため	
	比較文化論	2	2 3			不可	履修学年でないため	
	日本文化論	2	2 3 4			不可	履修学年でないため	
	児童文学論	2	2 3 4			不可	履修学年でないため	
	英米児童文学	2	2 3 4			不可	履修学年でないため	
	専門研究	3年次専門研究Ⅰ	2	3	必修科目	不可	履修学年でないため	
		3年次専門研究Ⅱ	2	3	必修科目	不可	履修学年でないため	
		4年次専門研究Ⅰ	2	4	必修科目	不可	履修学年でないため	
		4年次専門研究Ⅱ	2	4	必修科目	不可	履修学年でないため	
卒業研究		2	4		不可	履修学年でないため		
		卒業要件単位数			124	2年次編入単位数(上限38単位)		

【資料 7】-2 既修単位の読替表

3年次編入 教育学部こども教育学科 読替表

区分	授業科目名	単位	開講年次	履修方法	こども教育学科	読替可否	読替条件または可否理由	読替単位
教養教育科目	敬天愛人講座	2	1		12単位必修	不可	本学独自の建学の精神等を学ぶ授業のため(但し、同学校法人内であれば認める)	
	口頭表現	2	1	必修科目	※必修科目以外の科目を8単位以上選択	可	初年次教育(主に口頭表現に関する授業)	
	文章表現	2	1	必修科目		可	初年次教育(主に文章表現に関する授業)	
	哲学	2	1 2			可	哲学に関する授業	
	文学	2	1 2			可	文学に関する授業	
	国際関係入門	2	1 2	必修科目		可	国際社会(日本と海外との関係等)に関する授業	
	法学	2	1 2			可	法学に関する授業	
	憲法	2	1			可	憲法(日本国憲法)に関する授業	
	歴史学	2	1 2			可	歴史に関する授業	
	心理学	2	1 2			可	心理に関する授業	
	基礎数学	2	1 2			可	初年次教育(主に数学に関する授業)	
	基礎統計	2	1 2			可	統計に関する授業	
	健康運動科学	2	1			可	体育に関する授業	
	ボランティア活動	2	1 2			可	地域・教育問わずボランティアに関する授業	
	情報概論	2	1 2			可	情報に関する授業	
	情報処理Ⅰ(情報基礎)	1	1	必修科目		可	情報機器の操作(主に情報基礎に関する授業)	
	情報処理Ⅱ(プレゼンテーション演習)	1	1	必修科目	可	情報機器の操作(主にプレゼンテーションに関する授業)		
	海外スクーリングⅠ	2	1 2 3 4		可	海外でのスクーリングに関する授業(東南アジア)		
	海外スクーリングⅡ	2	1 2 3 4		可	海外でのスクーリングに関する授業(東南アジア以外)		
	外国語科目	College English I	2	1	必修科目	可	外国語コミュニケーションに関する授業Ⅰ(4技能基礎)	
		College English II	2	1	必修科目	可	外国語コミュニケーションに関する授業Ⅱ(4技能基礎)	
		College English III	2	2		可	外国語コミュニケーションに関する授業Ⅲ(4技能応用)	
		College English IV	2	2		可	外国語コミュニケーションに関する授業Ⅳ(4技能応用)	
		Writing I	1	1 2 3 4		可	外国語コミュニケーションに関する授業Ⅰ(書くこと基礎)	
		Writing II	1	1 2 3 4		可	外国語コミュニケーションに関する授業Ⅱ(書くこと応用)	
		Listening I	1	1 2 3 4		可	外国語コミュニケーションに関する授業Ⅰ(聞くこと基礎)	
		Listening II	1	1 2 3 4		可	外国語コミュニケーションに関する授業Ⅱ(聞くこと基礎)	
Speaking I		1	1 2 3 4		可	外国語コミュニケーションに関する授業Ⅰ(話すこと基礎)		
Speaking II		1	1 2 3 4		可	外国語コミュニケーションに関する授業Ⅱ(話すこと応用)		
Debate I		1	1 2 3 4		可	外国語コミュニケーションに関する授業Ⅰ(聞く話す基礎)		
Debate II		1	1 2 3 4		可	外国語コミュニケーションに関する授業Ⅱ(聞く話す応用)		
Mother Goose		1	1 2		可	小学校英語に関する授業(主:Mother Goose)		

3年次編入 教育学部こども教育学科 読替表

区分	授業科目名	単位	開講年次	履修方法	こども教育学科	読替可否	読替条件または可否理由	読替単位	
	海外語学研修Ⅰ	2	1 2 3 4			可	海外での語学に関する研修(東南アジア)		
	海外語学研修Ⅱ	2	1 2 3 4			可	海外での語学に関する研修(東南アジア以外)		
	キャリア ア 科 目	キャリアプランニング	2	1			可	キャリア教育に関する初歩的な授業	
		キャリアデザイン	2	2			可	キャリア教育に関する基礎的な授業	
		キャリアディベロップメント	2	2			可	キャリア教育に関する応用的な授業	
専門 教育 科 目	専門 基 礎 科 目	教育原論	2	1	必修科目	60単位必修 ※必修科目以外 の科目を36単 位 以下選択	可	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する授業	
		発達心理学	2	1	必修科目		可	幼児・児童及び生徒の心身の発達(発達心理)及び学習の課程に関する授業	
		教育行政	2	2			可	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項に関する授業	
		教育課程論(小学校)	2	1	必修科目		可	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラムマネジメントを含む。)に関する授業	
		教職概論	2	1	必修科目		可	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)に関する授業	
		教育方法・技術論(小学校)	2	2	必修科目		可	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)に関する授業	
		国語(書写を含む。)	2	2			可	国語(書写を含む。)に関する授業	
		社会	2	2			可	社会に関する授業	
		算数	2	2			可	算数に関する授業	
		理科	2	1			可	理科に関する授業	
		生活	2	2			可	生活に関する授業	
		音楽	2	1			可	音楽に関する授業	
		図画工作	2	1			可	図画工作に関する授業	
		家庭	2	1			可	家庭に関する授業	
		体育	2	1			可	体育に関する授業	
		小学校英語Ⅰ	2	1	必修科目		可	外国語(小学校英語)に関する基礎的な授業	
		小学校英語Ⅱ	2	2			可	外国語(小学校英語)に関する応用的な授業	
		1年基礎演習Ⅰ	1	1	必修科目		可	課題解決を中心とした基礎演習(主にグループディスカッション)	
		1年基礎演習Ⅱ	1	1	必修科目		可	課題解決を中心とした基礎演習(主にグループワーク)	
		2年応用演習Ⅰ	1	2	必修科目		可	課題解決を中心とした応用演習(主にグループディスカッション)	
2年応用演習Ⅱ	1	2	必修科目	可	課題解決を中心とした応用演習(主にグループワーク)				
専門 教育 科 目	専門 基 幹 科 目	こども学Ⅰ	2	2	必修科目		不可	本学独自の授業のため	
		こども学Ⅱ	2	3	必修科目		不可	履修学年でないため	
		教育心理学	2	2	必修科目		可	幼児・児童及び生徒の心身の発達(教育心理)及び学習の課程に関する授業	
		教育法規	2	2			可	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項に関する授業	
		生徒・進路指導論(小学校)	2	3	必修科目		不可	履修学年でないため	
		特別支援教育概論(小学校)	2	3	必修科目		不可	履修学年でないため	
		教育相談(小学校)	2	3			不可	履修学年でないため	

3年次編入 教育学部こども教育学科 読替表

区分	授業科目名	単位	開講年次	履修方法	こども教育学科	読替可否	読替条件または可否理由	読替単位
専門 展開 科目	初等国語科指導法	2	2	必修科目		可	国語(書写を含む。)の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)に関する授業	
	初等社会科指導法	2	2	必修科目		可	社会の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)に関する授業	
	算数科指導法	2	2	必修科目		可	算数の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)に関する授業	
	初等理科指導法	2	2	必修科目		可	理科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)に関する授業	
	生活科指導法	2	3	必修科目		不可	履修学年でないため	
	初等音楽科指導法	2	2	必修科目		可	音楽の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)に関する授業	
	図画工作科指導法	2	1	必修科目		可	図画工作の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)に関する授業	
	初等家庭科指導法	2	1	必修科目		可	家庭の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)に関する授業	
	初等体育科指導法	2	1	必修科目		可	体育の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)に関する授業	
	小学校英語指導法Ⅰ	2	2	必修科目		可	外国語(小学校英語)の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)に関する授業	
	小学校英語指導法Ⅱ	2	3			不可	履修学年でないため	
	道徳教育指導法(小学校)	2	3	必修科目		不可	履修学年でないため	
	総合的な学習の時間の指導法(小学校)	2	2	必修科目		可	総合的な学習の時間の指導法に関する授業	
	特別活動指導法(小学校)	2	3			不可	履修学年でないため	
	文学教材研究	2	2 3 4			可	国語の学習指導案検討に関する授業	
	数と形の不思議	2	2 3 4			可	算数の学習指導案検討に関する授業	
	プログラミング教育	2	2 3 4			可	小学校でのプログラミング教育(スクラッチ等)に関する授業	
	理科の観察実験	1	2 3 4			可	理科の実験に関する授業	
	科学教育論	2	2 3 4			可	理科の科学教育に関する授業	
	音楽と表現	1	2 3 4			可	音楽実技に関する授業	
	造形と表現	1	2 3 4			可	図画工作実技に関する授業	
	教育社会学	2	2 3 4	必修科目		可	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項に関する授業	
	メディアリテラシー教育	2	2 3 4			可	メディアリテラシーに関する授業	
	学校の安全教育	2	2 3 4			可	学校の危機管理・安全に関する授業	
	学級担任と読書	2	2 3 4			可	学級担任を続けていく上での必要な読書活動に関する授業	
	社会教育概論	2	2 3 4			可	生涯学習社会(主に社会教育)における教育や学習に関する授業	
	多文化教育論	2	2 3 4			可	生涯学習社会(主に多文化教育)における教育や学習に関する授業	
	世界のこども教育	2	2 3 4			可	世界のこども教育(学校教育)に関する授業	
	教育哲学	2	2 3 4			可	教育哲学に関する授業	
	こども教育演習Ⅰ	1	3			不可	履修学年でないため	
	こども教育演習Ⅱ	1	3			不可	履修学年でないため	
	こども教育演習Ⅲ	1	4			不可	履修学年でないため	
	教育実習指導	1	3			不可	履修学年でないため	
教育実習	4	3			不可	履修学年でないため		

3年次編入 教育学部こども教育学科 読替表

区分	授業科目名	単位	開講年次	履修方法	こども教育学科	読替可否	読替条件または可否理由	読替単位
	教職実践演習(小学校)	2	4			不可	履修学年でないため	
	日本語学	2	2 3			可	日本語に関する授業	
	異文化コミュニケーション	2	2 3			可	異文化の理解に関する授業	
	比較文化論	2	2 3			可	文化の比較に関する授業	
	日本文化論	2	2 3 4			可	日本文化に関する授業	
	児童文学論	2	2 3 4			可	児童文学に関する授業	
	英米児童文学	2	2 3 4			可	児童文学(英米)に関する授業	
	専門研究	3年次専門研究 I	2	3	必修科目	不可	履修学年でないため	
		3年次専門研究 II	2	3	必修科目	不可	履修学年でないため	
		4年次専門研究 I	2	4	必修科目	不可	履修学年でないため	
		4年次専門研究 II	2	4	必修科目	不可	履修学年でないため	
卒業研究		2	4		不可	履修学年でないため		
		卒業要件単位数			124	3年次編入単位数(上限60単位)		

【資料 8】-1 編入学者への履修指導表

2年次編入の単位認定読替

学籍番号			
氏名		1年基礎演習Ⅰ・Ⅱ	2
編入推奨年次	2年	2年次専門研究Ⅰ・Ⅱ	
出身	千葉敬愛短期大学	3年次専門研究Ⅰ・Ⅱ	

科目区分	千葉敬愛短期大学 取得科目	単位	敬愛大学科目	単位	必修科目	認定 単位	
教養科目	敬天愛人・キャリアサポートⅠ	1	敬天愛人講座	2		2	
	敬天愛人・キャリアサポートⅡ	1					
			口頭表現	2	2		
	文章表現法	2	文章表現	2	2	2	
			哲学	2			
			文学	2			
			国際関係入門	2	2		
			法学	2			
	日本国憲法	2	憲法	2		2	
			歴史学	2			
			心理学	2			
			基礎数学	2			
			基礎統計	2			
	基礎体育講義	1	健康運動科学	2		2	
	基礎体育実技	1					
	外国語科目			ボランティア活動	2		
			情報概論	2			
情報処理		2	情報処理Ⅰ（情報基礎）	1	1	1	
			情報処理Ⅱ（プレゼンテーション演習）	1	1	1	
			海外スクーリングⅠ	2			
			海外スクーリングⅡ	2			
英語		英語コミュニケーション	2	College EnglishⅠ	2	2	2
				College EnglishⅡ	2	2	
				College EnglishⅢ	2		
				College EnglishⅣ	2		
				WritingⅠ	1		
				WritingⅡ	1		
				ListeningⅠ	1		
				ListeningⅡ	1		
				SpeakingⅠ	1		
				SpeakingⅡ	1		
			DebateⅠ	1			
			DebateⅡ	1			
		Mother Goose	1				
		海外語学研修Ⅰ	2				
		海外語学研修Ⅱ	2				
キャリア科目			キャリアプランニング	2			
			キャリアデザイン	2			
			キャリアディベロップメント	2			
<b>12単位以上</b>	<b>小計</b>		<b>63</b>	<b>12</b>	<b>12</b>		
専門教育科目	教育原理	2	教育原論	2	2	2	
			発達心理学	2	2		
	教育制度	2	教育行政	2			
	教育・保育課程論	2	教育課程論（小学校）	2	2	2	
	教師像	2	教職概論	2	2	2	
	教育方法	2	教育方法・技術論（小学校）	2	2		
	国語（書写含む）	2	国語（書写を含む）	2			
	社会		社会	2			
	算数	2	算数	2			
	理科		理科	2		2	
	生活	2	生活	2			
	音楽	2	音楽	2		2	
	図画工作	2	図画工作	2		2	
家庭		家庭	2		2		

		体育	2	体育	2		2	
		英語	2	小学校英語 I	2	2	2	
				小学校英語 II	2			
		保育実習指導 I (保育所)	1	1年基礎演習 I	1	1	1	
		保育実習指導 I (施設)	1	1年基礎演習 II	1	1	1	
				2年応用演習 I	1	1		
				2年応用演習 II	1	1		
専門基幹科目				こども学 I	2	2		
				こども学 II	2	2		
		教育心理学	2	教育心理学	2	2		
				教育法規	2			
		生徒指導法	2	生徒・進路指導論 (小学校)	2	2		
		進路指導法	2					
		特別支援教育	2	特別支援教育概論 (小学校)	2	2		
		教育相談 (カウンセリングを含む)	2	教育相談 (小学校)	2			
		国語教育法	2	初等国語科指導法	2	2		
		社会教育法	2	初等社会科指導法	2	2		
		算数教育法	2	算数科指導法	2	2		
		理科教育法	2	初等理科指導法	2	2		
		生活教育法	2	生活科指導法	2	2		
		音楽教育法	2	初等音楽科指導法	2	2		
		図工教育法	2	図画工作科指導法	2	2		
		家庭教育法	2	初等家庭科指導法	2	2		
		体育教育法	2	初等体育科指導法	2	2		
		英語教育法	2	小学校英語指導法 I	2	2		
					小学校英語指導法 II	2		
		道徳教育の理論と方法	2	道徳教育指導法 (小学校)	2	2		
		総合的な学習の時間の指導法	2	総合的な学習の時間の指導法 (小学	2	2		
		特別活動の理論と方法	2	特別活動指導法 (小学校)	2			
	専門教育科目	専門展開科目			文学教材研究	2		
					数と形の不思議	2		
					プログラミング教育	2		
					理科の観察実験	1		
					科学教育論	2		
			音楽 (器楽 I)	2	音楽と表現	1		
					造形と表現	1		
					教育社会学	2	2	
			情報メディアの活用	2	メディアリテラシー教育	2		
					学校の安全教育	2		
			読書と豊かな心	2	学級担任と読書	2		
					社会教育概論	2		
					多文化教育論	2		
					世界のこども教育	2		
					教育哲学	2		
					こども教育演習 I	1		
					こども教育演習 II	1		
					こども教育演習 III	1		
					教育実習指導	1		
					教育実習	4		
					教職実践演習 (小学校)	2		
					日本語学	2		
					異文化コミュニケーション	2		
					比較文化論	2		
					日本文化論	2		
			児童文化 I	2	児童文学論	2		
					英米児童文学	2		
専門研究				3年次専門研究 I	2	2		
				3年次専門研究 II	2	2		
				4年次専門研究 I	2	2		
				4年次専門研究 II	2	2		
				卒業研究	2			
	60単位以上	小計		139	60	20		
		単位数	82	単位数	202	72	32	

【資料 8】-2 編入学者への履修指導表

3年次編入の単位認定読替

学籍番号						
氏名			1年基礎演習Ⅰ・Ⅱ	2		
編入推奨年次		3年	2年次専門研究Ⅰ・Ⅱ	0		
出身		千葉敬愛短期大学	3年次専門研究Ⅰ・Ⅱ			
科目区分	千葉敬愛短期大学 取得科目	単位	敬愛大学科目	単位	必修科目	認定 単位
教養科目	敬天愛人・キャリアサポートⅠ	1	敬天愛人講座	2		2
	敬天愛人・キャリアサポートⅡ	1				
			口頭表現	2	2	
	文章表現法	2	文章表現	2	2	2
			哲学	2		
			文学	2		
			国際関係入門	2	2	
			法学	2		
	日本国憲法	2	憲法	2		2
			歴史学	2		
			心理学	2		
			基礎数学	2		
			基礎統計	2		
	基礎体育講義	1	健康運動科学	2		2
	基礎体育実技	1				
			ボランティア活動	2		
		情報概論	2			
情報処理	2	情報処理Ⅰ（情報基礎）	1	1	1	
		情報処理Ⅱ（プレゼンテーション演習）	1	1	1	
		海外スクーリングⅠ	2			
		海外スクーリングⅡ	2			
外国語科目	英語コミュニケーション	2	College EnglishⅠ	2	2	2
			College EnglishⅡ	2	2	
			College EnglishⅢ	2		
			College EnglishⅣ	2		
			WritingⅠ	1		
			WritingⅡ	1		
			ListeningⅠ	1		
			ListeningⅡ	1		
			SpeakingⅠ	1		
			SpeakingⅡ	1		
			DebateⅠ	1		
			DebateⅡ	1		
			Mother Goose	1		
			海外語学研修Ⅰ	2		
			海外語学研修Ⅱ	2		
	キャリア科目			キャリアプランニング	2	
			キャリアデザイン	2		
			キャリアディベロップメント	2		
	<b>12単位以上</b>	<b>小計</b>		<b>63</b>	<b>12</b>	<b>12</b>
専門教育科目	教育原理	2	教育原論	2	2	2
			発達心理学	2	2	
	教育制度	2	教育行政	2		2
	教育・保育課程論	2	教育課程論（小学校）	2	2	2
	教師像	2	教職概論	2	2	2
	教育方法	2	教育方法・技術論（小学校）	2	2	2
	国語（書写含む）	2	国語（書写を含）	2		2
	社会	2	社会	2		
	算数	2	算数	2		2
	理科	2	理科	2		
	生活	2	生活	2		2
	音楽	2	音楽	2		2
	図画工作	2	図画工作	2		2
	家庭	2	家庭	2		
	体育	2	体育	2		2
	英語	2	小学校英語Ⅰ	2	2	2
			小学校英語Ⅱ	2		
	保育実習指導Ⅰ（保育所）	1	1年基礎演習Ⅰ	1	1	1
保育実習指導Ⅰ（施設）	1	1年基礎演習Ⅱ	1	1	1	
		2年応用演習Ⅰ	1	1		

専門教育科目	専門基幹科目		2年応用演習 II	1	1		
			こども学 I	2	2		
			こども学 II	2	2		
		教育心理学	2	教育心理学	2	2	2
			教育法規	2			
		生徒指導法	2	生徒・進路指導論 (小学校)	2	2	
		進路指導法	2				
		特別支援教育	2	特別支援教育概論 (小学校)	2	2	
		教育相談 (カウンセリングを含む)	2	教育相談 (小学校)	2		
		国語教育法	2	初等国語科指導法	2	2	
		社会教育法	2	初等社会科指導法	2	2	
		算数教育法	2	算数科指導法	2	2	
		理科教育法	2	初等理科指導法	2	2	
		生活教育法	2	生活科指導法	2	2	
		音楽教育法	2	初等音楽科指導法	2	2	
		図工教育法	2	図画工作科指導法	2	2	
		家庭教育法	2	初等家庭科指導法	2	2	
		体育教育法	2	初等体育科指導法	2	2	
		英語教育法	2	小学校英語指導法 I	2	2	
				小学校英語指導法 II	2		
	道徳教育の理論と方法	2	道徳教育指導法 (小学校)	2	2		
	総合的な学習の時間の指導法	2	総合的な学習の時間の指導法 (小学	2	2		
	特別活動の理論と方法	2	特別活動指導法 (小学校)	2			
	専門展開科目		文学教材研究	2			
			数と形の不思議	2			
			プログラミング教育	2			
			理科の観察実験	1			
			科学教育論	2			
		音楽 (器楽 I)	2	音楽と表現	1		1
			造形と表現	1			
			教育社会学	2	2		
		情報メディアの活用	2	メディアリテラシー教育	2		2
			学校の安全教育	2			
読書と豊かな心		2	学級担任と読書	2		2	
		社会教育概論	2				
		多文化教育論	2				
		世界のこども教育	2				
		教育哲学	2				
		こども教育演習 I	1				
		こども教育演習 II	1				
		こども教育演習 III	1				
		教育実習指導	1				
		教育実習	4				
		教職実践演習 (小学校)	2				
		日本語学	2				
		異文化コミュニケーション	2				
	比較文化論	2					
	日本文化論	2					
児童文化 I	2	児童文学論	2		2		
	英米児童文学	2					
専門研究		3年次専門研究 I	2	2			
		3年次専門研究 II	2	2			
		4年次専門研究 I	2	2			
		4年次専門研究 II	2	2			
		卒業研究	2				
60単位以上	小計		139	60	35		
	単位数	88	単位数	202	72	47	

## 学校法人千葉敬愛学園 規程集

[トップページに戻る](#)

[最上位](#) > [第2編 教学](#) > [第1章 学長、教授会等](#)

### 敬愛大学運営会議規程

最終改正 平成29年3月21日

(設置)

第1条 [敬愛大学学則第35条第2項](#)に基づき、本学の運営を円滑に行うために、大学運営会議を置く。

(構成)

第2条 大学運営会議は、次の各号の構成員（以下「運営委員」という。）をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学部長
- (4) 教務部長、学生部長、研究所長、メディアセンター長、アドミッションセンター長、キャリアセンター長、地域連携センター長
- (5) 大学事務局長

(任期)

第3条 前条の運営委員の任期は、その職務の任期中とする。

(諮問事項)

第4条 大学運営会議は、次の事項について学長の諮問に基づき、意見を述べることができる。

- (1) 学則その他重要な規則の制定、改廃に関する事項
- (2) 学部、学科及びその他重要な組織の設置、廃止に関する事項
- (3) 教員人事の基本方針に関する事項
- (4) 収容定員に関する事項
- (5) 学部、その他の機関との連絡調整に関する事項
- (6) 本学の教育研究体制の整備に関する事項
- (7) その他、本学の運営に関する事項

(会議)

第5条 学長は大学運営会議を招集し、その議長となる。

2 学長に事故あるときは、学長があらかじめ指名した運営委員が、その職務を代行する。

3 前条第1項各号について運営委員から請願があるときには、学長は、会議を招集しなければならない。

4 大学運営会議は、原則として毎月開催する。ただし、必要がある場合は臨時に開催することができる。

(意見聴取)

第6条 学長が必要と認めたときは、運営委員以外の者を会議に出席させて、意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 大学運営会議の庶務は、大学運営室が処理する。

2 大学運営会議の議事の経過及び決定事項は、記録する。

3 議事録は運営委員が署名し、次回の大学運営会議において確認を得る。

(規程の改廃)

第8条 この規程の改廃は、大学運営会議の議を経て、理事会の承認を要する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるほか、必要な事項は、大学運営会議の議を経て学長が定める。

附 則

この規程は、平成9年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年11月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成28年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成28年12月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日より施行する。

【資料 10】

## 学校法人千葉敬愛学園 規程集

[トップページに戻る](#)[最上位](#) > [第2編 教学](#) > [第2章 教員](#)

### 学校法人千葉敬愛学園SD委員会規程

平成31年1月24日 制定

(設置)

第1条 学校法人千葉敬愛学園（以下「本学園」という。）は、第2条に掲げる目的に向けた取り組みを推進するための組織として、学校法人千葉敬愛学園SD委員会（以下「委員会」という）を設置する。

(目的)

第2条 委員会は、本学園の運営に係る事務職員の能力及び資質の向上を図るため、必要な知識及び技能を習得させることを目的としたSD活動を推進し、そのために必要な業務を行うことを目的とする。

(業務)

第3条 委員会は、次に掲げる業務を行う。

- (1) SD活動に関する実施方針・計画の策定
- (2) SD活動の企画・実施
- (3) SD活動に関する情報の収集
- (4) その他SD活動に関すること

(構成)

第4条 委員会は、次の者をもって組織する。

- (1) 学園事務局長及び法人運営室長
- (2) 大学事務局長及び大学運営室長
- (3) 短大事務局長及び短大事務室長
- (4) 千葉敬愛高等学校事務長
- (5) 敬愛学園高等学校事務長

2 委員長は、学園事務局長とする。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が召集し、議長となる。

2 委員長は、必要と認めた場合、委員以外の者を出席させることができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、法人運営室が行う。

(規程の改廃)

第7条 この規程の改廃は、常務理事会の議を経て、理事長が決定する。

附 則

1 この規程は、平成31年2月1日から施行する。

- 2 敬愛大学・千葉敬愛短期大学スタッフ・ディベロップメント（SD）規程（平成21年3月25日制定）は、廃止する。
- 3 敬愛大学・千葉敬愛短期大学スタッフ・ディベロップメント（SD）委員会規程（平成29年9月1日制定）は、廃止する。

# 学校法人千葉敬愛学園 規程集

[トップページに戻る](#)

[最上位](#) > [第2編 教学](#) > [第2章 教員](#)

## 敬愛大学FD・SD委員会規程

平成20年4月1日 制定  
最終改正 平成30年12月18日

(目的)

第1条 この規程は、敬愛大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するとともに、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため教職員に必要な知識及び技能を習得させ、その能力及び資質を向上させるための研修を実施するために敬愛大学FD・SD委員会（以下「委員会」という。）を置き、その運営等に関する必要な事項を定めるものとする。

(構成)

第2条 委員会は、次の委員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 各学部長
- (4) 教務部長
- (5) 各学部の教務委員長
- (6) 大学事務局長
- (7) 修学支援室長、大学運営室長
- (8) 学長が委嘱する委員 若干名

2 委員長は学長とし、副委員長は学長が指名した委員をもって充てる。

3 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(審議事項)

第3条 委員会は、各学部のFD・SD活動が持続的に実施されるよう次の事項について審議する。

- (1) FD・SD活動の企画立案に関する事項
- (2) FD・SD活動の実施計画の立案に関する事項
- (3) FD・SD活動の評価に関する事項
- (4) FD・SD活動に関する情報収集と提供に関する事項
- (5) その他FD・SD活動の推進に関する事項

(会議)

第4条 委員会の会議は、委員長が招集し、議長となる。

2 委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を行う。

3 委員長が必要と認めた場合、委員以外の者を出席させることができる。

4 委員会は、委員の過半数をもって成立し、出席委員の過半数により議決する。

(庶務)

第5条 委員会の庶務は、修学支援室及び大学運営室が行う。

(改廃)

第6条 この規程の改廃は、委員会及び大学運営会議の議を経て、学長が行う。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年11月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成28年12月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成31年2月1日から施行する。

## 学校法人千葉敬愛学園 規程集

[トップページに戻る](#)

[最上位](#) > [第7編 附置機関](#)

### 敬愛大学キャリアセンター規程

平成19年3月28日 制定  
最終改正 平成28年11月29日

(趣旨)

第1条 この規程は、敬愛大学キャリアセンター（以下「キャリアセンター」という。）の管理および運営に関する事項について定める。

(目的)

第2条 キャリアセンターは、敬愛大学の学生（以下「学生」という。）のキャリア形成支援および就職支援に関する業務を行い、就職力の向上を図ることを目的とする。

(業務)

第3条 キャリアセンターは、前条の目的を達成するために次の業務を行う。

- (1) 学生のキャリア教育の支援に関する事項
- (2) 学生の就職活動の支援に関する事項
- (3) 学生のキャリア形成のための各種講座の実施に関する事項
- (4) 就職・求人情報の収集および就職先企業等の開拓に関する事項
- (5) キャリア形成に係る情報の収集および管理に関する事項
- (6) 卒業生の進路情報の収集および管理に関する事項
- (7) その他、在学生・卒業生のキャリア形成および就職支援に関する事項

(組織)

第4条 キャリアセンターにセンター長および事務職員を置く。

- 2 センター長は、キャリアセンターの業務を統括し、事務職員をもって充てる。
- 3 センター長は、学長の指名に基づき、理事長が任命する。
- 4 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 5 センター長が任期中に欠員となったときの後任の任期は、その残任期間とする。

(委員会)

第5条 キャリアセンターにキャリアセンター運営委員会（以下「委員会」という。）を設ける。

- 2 委員会は、委員長が招集する。
- 3 委員会は、センター長、各学科の専任教員各1名以上の計5名以上による委員および事務職員若干名で構成する。
- 4 委員会の委員長は、前項に定める専任教員の互選により決定する。
- 5 委員会は、毎月1回開催するものとし、必要に応じて臨時に開催することができる。また、委員会の開催は文書によることを妨げない。
- 6 委員会は、キャリアセンター業務運営のために次の基本方策を審議・決定する。

- (1) 学生のキャリア教育に関する事項
- (2) 学生の就職・進路指導に関する事項
- (3) 企業等の就職情報の収集・管理および就職開拓に関する事項
- (4) 学生の各種資格取得等キャリア形成支援に関する事項
- (5) その他、委員会が必要と認めた事項

7 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(議決)

第6条 委員会は、委員の3分の2以上の出席により成立し、出席委員の過半数の賛成により議決する。賛否同数の場合は、委員長の決するところとする。

(事務所管)

第7条 この規程に関する事務は、キャリアセンター事務室が所管する。

(規程の改廃)

第8条 この規程の改廃は、委員会で検討し、大学運営会議の議を経て常務理事会で決定する。

附 則

1 この規程は、平成19年4月1日から施行する。

2 この規程の施行により、各学部の学生部委員会が所掌する就職に関する事項は削除する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成28年12月1日から施行する。

(1) 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生確保の見通し

ア 定員充足の見込み

教育学部こども教育学科の入学定員設定の考え方は、教育学部こども教育学科の基礎となる既設の国際学部の子ども教育学科の志願状況や就職状況を踏まえるとともに、千葉県に所在する高等学校及び本学への進学実績のある高等学校の2年生を対象とした進学需要等に関するアンケート調査の結果及び本学への求人実績や卒業生の採用実績がある教育機関等を対象とした人材需要等に関するアンケート調査の結果などを総合的に勘案したうえで、入学定員の72人は、十分な定員充足を見込むことができるものと考えている。編入学定員は国際学部こども教育学科における編入志願状況を踏まえ、2年次編入学定員1人、3年次編入学定員1人に留めた。

なお、教育学部こども教育学科の入学定員及び編入学定員については、既設の国際学部の子ども教育学科から移行することにより、大学全体の収容定員の変更を伴わない計画としており、既設の国際学部の子ども教育学科は、令和3年4月より学生募集を停止し、在学生の卒業を待って廃止することとしている。

(資料1) ⇒ 設置認可等に関わる組織の移行表

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

1 基礎となる学部・学科における最近5年間の志願者数等の状況

教育学部こども教育学科の基礎となる既設の国際学部の子ども教育学科の最近5年間の志願者数は、入学定員70人に対して、平成28年度149人、平成29年度160人、平成30年度164人。令和元年度以降は入学定員が72人となり、令和元年度211人、令和2年度236人と安定した志願者数の確保を維持している。最近5年間の入学定員に対する志願者の平均倍率は2.58倍、実質的な競争倍率である合格者数に対する受験者数の平均倍率は1.32倍となっている。

(資料2) ⇒ 基礎となる学部・学科の5年間の志願者数等の状況

また、教育学部こども教育学科の基礎となる既設の国際学部こども教育学科の最近5年間の編入学定員に対する志願者数は、2年次・3年次編入ともに志願者は0人である。しかし、小学校教諭二種免許取得者から一種免許取得への需要の高まりや、幼稚園教諭・保育資格を有する既卒者及び資格取得見込みの学生からの小学校教諭一種免許状取得に対する需要の高まりから、今後は編入希望者の増加が見込まれる。系列校の千葉敬愛短期大学及び近隣の小学校教諭二種免許状の課程を有する短期大学、幼稚園教諭免許課程や保育士資格課程の認定を有する短期大学への定期的な訪問により、編入学希望者の確保を目指す。

## 2 高校生に対する進学需要調査結果

教育学部こども教育学科の設置計画は、基礎となる既設の国際学部のこども教育学科の最近 5 年間の志願者数等の状況を踏まえたうえで計画していることから、十分な学生確保が見込めるものと考えられるが、教育学部こども教育学科の設置計画を策定するにあたり、学生確保の見通しを計量的な数値から確認することを目的として、千葉県を中心に所在する高等学校及び敬愛大学への進学実績のある高等学校の 2 年生に対する進学需要等に関するアンケート調査を実施した。

その結果、教育学部こども教育学科への興味・関心に関する質問に対しては、回答者数 8,089 人の約 18.41%にあたる 1,489 人が「興味・関心がある」と回答していることから、高校生のこども教育学科に対する興味・関心の高さをうかがうことができる。

(資料 3) ⇒ 高校生に対する進学需要調査結果 (抜粋)

一方、教育学部こども教育学科の「受験を希望する」と回答した者は、回答者数 8,089 人の約 7.57%にあたる 612 人となっており、教育学部こども教育学科に合格した場合、「進学を希望する」と回答した者は、回答者数 8,089 人の約 6.76%にあたる 547 人となっている。

(資料 3) ⇒ 高校生に対する進学需要調査結果 (抜粋)

また、教育学部こども教育学科の「受験を希望する」と回答した者のうち、教育学部こども教育学科に合格した場合「進学を希望する」と回答した者は 241 人、「併願大学の結果によって入学する」と回答した者は 270 人となっている。

(資料 3) ⇒ 教育学部の進学需要等に関するアンケート調査結果報告書 (抜粋)

このような千葉県に所在する高等学校及び敬愛大学への進学実績のある一部の高等学校に限定した調査結果においても、教育学部こども教育学科への受験希望と入学希望の高さがうかがえることから、十分な学生確保の見通しがあると考えられる。

## ウ 学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、大学及び学部運営に係る財務的な視点と学生納付金の学生への還元など受益者に対する説明責任の観点を踏まえるとともに、設置圏周辺地域における類似学科を設置している私立大学(聖徳大学、植草学園大学、淑徳大学、川村学園女子大学)の学生納付金の設定状況を勘案したうえで、完成年度における教育研究経費比率や経営経費依存率を見極めつつ、大学及び学部の運営上における人件費及び教育研究や管理運営に係る経常経費等の財務予測による実質的な採算分岐点に基づく金額として設定している。

(資料 4) ⇒ 設置圏周辺地域における類似学部等の学生納付金一覧

## ② 学生確保に向けた具体的な取組状況

学生確保に向けた具体的な取組状況は、大学案内や入試ガイド、リーフレット等の印刷物の配布をはじめ、ホームページや高校生向けの進学情報サイト、Y o u T u b e、S N S等の電子媒体による情報の提供、新聞、雑誌、車内広告等の各種メディアを活用したP R活動を行うとともに、資料等請求者に対するダイレクトメールによる各種情報の継続的な提供を行うこととしている。

また、高等学校訪問、オープンキャンパス、高校教員向け説明会をはじめ各地域における進学相談会などの開催を通じて、学部・学科の理念、養成する人材像、学位授与方針・教育課程編成の方針・入学者の受入方針、学生生活を通じた活動や想定される進路など様々な教育情報について、設置圏域を中心とする高校生や保護者に対して広く周知を図ることとしている。

### 1 高等学校訪問

高校訪問は、学生募集活動における募集戦略の中心である。具体的には、入試業務全般を所管し、募集広報に係る高校訪問を専門とするアドミッションセンターの職員が中心となって、千葉県や隣接県の高等学校を中心とした重点募集対象地域の選定から最重点訪問校や重点訪問校のセグメントによる高等学校募集訪問計画の策定。指定校推薦枠の設定により、千葉県内の高等学校及び隣接県内の高等学校からの確実な入学者の確保を目指すこととする。

(資料5) ⇒ 高等学校訪問の具体的計画、(資料5) ⇒ 高校訪問リスト

高等学校訪問は、募集対象者が多数在籍している高等学校の教員に対して、本学の様々な教育情報を直接的に周知することができるとともに、継続的な訪問活動を行うことで、高等学校の教員との信頼関係を築くことができるものである。高等学校の教員との信頼関係が構築できた場合には、高校内での生徒に対する進学説明会の実施をはじめ、当該専門分野に進学を希望している生徒の紹介の機会を得られるなどの効果が期待される。

### 2 オープンキャンパス

本学への入学を希望・考慮している高校生やその保護者を対象として、施設内を積極的に公開し、本学への関心を深めるための入学促進イベントとして、オープンキャンパスを実施している。また、在学生や教職員による施設見学会、模擬授業、大学で学べる学問内容、取得可能資格、入学者選抜制度、大学生活についての個別相談や質問を受け付けるなど、受験生や保護者との対面による丁寧な説明を行うことにより、本学への関心を深めることで、よりミスマッチの少ない学生を入学させることの効果が期待される。

(資料6) ⇒ オープンキャンパスの具体的計画、(資料6) ⇒ オープンキャンパス来場者実績

### 3 高校教員向け説明会

千葉県や隣接県に所在している高等学校の教員を対象とする説明会を開催する予定としており、副学長による大学紹介、学部別の個別説明、開学初年度の入試概要、奨学金制度、大学施設の見学など、高等学校の教員と本学の教職員との対面による丁寧な説明を行うこととしており、本学の教育・研究活動等に関する理解を深めるための情報提供の機会を設けることにより、高等学校の教員が本学への進学を希望する生徒に対する進路指導の際に役立てる効果が期待される。

(資料7) ⇒ 高校教員向け説明会の具体的計画

### 4 進学相談会

全国の主要な都市で開催される民間業者が主催する進学相談会への参加を予定しており、大学・学部資料の配付や学部紹介DVDの放映から、学位授与・教育課程編成・入学者受入の方針、選抜方法の種類や試験科目、書類審査、学力試験、面接試験、小論文試験などの実施方法、授業科目や講義等の内容、取得可能な資格、想定される卒業後の進路、大学周辺の施設や環境、下宿やアパート物件などに関する情報を広く提供することにより、千葉県及び隣接県の高等学校以外からの学生を確保することの効果も期待される。

(資料8) ⇒ 進学相談会の具体的計画

## (2) 人材需要の動向等社会の要請

### ① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

#### ア 教育学部

教育学部では、人間の成長と発達に関する専門分野に基礎を置き、様々な社会や環境において主体的に生きる人間、そしてその人間が果たす役割、行動や思考、人間と人間の関わりあいやコミュニケーションを重点に、教育を通して人間を理解し、人間の成長、発達、形成に寄り添って学び、教育のあるべき姿を探っていくことを目的とする。また、人間がよりよく生きていくために不可欠な教育の本質や理想を追求し、教育に関する幅広い知識とともに、各自の関心に応じた専門性を身に付け、学校教育や地域教育の推進に向けて、それらを総合的に実践できる人材の育成を目指す。

#### イ こども教育学科

こども教育学科では、幅広い教養と教育に関する深い専門的知見を兼ね備えたうえで、よりよい社会の形成に寄与しようとする意欲をもつ人材の育成を目指す。また、人間の成長と発達に関する学問分野に基礎を置き、様々な社会や環境において主体的に生きる人

間と、その人間が果たす役割、行動や思考、人間と人間の関わり合いやコミュニケーションを研究する。

1) 子供を総合的に理解し、教育の専門性を身に付ける

子供の成長や発達等について専門的な知識を学び、子供の教育について理解を深め、実践する力を身につける。さらに教職を目指す学生として日々研鑽と修養に努め、学び続ける生き方を身につける。

2) 国際社会を理解し、多様な価値観を認める。

子供を取り巻く環境および国際社会への理解を深め、多様な文化や価値観が存在することを認めながら、SDGsの実践者として他者とも共生する力を身につける。

3) 豊かなコミュニケーション能力を身に付ける。

グローバル化した情報化社会に対応するコミュニケーション能力を培い、ICT活用に習熟し、子供に英語の指導をする力を身につける。また、日本語の支援を必要とする子供に対しては、専門的な知識に基づいて指導する力を身に付ける。

4) 実践的活動を通して地域に貢献する力を身に付ける。

「ちば！教職たまごプロジェクト」(千葉県教育委員会・千葉市教育委員会主催)や「千葉市教育ボランティア」(千葉市教育委員会主催)等に参加し、実践的活動の中で、問題解決をしながら人々と交流し、学んできた知識や技能を生かして積極的に地域に貢献する力を身に付ける。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

ア 最近4年間の求人件数等の状況

最近4年間の求人件数の平均は、11,547件に対して、教育学部こども教育学科の基礎となる既設の国際学部こども教育学科の就職希望者63人で求人倍率は183.7倍と高い求人倍率を示しているとともに、教育学部こども教育学科の基礎となる既設の国際学部のこども教育学科における最近4年間の就職希望者数に対する就職者数の平均は、就職希望者63人に対して就職者数62人で就職率は98.4%と高い就職率を示している。

(資料9) ⇒ 基礎となる学部・学科の最近4年間の求人件数等の状況

上記の通り、教育学部こども教育学科の基礎となる既設の国際学部のこども教育学科では、多数の求人件数を得ているとともに、高い就職率を維持しており、このことは、教育学部こども教育学科の基礎となる既設の国際学部のこども教育学科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が、人材需要の動向等社会の要請を踏まえたものであることを示しているものである。

今般、設置を計画している教育学部こども教育学科は、社会環境の変化や地域社会の要請を踏まえつつ、教育学部こども教育学科の基礎となる既設の国際学部のこども教育学科の卒業生の進路や卒業生を受け入れる側の需要を勘案したうえで、教育内容を充実して設置することから、これまで以上の求人件数を見込むことができるものと考えられる。

#### ウ 教育機関等に対する人材需要調査結果

教育学部こども教育学科の設置を計画するにあたり、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が、人材需要等社会の要請を踏まえたものであることについて、客観的なデータから検証することを目的として、教育学部こども教育学科の基礎となる既設の国際学部のこども教育学科への求人実績のある教育関連機関・福祉関連機関・民間企業等を対象とした人材需要等に関するアンケート調査を実施した。

その結果、教育学部こども教育学科で養成する人材については、回答件数 244 件の約 92.21%にあたる 225 件が「必要性を感じる」と回答しており、教育学部こども教育学科で学んだ卒業生の採用については、回答件数 244 件の約 84.02%にあたる 205 件が「採用したいと思う」と回答しており、教育学部こども教育学科で学んだ卒業生の採用に積極的な意向を示している。

(資料 10) ⇒ 教育機関に対する人材需要調査結果 (抜粋)

また、教育学部こども教育学科で学んだ卒業生を「採用したいと思う」と回答した教育機関等のうち、採用人数「1人」と回答したのは 18 件、「2人」と回答したのは 19 件、「3人以上」と回答したのは 23 件、「人数は未定」と回答したのは 145 件となっており、採用人数「3人以上」と回答した採用人数を 3 人、「人数は未定」と回答した採用人数を 1 人として採用人数をカウントした場合、全体で 270 人の採用が見込まれる結果となっている。

(資料 10) ⇒ 教育機関に対する人材需要調査結果 (抜粋)

このような既設の国際学部のこども教育学科への求人実績のある一部の教育機関等に限定した調査結果においても、教育学部こども教育学科で学んだ卒業生への採用意向の高さがうかがえることから、卒業後の進路については十分な見通しがあると考えられる。

## 学生確保の見通し及び申請者としての取り組み状況の資料目次

【資料目次】	ページ
【資料 1】 設置認可等に関わる組織の移行表 . . . . .	p. 1
【資料 2】 基礎となる学部・学科の最近 5 年間の志願者数等の状況 . . .	p. 1
【資料 3】 高校生に対する進学需要調査結果(抜粋) . . . . .	p. 2
【資料 4】 設置圏周辺地域における類似学部等の学生納付金一覧 . . .	p. 2
【資料 5】 高等学校訪問の具体的計画、高校訪問リスト . . . . .	p. 3
【資料 6】 オープンキャンパスの具体的計画、来場者実績 . . . . .	p. 4
【資料 7】 高校教員向け説明会の具体的計画 . . . . .	p. 4
【資料 8】 進学相談会の具体的計画 . . . . .	p. 4
【資料 9】 基礎となる学部・学科の最近 4 年間の求人件数等の状況 . . .	p. 5
【資料 10】 教育機関等に対する人材需要調査結果(抜粋) . . . . .	p. 6
【資料 11】 進学需要等に関するアンケート調査結果報告書(抜粋) . . .	— 原本 —

【資料 1】 設置認可等に関わる組織の移行表

学校法人千葉敬愛学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由	
<b>敬愛大学</b>				<b>敬愛大学</b>					
経済学部				経済学部					
		(2年次)	(3年次)			(2年次)	(3年次)		
経済学科	115	1	1	465	経済学科	115	1	1	465
経営学科	110	1	1	445	経営学科	110	1	1	445
計	225	2	2	910	計	225	2	2	910
国際学部				国際学部					
		(2年次)	(3年次)			(2年次)	(3年次)		
国際学科	98	1	1	397	国際学科	98	1	1	397
こども教育学科	72	1	1	293	<u>こども教育学科</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u> 令和3年4月 学生募集停止
計	170	2	2	690	計	<u>98</u>	1	1	<u>397</u>
千葉敬愛短期大学				千葉敬愛短期大学					
現代子ども学科	200	-	400	現代子ども学科	<u>150</u>	-	<u>350</u>	定員変更(△50)	
計	200	-	400	計	<u>150</u>	-	<u>350</u>		
				教育学部				学部の設置 (届出)	
		(2年次)	(3年次)			(2年次)	(3年次)		
<u>こども教育学科</u>	<u>72</u>	<u>1</u>	<u>1</u>	<u>293</u>	<u>こども教育学科</u>	<u>72</u>	<u>1</u>	<u>1</u>	<u>293</u>
計	<u>72</u>	1	1	<u>293</u>	計	<u>72</u>	1	1	<u>293</u>

【資料 2】 基礎となる学部・学科の最近5年間の志願者数等の状況

国際学部 こども教育学科

	平成28年度 2016	平成29年度 2017	平成30年度 2018	令和元年度 2019	令和2年度 2020	平均
定 員	70	70	70	72	72	
志願者数	149	160	164	211	236	
志願倍率	2.12	2.28	2.34	2.93	3.27	2.58
合格者数	134	143	133	151	132	
合格倍率	1.11	1.11	1.23	1.39	1.78	1.32

### 【資料3】 高校生に対する進学需要調査結果(抜粋)

#### 教育学部の進学需要等に関するアンケート調査結果報告書(抜粋)

##### 3. 教育学部こども教育学科への興味・関心

千葉県に所在する高等学校の2年生に、教育学部こども教育学科への興味・関心について質問したところ、回答者数 8,089 人の約 18.41%にあたる 1,489 人が「興味・関心がある」と回答していることから、敬愛大学の教育学部こども教育学科への興味・関心の高さをうかがうことができる。

##### 問3 教育学部こども教育学科への興味・関心

No.	カテゴリ	件数/人	全体/%
1	興味・関心がある	1,489	18.41
2	興味・関心がない	6,494	80.28
	未回答・不明	106	1.31
	合計	8,089	100.00

##### 4. 教育学部こども教育学科の受験希望

千葉県に所在する高等学校の2年生に、教育学部こども教育学科の受験希望について質問したところ、回答者数 8,089 人の約 7.57%にあたる 612 人が「受験を希望する」と回答しており、敬愛大学の教育学部こども教育学科への受験に積極的な意向を示している。

##### 問4 教育学部こども教育学科の受験希望

No.	カテゴリ	件数/人	全体/%
1	受験を希望する	612	7.57
2	受験を希望しない	7,353	90.90
	未回答・不明	124	1.53
	合計	8,089	100.00

##### 5. 教育学部こども教育学科への進学希望

千葉県に所在する高等学校の2年生に、教育学部こども教育学科に合格した場合の進学希望について質問したところ、回答者数 8,089 人の約 6.76%にあたる 547 人が「進学を希望する」と回答しており、回答者数 8,089 人の約 26.59%にあたる 2,151 人が「併願大学の結果によって入学する」と回答している。

なお、教育学部こども教育学科の「受験を希望する」と回答した者のうち、教育学部こども教育学科に合格した場合「進学を希望する」と回答した者は 241 人、「併願大学の結果によって入学する」と回答した者は 270 人となっている。

このような千葉県に所在する高等学校の2年生に限定した調査結果においても、敬愛大学の教育学部こども教育学科への受験希望と進学希望の高さがうかがえることから、学生確保においては十分な見通しがあると考えられる。

問5 教育学部こども教育学科への進学希望

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	進学を希望する	547	6.76
2	併願大学の結果によって入学する	2,151	26.59
3	進学を希望しない	5,238	64.75
	未回答・不明	153	1.89
	合計	8,089	100.00

問4 × 問5 受験を希望 × 進学を希望

No.	カテゴリ	件数／人
1*1	受験を希望する／進学を希望する	241
1*2	受験を希望する／併願大学の結果によって入学する	270

【資料 4】 設置圏周辺地域における類似学部等の学生納付金一覧

大学名	学部名	入学金	学費				初年度合計
			授業料	施設設備費	教育充実費 または維持費	実験、実習、体 育費	
敬愛大学	国際学部 こども教育	250,000	760,000	240,000		60,000	1,310,000
聖徳大学	児童学部	250,000	(入学手続時 972,160 秋 817,500)				1,789,660
植草学園 大学	発達教育 学部	270,000	780,000	220,000	100,000		1,370,000
淑徳大学	総合福祉学部 教育福祉	200,000	800,000	400,000			1,400,000
川村学園 女子大学	教育学部	300,000	696,000	320,000		25,000	1,341,000

※日本私立大学団体連合会「学納金等調査」による

※参考2019年度学費

## 【資料 5】-1 高等学校訪問の具体的計画

- ① 目標設定：定員充足(72名)
- ② 担当者：募集広報に係る高校訪問を専門とするアドミッションセンター職員の複数名が中心になって活動をする。
- ③ 活動エリア：千葉県を中心に活動するが、近隣都県や教育分野に関心のある地域あるいは高等学校を選定し活動をしていく。そのため、重点高等学校、重点地域の選定を最優先に実行する。
- ④ 活動計画：4月中旬より活動を開始し、年2回以上の訪問を継続的に実施する。なお、前述の重点高等学校は意図的に訪問回数を増やし、学校間の結びつきを深める。アドミッションセンター職員は原則的に3名で対応し、そのエリア、※担当校は別途策定する。
- ⑤ 訪問数目標設定：重点高等学校を含め延べ400校程度を目標とする。
- ⑥ その他活動計画：予備校、学習塾等にも訪問をし、「教育学部」についての募集広報活動を実施する。

※入試顧問2名には千葉県内公立学校を軸に一人40～45校程度を担当してもらう。アドミッションセンター職員1名は私立高校を中心に千葉県内を担当し、さらに近隣都県や重点地区を担当する。予備校、学習塾も対応。

## 【資料 5】-2 高校訪問リスト

## 2020年度高校訪問リスト(千葉県主)

高校名	担当者	〒	住所	電話番号
東葉高等学校		274-0822	船橋市飯山満町二丁目665-1	047-463-2111
茂原北陵高等学校		299-4122	茂原市吉井上128	0475-34-3211
千葉黎明高等学校		289-1115	八街市八街ほ-625	043-443-3221
千葉明德高等学校		260-8685	千葉市中央区南生実町1412	043-265-1612
東京学館高等学校		285-0902	印旛郡酒々井町伊篠21	043-496-3881
翔凜高等学校		299-1172	君津市三直1348-1	0439-55-1200
千葉県立千葉女子高等学校		263-0043	千葉市稲毛区小仲台5-10-1	043-254-1188
千葉県立千葉東高等学校		263-0021	千葉市稲毛区轟町1丁目18-52	043-251-9221
千葉県立千葉商業高等学校		260-0044	千葉市中央区松波2-22-48	043-251-6335
千葉県立京葉工業高等学校		263-0024	千葉市稲毛区穴川四丁目11-32	043-251-4197
千葉県立千葉工業高等学校		260-0815	千葉市中央区今井町1478	043-264-6251
千葉県立千葉南高等学校		260-0803	千葉市中央区花輪町45-3	043-264-1362
千葉県立検見川高等学校		261-0011	千葉市美浜区真砂4丁目17-1	043-278-1218
千葉県立千葉北高等学校		263-0005	千葉市稲毛区長沼町153	043-257-2753
千葉県立若松高等学校		264-0021	千葉市若葉区若松町429	043-232-5171
千葉市立千葉高等学校		263-0043	千葉市稲毛区小仲台9-46-1	043-251-6425
千葉県立磯辺高等学校		261-0012	千葉市美浜区磯辺2-7-1	043-277-2211
千葉県立生浜高等学校		260-0823	千葉市中央区塩田町372	043-266-4591
千葉県立千城台高等学校		264-0004	千葉市若葉区千城台西二丁目1-1	043-236-0161
千葉県立泉高等学校		265-0061	千葉市若葉区高根町875-1	043-228-2551
千葉市立稲毛高等学校		261-0003	千葉市美浜区高浜3-1-1	043-277-4400
千葉県立柏井高等学校		262-0041	千葉市花見川区柏井町1452	047-484-5526
千葉県立千葉大宮高等学校		264-8505	千葉市若葉区大宮町2699-1	043-264-1981
千葉県立土気高等学校		267-0067	千葉市緑区あすみが丘東2丁目24-1	043-294-0014
千葉県立千葉西高等学校		261-0012	千葉市美浜区磯辺三丁目30-3	043-277-0115
千葉県立犢橋高等学校		262-0012	千葉市花見川区千種町381-1	043-257-8511
千葉県立幕張総合高等学校		261-0014	千葉市美浜区若葉3-1-6	043-211-6311
千葉経済大学附属高等学校		263-8585	千葉市稲毛区轟町四丁目3-30	043-251-7221
植草学園大学附属高等学校		260-8601	千葉市中央区弁天二丁目8-9	043-252-3551
千葉聖心高等学校		260-0006	千葉市中央区道場北一丁目17-6	043-225-4151
桜林高等学校		264-0029	千葉市若葉区桜木北1-17-32	043-233-8081
明聖高等学校		260-0014	千葉市中央区本千葉町10-23	043-225-5622
千葉県立八千代高等学校		276-0025	八千代市勝田台南1-1-1	047-484-2551
千葉県立薬園台高等学校		274-0077	船橋市薬円台五丁目34-1	047-464-0011
千葉県立船橋啓明高等学校		273-0041	船橋市旭町333	047-438-8428
千葉県立市川工業高等学校		272-0031	市川市平田三丁目10-10	047-378-4186
千葉県立国府台高等学校		272-0827	市川市国府台二丁目4-1	047-373-2141
千葉県立国分高等学校		272-0831	市川市稲越町310	047-371-6100
千葉県立行徳高等学校		272-0127	市川市塩浜四丁目1-1	047-395-1040
千葉県立浦安高等学校		279-0003	浦安市海楽2-36-2	047-351-2135

2020年度高校訪問リスト(千葉県主)

高校名	担当者	〒	住所	電話番号
千葉県立松戸高等学校		270-0025	松戸市中和倉590-1	047-341-1288
千葉県立小金高等学校		270-0032	松戸市新松戸北2-14-1	047-341-4155
千葉県立松戸国際高等学校		270-2218	松戸市五香西5丁目6-1	047-386-0563
千葉県立松戸南高等学校		270-2221	松戸市紙敷1199	047-391-2849
船橋市立船橋高等学校		273-0001	船橋市市場四丁目5-1	047-422-5516
習志野市立習志野高等学校		275-0001	習志野市東習志野一丁目2-1	047-472-2148
松戸市立松戸高等学校		270-2221	松戸市紙敷2-7-5	047-385-3201
千葉県立市川東高等学校		272-0811	市川市北方町四丁目2191	047-338-6810
千葉県立津田沼高等学校		275-0025	習志野市秋津五丁目9-1	047-451-1177
千葉県立船橋芝山高等学校		274-0816	船橋市芝山七丁目39-1	047-463-5331
千葉県立松戸六実高等学校		270-2203	松戸市六高台5丁目150-1	047-385-5791
千葉県立八千代東高等学校		276-0028	八千代市村上881-1	047-482-1751
千葉県立船橋二和高等学校		274-0806	船橋市二和西一丁目3-1	047-447-4377
千葉県立八千代西高等学校		276-0047	八千代市吉橋2405-1	047-450-2451
千葉県立船橋古和釜高等学校		274-0061	船橋市古和釜町586	047-466-1141
千葉県立松戸馬橋高等学校		271-0043	松戸市旭町一丁目7-1	047-345-3002
千葉県立船橋法典高等学校		273-0047	船橋市藤原四丁目1-1	047-438-0721
千葉県立市川南高等学校		272-0013	市川市高谷1509	047-328-6001
千葉県立実籾高等学校		275-0003	習志野市実籾本郷22-1	047-479-1144
千葉県立船橋豊富高等学校		274-0053	船橋市豊富町656-8	047-457-5200
千葉県立松戸向陽高等学校		270-2223	松戸市秋山682	047-391-4361
千葉県立浦安南高等学校		279-0023	浦安市高洲9-4-1	047-352-7621
千葉県立船橋北高等学校		274-0056	船橋市神保町133-1	047-457-3115
千葉県立市川昴高等学校		272-0833	市川市東国分一丁目1-1	047-371-2841
昭和学院高等学校		272-0823	市川市東菅野二丁目17-1	047-323-4171
和洋国府台女子高等学校		272-8533	市川市国府台二丁目3-1	047-371-1120
千葉英和高等学校		276-0028	八千代市村上709-1	047-484-5141
千葉商科大学付属高等学校		272-0835	市川市中国分二丁目10-1	047-373-2111
国府台女子学院高等部		272-8567	市川市菅野三丁目24-1	047-326-8100
専修大学松戸高等学校		271-8585	松戸市上本郷二丁目3621	047-362-9101
日本大学習志野高等学校		274-8504	船橋市習志野台七丁目24-24	047-469-5252
千葉日本大学第一高等学校		274-0063	船橋市習志野台八丁目34-1	047-466-5155
東海大学付属浦安高等学校		279-8558	浦安市東野三丁目11-1	047-351-2371
不二女子高等学校		272-0021	市川市八幡四丁目5-7	047-333-6345
八千代松陰高等学校		276-0028	八千代市村上727	047-482-1234
東京学館浦安高等学校		279-0023	浦安市高洲1丁目23番1号	047-353-8821
秀明大学学校教師学部附属 秀明八千代高等学校		276-0007	八千代市桑橋803	047-450-7001
東京学館船橋高等学校		274-0053	船橋市豊富町577	047-457-4611
中山学園高等学校 ★				
千葉県立鎌ヶ谷高等学校		273-0115	鎌ヶ谷市東道野辺一丁目4-1	047-444-2171
千葉県立柏高等学校		277-0825	柏市布施254	04-7131-0013

2020年度高校訪問リスト(千葉県主)

高校名	担当者	〒	住所	電話番号
千葉県立柏南高等学校		277-0033	柏市増尾1705	04-7173-2101
千葉県立流山高等学校		270-0114	流山市東初石二丁目98	04-7153-3161
千葉県立流山おおたかの森高等学校		270-0122	流山市大畔275-5	04-7154-3551
千葉県立我孫子高等学校		270-1147	我孫子市若松18-4	04-7182-5181
柏市立柏高等学校		277-0801	柏市船戸山高野325-1	04-7132-3460
千葉県立野田中央高等学校		278-0046	野田市谷津713	04-7125-4108
千葉県立柏陵高等学校		277-0042	柏市逆井444-1	04-7174-8551
千葉県立沼南高等学校		270-1445	柏市岩井678-3	04-7191-8121
千葉県立鎌ヶ谷西高等学校		273-0121	鎌ヶ谷市初富284-7	047-446-0051
千葉県立柏中央高等学校		277-0835	柏市松ヶ崎884-1	04-7133-3141
千葉県立流山南高等学校		270-0164	流山市流山9-800-1	04-7159-1231
千葉県立清水高等学校 ★				
千葉県立我孫子東高等学校		270-1104	我孫子市新々田172	04-7189-4051
千葉県立沼南高柳高等学校		277-0941	柏市高柳995	04-7191-5281
千葉県立柏の葉高等学校		277-0882	柏市柏の葉6-1	04-7132-7521
千葉県立関宿高等学校		270-0222	野田市木間ヶ瀬4376	04-7198-5006
日本体育大学柏高等学校		277-0008	柏市戸張944	04-7167-1301
我孫子二階堂高等学校		270-1163	我孫子市久寺家479-1	04-7182-0101
二松学舎大学附属柏高等学校		277-0902	柏市大井2590	04-7191-3179
中央学院高等学校		270-1131	我孫子市都部765	04-7188-1101
西武台千葉高等学校		270-0235	野田市尾崎2241-2	04-7127-1111
千葉県立印旛明誠高等学校		270-1337	印西市草深1420-9	0476-47-7001
千葉県立成田西陵高等学校		286-0846	成田市松崎20	0476-26-8111
千葉県立佐倉東高等学校		285-0017	佐倉市城内町278	043-484-1024
千葉県立八街高等学校		289-1144	八街市八街ろ145-3	043-444-1523
千葉県立四街道高等学校		284-0003	四街道市鹿渡809-2	043-422-6215
千葉県立成田国際高等学校		286-0036	成田市加良部三丁目16	0476-27-2610
千葉県立下総高等学校		289-0116	成田市名古屋247	0476-96-1161
千葉県立佐倉西高等学校		285-0841	佐倉市下志津263	043-489-5881
千葉県立成田北高等学校		286-0011	成田市玉造5-1	0476-27-3411
千葉県立白井高等学校		270-1425	白井市池の上1-8-1	047-491-1511
千葉県立佐倉南高等学校		285-0808	佐倉市太田1956	043-486-1711
千葉県立四街道北高等学校		284-0027	四街道市栗山1055-4	043-422-1788
千葉県立富里高等学校		286-0221	富里市七栄181-1	0476-92-1441
成田高等学校		286-0023	成田市成田27	0476-22-2131
千葉県立佐原高等学校		287-0003	香取市佐原12685	0478-52-5131
千葉県立佐原白楊高等学校		287-0003	香取市佐原1861	0478-52-5137
千葉県立小見川高等学校		289-0313	香取市小見川4735-1	0478-82-2146
千葉県立多古高等学校		289-2241	香取郡多古町多古3236	0479-76-2557
千葉県立銚子高等学校		288-0033	銚子市南小川町943	0479-22-6906
千葉県立銚子商業高等学校		288-0813	銚子市台町1781	0479-22-5678
千葉県立旭農業高等学校		289-2516	旭市口1	0479-62-0129

2020年度高校訪問リスト(千葉県主)

高校名	担当者	〒	住所	電話番号
千葉県立東総工業高等学校		289-2505	旭市鎌数字川西5146	0479-62-2522
千葉県立匝瑳高等学校		289-2144	匝瑳市八日市場1630	0479-72-1541
銚子市立銚子高等学校		288-0814	銚子市春日町2689	0479-25-0311
千葉萌陽高等学校		287-0003	香取市佐原イ-3371	0478-52-2959
千葉県立松尾高等学校		289-1594	山武市松尾町大堤546	0479-86-4311
千葉県立成東高等学校		289-1326	山武市成東3596	0475-82-3171
千葉県立東金高等学校		283-0802	東金市東金1410	0475-54-1581
千葉県立東金商業高等学校		283-0805	東金市松之郷字久我台1641-1	0475-52-2265
千葉県立大網高等学校		299-3251	大網白里市大網435-1	0475-72-0003
千葉県立九十九里高等学校		283-0104	山武郡九十九里町片貝1910	0475-76-2256
千葉学芸高等学校		283-0005	東金市田間1999	0475-52-1161
千葉県立長生高等学校		297-0029	茂原市高師286	0475-22-3378
千葉県立茂原高等学校		297-0029	茂原市高師1300	0475-22-4505
千葉県立茂原樟陽高等学校		297-0019	茂原市上林283	0475-22-3315
千葉県立一宮商業高等学校		299-4301	長生郡一宮町一宮3287	0475-42-4520
千葉県立大多喜高等学校		298-0216	夷隅郡大多喜町大多喜481	0470-82-2621
千葉県立大原高等学校		298-0004	いすみ市大原7985	0470-62-1171
千葉県立長狭高等学校		296-0001	鴨川市横渚100	04-7092-1225
中央国際高等学校 ★			いすみ市	
千葉県立安房拓心高等学校		299-2795	南房総市和田町海発1604	0470-47-2551
千葉県立安房高等学校		294-0047	館山市八幡385	0470-22-0130
千葉県立館山総合高等学校		294-8505	館山市北条106	0470-22-2242
千葉県立安房西高等学校		294-0045	館山市北条2311-3	0470-22-0545
千葉県立天羽高等学校		299-1606	富津市数馬229	0439-67-0571
千葉県立君津商業高等学校		293-0043	富津市岩瀬1172	0439-65-1131
千葉県立木更津高等学校		292-0804	木更津市文京四丁目1-1	0438-22-6131
千葉県立木更津東高等学校		292-0056	木更津市木更津二丁目2-45	0438-23-0538
千葉県立君津高等学校		299-1142	君津市坂田454	0439-52-4583
千葉県立君津青葉高等学校		292-0454	君津市青柳48	0439-27-2351
千葉県立袖ヶ浦高等学校		299-0257	袖ヶ浦市神納530	0438-62-7531
千葉県立市原高等学校		290-0225	市原市牛久655	0436-92-1541
千葉県立京葉高等学校		290-0034	市原市島野222	0436-22-2196
千葉県立市原緑高等学校		290-0011	市原市能満1531	0436-75-0600
千葉県立姉崎高等学校		299-0111	市原市姉崎2632	0436-62-0601
千葉県立市原八幡高等学校		290-0062	市原市八幡1877-1	0436-43-7811
東海大学付属市原望洋高等学校		290-0011	市原市能満1531	0436-74-4721
拓殖大学紅陵高等学校		292-8568	木更津市桜井1403	0438-37-2511
暁星国際高等学校		292-8565	木更津市矢那1083	0438-52-3291
志学館高等部		292-8568	木更津市真舟三丁目29-1	0438-37-3131
市原中央高等学校		290-0215	市原市土宇1481-1	0436-36-7131
木更津総合高等学校		292-8511	木更津市東太田三丁目4-1	0438-30-5511
埼玉県立三郷高等学校				

2020年度高校訪問リスト(千葉県主)

高校名	担当者	〒	住所	電話番号
埼玉県立三郷北高等学校				
埼玉県立草加南高等学校 ★				
埼玉県立草加高等学校 ★				
埼玉県立草加東高等学校				
埼玉県立草加西高等学校 ★				
埼玉県立越谷東高等学校				
埼玉県立越谷南高等学校				
埼玉県立越谷西高等学校				
叡明高等学校				

【資料6】-1 オープンキャンパスの具体的計画

2020年 オープンキャンパス 年間計画

回数	月日	時間	目的	小テーマ	プログラム内容	回数	月日	時間	目的	小テーマ	プログラム内容
1	5・31(日)	10:00~14:00	敬愛大学を知ろう・体験しよう	エンジョイキャンパスしてみようその1	大学紹介 学部・学科紹介、入試説明 ミニ体験授業  学食体験・ツアー・個別相談 チューターとのトークスペース設置	5	8・2(日)	10:00~14:00	入試対策と出願促進	夏休みの入試対策を始めよう	大学紹介 学部・学科紹介、入試説明 ミニ体験授業・対策講座  学食体験・ツアー・個別相談 チューターとのトークスペース設置
2	6・21(日)	10:00~14:00		エンジョイキャンパスしてみようその2	大学紹介 学部・学科紹介、入試説明 ミニ体験授業  学食体験・ツアー・個別相談 チューターとのトークスペース設置	6	8・26(水)	10:00~14:00		夏休みの入試対策を始めよう2	大学紹介 学部・学科紹介、入試説明 対策講座 学生企画 学食体験・ツアー・個別相談 チューターとのトークスペース設置
3	7・19(日)	10:00~15:00		エンジョイキャンパスしてみようその3	大学紹介 学部・学科紹介、入試説明 ミニ体験授業  学食体験・ツアー・個別相談 チューターとのトークスペース設置	7	9・12(土)	10:00~14:00		夏休みの入試対策を始めよう3	大学紹介 学部・学科紹介、入試説明 対策講座  学食体験・ツアー・個別相談
4	7・23(木)	10:00~14:00		エンジョイキャンパスしてみようその4	大学紹介 学部・学科紹介、入試説明 ミニ体験授業・対策講座  学食体験・ツアー・個別相談 チューターとのトークスペース設置	8	11/4・12/23・24	13:00~15:00		キャンパスビジット	キャンパスへ行ってみよう
						9	3・27(土)	10:00~14:00	新3年生向け	持って帰ろう大学の魅力	大学紹介 学部・学科紹介 学生企画  学食体験・ツアー・個別相談 チューターとのトークスペース設置

【資料 6】-2 オープンキャンパス来場者実績

オープンキャンパス来場者実績表

実施回	新年度前		第1回		第2回		第3回		第4回		第5回		第6回		第7回		第8回		第9回		合計		小計	
学年	1・2年	受験生	1・2年	受験生	1・2年	受験生	1・2年	受験生	1・2年	受験生	1・2年	受験生	1・2年	受験生	1・2年	受験生	1・2年	受験生	1・2年	受験生	1・2年	受験生	1・2年計	3年生計
2017	実績	3.25(土)		6.4(日)		6.25(日)		7.15(土)		7.29(土)		8.5(土)		8.19(土)		8.27(日)		9.23(土)		10.14(土)		1・2年計	3年生計	
	経済	1	15	1	46	0	52	4	44	23	111	38	48	48	36	45	49	5	40	0	23	165	464	629
	国際	4	13	1	21	0	31	4	16	9	26	10	29	24	25	21	24	1	24	0	19	74	228	302
	こども	0	9	0	21	1	16	0	16	11	23	9	22	24	18	18	9	4	21	0	9	67	164	231
	未定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	学年計	5	37	2	88	1	99	8	76	43	160	57	99	96	79	84	82	10	85	0	51	306	856	1,162
	合計	42		90		100		84		203		156		175		166		95		51				1,162
	リピーター	3		3		-	19	24		35		40		28		28		44		16				224
	その他・留学生			内 経1・国2		内 国2				内 国5				内 経1国1		内 経7国7		内 経1国3		内 経3国6				
	保護者	16		30		43		24		64		45		44		45		16		9				336
志願者	12	32.4%	37	42.0%	25	25.3%	23	30.3%	74	46.3%	26	26.3%	18	22.8%	22	26.8%	21	24.7%	18	35.3%	276	32.2%	276	
2018	実績	3.21(水)		6.3(日)		6.24(日)		7.22(日)		7.28(土)		8.5(日)		8.19(日)		8.26(日)		9.22(土)		10.20(土)		1・2年計	3年生計	
	経済	2	17	2	48	1	63	9	47	11	35	54	109	83	57	105	52	2	34	23	32	292	494	786
	国際	0	9	0	15	0	25	9	29	6	15	6	20	36	16	36	19	1	27	19	10	113	185	298
	こども	0	3	0	23	1	21	10	33	6	7	15	16	41	13	40	19	1	19	9	7	123	161	284
	未定	0	0			0	0												1			0	1	1
	学年計	2	29	2	86	2	109	28	109	23	57	75	145	160	86	181	90	4	81	51	49	528	841	1,369
	合計	31		88		111		137		80		220		246		271		85		100				1,369
	リピーター			4		7		19		7		40		38		36		29						180
	その他・留学生			内、経3、国3				内、国際4名留		内、経済2、国際2		内、経済2、国際5		内、経済2、国際1		ゼロ		内、経済3、国際4		内、経済3、国際3				
	保護者	14		39		50		51		31		68		61		59		18		22				413
志願者	10	34.5%	26	30.2%	43	39.4%	38	34.9%	22	38.6%	50	34.5%	18	20.9%	31	34.4%	21	25.9%	26	53.1%	285	33.9%	285	
2019	実績	3.21(木)		6.2(日)		6.23(日)		7.21(日)		7.27(土)		8.4(日)		8.18(日)		8.23(金)		9.21(土)		10.19(土)		1・2年計	3年生計	総合計
	経済	1	32	2	58	3	105	10	79	11	85	35	95	60	78	38	61	5	64	0	17	165	674	839
	国際	4	15	0	24	2	43	4	39	7	34	18	25	30	33	35	23	2	21	0	12	102	269	371
	こども	2	11	1	18	2	24	6	26	13	27	15	18	36	15	29	13	2	19	2	5	108	176	284
	未定															102						102	0	102
	学年計	7	58	3	100	7	172	20	144	31	146	68	138	126	126	204	97	9	104	2	34	477	1,119	1,596
	合計	65		103		179		164		177		206		252		301		113		36				1,596
	リピーター			7		16		12		21		48		39		23		30						196
	その他・留学生			内、経1、国1		内、経1		内、経2、国4		内、経3、国1				内、経3				内、経11、国6		内、経1、国1				
	保護者等	26		41		62		38		59		50		104		67				25				472
志願者	23	39.7%	30	30.0%	46	26.7%	35	24.3%	42	28.8%	34	24.6%	26	20.6%	26	26.8%	26	25.0%	13	38.2%	301	26.9%	301	

【資料 7】 高校教員向け説明会の具体的計画 (実施要領)

日時	令和2年5月22日(金) 15:30~17:20(受付15:00) / 17:20頃~情報交換会					場所	3701教室(説明会・情報交換会)
出席校	説	35校39名	教職員		副学長	職員	
	懇	12校11名		経済	学部長、入試委員長	顧問	
				国際	学部長、入試委員長		
プログラム	種別	時間		内容	担当	備考	
	開式	15:30		配布物確認			
	挨拶	15:30~15:40	10分	学長挨拶・教育憲章について	学長		
	第1部	15:40~16:25	45分	「2020年度入試結果と2021年度以降の入試展望」		選定中	・講師紹介 センター長 ・講演後、質疑応答
		16:25~17:15	各10分	①学部、学科教育について		両学部長	学部、学科教育方針と方法
			15分	②キャリア教育の具体例と実績		キャリアセンター室長	
			15分	③入試について		アドミッションセンター室長	2020入試結果、2021入試の変更点
	第2部	17:20~18:30	自由移動	7F廊下	情報交換会	学長、副学長、顧問、教職員	
				3701	個別相談(ブース形式)	6ブース	…学部学科、入試説明、相談
				3号館	施設見学	チューター誘導。3号館中心	3701~1F→3701(会場)または玄関見送り
準備・受付	種別		場所	担当	業務内容	配布資料等備考	
	準備	13:00~14:30	会場設営	3701	入試	<ul style="list-style-type: none"> <li>■会場(3701)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>①会場清掃:当日午前中</li> <li>②13:30設営</li> <li>・出席者席:椅子のみ。テーブルなし</li> <li>・配布資料を椅子の上に配置</li> <li>・演者用の水とおしぼり</li> <li>・演台横に、題目看板</li> <li>・PCをメディアから借りる(当日朝受け取り)</li> </ul> </li> <li>■懇親会場準備 14:00~(エームサービス)</li> </ul>	<配布資料> ■クリアフォルダにセット ①プログラム②教育憲章③講演レジュメ(パワポ資料)、④経済、国際説明資料(パワポ)、⑤教職センター案内2部 ※①~⑤をクリアフォルダにセット ■PP封筒にセット ①パンフ、②ガイド、③OCチラシ、④KIプレス、⑤敬愛スポーツ ■その他 コットンバッグ、水(常温)、グッズ ボールペン、クリアファイル(前顧問使用グッズ) <その他準備> ■出席校の学籍状況、指定校一覧・6部
	受付・誘導	15:00~	誘導①	3701		・出席者の誘導、応対 ・演者の対応→控室:会議室 15:25に会場誘導	駐車スペースの確保、誘導は警備が担当
			受付	3701前		出欠名簿にてチェック後、バッジ配布	「資料と水」のある席へ誘導する
		17:20~	誘導②	懇親会		3701廊下側の会場へ誘導	
				ツアー		3701外側の廊下で待機。呼びかけ。	
	相談				ブースへの誘導		
	退場		ネームプレート回収(名刺そのまま)				
	待機			井上	電話応対等		

## 【資料 8】 進学相談会の具体的計画

- ① 進学相談会(高等学校内): 高校へ出向いての大学説明会である。積極的に活用していく方針である。大学と共に、当該分野についての認知度向上に効果が期待できる。高等学校としても、進学を目指すキッカケや、意欲の向上につながっている。
- ② 進学相談会(会場形式): 各業者が全国各地で開催しているが、本学は、千葉県内で高校内の進学相談会が実施されない地区や県外の重点地域に絞って参画を予定している。
- ③ 分野説明会・模擬授業: 主に高校低学年向けに開催している。高校生の目指す分野発見に役立っている。
- ④ 担当者: アドミッションセンター職員を中心に活動しているが、大学職員も場合によっては参加してもらっている。また、上記③においては大学の教員も参加して募集活動を行っている。
- ⑤ 参加する高等学校や会場の選択条件: 在校生の有無、重点高等学校、重点地域であるかなどを検討して決めている。

### 進学相談会予定

R2.4.25(土)	9:00	茂原北陵高校	3	校内	
R2.4.26(日)	11:30	東京都・渋谷会場		会場	
R2.4.28(火)	14:00	千葉市・幕張会場		会場	
R2.4.30(木)	12:40	千葉学芸高校	2・3	校内	
R2.4.30(木)	10:15	敬愛学園高校	3	校内	
R2.4.30(木)	12:45	長野南高校	3	校内	
R2.5.1(金)	10:10	橘高校	3	校内	
R2.5.7(木)	12:55	市川昴高校	3	校内	
R2.5.7(木)	13:00	松尾高校	3	校内	
R2.5.14(木)	12:50	犢橋高校	3	校内	
R2.5.22(金)	13:20	京葉高校	3	校内	
R2.5.26(火)	13:45	大網高校	3	校内	
R2.5.27(水)	13:20	須坂東高校	3	校内	
R2.5.28(木)	13:05	船橋北高校	3	校内	
R2.6.1(月)	13:50	千葉敬愛高校	2・3	校内	

高校内相談会は、これから希望調査を行い、参加人数が確定するのは、1週間前くらいになる。会場形式は、4月2会場は400名以上の来場者が期待できる会場だ。幕張では例年10名以上の着席者を記録している。渋谷会場は、教育分野に絞った会場を設定した企画の為、「教育学部」が誕生する本年参画を決めた。千葉からの参加も多い会場であるとのこと。

【資料 9】 基礎となる学部・学科の最近4年間の求人件数等の状況

(国際学部 ことば教育学科)

	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度	合計	平均値
※ 求人件数	16,068	11,040	10,108	9,080	46,296	11,574.0
就職希望者数	83	57	58	51	249	62.3
就職者数	83	57	57	51	248	62.0

※ 求人件数については、大学全体の求人件数

## 【資料10】-1 教育機関に対する人材需要調査(抜粋)

### 教育学部の進学需要等に関するアンケート調査結果報告書(抜粋)

#### 3. 教育学部こども教育学科で養成する人材の必要性

本学への求人実績や卒業生の採用実績がある教育機関等に対して、教育学部こども教育学科で養成する人材の必要性について質問したところ、回答件数 244 件の約 92.21%にあたる 225 件が「必要性を感じる」と回答していることから、敬愛大学の教育学部こども教育学科で養成する人材の必要性の高さをうかがうことができる。

##### 問3 教育学部こども教育学科で養成する人材の必要性

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	必要性を感じる	225	92.21
2	必要性を感じない	15	6.15
	未回答・不明	4	1.64
	合計	244	100.00

#### 4. 教育学部こども教育学科で学んだ卒業生の採用

本学への求人実績や卒業生の採用実績がある教育機関等に対して、教育学部こども教育学科で学んだ卒業生の採用について質問したところ、回答件数 244 件の約 84.02%にあたる 205 件が「採用したいと思う」と回答しており、敬愛大学の教育学部こども教育学科で学んだ卒業生への採用に積極的な意向を示している。

##### 問4 教育学部こども教育学科で学んだ卒業生の採用

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	採用したいと思う	205	84.02
2	採用したいと思わない	32	13.11
	未回答・不明	7	2.87
	合計	244	100.00

## 【資料10】-2 教育機関に対する人材需要調査(抜粋)

### 教育学部の進学需要等に関するアンケート調査結果報告書(抜粋)

#### 5. 教育学部こども教育学科で学んだ卒業生の採用人数

本学への求人実績や卒業生の採用実績がある教育機関等に対して、教育学部こども教育学科で学んだ卒業生の採用人数について質問したところ、「1人」と回答したのが18件、「2人」と回答したのが19件、「3人以上」と回答したのが23件、「人数は未定」と回答したのが150件となっている。

また、教育学部こども教育学科で学んだ卒業生を「採用したい」と回答した教育機関等のうち、教育学部こども教育学科で学んだ卒業生の採用人数を「1人」と回答したのは18件、「2人」と回答したのは19件、「3人以上」と回答したのは23件、「人数は未定」と回答したのは145件となっている。

なお、「採用人数3人以上」と回答した教育機関等の採用人数を3人とし、「人数は未定」と回答した教育機関等の採用人数を1人として、これらの採用人数を合計すると270人となり、これらの採用人数からも敬愛大学の教育学部こども教育学科で学んだ卒業生に対する採用意向の高さをうかがうことができる。

このような本学への求人実績や卒業生の採用実績がある教育機関等に限定した調査結果においても、敬愛大学の教育学部こども教育学科で学んだ卒業生への採用意向の高さがうかがえることから、卒業後の進路については十分な見通しがあると考えられる。

#### 問5 教育学部こども教育学科で学んだ卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	1人	18	7.38
2	2人	19	7.79
3	3人以上	23	9.43
4	人数は未定	150	61.48
	未回答・不明	34	13.93
	合計	244	100.00

#### 問4×問5 卒業生の採用×卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数/件	全体/人
1	採用したいと思う*1人	18	18
2	採用したいと思う*2人	19	38
3	採用したいと思う*3人以上	23	69
4	採用したいと思う*人数は未定	145	145
	合計	205	270

## 目 次

### I. 進学需要調査（集計結果）

調査対象等	1
調査結果概要	2～8
調査対象者に関する事項	
性別	2
居住地	3
大学進学全般に関する質問事項	
高等学校卒業後の進路	4
進学を希望する分野	5
敬愛大学の教育学部こども教育学科に関する質問事項	
教育学部こども教育学科への興味・関心	6
教育学部こども教育学科の受験希望	7
教育学部こども教育学科への進学希望	8

### II. 人材需要調査（集計結果）

調査対象等	9
調査結果概要	10～14
調査対象に関する質問事項	
所在地	10
人材需要全般に関する質問事項	
人材の採用見込み	11
敬愛大学の教育学部こども教育学科に関する質問事項	
教育学部こども教育学科で養成する人材の必要性	12
教育学部こども教育学科で学んだ卒業生の採用	13
教育学部こども教育学科で学んだ卒業生の採用人数	14

### III. 参考資料

#### 進学需要調査関係

アンケート協力依頼高等学校一覧

アンケート調査票（高校生）

教育学部 こども教育学科（仮称）設置計画の概要

#### 人材需要調査関係

アンケート協力依頼教育機関等一覧

アンケート調査票（教育機関等）

## 1. 進学需要調査（集計結果）



## 1. 進学需要調査（集計結果）

### 【調査対象等】

敬愛大学では、令和3年4月より教育学部こども教育学科の設置を計画しており、この教育学部こども教育学科の設置計画を策定するにあたり、学生確保の見通しを計量的な数値から検証することを目的として、千葉県に所在する高等学校の2年生を対象とした進学需要等に関するアンケート調査を実施した。

#### ①調査対象

千葉県に所在する高等学校

#### ②調査方法

高等学校単位での一括配布、一括回収

#### ③調査実施

令和元年11月～令和元年12月

#### ④調査件数

回収件数： 37校

回収者数：8,089人

※表内の比率は四捨五入のため、各項目の合計値は一致しない。

## 【調査結果概要】

### <調査対象者に関する事項>

#### 【性別】

千葉県に所在する高等学校の2年生に、性別について質問したところ、回答者数 8,089 人の約 49.15%にあたる 3,976 人が「男性」と回答しており、約 50.71%にあたる 4,102 人が「女性」と回答している。

#### 【性別】

No.	カテゴリ	件数/人	全体/%
1	男性	3976	49.15
2	女性	4102	50.71
	未回答・不明	11	0.14
	合計	8089	100.00

## 【調査結果概要】

### <調査対象者に関する事項>

#### 【居住地】

千葉県に所在する高等学校の2年生に、現在の居住地について質問したところ、「千葉県」と回答した者が回答者数 8,089 人の約 97.90%にあたる 7,919 人で最も多く、次いで「その他」と回答した者が約 1.14%にあたる 92 人、「東京都」と回答した者が約 0.78%にあたる 63 人となっている。

#### 【居住地】

No.	カテゴリ	件数/人	全体/%
1	千葉県	7919	97.90
2	東京都	63	0.78
3	神奈川県	6	0.07
4	その他	92	1.14
	未回答・不明	9	0.11
	合計	8089	100.00

## 【調査結果概要】

### <大学進学全般に関する質問事項>

#### 1. 高等学校卒業後の進路

千葉県に所在する高等学校の2年生に、高等学校卒業後の進路について質問したところ、回答者数8,089人の約83.42%にあたる6,748人が「大学進学（4年制・6年制）」、「短期大学進学」、「専門学校進学」と回答しており、そのうち「大学進学（4年制・6年制）」と回答している者は、回答者数8,089人の約52.59%にあたる4,254人と最も高い数値を示していることから、大学（4年制・6年制）への進学意向の高さをうかがうことができる。

#### 問1 高等学校卒業後の進路

No.	カテゴリ	件数/人	全体/%
1	大学進学（4年制・6年制）	4,254	52.59
2	短期大学進学	319	3.94
3	専門学校進学	2,175	26.89
4	就職	1,174	14.51
5	その他	141	1.74
	未回答・不明	26	0.32
	合計	8,089	100.00

【調査結果概要】

＜大学進学全般に関する質問事項＞

2. 進学を希望する分野

千葉県に所在する高等学校の2年生に、高等学校卒業後に進学をする場合、どの分野を希望するかについて質問したところ、第1希望では「工学・理学関係」と回答した者が回答者数8,089人の約10.66%にあたる862人で最も多く、次いで「経済学・経営学関係」と回答した者が約10.59%にあたる857人、「教育学・保育学関係」と回答した者が約9.67%にあたる782人となっている。

問2 進学を希望する分野

No.	進学希望分野	第1希望		第2希望	
		件数/人	全体/%	件数/人	全体/%
1	文学・史学・哲学関係	700	8.65	726	8.98
2	教育学・保育学関係	782	9.67	813	10.05
3	法学・政治学関係	236	2.92	321	3.97
4	社会学・福祉学関係	266	3.29	529	6.54
5	経済学・経営学関係	857	10.59	767	9.48
6	工学・理学関係	862	10.66	387	4.78
7	医学・歯学・薬学関係	253	3.13	323	3.99
8	国際学関係	508	6.28	443	5.48
9	家政学・生活科学関係	313	3.87	298	3.68
10	美術学・音楽学関係	382	4.72	493	6.09
11	体育学・スポーツ学関係	484	5.98	616	7.62
12	医療技術学関係	292	3.61	469	5.80
13	看護学関係	525	6.49	358	4.43
14	その他	1034	12.78	431	5.33
	未回答・不明	595	7.36	1,115	13.78
	合計	8,089	100.00	8,089	100.00

## 【調査結果概要】

### <敬愛大学の教育学部こども教育学科に関する質問事項>

#### 3. 教育学部こども教育学科への興味・関心

千葉県に所在する高等学校の2年生に、教育学部こども教育学科への興味・関心について質問したところ、回答者数 8,089 人の約 18.41%にあたる 1,489 人が「興味・関心がある」と回答していることから、敬愛大学の教育学部こども教育学科への興味・関心の高さをうかがうことができる。

#### 問3 教育学部こども教育学科への興味・関心

No.	カテゴリ	件数/人	全体/%
1	興味・関心がある	1,489	18.41
2	興味・関心がない	6,494	80.28
	未回答・不明	106	1.31
	合計	8,089	100.00

## 【調査結果概要】

### <敬愛大学の教育学部こども教育学科に関する質問事項>

#### 4. 教育学部こども教育学科の受験希望

千葉県に所在する高等学校の2年生に、教育学部こども教育学科の受験希望について質問したところ、回答者数 8,089 人の約 7.57%にあたる 612 人が「受験を希望する」と回答しており、敬愛大学の教育学部こども教育学科への受験に積極的な意向を示している。

#### 問4 教育学部こども教育学科の受験希望

No.	カテゴリ	件数/人	全体/%
1	受験を希望する	612	7.57
2	受験を希望しない	7,353	90.90
	未回答・不明	124	1.53
	合計	8,089	100.00

## 【調査結果概要】

### <敬愛大学の教育学部こども教育学科に関する質問事項>

#### 5. 教育学部こども教育学科への進学希望

千葉県に所在する高等学校の2年生に、教育学部こども教育学科に合格した場合の進学希望について質問したところ、回答者数 8,089 人の約 6.76%にあたる 547 人が「進学を希望する」と回答しており、回答者数 8,089 人の約 26.59%にあたる 2,151 人が「併願大学の結果によって入学する」と回答している。

なお、教育学部こども教育学科の「受験を希望する」と回答した者のうち、教育学部こども教育学科に合格した場合「進学を希望する」と回答した者は 241 人、「併願大学の結果によって入学する」と回答した者は 270 人となっている。

このような千葉県に所在する高等学校の2年生に限定した調査結果においても、敬愛大学の教育学部こども教育学科への受験希望と進学希望の高さがうかがえることから、学生確保においては十分な見通しがあると考えられる。

#### 問 5 教育学部こども教育学科への進学希望

No.	カテゴリ	件数/人	全体/%
1	進学を希望する	547	6.76
2	併願大学の結果によって入学する	2,151	26.59
3	進学を希望しない	5,238	64.75
	未回答・不明	153	1.89
	合計	8,089	100.00

#### 問 4 × 問 5 受験を希望 × 進学を希望

No.	カテゴリ	件数/人
1*1	受験を希望する/進学を希望する	241
1*2	受験を希望する/併願大学の結果によって入学する	270

## II. 人材需要調査（集計結果）



## II. 人材需要調査（集計結果）

### 【調査対象等】

敬愛大学では、令和3年4月より教育学部こども教育学科の設置を計画しており、この教育学部こども教育学科の設置計画を策定するにあたり、人材需要の見通しを計量的な数値から検証することを目的として、本学への求人実績や卒業生の採用実績がある教育機関等を中心とした人材需要等に関するアンケート調査を実施した。

#### ①調査対象

本学への求人実績や卒業生の採用実績がある教育機関等（教育関連機関・福祉関連機関・民間企業等）

#### ②調査方法

教育機関等への郵送及び訪問による配布、回収

#### ③調査実施

令和元年11月～令和元年12月

#### ④調査件数

回答件数：244件

※表内の比率は四捨五入のため、各項目の合計値は一致しない。

## 【調査結果概要】

### <調査対象に関する質問事項>

#### 1. 所在地

本学への求人実績や卒業生の採用実績がある教育機関等に対して、所在地について質問したところ、回答件数 244 件の約 79.10%にあたる 193 件が「千葉県」と回答しており、次いで、約 12.30%にあたる 30 件が「東京都」と回答している。

#### 問 1 所在地

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	千葉県	193	79.10
2	東京都	30	12.30
3	神奈川県	2	0.82
4	その他	12	4.92
	未回答・不明	7	2.87
	合計	244	100.00

## 【調査結果概要】

### <人材需要全般に関する質問事項>

#### 2. 人材の採用見込み

本学への求人実績や卒業生の採用実績がある教育機関等に対して、人材の採用見込みについて質問したところ、回答件数 244 件の約 70.90%にあたる 173 件が「増加すると思う」と回答していることから、教育機関等における人材の採用見込みがうかがえる。

#### 問2 人材の採用見込み

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	増加すると思う	173	70.90
2	増加すると思わない	68	27.87
	未回答・不明	3	1.23
	合計	244	100.00

## 【調査結果概要】

### ＜敬愛大学の教育学部こども教育学科に関する質問事項＞

#### 3. 教育学部こども教育学科で養成する人材の必要性

本学への求人実績や卒業生の採用実績がある教育機関等に対して、教育学部こども教育学科で養成する人材の必要性について質問したところ、回答件数 244 件の約 92.21%にあたる 225 件が「必要性を感じる」と回答していることから、敬愛大学の教育学部こども教育学科で養成する人材の必要性の高さをうかがうことができる。

#### 問3 教育学部こども教育学科で養成する人材の必要性

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	必要性を感じる	225	92.21
2	必要性を感じない	15	6.15
	未回答・不明	4	1.64
	合計	244	100.00

## 【調査結果概要】

### ＜敬愛大学の教育学部こども教育学科に関する質問事項＞

#### 4. 教育学部こども教育学科で学んだ卒業生の採用

本学への求人実績や卒業生の採用実績がある教育機関等に対して、教育学部こども教育学科で学んだ卒業生の採用について質問したところ、回答件数 244 件の約 84.02%にあたる 205 件が「採用したいと思う」と回答しており、敬愛大学の教育学部こども教育学科で学んだ卒業生への採用に積極的な意向を示している。

#### 問4 教育学部こども教育学科で学んだ卒業生の採用

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	採用したいと思う	205	84.02
2	採用したいと思わない	32	13.11
	未回答・不明	7	2.87
	合計	244	100.00

【調査結果概要】

<敬愛大学の教育学部こども教育学科に関する質問事項>

5. 教育学部こども教育学科で学んだ卒業生の採用人数

本学への求人実績や卒業生の採用実績がある教育機関等に対して、教育学部こども教育学科で学んだ卒業生の採用人数について質問したところ、「1人」と回答したのが18件、「2人」と回答したのが19件、「3人以上」と回答したのが23件、「人数は未定」と回答したのが150件となっている。

また、教育学部こども教育学科で学んだ卒業生を「採用したい」と回答した教育機関等のうち、教育学部こども教育学科で学んだ卒業生の採用人数を「1人」と回答したのは18件、「2人」と回答したのは19件、「3人以上」と回答したのは23件、「人数は未定」と回答したのは145件となっている。

なお、「採用人数3人以上」と回答した教育機関等の採用人数を3人とし、「人数は未定」と回答した教育機関等の採用人数を1人として、これらの採用人数を合計すると270人となり、これらの採用人数からも敬愛大学の教育学部こども教育学科で学んだ卒業生に対する採用意向の高さをうかがうことができる。

このような本学への求人実績や卒業生の採用実績がある教育機関等に限定した調査結果においても、敬愛大学の教育学部こども教育学科で学んだ卒業生への採用意向の高さがうかがえることから、卒業後の進路については十分な見通しがあると考えられる。

問5 教育学部こども教育学科で学んだ卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	1人	18	7.38
2	2人	19	7.79
3	3人以上	23	9.43
4	人数は未定	150	61.48
	未回答・不明	34	13.93
	合計	244	100.00

問4×問5 卒業生の採用×卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数/件	全体/人
1	採用したいと思う*1人	18	18
2	採用したいと思う*2人	19	38
3	採用したいと思う*3人以上	23	69
4	採用したいと思う*人数は未定	145	145
	合計	205	270

### III. 參考資料



## 進学需要調査関係

□アンケート協力依頼高等学校一覧（千葉県 37校）

No	県名	区分	高等学校名	所在地	集計件数
1	千葉県	公立	千葉県立千葉女子高等学校	千葉市稲毛区小仲台5-10-1	220
2	千葉県	公立	千葉県立千葉商業高等学校	千葉市中央区松波2-22-48	307
3	千葉県	公立	千葉県立若松高等学校	千葉市若葉区若松町429	309
4	千葉県	公立	千葉県立行徳高等学校	市川市塩浜4-1-1	105
5	千葉県	公立	千葉県立浦安高等学校	浦安市海楽2-36-2	218
6	千葉県	公立	千葉県立松戸南高等学校	松戸市紙敷1199	135
7	千葉県	公立	千葉県立印旛明誠高等学校	印西市草深1420-9	97
8	千葉県	公立	千葉県立八街高等学校	八街市八街ろ145-3	146
9	千葉県	公立	千葉県立佐原白楊高等学校	香取市佐原イ861	197
10	千葉県	公立	千葉県立匝瑳高等学校	匝瑳市八日市場イ1630	269
11	千葉県	公立	千葉県立松尾高等学校	山武市松尾町大堤546	153
12	千葉県	公立	千葉県立東金高等学校	東金市東金1410	193
13	千葉県	公立	千葉県立長狭高等学校	鴨川市横渚100	162
14	千葉県	公立	千葉県立安房高等学校	館山市八幡385	225
15	千葉県	公立	千葉県立館山総合高等学校	館山市北条106	156
16	千葉県	公立	千葉県立佐倉西高等学校	佐倉市下志津263	179
17	千葉県	公立	千葉県立千城台高等学校	千葉市若葉区千城台西2-1-1	305
18	千葉県	公立	千葉県立柏陵高等学校	柏市逆井444-1	349
19	千葉県	公立	千葉県立沼南高等学校	柏市岩井678-3	143
20	千葉県	公立	千葉県立成田北高等学校	成田市玉造5-1	263
21	千葉県	公立	千葉県立市川南高等学校	市川市高谷1509	302
22	千葉県	公立	千葉県立土気高等学校	千葉市緑区あすみが丘東2-24-1	291
23	千葉県	公立	千葉県立白井高等学校	白井市池の上1-8-1	208
24	千葉県	公立	千葉県立佐倉南高等学校	佐倉市太田1956	174
25	千葉県	公立	千葉県立市原八幡高等学校	市原市八幡1877-1	229
26	千葉県	公立	千葉県立犢橋高等学校	千葉市花見川区千種町381-1	244
27	千葉県	公立	千葉県立市川昂高等学校	市川市東国分1-1-1	303
28	千葉県	公立	千葉県立四街道北高等学校	四街道市栗山1055-4	212
29	千葉県	私立	敬愛大学八日市場高等学校	匝瑳市八日市場口390	126
30	千葉県	私立	千葉敬愛高等学校	四街道市四街道1522	481
31	千葉県	私立	茂原北陵高等学校	茂原市吉井上128	145
32	千葉県	私立	千葉学芸高等学校	東金市田間1999	29
33	千葉県	私立	敬愛学園高等学校	千葉市稲毛区穴川1の5の21	373
34	千葉県	私立	横芝敬愛高等学校	山武郡横芝光町栗山4508	76
35	千葉県	私立	東京学館高等学校	印旛郡酒々井町伊篠21	339
36	千葉県	私立	東京学館船橋高等学校	船橋市豊富町577	290
37	千葉県	私立	桜林高等学校	千葉市若葉区桜木北1の17の32	136
合 計					8089

敬愛大学 教育学部 こども教育学科（仮称） 進学需要に関するアンケート調査  
－ 高校2年生用 －

敬愛大学では、学校教育や地域の子育て支援に貢献できる専門的な知識と実践的な能力を有した人材の養成に係る教育研究体制の一層の充実に向けて、既設の国際学部の子ども教育学科を発展的に改組し、新たに教育学部こども教育学科として設置することを検討しております。このアンケート調査は、高校生の皆さんに、高等学校卒業後の進路等についてお聞きし、教育学部こども教育学科の設置に向けての基礎資料とするものですので、ご協力くださいますようお願いいたします。

このアンケートの結果は、コンピュータにより処理され、統計資料としてのみ用い、個別の回答内容について公開したりすることはありません。

回答は、別紙の『敬愛大学 教育学部 こども教育学科（仮称） 設置計画の概要』をご覧いただいたうえで、設問の順に、該当する番号を直接回答欄にご記入ください。

【回答欄】

【あなたの性別について、お伺いします。】

次の中から1つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 男性          2 女性

【あなたの現在の居住地について、お伺いします。】

次の中から、該当する県名を選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 千葉県          3 神奈川県  
2 東京都          4 その他（具体的に          )

問1 あなたは、高校卒業後、どのような進路をお考えですか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 大学進学（4年制・6年制）          4 就職  
2 短期大学進学                                  5 その他（具体的に          )  
3 専門学校進学

問2 あなたが、高校卒業後に進学をする場合、どの分野を希望されますか。

次の中から、第2希望まで選んで、回答欄に番号を記入してください。

- |              |                        |      |
|--------------|------------------------|------|
| 1 文学・史学・哲学関係 | 8 国際学関係                | 第1希望 |
| 2 教育学・保育学関係  | 9 家政学・生活科学関係           |      |
| 3 法学・政治学関係   | 10 美術学・音楽学関係           |      |
| 4 社会学・福祉学関係  | 11 体育学・スポーツ学関係         |      |
| 5 経済学・経営学関係  | 12 医療技術学関係             | 第2希望 |
| 6 工学・理学関係    | 13 看護学関係               |      |
| 7 医学・歯学・薬学関係 | 14 その他（具体的に          ) |      |

裏面に進んでください ⇒

問3 あなたは、敬愛大学の教育学部のこども教育学科に興味・関心がありますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 興味・関心がある
- 2 興味・関心がない

問4 あなたは、敬愛大学の教育学部のこども教育学科が設置された場合、受験を希望されますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 受験を希望する（推薦入試・AO入試・一般入試・センター入試を含む）
- 2 受験を希望しない

問5 あなたは、敬愛大学の教育学部のこども教育学科に合格した場合、進学を希望されますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 進学を希望する
- 2 併願大学の結果によって入学する
- 3 進学を希望しない

<敬愛大学に対するご意見・ご要望等をご自由にお書きください>

これで、アンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

<敬愛大学に関する詳しい資料をご希望の方は、下記にご記入ください>

住 所 （〒            -            ）

氏 名

高等学校名

立

高等学校

## 敬愛大学 教育学部 こども教育学科(仮称) 設置計画の概要

### □計画概要 ※設置組織、学生定員、開設時期等に

ついては予定

\* 設置組織：教育学部 こども教育学科（4年制）※男女共学

\* 学生定員：入学定員72名／編入学定員 3年次 1名  
2年次 1名

\* 開設時期：令和3年4月

\* 設置場所：千葉県千葉市稲毛区六川1-5-21

\* アクセス：JR稲毛駅東口より徒歩約13分・バス約5分  
京成みどり台駅より徒歩約15分

### □教育研究上の目的

#### 【教育学部】

\* 教育学部では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「教育学分野」として、教育学分野の学問体系の理解の基に、教育の本質と社会的な意義や役割を理解させるとともに、教育の諸活動を主体的に行い、学校教育や地域教育の推進に寄与する能力と態度を育てることを目的としています。

#### 【こども教育学科】

\* こども教育学科では、教育に関する基礎的・基本的な知識と技能を教育実践の場面に適用することができる応用能力をもって、学校教育や地域教育を主体的に行うことのできる創造的な能力と実践的な態度を有した人材を養成することにより、地域社会への貢献を目指すことを目的としています。

### □養成する人材

#### 【教育学部】

\* 教育学部では、教育学分野に関する教育研究を通して、教育の基礎的・基本的な理論と技能の体系的な理解とともに、理論と実践の関係について理解し、学校教育や地域教育の推進に向けて、それらを総合的に実践することのできる応用能力を有した幅広い職業人を養成します。

#### 【こども教育学科】

\* こども教育学科では、幅広く深い教養と豊かな人間性及び子供の教育に関する知識と技能の習得を基盤として、それを現場で活用することができる実践能力に加えて、教育現象を科学的・実証的に考究し、その成果を子供の健全な育成に活かすことのできる人材を養成します。

### □取得可能な資格

\* こども教育学科の卒業要件単位に含まれる授業科目を履修することにより、小学校教諭1種免許状の取得が可能です。

### □想定される卒業後の進路

\* こども教育学科の卒業後の進路としては、小学校をはじめとする学校教育現場、学童クラブ、児童館、放課後児童クラブなどの児童厚生施設や児童養護施設、学習塾や予備校などの教育支援事業、さらには、教育産業・学習支援業などの幅広い分野において活躍することが期待されます。



## 人材需要調査関係

□アンケート協力依頼民間企業等一覧（依頼件数 728 件、回収件数 244 件）

No	企業等名	No	企業等名
1	アプリ児童デイサービス稲毛海岸	39	ジョブサU18千葉教室
2	アプリ児童デイサービス本千葉	40	わくわくすまいる西千葉
3	たんぼぼルームそが	41	わくわくすまいる千葉新宿
4	ろーたすくらぶ	42	にこにこクラブ稲毛教室
5	さぼーととらい・いそべ	43	中野学園
6	さぼーととらい・がくえん前	44	幕張キッズ
7	さぼーととらい・まくはり	45	たかね園
8	放課後等デイサービスウィズ稲毛海岸	46	若葉放課後等デイサービス
9	キッズルームチャコ稲毛教室	47	ポメロ
10	キッズルームチャコ千葉教室	48	リトル青い空
11	キッズルームチャコ本町教室	49	しいのみ園ともたかだ
12	アフタースクールセンター・ウェル	50	しいのみ園ともみやこ
13	ノビルキッズ 新検見川校	51	生活クラブ風の村あかとんぼ稲毛
14	あすなるクラブ矢作	52	生活クラブ風の村あかとんぼ作草部
15	クローバー わかば	53	畑町ガーデン
16	アンダンテ蘇我	54	ハピネス浜野
17	にじ花見川	55	でい・まさご弐番館
18	にじ今井	56	地域生活支援センターふるる
19	ノビルキッズ 蘇我校	57	千葉市桜木園
20	LITALICOジュニア 千葉教室	58	Bring up おゆみ野教室
21	いっばいっば登戸	59	Bring up おゆみ野第2教室
22	児童デイサービス シエスタ	60	放課後等デイサービスはぁもにい
23	YESアルファスマイル千葉校	61	TODAY児童デイサービス船橋夏見
24	ゆめ	62	TODAY児童デイサービス東船橋
25	わくわくぎふと鎌取	63	アプリ児童デイサービス高根公園
26	コラゾン千葉中央	64	こどもプラス原木中山教室
27	ちびっこルームあはは	65	ノビルキッズ習志野校
28	プラスアップ 蘇我教室	66	ノビルキッズ船橋浜町校
29	かがやきのまち 都町教室	67	アリエス
30	わくわくbloom千城台	68	STEP船橋高根台
31	3だーバンブー（サンダー）	69	おもちゃ箱ふなばし
32	バンブーnext（ネクスト）	70	おもちゃ箱キッズみさき園
33	バンブーアイランド	71	放課後等デイサービス おりーぶ
34	WOWの樹	72	放課後等デイサービスおりーぶ新高根
35	ハッピーテラス千葉みなと教室	73	こどもサポート教室「きらり」新船橋校
36	ハッピーテラス千葉中央教室	74	こどもサポート教室「きらり」船橋校
37	ジョブサU18稲毛教室	75	放課後等デイサービスすりーはあと宮本教室
38	ジョブサU18検見川浜教室	76	放課後等デイサービスすりーはあと東船橋教室

No	企業等名	No	企業等名
77	プラスアップ船橋教室	115	放課後等デイサービス・ハクナマタタ
78	ジョブサU18船橋南口教室	116	なないろ
79	ジョブサU18船橋北口教室	117	スマートキッズジュニア行徳
80	kiiitos!	118	児童デイサービスまはろ南行徳
81	なないろ西船	119	こどもプラス行徳教室
82	ふおーすまいる原木中山教室	120	スマートキッズジュニア南行徳
83	ゆたか福祉苑	121	児童デイほっと
84	放課後等デイサービス事業所「とれいる」	122	伸栄学習会妙典教室
85	そらいろくらぶ	123	コンプリオ第三事業所
86	放課後等デイサービスせいび学園	124	十彩
87	にじっこin増尾	125	ぼぼろハウス
88	にじっこin豊四季	126	地域の学び舎「プラット」
89	放課後等デイサービスにじっこin北柏	127	スマートキッズプラス本八幡
90	放課後等デイサービスアウー柏増尾台	128	放課後等デイサービスラン
91	ハッピー・テラス柏	129	スタジオplus+市川中央教室
92	ハッピーテラス柏II	130	スタジオプラスplus+市川駅前教室
93	あゆみ	131	スマートキッズジュニア本八幡
94	だんだん	132	コラゾン本八幡
95	柏の葉放課後デイサービス	133	児童デイサービスまはろ市川鬼高
96	放課後等デイサービス トレイン	134	STEP本八幡
97	キャロットスクール柏教室	135	Ohana本八幡
98	児童デイサービスなでしこ	136	放課後等デイサービスホップ
99	児童デイサービスなでしこ365	137	スタジオplus+本八幡教室
100	こばんはうすさくら 大津ヶ丘教室	138	ハッピーテラス本八幡教室
101	こばんはうすさくら初石教室	139	ひまわり
102	児童デイサービス・アニマートくれよん	140	児童デイサービスコンプリオ
103	ステップアップスペースなっつ	141	コンプリオ第二事業所
104	そら	142	らいおんハート遊びリテーション児童デイ
105	柏教育トレーニングセンター	143	らいおんハート児童放課後デイサービス葛南
106	放課後デイサービスひだまり	144	らいおんハートからだの児童デイサービス
107	すくすく	145	らいおんハート児童放課後デイサービス
108	ジュニアベガサス	146	ココアハウス
109	のぞみ	147	市川市そよかぜキッズ
110	スマイルスポーツ塾	148	ココアハウス
111	ふれあいの広場	149	ぼぼろハウス
112	放課後デイサービスめろんばん	150	放課後等デイサービスGRIPキッズ行徳校
113	デイサービスあかり	151	伸栄学習会 南行徳教室
114	放課後デイサービス寺子屋	152	スターギフト

No.	企業等名	No.	企業等名
153	放課後等デイサービスえがおの教室松戸中央	191	幸町ルーム
154	キッズフロンティア	192	おもちゃびるーむ
155	放課後等デイサービスえがおの教室松戸八ヶ崎	193	ぱすてる
156	こぼんはうすさくら新松戸教室	194	本城ルーム
157	わくわくクラブ	195	アンダンテ成田
158	わくわくクラブエース	196	おもちゃ箱なりた
159	児童デイサービスはっぴい	197	菜の花会児童デイサービスげんき名木小
160	このこのリーフ上本郷	198	あいので第二教室
161	このこのリーフ北松戸	199	子どもデイサービスセンター杜の家なりた
162	放課後等デイサービスとんぼキッズ三矢小台	200	こぼんはうすさくら佐倉うすい教室
163	わくわくクラブ	201	こども発達支援モチモチの森
164	ウィングサポートセンター二十世紀が丘	202	あすなろクラブユーカリ
165	スマイルぶらす松戸	203	放課後等デイサービスエリテ
166	えがおの教室新松戸南	204	にじユーカリが丘
167	放課後等デイサービスとんぼキッズ	205	ノビルキッズユーカリが丘校
168	松戸地域福祉事業所放課後等デイサービスみらい	206	生活クラブ風の村あかとんぼ飯野
169	こぼんはうすさくら松戸六高台教室	207	生活クラブ風の村重心通所さくら
170	放課後等デイサービスすてっぷ	208	生活クラブ風の村あかとんぼ下根
171	ハッピーテラス八柱駅前教室	209	放課後等デイサービスあらた京成佐倉事業所
172	放課後等デイサービスらんらん青空	210	おもちゃ箱さくら
173	児童デイサービスぼと	211	生活クラブ風の村あかとんぼ土浮
174	みらいちゃん野菊野トライ	212	生活クラブ風の村あかとんぼ佐倉
175	UNICO	213	プライマリーclubユーカリが丘
176	このこのリーフ秋山	214	佐倉市さくらんぼ園指定管理者社会福祉法人千手会
177	多機能型事業所みらいネクスト	215	東習志野にじっこ
178	こぼんはうすさくら 松戸みのり台教室	216	放課後等デイサービスまりも
179	多機能型事業所みらい	217	鷺沼台にじっこ
180	児童デイサービスひろば	218	放課後等デイサービスにじっこin袖ヶ浦
181	デイサービスありす	219	放課後等デイサービスまりも袖ヶ浦
182	児童デイサービスピース	220	こでまり
183	宅老所デイサービスひぐらしのいえ	221	プラスアップ習志野教室
184	このこのリーフ20世紀	222	おもちゃ箱つだぬま
185	放課後等デイサービス フレンド	223	まめの木
186	こずもすカレッジ小原教室	224	おもちゃ箱みもみ
187	ぬくもりの里たんぼぼ	225	ハッピーテラス実習教室
188	成田市こども発達支援センター	226	放課後等デイサービスミクシード習志野鷺沼
189	すずらん	227	児童デイサービスたからばこ
190	ぬくもりの里第2たんぼぼ	228	おもちゃ箱みもみ

No	企業等名	No	企業等名
229	放課後等デイサービスまりも大久保	267	富浦学園
230	アプリ児童デイサービス八千代台	268	望みの門かずさの里
231	まめの木八千代台店	269	平和園
232	まめの木 八千代台東店	270	滝郷学園
233	グリーンヒルキッズ	271	東海学園
234	あかねいろの風	272	成田学園
235	あごら	273	獅子吼園
236	ビータス	274	晴香園
237	プライマリークラブやちよ	275	野の花の里
238	にじと風	276	ひかりの子学園
239	グリーンヒルキッズゆりのき台	277	おんちょう園
240	プライマリークラブゆりの樹	278	房総双葉学園
241	ジョブサU18八千代教室	279	ほうゆう・キッズホーム
242	さくらいろの風	280	CKK学園
243	キッズブレイン	281	進学塾ベルゲン
244	伸栄学習会 北栄教室	282	シンメイゼミナール
245	マリーナ	283	京葉学舎
246	なゆたぐりん	284	開進学園
247	ふあり	285	育英館
248	スマートキッズジュニア浦安	286	和塾
249	放課後等デイサービスみらい	287	Earthゼミ
250	ノビルキッズ四街道校	288	石研プロダクティブ
251	児童デイサービスひまわり	289	県塾
252	にこにこクラブ	290	はなみがわ学習塾
253	児童デイサービスそら	291	数研塾
254	児童デイサービスくろーばー	292	山王アカデミー
255	児童デイサービスそら	293	国語道場
256	にじ四街道	294	アップルアカデミア
257	だいち	295	誉田進学塾
258	独立行政法人国立病院機構下志津病院	296	Mアカデミア
259	にじ四街道めいわ	297	KP大耀学舎
260	放課後等デイサービス スマイル	298	You-Youスクール あすみが丘
261	ファンファンキッズ物井	299	早稲田スクール
262	放課後等デイサービスそらまめ	300	教進セミナー
263	一宮学園	301	三和個別学院
264	香取学園松葉寮	302	個別指導アカデミー UNICORN
265	螢雪学園	303	進学塾学舎
266	子山ホーム	304	次世代型個別学習塾 開成ラボ

No.	企業等名	No.	企業等名
305	京葉伸学会	343	日出学園小学校
306	エース進学塾	344	昭和学院小学校
307	NAC進学館	345	三育学院大学付属光風台三育小学校
308	成央学院	346	国府台女子学院小学部
309	丸山進学塾	347	成田高等学校付属小学校
310	アシスト（船橋）	348	聖徳大学附属小学校
311	みのり塾	349	千葉日本大学第一小学校
312	志学アカデミー アンビシャス	350	暁星国際小学校
313	学力再生工房 AQURAS	351	幕張インターナショナルスクール小学校
314	学習塾トレス	352	暁星国際流山小学校
315	進取塾	353	アーランドサービスホールディングス株式会社
316	咲が丘アカデミー	354	株式会社オールアンドオール
317	明日教育株式会社	355	アイカ工業株式会社
318	修学舎	356	青山商事株式会社
319	教育学院	357	株式会社明石スクールユニフォームカンパニー
320	学伸奏の社	358	アクサ生命保険株式会社
321	日米文化学院	359	朝日信用金庫
322	S. E. I. 東大アチーブ	360	アシザワ・ファインテック株式会社
323	成桜まなび塾	361	株式会社アシックス
324	塾アルゴ	362	アスクル株式会社
325	状元塾	363	株式会社アドバンス
326	Vision進学塾	364	株式会社アミック
327	アシスト指導学院	365	株式会社あらた
328	学習塾ファンファーレ	366	アラマークユニフォームサービスジャパン株式会社
329	個別指導Axis 本八幡駅前校	367	株式会社アルファ・オイコス
330	Fine!学習塾	368	アルプスアルパイン株式会社
331	伸栄学習会	369	株式会社アントルビーンズ
332	進学教室ルータス	370	イオンコンバス株式会社
333	AIM学習セミナー	371	株式会社イオンファンタジー
334	特進学院 松戸野菊野校	372	イオンフィナンシャルサービス株式会社
335	修学個別進学会	373	イオンリテール株式会社
336	看護進学会	374	株式会社石井スポーツ
337	創学舎	375	株式会社石田大成社
338	フォーシーズンズ進学学院	376	株式会社イシド
339	葉山学院	377	井関農機株式会社
340	沼南文化学園	378	伊丹産業株式会社
341	個別指導塾フォレスト	379	市川市農業協同組合
342	東葉ゼミナール	380	伊藤超短波株式会社

No.	企業等名	No.	企業等名
381	株式会社IDOM	419	株式会社大淵銀器
382	岩田産業株式会社	420	株式会社オリエントコーポレーション
383	岩淵薬品株式会社	421	株式会社学情
384	株式会社ヴィクトリア	422	かとり農業協同組合
385	株式会社ウェザーニューズ	423	株式会社かね貞
386	ウエルシア薬局株式会社	424	カミマル株式会社
387	鶴沢建設株式会社	425	亀有信用金庫
388	株式会社ウチダシステムズ	426	株式会社川島屋
389	株式会社ウチダテクノ	427	株式会社カワダ
390	株式会社ウラタ	428	株式会社カワチ薬品
391	株式会社エアポートカーゴサービス	429	株式会社関電工
392	株式会社エイジス	430	キッコーマン株式会社
393	エイチアールワン株式会社	431	株式会社キッツ
394	株式会社エイチ・アイ・エス	432	株式会社紀伊國屋書店
395	株式会社HMKロジサービス	433	株式会社木山製作所
396	株式会社エイブル	434	株式会社QVCジャパン
397	株式会社エイム	435	株式会社協同工芸社
398	ANAエアポートサービス株式会社	436	株式会社近畿日本ツーリストコーポレートビジネス
399	ANAスカイビルサービス株式会社	437	株式会社近鉄コスモス
400	ANAセールス株式会社	438	空港ターミナルサービス株式会社
401	ANA成田エアポートサービス株式会社	439	株式会社KUURAKU GROUP
402	エームサービス株式会社	440	株式会社くすりの福太郎
403	SMB C日興証券株式会社	441	株式会社グリーンポート・エージェンシー
404	株式会社SDネクスト	442	株式会社グルメ杵屋
405	NECプラットフォームズ株式会社	443	株式会社クレディセゾン
406	ANAセーフティサポート株式会社	444	株式会社グローバンス
407	株式会社NAAリテイリング	445	警視庁
408	株式会社NSD	446	株式会社京成ストア
409	NTN株式会社	447	京成電鉄株式会社
410	エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社	448	京成トラベルサービス株式会社
411	エフピコインターパック株式会社	449	京葉瓦斯株式会社
412	株式会社MSK	450	株式会社京葉銀行
413	株式会社エムエスデー	451	株式会社ケーヨー
414	オーケー株式会社	452	小池酸素工業株式会社
415	大阪富士工業株式会社	453	航空集配サービス株式会社
416	株式会社大塚家具	454	厚生労働省
417	株式会社大塚商会	455	株式会社こうゆう
418	沖電気工業株式会社	456	コーチ・ジャパン合同会社

No	企業等名	No	企業等名
457	生活協同組合コープみらい	495	ジャパンフーズ株式会社
458	国際自動車株式会社	496	株式会社写楽館
459	国際通信企画株式会社	497	株式会社JALカーゴサービス
460	株式会社サイサン	498	株式会社JALグランドサービス
461	株式会社サカイ引越センター	499	株式会社JALスカイ
462	サコス株式会社	500	株式会社ジャルセールス
463	株式会社ザ・マンハッタン	501	株式会社JAL-DFS
464	サミット株式会社	502	株式会社JALナビア
465	佐原信用金庫	503	ジャルロイヤルケータリング株式会社
466	三栄メンテナンス株式会社	504	株式会社シュテルン品川
467	山九株式会社	505	株式会社ジョイネット
468	株式会社三協リール	506	城北信用金庫
469	三建設備工業株式会社	507	株式会社シルバーとつぷ
470	サンコーインダストリー株式会社	508	株式会社新栄
471	株式会社サンドラッグ	509	株式会社しんきんカード
472	株式会社三陽商会	510	株式会社新昭和
473	三陽メディア株式会社	511	信組情報サービス株式会社
474	サンヨーエアサービス株式会社	512	日本製鉄株式会社
475	株式会社サンリツ	513	新日本建設株式会社
476	株式会社三和テレム	514	新日本設備株式会社
477	株式会社CNホールディングス	515	新葉瓦斯機器株式会社
478	株式会社G-7ホールディングス	516	杉田エース株式会社
479	株式会社シーネット	517	スズキ機工株式会社
480	株式会社ジェイ・エス・エス	518	株式会社スズキ自販千葉
481	JXTGエネルギー株式会社	519	株式会社スタジオアリス
482	ジェイリース株式会社	520	スタンレー電気株式会社
483	株式会社ジェーシービー	521	株式会社住軽日軽エンジニアリング
484	ジェットスター・ジャパン株式会社	522	住友不動産販売株式会社
485	ジェフユナイテッド株式会社	523	住友林業情報システム株式会社
486	シェル商事株式会社	524	株式会社スリーライト
487	シグマロジスティクス株式会社	525	株式会社セキネ
488	四国紙商事株式会社	526	株式会社世広
489	株式会社資生堂	527	セコム株式会社
490	資生堂ジャパン株式会社	528	ゼット株式会社
491	しのはらプレスサービス株式会社	529	ゼビオ株式会社
492	株式会社島津製作所	530	株式会社扇港電機
493	株式会社ジャックス	531	セントラル警備保障株式会社
494	株式会社ジャパンビバレッジホールディングス	532	セントラルスポーツ株式会社

No.	企業等名	No.	企業等名
533	全日空商事デューティーフリー株式会社	571	千葉トヨペット株式会社
534	全日本空輸株式会社	572	チバビジネス株式会社
535	株式会社千豊	573	株式会社千葉マツダ
536	総合警備保障株式会社	574	ちばみどり農業協同組合
537	株式会社Z O Z O	575	千葉みらい農業協同組合
538	株式会社ゾフ	576	株式会社千葉薬品
539	株式会社大創産業	577	千葉労働局
540	大日精化工業株式会社	578	銚子商工信用組合
541	大日本印刷株式会社	579	銚子信用金庫
542	ダイハツ千葉販売株式会社	580	塚本総業株式会社
543	タイハイ株式会社	581	株式会社ツツミ
544	大豊工業株式会社	582	株式会社ティーエスケー
545	株式会社ダイヤコーポレーション	583	株式会社Dダイニング
546	太陽建機レンタル株式会社	584	株式会社T T C
547	株式会社タイヨー	585	株式会社ティエフケー
548	株式会社タウンハウジング	586	株式会社テイクアンドギヴ・ニーズ
549	株式会社多慶屋	587	株式会社帝国データバンク
550	株式会社地域新聞社	588	ディップ株式会社
551	株式会社チノー	589	株式会社ティップネス
552	千葉共同サイロ株式会社	590	東海東京フィナンシャル・ホールディングス株式会社
553	株式会社千葉銀行	591	東京ガスコミュニケーションズ株式会社
554	株式会社ちばぎん総合研究所	592	東京ガスライフバル千葉株式会社
555	学校法人千葉敬愛学園	593	東京急行電鉄株式会社
556	千葉県医業健康保険組合	594	東京地下鉄株式会社
557	千葉県火災共済協同組合	595	東京東信用金庫
558	一般社団法人千葉県経営者協会	596	株式会社東京鋳兼
559	千葉県警察本部	597	東京ベイ信用金庫
560	一般社団法人千葉県商工会議所連合会	598	株式会社東天紅
561	千葉県総合教育センター	599	東武トップツアーズ株式会社
562	株式会社千葉興業銀行	600	株式会社東武ホテルマネジメント
563	千葉市生涯学習センター	601	東邦オート株式会社
564	公益財団法人千葉市教育振興財団	602	東邦チタニウム株式会社
565	千葉市経済農政局経済部経済企画課	603	T O T O バスクリエイト株式会社
566	千葉商工会議所	604	株式会社ドームユナイテッド
567	千葉信用金庫	605	株式会社ドトールコーヒー
568	株式会社千葉ステーションビル	606	トヨタカロラ千葉株式会社
569	株式会社千葉通信システム	607	トヨタ部品千葉共販株式会社
570	千葉トヨタ自動車株式会社	608	株式会社トライアルカンパニー

No.	企業等名	No.	企業等名
609	株式会社トラベルプラザインターナショナル	647	東日本旅客鉄道株式会社
610	トランコム株式会社	648	株式会社ヒカリシステム
611	株式会社ナカノフドー建設	649	株式会社美光商会
612	株式会社ナリコー	650	日立化成株式会社
613	成田国際空港株式会社	651	株式会社ビックカメラ
614	一般財団法人成田国際空港振興協会	652	株式会社ヒマラヤ
615	成田市農業協同組合	653	株式会社ナリタコスゲ・オペレーションズ
616	株式会社成田デンタル	654	株式会社HIROKEN
617	株式会社ナリタヤ	655	広島建設株式会社
618	株式会社ナルミヤ・インターナショナル	656	株式会社ファッションクロス
619	西尾レントオール株式会社	657	株式会社ファンケル
620	株式会社日伝	658	株式会社FIELD
621	ニチバン株式会社	659	藤倉化成株式会社
622	日新化工株式会社	660	フジケミ東京株式会社
623	日神不動産株式会社	661	富士ゼロックス千葉株式会社
624	日通商事株式会社	662	富士ソフト株式会社
625	日鉄環境プラントソリューションズ株式会社	663	フジフーズ株式会社
626	日東電工株式会社	664	フジモトHD株式会社
627	ニッポンレンタカー関東株式会社	665	双葉電子工業株式会社
628	日本瓦斯株式会社	666	プライザ株式会社
629	日本企画株式会社	667	ブラザー工業株式会社
630	日本空港サービス株式会社	668	ブリヂストンタイヤサービス東日本株式会社
631	日本システム技術株式会社	669	ブルドックソース株式会社
632	日本賃貸保証株式会社	670	古谷乳業株式会社
633	株式会社日本デイクアセンター	671	株式会社プレジャーネクスト
634	日本発條株式会社	672	株式会社フローラ企画
635	株式会社日本保安	673	株式会社ブロンコビリー
636	日本郵便株式会社	674	株式会社ベストマッチ
637	ネットトヨタ千葉株式会社	675	房総信用組合
638	株式会社ノジマ	676	朋和産業株式会社
639	パイオニア株式会社	677	ホテルスプリングス幕張
640	株式会社バイク王&カンパニー	678	ボルボ・カー・ジャパン株式会社
641	ハイテクスシステム株式会社	679	株式会社ホンダカーズ千葉
642	萩原電気ホールディングス株式会社	680	株式会社ホンダカーズ東葛
643	橋本産業株式会社	681	株式会社マイナビ
644	株式会社羽田エアポートエンタープライズ	682	マツダ中販株式会社
645	パンチ工業株式会社	683	松村石油株式会社
646	ビー・トランセホールディングス株式会社	684	株式会社マツモトキヨシ

No.	企業等名	No.	企業等名
685	マツモト産業株式会社	707	横河電機株式会社
686	マブチモーター株式会社	708	株式会社ヨコハマタイヤジャパン
687	丸三証券株式会社	709	吉川運輸株式会社
688	株式会社マルテー大塚	7010	吉野石膏株式会社
689	東都自動車株式会社	711	米屋株式会社
690	みずほ不動産販売株式会社	712	ライオン株式会社
691	三井住友カード株式会社	713	株式会社ライフコーポレーション
692	三ツ星ベルト株式会社	714	株式会社ライフランド
693	三ッ輪産業株式会社	715	株式会社ランドロームジャパン
694	ミライフ株式会社	716	株式会社リアルオン
695	美和ロック株式会社	717	一般社団法人留学生進路支援センター
696	名鉄観光サービス株式会社	718	リョービ株式会社
697	明和地所株式会社	719	りらいあコミュニケーションズ株式会社
698	株式会社メガスポーツ	720	株式会社レカムサービス
699	株式会社ヤグチ	721	株式会社レナウン
700	株式会社ヤマカミ	722	株式会社ローソンストア100
701	株式会社やまとエンタープライズ	723	ロツクペイント株式会社
702	株式会社ヤマナカゴーキン	724	ワールドエンタプライズ株式会社
703	ユアサ・フナシヨク株式会社	725	株式会社ワールドストアパートナーズ
704	ユニアデックス株式会社	726	株式会社ワイズマート
705	ユニプレス株式会社	727	株式会社ワイビーイー
706	株式会社ヨークマート	728	渡辺パイプ株式会社

## 敬愛大学 教育学部 こども教育学科（仮称） 人材需要に関するアンケート調査

敬愛大学では、学校教育や地域の子育て支援に貢献できる専門的な知識と実践的な能力を有した人材の養成に係る教育研究体制の一層の充実に向けて、既設の国際学部の子ども教育学科を発展的に改組し、新たに教育学部こども教育学科として設置することを検討しております。このアンケート調査は、人事・採用ご担当の皆様からのご意見をお聞きし、教育学部こども教育学科の設置にむけての基礎資料とするものですので、ご協力くださいますようお願い申し上げます。このアンケートの結果は、コンピュータにより処理され、統計資料としてのみ用い、外部の人に見せたりすることはありません。

回答は、別紙の『敬愛大学 教育学部 こども教育学科（仮称） 設置計画の概要』をご覧ください。うえて、設問の順に、該当する番号を直接回答欄にご記入ください。

【回答欄】

問1 貴施設の所在地について、お尋ねいたします。

- 1 千葉県                      2 東京都  
3 神奈川県                    4 その他（具体的に：                      )

問2 今後の貴施設における人材の採用見込について、お尋ねいたします。

次の中から1つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 増加と思う                2 増加すると思わない

問3 敬愛大学の教育学部のこども教育学科で養成する人材について、どのようにお考えになりますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 必要性を感じる            2 必要性を感じない

問4 敬愛大学の教育学部のこども教育学科で学んだ卒業生の採用について、どのようにお考えになりますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 採用したいと思う        2 採用したいと思わない

<問5は、問4で「1」と回答された方のみ、お答えください>

問5 敬愛大学の教育学部のこども教育学科で学んだ卒業生を採用する場合の人数について、どのようにお考えになりますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 1人                            2 2人  
3 3人以上                      4 人数は未定

<敬愛大学に対するご意見・ご要望等をご自由にお書きください>

これで、アンケートは終わりです。

ご多忙中、ご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。

## 敬愛大学 教育学部 こども教育学科（仮称） 人材需要に関するアンケート調査

敬愛大学では、学校教育や地域の子育て支援に貢献できる専門的な知識と実践的な能力を有した人材の養成に係る教育研究体制の一層の充実に向けて、既設の国際学部の子ども教育学科を発展的に改組し、新たに教育学部こども教育学科として設置することを検討しております。このアンケート調査は、人事・採用ご担当の皆様からのご意見をお聞きし、教育学部こども教育学科の設置にむけての基礎資料とするものですので、ご協力くださいますようお願い申し上げます。このアンケートの結果は、コンピュータにより処理され、統計資料としてのみ用い、外部の人に見せたりすることはありません。

回答は、別紙の『敬愛大学 教育学部 こども教育学科（仮称） 設置計画の概要』をご覧ください。このアンケートの結果は、コンピュータにより処理され、統計資料としてのみ用い、外部の人に見せたりすることはありません。回答は、別紙の『敬愛大学 教育学部 こども教育学科（仮称） 設置計画の概要』をご覧ください。このアンケートの結果は、コンピュータにより処理され、統計資料としてのみ用い、外部の人に見せたりすることはありません。

問1 貴進学塾の所在地について、お尋ねいたします。

- 1 千葉県                      2 東京都  
3 神奈川県                    4 その他（具体的に：                      )

【回答欄】

問2 今後の貴進学塾における人材の採用見込について、お尋ねいたします。

次の中から1つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 増加すると思う              2 増加すると思わない

問3 敬愛大学の教育学部のこども教育学科で養成する人材について、どのようにお考えになりますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 必要性を感じる              2 必要性を感じない

問4 敬愛大学の教育学部のこども教育学科で学んだ卒業生の採用について、どのようにお考えになりますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 採用したいと思う              2 採用したいと思わない

<問5は、問4で「1」と回答された方のみ、お答えください>

問5 敬愛大学の教育学部のこども教育学科で学んだ卒業生を採用する場合の人数について、どのようにお考えになりますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 1人                              2 2人  
3 3人以上                        4 人数は未定

<敬愛大学に対するご意見・ご要望等をご自由にお書きください>

これで、アンケートは終わりです。

ご多忙中、ご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。

## 敬愛大学 教育学部 こども教育学科（仮称） 人材需要に関するアンケート調査

敬愛大学では、学校教育や地域の子育て支援に貢献できる専門的な知識と実践的な能力を有した人材の養成に係る教育研究体制の一層の充実に向けて、既設の国際学部の子ども教育学科を発展的に改組し、新たに教育学部こども教育学科として設置することを検討しております。このアンケート調査は、人事・採用ご担当の皆様からのご意見をお聞きし、教育学部こども教育学科の設置にむけての基礎資料とするものですので、ご協力くださいますようお願い申し上げます。このアンケートの結果は、コンピュータにより処理され、統計資料としてのみ用い、外部の人に見せたりすることはありません。

回答は、別紙の『敬愛大学 教育学部 こども教育学科（仮称） 設置計画の概要』をご覧ください。うえて、設問の順に、該当する番号を直接回答欄にご記入ください。

【回答欄】

問1 貴校の所在地について、お尋ねいたします。

- 1 千葉県                      2 東京都  
3 神奈川県                    4 その他（具体的に：                      )

問2 今後の貴校における人材の採用見込について、お尋ねいたします。

次の中から1つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 増加と思う                2 増加すると思わない

問3 敬愛大学の教育学部のこども教育学科で養成する人材について、どのようにお考えになりますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 必要性を感じる            2 必要性を感じない

問4 敬愛大学の教育学部のこども教育学科で学んだ卒業生の採用について、どのようにお考えになりますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 採用したいと思う        2 採用したいと思わない

<問5は、問4で「1」と回答された方のみ、お答えください>

問5 敬愛大学の教育学部のこども教育学科で学んだ卒業生を採用する場合の人数について、どのようにお考えになりますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 1人                              2 2人  
3 3人以上                        4 人数は未定

<敬愛大学に対するご意見・ご要望等をご自由にお書きください>

これで、アンケートは終わりです。

ご多忙中、ご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。

## 敬愛大学 教育学部 こども教育学科（仮称） 人材需要に関するアンケート調査

敬愛大学では、学校教育や地域の子育て支援に貢献できる専門的な知識と実践的な能力を有した人材の養成に係る教育研究体制の一層の充実に向けて、既設の国際学部の子ども教育学科を発展的に改組し、新たに教育学部こども教育学科として設置することを検討しております。このアンケート調査は、人事・採用ご担当の皆様からのご意見をお聞きし、教育学部こども教育学科の設置にむけての基礎資料とするものですので、ご協力くださいますようお願い申し上げます。このアンケートの結果は、コンピュータにより処理され、統計資料としてのみ用い、外部の人に見せたりすることはありません。

回答は、別紙の『敬愛大学 教育学部 こども教育学科（仮称） 設置計画の概要』をご覧いただいたうえで、設問の順に、該当する番号を直接回答欄にご記入ください。

【回答欄】

問1 貴施設・貴社の所在地について、お尋ねいたします。

- 1 千葉県                      2 東京都  
3 神奈川県                    4 その他（具体的に：                      )

問2 今後の貴施設・貴社における人材の採用見込について、お尋ねいたします。

次の中から1つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 増加と思う                2 増加すると思わない

問3 敬愛大学の教育学部のこども教育学科で養成する人材について、どのようにお考えになりますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 必要性を感じる            2 必要性を感じない

問4 敬愛大学の教育学部のこども教育学科で学んだ卒業生の採用について、どのようにお考えになりますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 採用したいと思う        2 採用したいと思わない

<問5は、問4で「1」と回答された方のみ、お答えください>

問5 敬愛大学の教育学部のこども教育学科で学んだ卒業生を採用する場合の人数について、どのようにお考えになりますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 1人                            2 2人  
3 3人以上                      4 人数は未定

<敬愛大学に対するご意見・ご要望等をご自由にお書きください>

これで、アンケートは終わりです。

ご多忙中、ご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。



## 教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	サンペイ トシオ 三幣 利夫 <平成30年4月>		経済学士		敬愛大学学長 (平成30年4月～令和3年3月)

（注） 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

別記様式第3号（その2の1）

教 員 の 氏 名 等													
(教育学部 こども教育学科)													
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年 次	担 単 位 数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数	
1	専	教授	ヤマグチ マサユキ 山口 政之 <令和3年4月>		修士(教育学)		初等国語科指導法 学級担任と読書 教育実習指導 教育実習 教職実践演習(小学校) 1年基礎演習Ⅰ 1年基礎演習Ⅱ 2年応用演習Ⅰ 2年応用演習Ⅱ 3年次専門研究Ⅰ 3年次専門研究Ⅱ 4年次専門研究Ⅰ 4年次専門研究Ⅱ 卒業研究	2後 2・3・4前 3前 3・4後 4後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4後	2 2 1 4 2 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2	2 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	敬愛大学 国際学部 教授 (平21.4)	4日	
2	専	教授	ハタナカ チアキ 畑中 千晶 <令和3年4月>		博士(学術)		文学教材研究 国語(書写を含) 児童文学論 日本文化論 こども学Ⅰ 1年基礎演習Ⅰ 1年基礎演習Ⅱ 2年応用演習Ⅰ 2年応用演習Ⅱ 3年次専門研究Ⅰ 3年次専門研究Ⅱ 4年次専門研究Ⅰ 4年次専門研究Ⅱ 卒業研究	2・3・4前 2前 2・3・4後 2・3・4後 2後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4後	2 2 2 2 2 1 1 1 1 2 2 2 2 2	1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	敬愛大学 国際学部 教授 (平17.4)	4日	
3	専	教授	ヤマモト ヨウコ 山本 陽子 <令和3年4月>		修士(教育学)		音楽 初等音楽科指導法 音楽と表現 こども学Ⅱ 1年基礎演習Ⅰ 1年基礎演習Ⅱ 2年応用演習Ⅰ 2年応用演習Ⅱ 3年次専門研究Ⅰ 3年次専門研究Ⅱ 4年次専門研究Ⅰ 4年次専門研究Ⅱ 卒業研究	1後 2前 2・3・4前 3前 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4後	2 2 1 2 1 1 1 1 2 2 2 2 2	2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	敬愛大学 国際学部 教授 (平19.4)	4日	
4	専	教授	イチカワ ヨウコ 市川 洋子 <令和3年4月>		博士(教育学)		総合的な学修の時間の指導法(小学校) 世界のこども教育 教育原論 教育課程論(小学校) 教職実践演習(小学校) 1年基礎演習Ⅰ 1年基礎演習Ⅱ 2年応用演習Ⅰ 2年応用演習Ⅱ 3年次専門研究Ⅰ 3年次専門研究Ⅱ 4年次専門研究Ⅰ 4年次専門研究Ⅱ 卒業研究	4前 2・3・4前 1前 1後 4後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4後	2 2 2 2 2 1 1 1 1 2 2 2 2 2	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	敬愛大学 国際学部 教授 (平29.4)	4日	

教 員 の 氏 名 等												
(教育学部 こども教育学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年 次	担 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
5	専	教授	ムコウヤマ ユキオ 向山 行雄 <令和3年4月>		教育学士		社会 初等社会科指導法 教職実践演習(小学校) 学校の安全教育 1年基礎演習 I 1年基礎演習 II 2年応用演習 I 2年応用演習 II 3年次専門研究 I 3年次専門研究 II 4年次専門研究 I 4年次専門研究 II 卒業研究	2前 2後 4後 2・3・4前 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4後	2 2 2 2 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2	2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	敬愛大学 国際学部 教授 (平30.4)	4日
6	専	教授	ハヤシ ジロウ 林 次郎 <令和3年4月>		教育学士		小学校英語 I 小学校英語 II 小学校英語指導法 I 小学校英語指導法 II 1年基礎演習 I 1年基礎演習 II 2年応用演習 I 2年応用演習 II 3年次専門研究 I 3年次専門研究 II 4年次専門研究 I 4年次専門研究 II 卒業研究	1後 2前 2後 3前 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4後	2 2 2 2 1 1 1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	敬愛大学 国際学部 教授 (平30.4)	4日
7	専	准教授	タナカ ミオ 田中 未央 (酒井 未央) <令和3年4月>		博士(心理学)		教育相談(小学校) 心理学 発達心理学 教育心理学 こども学 I 1年基礎演習 I 1年基礎演習 II 2年応用演習 I 2年応用演習 II 3年次専門研究 I 3年次専門研究 II 4年次専門研究 I 4年次専門研究 II 卒業研究	4前 1・2前 1前 2後 2後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4後	2 2 2 2 2 1 1 1 1 2 2 2 2 2	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	敬愛大学 国際学部 准教授 (平24.4)	4日
8	専	准教授	サトウ ケイコ 佐藤 佳子 <令和3年4月>		修士(文学)		小学校英語 I 小学校英語 II 小学校英語指導法 I 小学校英語指導法 II 英米児童文学 Mother Goose 1年基礎演習 I 1年基礎演習 II 2年応用演習 I 2年応用演習 II 3年次専門研究 I 3年次専門研究 II 4年次専門研究 I 4年次専門研究 II 卒業研究	1後 2前 2後 3前 2・3・4後 1・2前 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4後	2 2 2 2 2 1 1 1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	敬愛大学 国際学部 准教授 (平23.4)	4日

教 員 の 氏 名 等												
(教育学部 こども教育学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年 次	担 単 位 数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
9	専	准教授	アベ マナブ 阿部 学 <令和3年4月>		博士(学術)		教育方法・技術論(小学校) メディアリテラシー教育 教職実践演習(小学校) こども学Ⅱ 1年基礎演習Ⅰ 1年基礎演習Ⅱ 2年応用演習Ⅰ 2年応用演習Ⅱ 3年次専門研究Ⅰ 3年次専門研究Ⅱ 4年次専門研究Ⅰ 4年次専門研究Ⅱ 卒業研究	2前 2・3・4後 4後 3前 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4後	2 2 2 2 1 1 1 1 1 2 2 2 2 2	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	敬愛大学 国際学部 准教授 (平27.4)	4日
10	専	准教授	コバヤシ テルアキ 小林 輝明 <令和3年4月>		博士 (環境共生学)		理科 初等理科指導法 プログラミング教育 科学教育論 1年基礎演習Ⅰ 1年基礎演習Ⅱ 2年応用演習Ⅰ 2年応用演習Ⅱ 3年次専門研究Ⅰ 3年次専門研究Ⅱ 4年次専門研究Ⅰ 4年次専門研究Ⅱ 卒業研究	1後 2前 2・3・4後 2・3・4後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4後	2 2 2 2 1 1 1 1 2 2 2 2 2	3 3 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	敬愛大学 国際学部 准教授 (令2.4)	4日
11	専	准教授	サトウ クミ 佐藤 孔美 <令和3年4月>		修士 (社会科学)		生活 生活科指導法 こども学Ⅰ こども学Ⅱ 1年基礎演習Ⅰ 1年基礎演習Ⅱ 2年応用演習Ⅰ 2年応用演習Ⅱ 3年次専門研究Ⅰ 3年次専門研究Ⅱ 4年次専門研究Ⅰ 4年次専門研究Ⅱ 卒業研究	2後 3前 2後 3前 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4後	2 2 2 2 1 1 1 1 2 2 2 2 2	2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	敬愛大学 国際学部 准教授 (令2.4)	4日
12	専	講師	オオツカ シンタロウ 大塚 慎太郎 <令和3年4月>		修士 (教育学)		基礎数学 数と形の不思議 算数 算数科指導法 1年基礎演習Ⅰ 1年基礎演習Ⅱ 2年応用演習Ⅰ 2年応用演習Ⅱ 3年次専門研究Ⅰ 3年次専門研究Ⅱ 4年次専門研究Ⅰ 4年次専門研究Ⅱ 卒業研究 敬愛愛人講座※	1・2後 2・3・4前 2前 2後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4後 1前	2 2 2 2 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2	1 1 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	敬愛大学 国際学部 講師 (平28.4)	4日

教 員 の 氏 名 等												
(教育学部 こども教育学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年 次	担 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
13	兼担	教授	タグチ イサオ 田口 功 <令和3年4月>		博士 (工学)		情報処理Ⅰ(情報基礎) 情報処理Ⅱ(プレゼンテーション演習) 理科の観察実験	1前 1後 2・3・4前	1 1 1	2 2 1	敬愛大学 国際学部 教授 (平17.4)	
14	兼担	教授	アリマ ヨウコ 有馬 容子 <令和3年4月>		文学修士		College English I College English II	1前 1後	2 2	2 2	敬愛大学 国際学部 教授 (平22.4)	
15	兼担	教授	カクショウ トヨカズ 覚正 豊和 <令和3年4月>		法学博士		法学 憲法 敬天愛人講座※	1・2前後 1前 1前	2 2 0.13	2 2 1	敬愛大学 国際学部 教授 (平9.4)	
16	兼担	教授	オリイ ケイスケ 織井 啓介 <平成23年4月>		博士 (経済学)		敬天愛人講座※	1前	0.13	1	敬愛大学 国際学部 教授 (平17.4)	
17	兼担	教授	コウゴ ヒデアキ 向後 秀明 <令和3年4月>		文学士		College English I College English II College English III College English IV	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 2 2	敬愛大学 国際学部 教授 (平29.4)	
18	兼担	教授	タカハシ カズコ 高橋 和子 <令和3年4月>		博士 (工学)		情報概論	1・2前	2	1	敬愛大学 国際学部 教授 (平9.4)	
19	兼担	教授	タカダ ヨウコ 高田 洋子 <令和3年4月>		博士 (国際関係学)		国際関係入門	1・2後	2	1	敬愛大学 国際学部 教授 (平9.4)	
20	兼担	教授	マスイ ユキミ 増井 由紀美 <令和3年4月>		Master of Arts (米国)		Writing I Writing II College English I College English II 海外スクーリングⅠ 海外スクーリングⅡ 海外語学研修Ⅰ 海外語学研修Ⅱ	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1前 1後 1・2・3・4集中 1・2・3・4集中 1・2・3・4集中 1・2・3・4集中	1 1 2 2 2 2 2 2	1 1 2 2 1 1 1 1	敬愛大学 国際学部 教授 (平13.4)	
21	兼担	教授	ムラカワ ヨウコ 村川 庸子 <平成23年4月>		博士 (国際関係学)		比較文化論	2・3後	2	1	敬愛大学 国際学部 教授 (平9.4)	
22	兼担	教授	ヤマモト タケン 山本 健 <令和3年4月>		文学修士		歴史学	1・2前後	2	2	敬愛大学 国際学部 教授 (平9.4)	
23	兼担	教授	イイノ ユミコ 飯野 由美子 <令和3年4月>		経済学修士		敬天愛人講座※	1前	0.13	1	敬愛大学 経済学部 教授 (平3.4)	
24	兼担	教授	ナカヤマ ユキオ 中山 幸夫 <令和3年4月>		文学修士		敬天愛人講座※	1前	0.13	1	敬愛大学 経済学部 教授 (平1.4)	
25	兼担	教授	モリシマ タカハル 森島 隆晴 <令和3年4月>		工学修士		敬天愛人講座※	1前	0.13	1	敬愛大学 経済学部 教授 (平7.4)	
26	兼担	教授	ヤグチ カズヒロ 矢口 和宏 <令和3年4月>		修士(経済学)		敬天愛人講座※	1前	0.13	1	敬愛大学 経済学部 教授 (平29.4)	
27	兼担	教授	ヤジマ ヤスロウ 彌島 康朗 <令和3年4月>		教育学士		キャリアプランニング キャリアデザイン キャリアディベロップメント	1前 2後 2後	2 2 2	1 1 1	敬愛大学 経済学部 教授 (平29.4)	

教 員 の 氏 名 等													
(教育学部 こども教育学科)													
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年 次	担 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数	
28	兼任	教授	ヤザワ ヒデアキ 矢澤 秀昭 <令和3年4月>		文学修士		敬天愛人講座※	1前	0.13	1	敬愛大学 経済学部 教授 (平9.4)		
29	兼任	准教授	ヤギ ナオト 八木 直人 <令和3年4月>		修士 (経済学)		敬天愛人講座※	1前	0.26	1	敬愛大学 経済学部 准教授 (平29.4)		
30	兼任	准教授	サトウ クニマサ 佐藤 邦政 <平成23年4月>		博士 (文学)		教育哲学 哲学 異文化コミュニケーション College English III College English IV Debate I Debate II	2・3・4前 1・2前 2・3前 1前 1後 1前 1後	2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 2 2 1 1	敬愛大学 国際学部 准教授 (平28.4)		
31	兼任	准教授	プロミニツ林アラ Promnitz Hayashi Lara <令和3年4月>		Master of Arts (豪州)		College English I College English II Writing I Writing II Listening I Listening II Speaking I Speaking II	1前 1後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2 1 1 1 1 1 1	2 2 1 1 1 1 1 1	敬愛大学 国際学部 准教授 (令2.4)		
32	兼任	講師	ジョージ ウォーラー George Whalley <令和3年4月>		Master of Arts (米国)		College English I College English II Writing I Writing II Listening I Listening II	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2 1 1 1 1	2 2 1 1 1 1	敬愛大学 国際学部 講師 (令2.4)		
33	兼任	講師	ヨネダ ヒロヤス 米田 紘康 <令和3年4月>		博士 (経済学)		基礎統計	1・2前		2	1	敬愛大学 経済学部 講師 (平28.4)	
34	兼任	講師	レベス ジャクソン Leveth Jackaon <令和3年4月>		Master of SCIENCE (ジャマイカ)		Speaking I Speaking II	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	1 1	敬愛大学 国際学部 非常勤講師 (令2.4)	
35	兼任	講師	ヴァン・ロメル ピーテル Van Lommel Pieter <令和3年4月>		修士(文学)		Speaking I Speaking II	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	1 1	敬愛大学 国際学部 非常勤講師 (平29.4)	
36	兼任	講師	イトウ マサカズ 伊藤 雅一 <令和3年4月>		修士(教育学)		社会教育概論 多文化教育論	2・3・4後 2・3・4後		2 2	1 1	敬愛大学 国際学部 非常勤講師 (平31.4)	
37	兼任	講師	イロベ カズコ 色部 和子 <令和3年4月>		教育学士		図画工作 図画工作科指導法 造形と表現	1前 1後 2・3・4前	2 2 1	2 2 1	2 2 1	敬愛大学 国際学部 非常勤講師 (平25.4)	
38	兼任	講師	コダニ ノリコ 小谷 教子 <令和3年4月>		修士(教育学)		家庭 初等家庭科指導法	1前 1後		2 2	2 2	敬愛大学 国際学部 非常勤講師 (平26.4)	
39	兼任	講師	コヤス マサト 子安 昌人 <令和3年4月>		法学士		教育法規 教育行政	2後 2前		2 2	2 2	敬愛大学 国際学部 非常勤講師 (平29.4)	
40	兼任	講師	サワイ ミエコ 澤居 三重子 <令和3年4月>		修士(学術)		口頭表現 文章表現	1前 1後		2 2	1 1	敬愛大学 国際学部 非常勤講師 (平29.4)	
41	兼任	講師	シカマ トンヒコ 志鎌 敏彦 <令和3年4月>		教育学士		College English I College English II	1前 1後		2 2	2 2	敬愛大学 国際学部 非常勤講師 (平30.4)	
42	兼任	講師	シミズ カズミ 清水 一巳 <令和3年4月>		修士(体育学)		体育 初等体育科指導法	1前 1後		2 2	2 2	敬愛大学 国際学部 非常勤講師 (平23.4)	
43	兼任	講師	タケウチ キヨシ 武内 清 <令和3年4月>		教育学修士		教育社会学 教職概論	2・3・4後 2後		2 2	1 1	敬愛大学 国際学部 非常勤講師 (平23.4)	

教 員 の 氏 名 等												
(教育学部 こども教育学科)												
調書 番号	専任等 区 分	職 位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年 齢	保 有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担 当 授業科目の名称	配 当 年 次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平 均 日 数
44	兼任	講師	ハマ マサル 濱 勝 ＜令和3年4月＞		教育学士		特別活動指導法(小学校)	3前	2	2	敬愛大学 国際学部 非常勤講師 (平30.4)	
45	兼任	講師	ハヤシ ケイコ 林 恵子 ＜令和3年4月＞		教育学士		生徒・進路指導論(小学校)	3前	2	1	敬愛大学 国際学部 非常勤講師 (平26.4)	
46	兼任	講師	バンドウ ジツコ 坂東 実子 ＜令和3年4月＞		修士(教育学)		口頭表現 文章表現 文学	1前 1後 1・2前	2 2 2	2 2 1	敬愛大学 国際学部 非常勤講師 (平22.4)	
47	兼任	講師	フクカワ ユウジ 福川 裕司 ＜令和3年4月＞		修士 (スポーツ健康 科学)		健康運動科学	1後	2	2	敬愛大学 国際学部 非常勤講師 (平25.4)	
48	兼任	講師	マツフジ カズオ 松藤 和生 ＜令和3年4月＞		社会学士		ボランティア活動	1・2前	2	1	敬愛大学 経済学部 非常勤講師 (平13.4)	
49	兼任	講師	ムクノ ヒカル 向野 光 ＜令和3年4月＞		教育学士		特別支援教育概論(小学校)	3前	2	1	敬愛大学 経済学部 非常勤講師 (平30.4)	
50	兼任	講師	ヤマモト ヨウコ 山本 陽子 ＜令和3年4月＞		修士(文学)		Writing I Writing II Listening I Listening II	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1 1 1	1 1 1 1	敬愛大学 国際学部 非常勤講師 (平13.4)	
51	兼任	講師	キタハラ フミナリ 北原 文成 ＜令和3年4月＞		経済学士		敬天愛人講座※	1前	0.26	1	敬愛大学 経済学部 客員教授 (平26.4)	
52	兼任	講師	カクタ アキラ 角田 叡 ＜令和3年4月＞		商学士		敬天愛人講座※	1前	0.4	1	敬愛大学 経済学部 客員教授 (平26.4)	
53	兼任	講師	ハセガワ ヨリコ 長谷川 頼子 ＜令和3年4月＞		修士 (言語学)		日本語学	2・3前	2	1	敬愛大学 国際学部 非常勤講師 (平14.4)	
54	兼任	講師	ショウジ トモユキ 庄司 友之 ＜令和3年4月＞		農学士		こども教育演習Ⅰ こども教育演習Ⅱ こども教育演習Ⅲ	3前 3後 4前	1 1 1	1 1 1	敬愛大学 国際学部 客員教授 (平30.4)	
55	兼任	講師	タシロ トシヒロ 田代 敏博 ＜令和3年4月＞		英文学士		道徳教育指導法(小学校)	1前	2	1	敬愛大学 国際学部 客員教授 (平29.4)	

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	1人	人	1人	人	2人	
	修 士	人	人	人	人	1人	人	1人	2人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	2人	2人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	2人	人	1人	人	人	3人	
	修 士	人	人	1人	人	1人	人	人	2人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	2人	1人	1人	1人	人	5人	
	修 士	人	人	2人	人	2人	人	1人	5人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	2人	2人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	

(注)

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。